日本ライフセービング協会

JLA コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

（2023.08.07 版，2023.08.07 公開）

ILS Competition Rule Book

2023 Edition

(Effective 1 June 2023)

準拠

World Water Safety

INTERNATIONAL LIFE SAVING FEDERATION

ILS COMPETITION RULE BOOK

Rules, Standards and Procedures for
Lifesaving World Championships,
ILS-Sanctioned Competitions, and
ILS Federation Competitions

2023 Edition
(Effectove 1 June 2023)

Gemeenteplein 26, 3010 Leuven, Belgium
Telephone: +32 16 89 60 60
Email: ils.hq@telenet.be
Web: www.ilsf.org

第一に，人を救うライフセーバーであり

第二に，競技者であること

People who are Lifesavers First, Competitors Second.

（ILS LWC2018 Handbook より）

日本語版まえがき

■この競技規則について

この JLA 競技規則 2023 年版(2023.08.07 版，2023.08.07 公開）は ILS 競技規則 2023 版(2023.06.01 発効，ファイル名：ILS-2023-ILS-Competition-Rulebook-FINAL-June-2023.pdf)の翻訳で，先に公開した（2023.08.07 版，2023.07.07 公開）を一部修正したものある。また，付録として JLA 独自のユース/ジュニア競技規則を収めている。但し「第 6 章サーフボート競技」は，現在のところ JLA として競技会の主催及び/又は海外への選手派遣が計画されていないことから，掲載を割愛している。

尚，過去，付録として収録していた短水路プール競技規則は，ILS 版が 2021 年 11 月 19 日に改訂公開されたのを機に，JLA 競技規則 2021 年版から独立した日本語版短水路プール競技規則として公開している。

注意：

- ILS 原文の明らかな誤記（項目番号のずれ，用語の揺らぎなど）は適宜修正している，
- 注釈が必要だと思われる個所には【JLA 注釈】を入れている，
- JLA 競技規則 2022 年版（2022.07.01 版）から変更/追記された箇所には黄マーカーを付している，又，2023 年版（2023.07.07 公開）から変更/追記された箇所には緑マーカーを付している（但し，削除された箇所は記されていない），
- 日本語としては少し読みにくい直訳に近い表現が含まれるが，これは日本語として読みやすくすることで原文の論理構造が崩れるのを避けるためである。

■この競技規則の施行について

この競技規則の施行日は 2023 年 8 月 7 日である。この日以降，新たな競技規則が発効する又はこの競技規則が失効するまで，JLA 主催競技会は原則としてこの競技規則に則って実施される。

■重要：英語版優先の原則

本 JLA 競技規則（日本語版）と ILS 競技規則（英語版）との間に解釈の差異がある場合，ILS 競技規則が優先される。

■被救助者役，ペイシェント，クルー，クルーパーソンの呼称について

過去の JLA 競技規則では原語の victim を「溺者役」，「溺者及び/又は傷病者役」などと表記していたが，本競技規則ではライフセービング教本（文献[1]）にある呼称「被救助者」を採用し「被救助者役」とした。但し第 7 章 IRB 競技では原語が victim でなく全て patient で統一されていることから「ペイシェント」と表記している。また，第 7 章 IRB 競技の最初で定義されているとおり，IRB の操船者を「IRB ドライバー」，操船者でない乗組員を「クルーパーソン」とし，IRB ドライバーとクルーパーソンを合わせて「クルー」と呼称している。国内では操船者でない乗組員のみをクルーと呼称することが多く，クルーの意味が日本の習慣と ILS 競技規則とで異なるが，海外の競技会において日本人競技者が指示を誤解せぬよう，ILS 競技規則の呼称を採用し原語の音に近いカタカナ表記とした。

■オーシャン競技の呼称について

従来の競技規則では，ビーチで行うビーチ競技及び海に出るサーフ競技を合わせて「第 4 章 オーシャン競技」としていたが，ILS 競技規則 2023 版において「Section 4 Beach and Ocean Events」と改称

された。よって日本語版でも「第 4 章 ビーチ及びオーシャン競技」とし，海に出る競技の総称をサーフ競技からオーシャン競技へ変更した。

■章節番号の表記について

ILS 競技規則 2023 版に於ける各章内の節番号表記が ILS 公式文書の表記法に変更された。これまでの ILS 競技規則では，例えば第 2 章第 3 節第 4 項の表記は 2.3.4 であったが，2023 版では章の番号が省略され 3.4 とだけ記される（例えば，第 1 章第 3 節第 4 項も第 2 章第 3 節第 4 項も 3.4 と表記される）。本文中で，例えば第 2 章第 3 節第 4 項の章節番号を参照する場合は S2-3.4，又，第 1 章第 3 節第 4 項は S1-3.4 と記述し区別している。但し，ページ数は章ごとにリセットされ，例えば第 2 章の 3 ページ目は S2-3 と表示されるため，それが節を表しているのかページ数を表しているのか注意が必要である（今回からの新たな取り組みのため ILS 競技規則内でもまだ表現に揺らぎが見られる）。

■ILS 競技規則と JLA 競技規則の対応

JLA 競技規則	対応している ILS 競技規則
2019 年版	
第 1～8 章	**【ILS 競技規則 2018】**ILS Competition Rule Book 2015-2019 Edition, Revised 2017 (updated 2018)
付録	**【ILS 短水路プール競技規則 パイロット版 2017】**ILS Competition Rule Book, Short Course Pool Events, 2015-2019 Edition, Pilot version 1.0 Addendum - May, 31, 2017
2020 年版	
第 1～8 章	**【ILS 競技規則 Feb. 2020】**ILS Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020)
付録 A	**【ILS 短水路プール競技規則 2020】**ILS Competition Rule Book, Short Course Pool Events, 2020 Edition
付録 B	対応なし（JLA 独自規則）
2021 年版（2021.03.04 版）	
第 1～8 章	**【ILS 競技規則 Mar. 2021】**ILS Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020, January 2021, March 2021)
付録 A	**【ILS 短水路プール競技規則 2020】**ILS Competition Rule Book, Short Course Pool Events, 2020 Edition
付録 B	対応なし（JLA 独自規則）
2021 年版（2021.08.30 版）	
第 1～8 章	**【ILS 競技規則 May. 2021】**ILS Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020, January 2021, March 2021, May 2021 Errata)
付録	対応なし（JLA 独自規則）
2021 年版（2021.11.26 版）	
第 1～8 章	**【ILS 競技規則 Nov. 2021】**ILS Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020, January 2021, March 2021, November 2021)
付録	対応なし（JLA 独自規則）
2022 年版（2022.07.01 版）	
第 1～8 章	**【ILS 競技規則 May. 2022】**ILS Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020, January 2021, March 2021, March 2022)
付録	対応なし（JLA 独自規則）
2023 年版（2023.08.07 版）	
第 1～8 章	**【ILS 競技規則 June. 2023】**ILS Competition Rule Book 2023 Edition (Effective 1 June 2023)
付録	対応なし（JLA 独自規則）

2023 年 08 月 07 日

公益財団法人 日本ライフセービング協会

競技規則 2023 年版 編著者一同

ILS COMPETITION RULE BOOK

2023 Edition
(First Published June 2023)

**Rules, Standards and Procedures for
Lifesaving World Championships,
ILS Sanctioned Competitions, and ILS Federation Competitions**

Published by the International Life Saving Federation
Gemeenteplein 26, 3010 Leuven, Belgium
Telephone: +32 16 89 60 60
Email: ils.hq@telenet.be
Web: www.ilsf.org

© Copyright, The International Life Saving Federation.

本競技規則は，国際ライフセービング連盟（ILS: the International Lifesaving Federation）が，ILS の出版物の包括的セットの一部として発行したものである。

これは ILS 競技規則 2019 版（2022 年に改訂及び修正されたもの）[1]に代わるもので，版の月の初日又は ILS ウェブサイト（www.ilsf.org）に掲載された日のうち，遅い日から発効する。

注意1： 本競技規則の原典（ソース）は，ILS ウェブサイトのCompetitive Lifesavingセクションにある公式英語版である。原典は公認の参照文書であり，公認されたすべての修正に関して維持される。ILSは，この書面による出版物を補足するために，随時，bulletins及びその他の文書を発行することができる。

注意2： 本競技規則の公式ILS英語版と他の言語の版とが乖離している場合，最新のILS英語版が確定的なテキストとみなされる。本競技規則の公式ILS英語版電子版と印刷版とが乖離している場合，最新の公式ILS電子版が確定的なテキストとみなされる。

注意3： 付加的なILS方針，マニュアル及び文書が本競技規則において参照されることがあり，それらは個別に発行され，本競技規則及びILS競技会において適用され得る。このような文書はILS ウェブサイトにて公開される予定である。

謝辞[2] **Acknowledgments**

ILS は，世界中のライフセービング競技会に貢献している数多くのライフセービング団体及び個人に謝意を表する。特に ILS はこの改訂版への重要な役割を担った以下の方々に感謝する：

Greg Allum – Surf Life Saving Australia Limited,
Rebecca Boyd - Lifesaving Society Canada,
Anabel Navio Robles – Royal Spanish Lifesaving Federation,
Sameh El-Shazley – Egyptian Diving and Lifesaving Federation,
Ian Fullagar – Surf Life Saving Australia Limited,
Anni Gardiner AM – Royal Life Saving Society Australia,

---

[1] 【JLA 注釈】JLA 競技規則 2022 年版（2022.07.01 版）に相当。

[2] 【JLA 注釈】日本語版の編著者，協力者の氏名は巻末の「JLA 競技規則 編著者・協力者の履歴」を参照のこと。

John Martin MBE – ILS Event Director,
Jelle Meintsma – Lifesaving South Africa,
宮部周作 (MIYABE, Shusaku) – 日本ライフセービング協会,
Dr Detlev Mohr PhD - German Lifesaving Association,
Teresa Myatt - Royal Life Saving Society United Kingdom,
Eilkhan Nourimazandarani – Lifesaving and Diving Federation of the Islamic Republic of Iran,
Wim Nuyens – Belgian Life Saving Federation,
Andrea Pennell - Surf Lifesaving Great Britain,
Dott Giorgio Quintavelle – Italian Swimming Federation (Lifesaving Section),
Carsten Schlepphorst – German Lifesaving Association,
Perry Smith – Lifesaving Society Canada,
Simone Spencer - Surf Life Saving New Zealand,
David (Dave) Thompson – Surf Life Saving Australia Limited,
Nathalie Vallières Martin - Lifesaving Society Canada,Dr. Harald Vervaecke PhD – ILS Secretary General,
Mark Weatherall - Surf Life Saving New Zealand,
Edward Zebrowski – United State Lifesaving Association.

また ILS はこの改訂版への貢献に対して以下の ILS スポーツ規則委員会（ILS Sport Regulations Committee）メンバーに感謝する：

Greg Allum – Surf Life Saving Australia Limited,
Stephanie Andrews - Royal Life Saving Society United Kingdom,
Jurgen Bonnemann – German Lifesaving Association,
Rebecca Boyd – Lifesaving Society Canada,
John Coyne – Lifesaving South Africa,
Arno Eberle - German Lifesaving Association,
栗栖清浩 (KURISU, Kiyohiro) – 日本ライフセービング協会,
Clare McGrath – Water Safety Ireland,
Bruce Matheson - Surf Life Saving New Zealand,
Jerry Polesel – Italian Swimming Federation (Lifesaving Section),
Stephen Strange OAM – Surf Life Saving Australia Limited,
Carolyn Wilson – Surf Life Saving Australia Limited and Royal Life Saving Society Australia,
Brian Velvin MNZM – Surf Life Saving New Zealand.

商標　Trademarks

国際ライフセービング連盟（ILS）の商標（™）は以下のとおり：

World Water Safety ™,
Oceanman ™ and Oceanwoman ™,
Ocean M ™,
ILS Logo ™,
ILS Flag ™,

ILS Song ™,
Rescue Series ™,
Lifesaving World Championships ™,
World Conference on Drowning Prevention ™,
Red over Yellow ™.

著作権　Copyright

この競技規則の内容は著作権により保護されており，個人的，非営利の目的でのみ使用することができます。その他の権利は ILS が所有しています。発行者の書面による許可がない限り，いかなる媒体での出版，放送，再配布を含む商業的利用は禁止されています。国際ライフセービング連盟本部（事務局）へ直接お問い合わせください。

目次　TABLE OF CONTENTS

日本語版まえがき 2
目次　TABLE OF CONTENTS 7
図一覧　TABLE OF FIGURES 20
まえがき　PREFACE 22
用語解説　GLOSSARY OF TERMS 32
第 1 章　ILS と JLA THE INTERNATIONAL LIFE SAVING FEDERATION 2
1. ILS の歴史　HISTORY 2
1.1 FIS の歴史　History of the Fédération Internationale de Sauvetage 2
1.2 Wold Life Saving の歴史　History of World Life Saving 2
1.3 国際ライフセービング連盟の歴史　History of the International Life Saving Federation 3
2. ILS の組織　ORGANISATION 3
3. ILS の戦略的目標　STRATEGIC GOALS 4
4. ILS スポーツ委員会　SPORT COMMISSION 4
5. アスリート委員会　ATHLETES COMMITTEE 4
6. イベントマネジメント委員会　EVENT MANAGEMENT COMMITTEE 4
7. JLA について 5
7.1 日本におけるライフセービング競技会 5
7.2 日本における国際的なライフセービング競技会 5
7.3 国内のライフセービング競技会 5
第 2 章　共通競技総則 GENERAL RULES AND PROCEDURES 2
1. ILS 認定競技会　ILS-SANCTIONED COMPETITION 2
2. 競技会の組織と管理　COMPETITION ORGANISATION AND ADMINISTRATION 3
2.1 各種委員会，セーフティー オフィサー及びセキュリティーオフィサー Committees, Safety Officer, Security Officer, and Security Officer 4
2.2 組織委員会　Organising Committee 4
2.3 コンペティション委員会　Competition Committee 4
2.4 セーフティーオフィサー　Safety Officer 4
2.5 セキュリティーオフィサー　Security Officer 5
3. 競技会の安全　COMPETITION SAFETY 5
3.1 安全及び緊急対応計画　Safety and emergency plan 5
3.2 非常時会場変更計画　Relocation contingency plan 6
4. 技術的安全及びテクニカルオフィシャル　TECHNICAL, SAFETY AND OTHER OFFICIALS7
4.1 テクニカルオフィシャル行動規範　Technical officials code of conduct 7
4.2 ローカルイベントマネージャー　Local Event Manager 7
4.3 ILS イベントディレクター　ILS Event Director 8
テクニカルオフィシャル　TECHNICAL OFFICIALS 9
4.4 チーフレフリー　Chief Referee 9

4.5 デピュティーチーフレフリー Deputy Chief Referee 10
4.6 エリアレフリー（オーシャン） Area Referee (Ocean) 10
4.7 イベントディレクター（プール） Event Director (Pool) 10
4.8 セクショナルレフリー Sectional Referee 11
4.9 レフリースチュワード/ヘッドスコアラー Referee Steward/Head Scorer 11
4.10 コンペティションリエゾンオフィサー Competition Liaison Officers 12
4.11 コーススーパーバイザー Course Supervisors 13
4.12 スクルーティニアコーディネーター及びスクルーティニア Scrutineer Coordinator and Scrutineers 13
4.13 装置及び器材コーディネーター Gear and Equipment Coordinator 14
4.14 アナウンスコーディネーター及びコメントパネル Announcing Coordinator and Commentary Panel 14
ジャッジ Judges 15
4.15 チーフジャッジ Chief Judge 15
4.16 フィニッシュジャッジ Finish Judge 16
4.17 レーンジャッジ（IRB 競技） Lane Judge (IRB) 16
4.18 レーンジャッジ（プール） Lane Judge (Pool) 16
4.19 コースジャッジ Course Judge 17
4.20 スペシャリストジャッジ Specialist Judge 18
4.21 電子機器スペシャリストジャッジ Electronic Device Specialist Judge 18
4.22 計時ジャッジ Timekeeping Judge 18
4.23 記録ジャッジ Recording Judge 19
4.24 スターター Starter 19
4.25 チェックスターター Check Starter 20
非テクニカルオフィシャル Non-Technical Officials 20
4.26 マーシャル Marshall 20
4.27 チェックマーシャル Check Marshall 21
4.28 式典スチュワード Presentation Steward 21
4.29 上訴委員長 Appeals Committee Convenor 22
4.30 上訴委員 Appeals Committee member 22
4.31 規律委員長 Disciplinary Committee Convenor 22
4.32 規律委員 Disciplinary Committee member 22
4.33 セキュリティーオフィサー Security Officer 22
安全オフィシャル SAFETY OFFICIALS 22
4.34 セーフティーオフィサー Safety Officer 22
4.35 エリアリスク管理オフィサー（ARRO） Area Risk and Response Officers (ARRO) 23
4.36 パワークラフトコーディネーター Power Craft Coordinator 24
4.37 ウォーターセーフティーコーディネーター Water Safety Coordinator 24
4.38 ウォーターセーフティー要員 Water Safety Personnel 25

4.39 コミュニケーションコーディネーター Communications Coordinator 25
4.40 医療/FA コーディネーター Medical/First Aid Coordinator 26
4.41 コース統計係 Course Statistician 26
4.42 感染対策マーシャル Infection Control Marshall 27
5. 世界記録及び日本記録 WORLD RECORDS AND JAPAN RECORDS 27
日本記録 Japan Records 30
6. 競技会の公式な開始と終了 OFFICIAL START AND COMPLETION OF COMPETITION 31
7. 自然条件 PREVAILING CONDITIONS 31
8. 録画装置 VIDEO RECORDING DEVICES 31
9. 通信機器 COMMUNICATION DEVICES IN COMPETITION 31
10. 服装等 COMPETITION ATTIRE 31
11. 年齢区分 AGE CATEGORIES 35
11.1 年齢区分の定義 Determining Age Categories 35
12. 障害を持った競技者 COMPETITORS WITH A DISABILITY 37
13. 国内/地域内クラブ間移籍及び国際クラブ間移籍 INTER CLUB NATIONAL AND INTERNATIONAL MEMBER COMPETITION TRANSFERS 37
14. ドーピング・コントロール DOPING CONTROL 38
14.1 薬物ポリシー Drug policy 38
15. 行動規範 CODE OF CONDUCT 39
15.1 競技者，テクニカルオフィシャル及びメンバーの行動規範 Code of conduct for competitors, technical officials and members 39
15.2 ライフセービング競技のフェアプレー規範 Fair-play code for lifesaving competitions 39
16. 不正行為 MISCONDUCT 41
16.1 不正行為と懲罰 Conduct and discipline generally 41
16.2 不正競争 Competing unfairly 41
16.3 重大な規律違反 Serious discipline offence 42
16.4 規律委員会 Disciplinary Committee 42
17. 失格及び DNF DISQUALIFICATIONS AND “DID NOT FINISH” CLASSIFICATIONS ... 43
18. 抗議と上訴 PROTESTS AND APPEALS 44
18.1 抗議の種類 Types of protests 44
18.2 抗議の申し立て Lodging a protest 44
18.4 抗議の裁定 Adjudication of protests 45
18.5 上訴委員会 Appeals Committee 46
抗議申立書 PROTEST FORM 48
上訴申立書 APPEAL FORM 50
WORLD RECORD APPLICATION FORM VERSION 2023 52
競技会組織構造－模式図 COMPETITION ORGANISATIONAL STRUCTURE – SCHEMATIC DIAGRAM 54

第 3 章　プール競技 POOL EVENTS 2
1. プール競技の一般規則　GENERAL CONDITIONS FOR POOL COMPETITION 2
2. スタート　THE STARTS 3
2.1 飛込スタート　Dive start procedure 4
2.2 水中スタート　In-water start procedure 4
2.3 失格　Disqualification 4
3. マネキン　MANIKINS 5
3.1 マネキンの浮上　Competitors surfacing the manikin 5
3.2 マネキンを運ぶ（キャリー）　Carrying the manikin 5
3.3 マネキンを引っ張る（トウ）　Towing the manikin 6
3.4 マネキンハンドラー　Manikin handlers 7
4. 組み合わせ配置　SEEDING 7
4.1 予選における組み合わせ配置　Seeding in heats 8
4.2 タイム決勝の組み合わせ配置　Seeding in time-finals 8
4.3 レーンの割り当て　Assignment of lanes 8
4.4 決勝における組み合わせ配置　Seeding in finals 9
5. 計時と順位の決定　TIMEKEEPING AND DETERMINATION OF PLACING 9
5.1 全自動審判計時装置による計時　Automatic officiating equipment 9
5.2 手動による計時　Manual time keeping and officiating 10
6. テクニカルオフィシャル　TECHNICAL OFFICIALS 10
7. 障害物スイム（200 m 及び 100 m）　OBSTACLE SWIM (200 m and 100 m) 11
7.1 競技の説明 — 200 m　Event description – 200 m 11
7.2 競技の説明 — 100 m　Event description – 100 m 11
7.3 器材　Equipment 11
7.4 失格　Disqualification 11
8. マネキンキャリー（50 m）　MANIKIN CARRY (50 m) 13
8.1 競技の説明　Event description 13
8.2 器材　Equipment 13
8.3 失格　Disqualification 13
9. レスキューメドレー（100 m）　RESCUE MEDLEY (100 m) 14
9.1 競技の説明　Event description 14
9.2 器材　Equipment 14
9.3 失格　Disqualification 14
10. マネキンキャリー・ウィズフィン（100 m）　MANIKIN CARRY WITH FINS (100 m) 15
10.1 競技の説明　Event description 15
10.2 器材　Equipment 15
10.3 失格　Disqualification 15
11. マネキントウ・ウィズフィン（100 m）　MANIKIN TOW WITH FINS (100 m) 16
11.1 競技の説明　Event description 16

11.2 器材 Equipment 16
11.3 失格 Disqualification 17
12. スーパーライフセーバー（200 m） SUPER LIFESAVER (200 m) 19
12.1 競技の説明 Event description 19
12.2 器材 Equipment 19
12.3 失格 Disqualification 21
13. マネキンライフセーバーメドレー（100 m） MANIKIN LIFESAVER MEDLEY (100 m) 23
13.1. 競技の説明 Event description 23
13.2. 器材 Equipment 23
13.3. 失格 Disqualification 25
14. ラインスロー 12.5 m LINE THROW– 12.5 m 27
14.1 競技の説明 Event description 27
14.2 器材 Equipment 29
14.3 失格 Disqualification 29
15. マネキンリレー（4×25 m） MANIKIN RELAY (4 x 25 m) 31
15.1 競技の説明 Event description 31
15.2 器材 Equipment 32
15.3 失格 Disqualification 32
16. 障害物リレー（4×50 m） OBSTACLE RELAY (4 x 50 m) 34
16.1 競技の説明 Event description 34
16.2 器材 Equipment 34
16.3 失格 Disqualification 34
17. メドレーリレー（4×50 m） MEDLEY RELAY (4 x 50 m) 36
17.1 競技の説明 Event description 36
17.2 器材 Equipment 37
17.3 失格 Disqualification 37
18. プールライフセーバーリレー（4×50 m） POOL LIFESAVER RELAY (4 x 50 m) 39
18.1 競技の説明 Event description 39
18.2 器材 Equipment 40
18.3 失格 Disqualification 40
19. レスキュートウリレー（4×50 m） RESCUE TOW RELAY (4 x 50 m) 42
19.1 競技の説明 Event description 42
19.2 器材 Equipment 43
19.3 Disqualification 43
20. プール競技失格コード表 DISQUALIFICATION CODES FOR POOL EVENTS 45
第 4 章 ビーチ及びオーシャン競技 BEACH AND OCEAN EVENTS 2
1. オーシャン競技の一般規則 GENERAL CONDITIONS FOR OCEAN COMPETITION 2
2. スタート THE START 3
2.1 スタート前 Prior to the start 3

2.2 スターター The Starter 4
2.3 スタートの手順 Start procedures 4
2.4 スタートライン Start lines 5
2.5 失格 Disqualification 6
2.6 注意 Notes: 6
2.7 チェンジオーバー及びリレーにおけるタッチ Changeovers and tagging in relays 7
3. フィニッシュ THE FINISH 7
3.1 判定 Judging 7
3.2 時間制限 Time limits 8
4. 組み合わせ配置 SEEDING 8
4.1 予選における組み合わせ配置 Seeding in heats 8
4.2 準決勝及び決勝における組み合わせ配置 Seeding in semi-finals and finals 8
4.3 レーン決め抽選 Draws for position 9
4.4 ビーチでのスタート位置 Beach positions 9
4.5 競技者数の制限 Competitor limits 9
5. サーフレース SURF RACE 11
5.1 競技の説明 Event description 11
5.2 コース The course 11
5.3 判定 Judging 11
5.4 失格 Disqualification 11
6. サーフチームレース SURF TEAMS RACE 13
6.1 競技の説明 Event description 13
6.2 コース The course 13
6.3 判定 Judging 13
6.4 失格 Disqualification 13
7. レスキューチューブレスキュー RESCUE TUBE RESCUE 15
7.1 競技の説明 Event description 15
7.2 注意 Notes 16
7.3 コース The course 17
7.4 器材 Equipment 17
7.5 判定 Judging 17
7.6 失格 Disqualification 17
8. レスキューチューブレース RESCUE TUBE RACE 19
8.1 競技の説明 Event description 19
8.2 コース The course 19
8.3 判定 Judging 19
8.4 器材 Equipment 19
8.5 失格 Disqualification 19
9. ランスイムラン RUN - SWIM - RUN 21

9.1 競技の説明 Event description 21
9.2 コース The course 21
9.3 判定 Judging 21
9.4 失格 Disqualification 21
10. ビーチフラッグス BEACH FLAGS 23
10.1 競技の説明 Event description 23
10.2 スタートの手順 Start procedure 23
10.3 スタート The start 23
10.4 不正スタート Starting infringements 24
10.5 レーン決め抽選 Draw for positions 24
10.6 除外される競技者の数 Number of competitors eliminated 24
10.7 ランオフ Run-offs 24
10.8 コース The course 24
10.9 器材及び服装 Equipment and apparel 24
10.10 判定 Judging 25
10.11 除外及び失格 Elimination and disqualification 25
11. ビーチスプリント（90 m 及び 70 m） BEACH SPRINT (90M AND 70M) 28
11.1 競技の説明 Event description 28
11.2 スタート The start 28
11.3 コース The course 28
11.4 器材及び服装 Equipment and apparel 28
11.5 判定 Judging 28
11.6 失格 Disqualification 29
12 ビーチリレー BEACH RELAY 31
12.1 競技の説明 Event description 31
12.2 スタート The start 31
12.3 バトンの引継ぎ Baton changeovers 31
12.4 コース The course 31
12.5 器材及び服装 Equipment and apparel 31
12.6 判定/チェンジオーバー Judging/changeovers 31
12.7 失格 Disqualification 32
13. ビーチラン（2 km 及び 1 km） BEACH RUN (2 km and 1 km) 34
13.1 競技の説明 ー 2 km Event description – 2 km 34
13.2 競技の説明 ー 1 km Event description – 1 km 34
13.3 コース The course 34
13.4 器材及び服装 Equipment and apparel 34
13.5 判定 Judging 35
13.6 失格 Disqualification 35
14. ビーチランリレー（3×1 km） BEACH RUN RELAY (3 x 1 km) 37

14.1 競技の説明 Event description – 3 x 1 km 37
14.2 コース The course 37
14.3 器材及び服装 Equipment and apparel 37
14.4 判定 Judging 38
14.5 失格 Disqualification 38
15. サーフスキーレース SURF SKI RACE 40
15.1 競技の説明 Event description 40
15.2 コース The course 40
15.3 ドライスタート及びドライフィニッシュ Dry Start and Dry finish 41
15.4 器材 Equipment 41
15.5 判定 Judging 41
15.6 失格 Disqualification 41
16. サーフスキーリレー SURF SKI RELAY 43
16.1 競技の説明 Event description 43
16.2 コース The course 43
16.3 器材及び服装 Equipment and apparel 43
16.4 判定 Judging 44
16.5 クラフトのコントロール Control of craft 44
16.6 マスターズ・スキーリレーのコース及び手順のバリエーション Masters Ski Relay Course and Procedure Variation 44
16.7 失格 Disqualifications 44
17. ボードレース BOARD RACE 47
17.1 競技の説明 Event description 47
17.2 コース The course 47
17.3 器材 Equipment 47
17.4 判定 Judging 47
17.5 クラフトのコントロール Control of craft 48
17.6 失格 Disqualification 48
18. ボードリレー BOARD RELAY 50
18.1 競技の説明 Event description 50
18.2 コース The course 50
18.3 器材 Equipment 50
18.4 判定 Judging 51
18.5 クラフトのコントロール Control of craft 51
18.6 マスターズ・ボードリレーのコース及び手順のバリエーション Masters Board Relay Course and Procedure Variation 51
18.7 失格 Disqualification 51
19. ボードレスキュー BOARD RESCUE 55
19.1 競技の説明 Event description 55

19.2 コース The course 56
19.3 器材 Equipment 56
19.4 判定 Judging 56
19.5 被救助者役又はボードのコントロール Control of victim or board 56
19.6 被救助者役のピックアップ Victim pick-up 56
19.7 失格 Disqualification 56
20. オーシャンマン/オーシャンウーマン OCEANMAN/OCEANWOMAN 58
20.1 競技の説明 Event description 58
20.2 コース The course 58
20.3 マスターズ・オーシャンマン/オーシャンウーマンのバリエーション Masters Oceanman/Oceanwoman Variation 59
20.4 器材 Equipment 60
20.5 判定 Judging 60
20.6 クラフトとの接触 Contact with craft 60
20.7 失格 Disqualification 60
21. オーシャン M（個人） OCEAN M (INDIVIDUAL) 64
21.1 競技の説明 Event description 64
21.2 コース The course 64
21.3 器材 Equipment 66
21.4 判定 Judging 67
21.5 クラフトとの接触 Contact with craft 67
21.6 失格 Disqualification 67
22. オーシャンマン/オーシャンウーマン勝ち残りバリエーション OCEANMAN/OCEANWOMAN ELIMINATOR VARIATION 69
22.1 競技の説明 Event Description 69
22.2 失格 Disqualification 70
23. オーシャンマン /オーシャンウーマンリレー OCEANMAN/OCEANWOMAN RELAY 71
23.1 競技の説明 Event description 71
23.2 器材 Equipment 72
23.3 判定 Judging 72
23.4 クラフトとの接触 Contact with craft 73
23.5 マスターズ・オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー手順のバリエーション Masters Oceanman/Oceanwoman Relay Procedure Variation 73
23.6 失格 Disqualification 73
24. オーシャン M ライフセーバーリレー OCEAN M LIFESAVER RELAY 74
24.1 競技の説明 Event description 74
24.2 コース The course 74
24.3 失格 Disqualification 75
25 オーシャン競技失格コード表 DISQUALIFICATION CODES FOR OCEAN EVENTS 77

第 5 章　シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 SIMULATED EMERGENCY RESPONSE COMPETITION 2
1. シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）の一般規則 GENERAL CONDITIONS FOR SIMULATED EMERGENCY RESPONSE COMPETITION 2
1.1 セキュリティー及びロックアップ　Security and lock-up 3
1.2 競技開始　Competition start 3
1.3 競技エリア （アクアティック環境）　Competition arena: Aquatic Environment 3
1.4 競技エリア （ノン・アクアティック環境）　Competition arena: Non-Aquatic Environment 4
1.5 状況シナリオ　Situation scenarios 5
1.6 被救助者役，マネキン，バイスタンダー　Victims, manikins and bystanders 5
1.7 器材　Equipment 6
1.8 スタート及び計時　Start and timekeeping 6
2. 救助の原則　PRINCIPLES OF RESCUE 6
2.1. ライフセーバーとライフガードの対応の違い　Lifesaver versus lifeguard response 6
3. 判定と採点　JUDGING AND MARKING 7
3.1 採点制度　Marking system 8
3.2 失格　Disqualification 8
4. SERC 失格コード表　DISQUALIFICATION CODES FOR SERC 10
SERC：全体 OVERALL –チーフジャッジ用サンプル採点シート 11
SERC：泳げない人 Non-swimmer –サンプル採点シート 12
SERC：泳ぎが下手な人 Weak Swimmer – サンプル採点シート 13
SERC：意識不明・呼吸停止者 Unconscious/Non-breathing Victim –サンプル採点シート 14
SERC：怪我を負った被救助者役 Injured Victim –サンプル採点シート 15
SERC：バイスタンダー Bystander –サンプル採点シート 16
第 6 章　サーフボート競技 SURF BOAT EVENT 2
1. GENERAL CONDITIONS FOR SURF BOAT COMPETITION 2
1.1 Luck of prevailing conditions 2
1.2 Competition area 2
2. THE COURSE 2
3. THE COMPETITION 2
3.1 Pre-Start 2
3.2 The Start 2
3.3 The Seaward Journey 2
3.4 The Turn 2
3.5 The Return Journey 2
3.6 The Finish 2
4. RACING FORMAT 2
5. ROUND ROBIN RACING 2

6. PENALTIES AND DISQUALIFICATION 2
7. DISQUALIFICATION CODES FOR SURF BOAT EVENTS 2
第 7 章 IRB 競技 INFLATABLE RESCUE BOAT (IRB) COMPETITION 2
1. 免責事項 INDEMNITY 2
2. 一般条件 GENERAL CONDITIONS 2
2.1 必須安全事項 Safety essentials 2
2.2 競技前安全説明 Pre-competition safety briefing 4
2.3 安全性及び技術的違反 Safety and technical infringements 4
2.4 競技者の条件 Competitor prerequisites 4
2.5 エントリー基準と代理出場 Entry limitations and substitutions 5
2.6 器材の要件，器材検査及び適合 Equipment requirements, scrutineering and compliance 5
2.7 コース The course 6
2.8 コースの種類 Course variations 6
2.9 運営とオフィシャル Administration and officials 7
3. 競技進行 PROCEDURE 9
3.1 ペイシェントの位置 Placing of patients 9
3.2 スタートの準備 Preparing for the Start 9
3.3 スタート The start 10
3.4 ブイへの進行と戻り Proceed to and from buoys 10
3.5 ブイまわりとピックアップ The turn and patient pick-up 12
3.6 退出とフィニッシュ The exit and finish 13
3.7 チェンジオーバー（マス，チーム，リレー種目のみ） The Changeover (Mass and Teams events only) 14
4. IRB レスキュー IRB RESCUE 14
5. IRB マスレスキュー IRB MASS RESCUE 15
6. IRB チームレスキュー IRB TEAMS RESCUE 15
7. IRB レスキューチューブ IRB RESCUE TUBE 16
8. 失格 DISQUALIFICATION 18
9 . IRB 競技失格コード表 DISQUALIFICATION CODES FOR IRB EVENTS 19
A. スタート START 20
B. ブイの行き来 PROCEEDING TO AND FROM BUOYS 20
C. ペイシェントの引き上げ PATIENT PICK-UP 21
D. IRB レスキューチューブ種目 IRB RESCUE TUBE EVENT 21
E. チェンジオーバー – IRB マス/チーム種目 CHANGEOVER – IRB MASS/TEAMS. 22
F. フィニッシュ FINISH 22
G. 全体 GENERAL 22
第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順 FACILITY AND EQUIPMENT STANDARDS AND SCRUTINEERING PROCEDURES 2

1. プール施設規格　POOL FACILITY STANDARDS 2
1.1 検査手順　Scrutineering procedure 2
1.2 長さ　Length 2
1.3 レーン　Lanes 2
1.4 スターティングプラットフォーム　Starting platform 2
1.5 全自動審判計時装置　Automatic officiating equipment 3
1.6 水　Water 3
1.7 深さ　Depth 3
1.8 飛込みスタート　Dive start 3
1.9 障害物スイム，障害物リレー　Obstacle Swim, Obstacle Relay 3
1.10 マネキンキャリー（50 m），スーパーライフセーバー（200 m）　Manikin Carry (50 m), Super Lifesaver (200 m) 3
1.11 マネキンキャリー・ウィズフィン（100 m），マネキントウ・ウィズフィン（100 m），スーパーライフセーバー（200 m），プールライフセーバーリレー（4×50 m）　Manikin Carry with Fins (100 m), Manikin Tow with Fins (100 m), Super Lifesaver (200 m), Pool Lifesaver Relay (4 x 50m) 4
1.12 レスキューメドレー（100 m）　Rescue Medley (100 m) 4
1.13 マネキンリレー（4×25 m）　Manikin Relay (4 x 25 m) 4
1.14 メドレーリレー（4×50 m）　Medley Relay (4 x 50 m) 5
1.15 ラインスロー　Line Throw 5
1.16 シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）　Simulated Emergency Response Competition (SERC) 5
2. 器材の ILS 一般規格　GENERAL ILS EQUIPMENT STANDARDS 5
3. プール器材規格 6
3.1 マネキン　RESCUE MANIKINS 6
3.2 障害物　OBSTACLES 7
3.3 レスキューチューブ　RESCUE TUBES 8
3.4 スイムフィン　SWIM FINS 10
3.5 スローライン　THROW LINES 10
4. ビーチ/オーシャン器材規格　BEACH/OCEAN EQUIPMENT STANDARDS 10
4.1 レスキューチューブ　Rescue Tubes 10
4.2 スイムフィン　Swim Fins 11
4.3 バトン（ビーチフラッグス及びビーチリレー）　Batonns (Bearch Flags and Beach Relay) 11
4.4 サーフボード　Surf Boards 11
4.5 IRB　Inflatable rescue boats (IRBs) 12
4.6 PFD　PERSONAL FLOTATION DEVICES (PFDs) 12
4.7 ヘルメット　HELMETS 12
4.8 ウェットスーツ　WETSUITS 13

4.9 サーフボート Surf boats 13
4.10 ブイ及び旗 Buoys and Flags 14
4.11 サーフスキー SURF SKIS 15
4.12 水着 SWIMWEAR 15
Appendix ジュニア/ユース競技規則 2
A1. ジュニア/ユース競技の一般規則 2
A1.1 年齢区分 2
A1.2 ハンドラー及びマネキンハンドラー 2
A1.3 器材 2
A1.4 競技者数の制限（サーフ種目に限る） 3
A2. ジュニア/ユース競技種目 3
A2.1 障害物スイム — 50 m 4
A2.2 ジュニアチューブスイム — 50 m 5
A2.3 レスキューチューブトウ — 50 m, 100 m 6
A2.4 レスキューチューブリレー — 4×50 m 8
A2.5 ウェーディングレース 10
A2.6 ランスイムラン 12
A2.7 ニッパーボードレース 14
A2.8 ニッパーボードリレー 18
A2.9 タップリンリレー 21
参考文献 References 1
JLA 競技規則 編著者・協力者の履歴 1

図一覧　TABLE OF FIGURES

図 1：障害物スイム（200 m 及び 100 m） 11
図 2：マネキンキャリー（50 m） 13
図 3：レスキューメドレー（100 m） 14
図 4：マネキンキャリー・ウィズフィン（100 m） 15
図 5：マネキントウ・ウィズフィン（100 m） 16
図 6：スーパーライフセーバー（200 m） 19
図 7：マネキンライフセーバーメドレー（100 m） 23
図 8：ラインスロー 12.5 m 27
図 9：マネキンリレー（4×25 m） 31
図 10：障害物リレー（4×50 m） 34
図 11：メドレーリレー（4×50 m） 36
図 12：プールライフセーバーリレー（4×50 m） 39
図 13：レスキュートウリレー（4×50 m） 42
図 14：サーフレース 12
図 15：サーフチームレース 14
図 16：レスキューチューブレスキュー 18
図 17：レスキューチューブレース 20
図 18：ランスイムラン 22
図 19：ビーチフラッグス（ランスルー毎に 1 人ずつ除外する場合） 27
図 20：ビーチフラッグス（ランスルー毎に 2 人ずつ除外する場合） 27
図 21：ビーチスプリント 30
図 22：ビーチリレー 33
図 23：ビーチラン（1 km 及び 2 km） 36
図 24：3×1 km ビーチランリレー 39
図 25：サーフスキーレース 42
図 26：オープン及びユースのサーフスキーリレー 45
図 27：マスターズのサーフスキーリレー 46
図 28：ボードレース 49
図 29：オープン及びユースのボードリレー 52
図 30：マスターズのボードリレー 53
図 31：ボードレスキュー 57
図 32：オープン及びユースのオーシャンマン/オーシャンウーマン 61
図 33：マスターズのオーシャンマン/オーシャンウーマン 及びオーシャンマン/オーシャンウーマンリレー 62
図 34：個人オーシャン M 68
図 35：オーシャン M ライフセーバーリレーのコース 76
図 36：サーフボートレース　SURF BOAT RACE 2
図 37：ブイでのサーフボートターン　SURF BOAT TURNS AT BUOYS 2

図 38：サーフボートレースのオプショナルスタート及び/又はフィニッシュ SURF BOAT RACE OPTIONAL START AND/OR FINISH 2
図 39：一般的な IRB 競技エリア 8

まえがき　PREFACE

ILS 競技規則 2023 版は，ILS 選手権及び ILS 認定競技会を統制するものである。この競技規則は，加盟団体の裁量で加盟団体の国内/地域内競技会で使用することができる。ILS 競技会の規則，規格，手順に関する変更又は明確化は，ILS ウェブサイト（www.ilsf.org）に公報（bulletin）として掲載される。

ILS 世界選手権（LWC）については，ILS 競技規則と併せて（www.ilsf.org に於いて）ライフセービング世界選手権ハンドブック（Lifesaving World Championships Handbook）を参照すること。

この 2023 版では，ILS スポーツ委員会（ILS Sport Commission）の主導による，並びに，スポーツ規則委員会（Sport Regulations Committee）による勧告，主要な利害関係による協議，ILS メンバーから寄せられたフィードバックを反映した変更がなされている。2023 版の主な変更点は，参照しやすいよう黄色でハイライトしている。ILS スポーツ委員会（ILS Sport Commission）は，ILS 競技規則の旧版から変更された以下の重要な変更点について注意しておく：

一般事項：　競技の実施や規則に影響を与える各種の書式，編集，及びその他の変更。
スポーツ委員会の主導による，並びに，スポーツ規則委員会による勧告，主要な利害関係者による協議， ILS メンバーから寄せられたフィードバックが反映したことを示す文言が ILS ライフセービング競技規則に追加された。

第 1 章　ILS と JLA

一般事項：　競技の実施や規則に影響を与える各種の書式，編集，及びその他の変更。

一般事項：　競技の実施に影響を与える各種の編集，及びその他の変更。

Point 4.1E：　主要なシニアオフィシャル[3]は，識別のために特別なユニフォームにすべきである旨が追記された。

Point 4.3：　オフィシャルの機能を見直し，テクニカル，ジャッジ，インディペンデント，その他，及び，セーフティオフィシャルのカテゴリーに分類し直された。また，ターンジャッジ（プール）がテクニカルジャッジの節に追記された。

Point 11：　ペイシェントとして IRB 競技に参加できる年齢制限とサーフボート競技の年齢制限が見直された。また，4 人リレー競技において，従来から実施されていたマスターズ年齢層が追加された。

Point 14：　個人競技とチーム競技のカテゴリー及びドーピング・コントロールで影響される得点（point score）についての定義が新しい S2-14 に移動された。また，それ以降の Point もすべて番号が変更された。

Point 15：　上述の通り，個人競技とチーム競技のカテゴリーと得点の定義を新しい S2-14 に移動し，S2-15 でドーピングコントロールのための定義に言及した。

---

[3] 【JLA 注釈】JLA では，チーフレフリー，デピュティ―チーフレフリー，セクショナルレフリー，上訴委員，コンペティションリエゾンオフィサー等の役職に就いたオフィシャルのことと解釈する。

Point 18B： マーシャルを行わなかった又は競技をスタートしなかった競技者は，規則では失格だが，記録に「DNS（did not start）」又は類似の記載が可能であることが明確にされた。

Point 18C： 失格に「did not start」（DNS）カテゴリーが新たに追加された。

Point 19.2B： オフィシャルの絶対的な裁量でフィニッシュ順の決定を見直すことができ，フィニッシュ順の決定は抗議又は上訴され得ないことが明確にされた。

Point 19.2G： チーフレフリーが抗議を裁定せずそのまま上訴委員会に抗議を付託した場合，上訴費用が発生しないことが確認された。

第 3 章　プール競技

一般事項： 競技の実施や規則に影響を与える各種の書式，編集，及びその他の変更。

Point 3.2： マネキンキャリーのルールが修正され，特にプール中央付近のレーンをジャッジする際の「ジャッジが困難」な規則がさらに削除された。この改正により，技術的な失格がさらに減少し，競技の見せ方（presentation）も向上すると思われる。マネキンの喉（首），口，鼻，目を握る又は掴むこと，及びマネキンの喉（首）を腕で覆う又は腕を巻きつけて運ぶことは，もはや失格とはならない。但し，以下のとおり定められている：

・競技者はマネキンの頭部をキャリーする方向に向けてマネキンを運ばねばならない，

・マネキンの密閉プラグ（sealing plug）を掴んでは（摘まんでは）ならない。

Point 3.3A： マネキントウ競技においてマネキンの周りにレスキューチューブを装着する際，競技者は（水深の浅いプールで）立っていてもよいことが明確にされた。

Point 3.4C： マネキンハンドラーは，少なくとも片方の手を使い，マネキンを直立させ，顔を折返し壁側に向け，与えられたレーン内のいずれかの場所で自然に浮く位置で保持することが明確化された。

Point 4.4D： 決勝の組み合わせ配置に関する文言が見直され，競技者又はチームが辞退した場合，十分な時間があれば決勝の再シードが可能になった。

Point 5.1E.： プール競技において，自動計時装置の故障又は競技者のタッチが登録されなかった場合のタイム決定方法と順位決定方法を明確にするパラグラフが追加された。

Point 11.2B: マネキントウ・ウィズフィンに於いて，マネキンハンドラーは少なくとも片方の手でマネキンを保持し，マネキンを直立させ，顔を折返し壁側に向け，与えられたレーン内のいずれかの場所で自然に浮く位置で保持することが明確化された。マネキンハンドラーは，競技者が折返し壁にタッチした後マネキンを放してもよいが，競技者がトウしようと確保するため意図的にマネキンを手にした時点で，マネキンとの接触を解かねばならない。

Point 12.2G： スーパーライフセーバー競技において，マネキンハンドラーは少なくとも片方の手でマネキンを保持し，マネキンを直立させ，顔を折返し壁側に向け，与えられたレーン内のいずれかの場所で自然に浮く位置で保持することが明確化された。マネキンハンドラーは，競技者が折返し壁にタッチした後マネキンを放してもよいが，競技者がト

ウしようと確保するため意図的にマネキンを手にした時点で，マネキンとの接触を解かねばならない。

Point 13： 新競技種目「マネキンライフセーバーメドレー」が追加された。最初の 50 m はマネキンキャリーと類似，次の 50 m はスーパーライフセーバー競技の最終ラップと類似である。

注意：以降のプールレスキュー競技種目の競技番号が変更されている。

Point 14.1A： ラインスロー競技のスローゾーンが再定義され，ラインによるマークは廃止された。スローゾーンは，プール端の垂直エッジから始まり，レーンの 2 本のレーンロープのそれぞれの中心からプールデッキ又は隆起したプラットフォーム上に延長したマークしていない 2 本の線で挟まれたエリアと定義されるようになった。スローゾーンの後方はラインでマークする必要はないが，スローと手繰り寄せが妨げられないようプール壁の垂直エッジから最低 2.0 m は必要である。さらに，2 つの注意事項が追加された：

注意 1：ジャッジのために，競技者は自分のレーン内に留まることが求められる。但し，重視されるのはライン上の足の位置ではなく，競技中に他のチームの邪魔をしていないかである。

注意 2：強制ではないが，スローと被救助者役の手繰り寄せのエリアを明確にするため，プールの壁の垂直端から約 2.0 m 後方で，床にラインを引く，又は一時的にロープ又はテープバリアーを設置してもよい。競技者がこのエリア内で後方に移動するのは失格とはみなされない。

Point 3.1C： 電子的ジャッジの使用と競技結果の記録ついて，さらに詳しく説明する文言が追加された。

Point 14.1E： ラインスロー競技において，被救助者役はスタートの合図の後にクロスバーとの接触を解除してもよいが，体の一部を使ってラインを集める又は手でラインを掴む時は，他方の手でクロスバーを掴んでなければならないことが明確化された。

Point 14.1G： スロアーは腕を使って被救助者役を手繰り寄せねばならないが，スローゾーンの後方ラインが削除されたからといって，スローラインを手で掴んで又は体に巻きつけて歩く又は走ること，又は被救助者役をフィニッシュ壁に手繰り寄せながら意図的に後方に歩くことが許されないことが明確化された。

ジャッジのために，競技者は自分のレーン内に留まることが求められる。但し，ライン上に足の位置ではなく，競技中の他のチームの邪魔をしていないかが重視される。

Point 15.1A： マネキンリレー競技のスタート手順が明確化された。

Point 15.1G： マネキンリレーの第 2 競技者から第 3 競技者へのチェンジオーバーに於いて，第 2 競技者が折返し壁/縁にタッチする前に第 3 競技者がマネキンに触れる又は掴むことができるよう規則が修正された。。但し，第 2 競技者が折返し壁/縁にタッチするまで，第 3 競技者は折返し壁又はスターティングブロックとの接触を解除してはならない。

Point 17.1D： メドレーリレー競技の第 3 競技者から第 4 競技者へのチェンジオーバーに於いて，第 3 競技者が折返し壁/縁にタッチする前に，第 4 競技者がレスキューチューブ，そのハ

ーネス及び紐に片手で触れる又は掴むことができるよう規則が修正された。但し，第 3 競技者が折返し壁/縁にタッチするまで，第 4 競技者は折返し壁又はスターティングブロックとの接触を解除してはならない。

Point 18.1C： プールライフセーバーリレー競技の第 2 競技者から第 3 競技者へのチェンジオーバーに於いて，第 3 競技者はマネキンの頭部が水面に浮上する前に片手でマネキンに触れるか掴むことができるよう規則が修正された。但し，マネキンの頭部が水面に浮上するまで，第 3 競技者は折返し壁/縁又はスターティングブロックとの接触を解除してはならない。更に，第 3 競技者がマネキンを掴むまで第 2 競技者がマネキンを放してはならない，即ち，少なくとも 1 人の競技者の片手が常にマネキンに触れていなければならぬことが明確化された。

Point 18.1D： プールライフセーバーリレー競技の第 3 競技者と第 4 競技者のチェンジオーバーに於いて，第 4 競技者は第 3 競技者が折返し壁/縁に触れる前に片手でマネキンに触れる又は掴むことができるが，第 3 競技者が折返し壁/縁に触れるまでは折返し壁/縁又はスターティングブロックとの接触を解除できないよう規則が改定された。さらに，第 4 競技者がマネキンを掴むまで，第 3 競技者はマネキンを放してはならない，即ち，少なくとも 1 人の競技者の片手が常にマネキンに接触していなければならぬことが明確にされた。

Point 19： 新競技種目「4x50 m レスキュートウリレー」が追加された。この競技種目の初めの 2 区間は 4x50 m メドレーリレー及びプールライフセーバーリレーと類似である。最後の区間では，フィンを装着した第 3 スイマーが生存被救助者役をレスキューチューブでフィニッシュまでトウする。

第 3 章失格コード：競技規則の更新を反映し，冗長な失格を削除し，番号を付し直して，失格コードが更新された。さらに，新種目「マネキンライフセーバーメドレー」及び「レスキュートウリレー」のコードが追加された。

ダイアグラム： 2 つの新しいダイアグラムが追加された；マネキンライフセーバーメドレー及びレスキュートウリレー

第 4 章　ビーチ及びオーシャン競技

一般事項： 競技の実施や規則に影響を与える各種の書式，編集，及びその他の変更。

Point 2.3： 競技開始の手順は 3 ステップで，まず「Take Your Marks」を示す信号又はコマンドから始まり，続いて「Set」を示す信号又はコマンド，そして「Go」を示すスタート信号又はコマンドが続く。多くの競技種目タイプについての具体例が示されている。**注意**：サーフボート，IRB，及びビーチフラッグスのスタート手順は，それらの種目別競技規則に記載されている。

Point 4.5： S4-4.5 及び S4-22 に詳述されているように，オーシャンマン/オーシャンウーマン競技の最大競技者数が 24 人だと明確化された。

Point 5.2： サーフレースのスタートラインは，2 本のポール間の砂上のライン又はポール間に張られた鮮やかな色の紐のいずれかでもよいことが明確化された。

Point 6.1 サーフチームレースのマーシャルにおいて，各チームは競技者を 1 人ずつ後ろに並ばせることが明確化された。その後オフィシャルの指示で，水際に近い競技者の第 1 列

（最前列）が競技エリアに移動し，その隊列の 1 番目（の競技者）が海に向かって左に来るようにする。そして第 1 列の競技者の後に第 2 列，第 3 列が続く。（この手順により，各チームの競技者がスタートラインに並ぶことになる）。

Point 7.1D： レスキューチューブレスキュー競技に於いて，レスキューチューブスイマーにはレスキュアーが被救助者役をフィニッシュラインまでドラッグ又はキャリーするのを補助することが求められていない，又はレスキューチューブスイマーにはフィニッシュラインを通過することが求められていないことが明確化された。

Point 7.2H： レスキューチューブレスキュー競技において，被救助者役には，背泳ぎ又はリカバリーが水から出る他の泳法が許可されないことが明確化された。しかし被救助者役は，水中でスカーリングしてアシストすることができ，且つ，流線形にするため又は波を受けた場合の保護のため，腕の位置を頭の前に変えてもよい。

Point 7.3： レスキューチューブレスキューレースのスタートラインは，砂上に線を引くか，2 本のポールの間に鮮やかな色の紐を張るかのいずれかであると明確化された。さらに，スタートラインに置かれた紐は，レスキューチューブが引っかかる懸念がある場合，競技者の整列後及びスタート前に取り外してよい。

Point 12.3： ビーチリレー競技にてバトンを落とした場合，バトンを受け取る側がバトンを回収しレースを続けることができるが，それは*指定されたレーン*内に限ることが明確化された。

Point 16.6A： マスターズのスキーリレーのコースは，オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーのスキー区間と同じで，競技者は特に指定がない限り，スイムブイ，4 つの白黒ボードブイ及び 3 つのオレンジブイを含む水上のすべてのブイを回らねばならないと明確化された。

Point 16 (End)： レース時の海の状況を考慮してレフリー又はその代理人により折返し旗が設置されるという注意がマスターズ・スキーリレーの図に追記された：例えば，安全性，公平性，実用性の観点から，ビーチから海への急峻な下り及び/又は水際での強いダンパーがある場合，折返し旗は水際から約 5 m の位置まで後退させるべき。しかしながら，平らなビーチ及び/又はうねりが殆ど無い場合，ランの距離を最小化するため，折返し旗は水際又は水中に置いても良い。チェンジオーバーラインは，状況及び折返し旗の位置に応じて，ビーチ又は水中に設置され得る。

Point 17.2： ボードレースのスタートラインは，砂上に引かれたラインか，2 本のポールの間に張られた鮮やかな色の紐のいずれかでよいことが明確化された。

Point 18.6A： マスターズ・ボードリレーのコースは，オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーのボード区間のとおりで，特に指示がない限り競技者は全てのスイミングブイ及び 4 つの白黒ボードブイを回らねばならないことが明確化された。

Point 17 (End)： レース時の海の状況を考慮してレフリー又はその代理人により折返し旗が設置されるという注意がマスターズ・ボードリレーの図に追記された：例えば，安全性，公平性，実用性の観点から，ビーチから海への急峻な下り及び/又は水際での強いダンパーがある場合，折返し旗は水際から約 5 m の位置まで後退させるべき。しかしながら，平らなビーチ及び/又はうねりが殆ど無い場合，ランの距離を最小化するため，

折返し旗は水際又は水中に置いても良い。チェンジオーバーラインは，状況及び折返し旗の位置に応じて，ビーチ又は水中に設置され得る。

Point 19.1F： ボードレスキューレースのフィニッシュの注意が次のように修正された： フィニッシュ結果が記録されるには，最初の競技者がフィニッシュラインを通過した時，両方の競技者がボードに接触していることが必要だが，第 2 の競技者が足でフィニッシュラインを通過すること及び/又はボードに接触していることは必須ではない。しかし，全てのチームは，競技判定の邪魔にならず後続のチームがフィニッシュできるよう，直ちにフィニッシュラインの陸側に移動することが求められる。

Point 20 (End)： レース時の海の状況を考慮してレフリー又はその代理人により折返し旗が設置されるという注意がマスターズ・オーシャンマン/オーシャンウーマン・リレーの図に追記された：例えば，安全性，公平性，実用性の観点から，ビーチから海への急峻な下り及び/又は水際での強いダンパーがある場合，折返し旗は水際から約 5 m の位置まで後退させるべきである。しかしながら，平らなビーチ及び/又はうねりが殆ど無い場合，ランの距離を最小化するため折返し旗は水際又は水中に置いても良い。チェンジオーバーラインは，状況及び折返し旗の位置に応じてビーチ又は水中に設置され得る。

Point 21.1： 主催者又はコンペティション委員会からの特別な指示がない限り，オーシャン M の区間順序は固定でスイム，ボード，スキーとすることが明確化された。

Point 21.2: オーシャン M コースのスタートでは，競技者は水際から（ビーチの条件が許せば）約 25 m 直線ランする位置に引かれたラインに並ぶことが明確化された。ボードとスキーはレース開始前に指定された場所に置かねばならない。

Point 22.1: 主催者又はコンペティション委員会からの特別な指示がない限り，オーシャンマン/オーシャンウーマンの決勝に進むためのいずれのラウンドでも，勝ち残り形式でなく従来どおりのヒート及び更なるラウンド形式（即ち，予選ラウンド）で実施されることが明確にされた。

決勝は通常最大 24 人の競技者で実施される。競技者 24 人による競技の各ラウンドでの除外人数は，1 ラウンド当たり 8 人とする。もし人数が多い又は少ない場合，主催者又はレフリーが各勝ち残りレースで除外されるべき人数を指示する。

勝ち残りの決勝ラウンドの区間順は以下のように巡回するものとする：

レース 1：スイム，ボード，スキー，

レース 2：スキー，ボード，スイム，

レース 3：ボード，スイム，スキー。

また，勝ち残り競技の最終順位（及びチームに割り当てられるポイントスコア）は，競技者が除外されたラウンドと順位に依ることが明確化された。

Point 23.1: 更に，追加された注意(2)により，オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーの最終区間に於いて，ランナーは戻ってくる競技者にタッチをするため水に入ることが許され，ウェーディング（wade），イルカ飛び（porpoise off the bottom），波に乗ることが可能で，また折返し旗に向かって走ってもよいが，ランナーはいかなるときも泳

いではならない（ここで泳ぐとは，波に乗る又は波に乗り続けるための水面より上の腕の動作を含む）。

ダイアグラム　サーフレース，サーフチームレース，レスキューチューブレスキュー，レスキューチューブレース，ランスイムラン，マスターズスキーリレー，ボードレスキュー，オーシャンマン/オーシャンウーマン，オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー，サーフボートのダイアグラムは全て，スイムブイの左端の色がオレンジから赤/黄色に変更された。

ビーチスプリント，ビーチリレー，ビーチラン，ビーチリレーでは，以前の図の誤記を修正し更新された。

加えて，マスターズ個人及びリレーのオーシャンマン/オーシャンウーマン，マスターズのボードリレー及びスキーリレーに於いて，レース時の海の状況を考慮してレフリー又はその代理人により折返し旗が設置されることを明確化した注意が追記された。例えば，安全性，水面への急な下り坂，及び/又は，水際での激しいダンパーがある場合，公平性及び実用性の観点から，折返し旗は水際から約 5 m は後退させるべきである。しかしながら，ビーチが平坦，及び/又は，うねりが殆どない場合は，ランの距離を最小化するために，折返し旗は水際又は水中に置いても良い。チェンジオーバーラインは，環境条件及び折返し旗の位置に応じて，ビーチ上又は水中に設定される。

第 5 章　SERC

一般事項：　競技の実施や規則に影響を与える各種の書式，編集，及びその他の変更。

第 6 章　サーフボート競技

一般事項：　競技の実施や規則に影響を与える各種の書式，編集，及びその他の変更。

ダイヤグラム：　サーフボートのダイヤグラムに於いて，左側のブイ及びレーンマーカーの色がオレンジから赤/黄に修正された。

第 7 章　IRB 競技

一般事項：　競技の実施又は規則に影響を与える各種の書式，編集，及びその他の変更を行った。

Point 2.4：　IRB ペイシェントの参加促進及び IRB 競技の振興に繋げるため，競技者の年齢条件が見直され若干修正された。

Point 3.3C　IRB 競技のスタート時にハンドラーは，IRB の沈み加減を調整する為，及びバウを沖に向け波に対して垂直を保つ為，スタートの合図後を含めいつでも IRB の位置を変更してよい事が明確にされた。また，安全であるならば，ドライバーとクルーパーソンの乗船をアシストする為，斜めに IRB を設置する事も認められる。ドライバー又はクルーパーソンのどちらかが IRB に触れたと見えた時点で，IRB は「正しい IRB 開始スターティングポジション」でなければならず，それ以降ハンドラーは IRB を動かしてはならない。

Point 7A.：　IRB マスレスキュー及び IRB チームレスキューのチェンジオーバーに関して，クルーパーソン及びペイシェントは，関連する競技の説明で詳述されているように，IRB を

S7-3.3B 記載の通り保持する。また，安全であるならば，ドライバーの乗船をアシストするためボートを斜めに配置することが許される。

Point 5(e): IRB マスレスキューのチェンジオーバーについて，ペイシェントは S7.3.3B, C 及び D で詳説されている通り，クルーパーソンが IRB を方向転換し位置を固定するのをアシストしてよいことが明確化された。更に，安全であるならば，ドライバーの乗船をアシストするためボートを斜めに配置することが許される。

Point 6(g)： IRB チームレスキューのチェンジオーバーについて，ペイシェントは S7-3.3B, C 及び D で詳説されている通り，クルーパーソンが IRB を方向転換し位置を固定するのをアシストしてよいことが明確化された。更に，安全であるならば，ドライバーの乗船をアシストするためボートを斜めに配置することが許される。

Point 7 DQ コード：IRB レスキューチューブ競技に関する DQ コード D2 は削除され，この点について今後ジャッジされない。セクション D のこれ以降の DQ は全て番号が振り直された。

第 8 章　設備及び器材の規格と検査手順

一般事項： 競技の実施や規則に影響を与える各種の書式，編集，及びその他の変更。

Point 3.3A： レスキューチューブ全体の写真を追加し，チューブの端のクリップから反対側の紐の端までの最小及び最大長について詳述した。

Point 3.10： マネキンの構造が明確化され，（構造と構成の）最初のドット（・）にある「PETET」タイプのプラスチックという使われなくなった用語を削除した。

Point 4.10： 4.1 は名称が「ブイ及び旗」に変更された。ここでは，いくつかの競技種目で使用される直線ブイのブイの色，及び，特定の競技種目での説明が含まれる。更に，複数の海上エリアを区別するため，異なる色のターンブイ及びフィニッシュ旗の使用が追加された。

序章 - ライフセービングとスポーツ
INTRODUCTION - LIFESAVING AND SPORT

国際ライフセービング連盟（ILS: the International Lifesaving Federation）は，溺水事故防止，ライフセービング，ライフセービングスポーツの世界的権威である。ILS は，非営利で，政治色や宗教色を帯びない，世界規模のライフセービングスポーツ及び人道支援の団体である。ILS は，国内及び国際機関と連携，協力し，世界中の溺水事故の防止，ライフセービングサービス提供の促進，そしてライフセービングスポーツの監督を行っている。

ILS（及び ILS 加盟団体）は，ライフセービングスポーツを促進，組織化し，定期的に国際的な水辺ライフセービングの競技会を組織することで，競技者の関心を刺激し，水辺で危険にさらされている人々を救う能力と意欲を向上させている。ライフセービングスポーツは，ライフセーバーのスキル，知識，及び技術の開発を支援し，ILS メンバー組織間のグローバルな関係を強化する機会を提供する上で重要な役割を果たしている。

ILS は，以下の国際的なスポーツ組織のメンバーであるか，又は関係を維持している：

- 国際オリンピック委員会（IOC）：ILS は IOC が承認した国際連盟の 1 つである，
- スポーツアコード（SportAccord：全ての国際的なスポーツ連盟を再編成した国際連盟）：ILS はスポーツアコードの議決権のある正式メンバーである[4]，
- IOC 承認国際競技団体連合（ARISF：Association of Recognised International Sports Federations）：ILS は，ARISF の議決権のある正式メンバーである，
- 国際ワールドゲームズ協会（IWGA：International World Games Association）：ILS は IWGA の議決権のある正式メンバーである，
- 国際マスターズゲームズ協会（IMGF：International Masters Games Federation）：ILS は，IMGF の新規メンバーである，
- コモンウェルスゲームズ連盟（CGF：Commonwealth Games Federation）：ライフセービングスポーツは，CGF によって承認されたスポーツである，
- 国際ミリタリースポーツ評議会（CISM：International Military Sports Council）：ライフセービングは CISM によって承認されたスポーツである。

ILS はまた，溺水事故防止活動に関して世界保健機関（WHO）と公式な関係を結んでいる。

ライフセービングスポーツは，ライフセービングの卓越性を切磋琢磨していくことに世界の若年者及び成人を引き入れている。溺水事故の軽減のための協力とチームワークが世界的な注目を浴びるのは避けられないことである。ライフセービングスポーツへの若者の参加を増やすことは，若者を引き入れる方略の一部である。

ライフセービングスポーツは，このミッションの重要な要素である。ILS ライフセービング世界選手権（the ILS Lifesaving World Championships）と ILS ライフセービング地域選手権（ILS Lifesaving Regional Championships）は，世界のライフセーバーを定期的に参集させるのに重要な役割を果たしている — 他国の経験を学び，自らの改善と手技実践の挑戦に役立っている。ライフセービングスポーツ

---

[4] 【JLA 注釈】2017 年に団体名が国際スポーツ団体連合（別名：国際スポーツ連盟機構，国際競技連盟連合）（GAISF: Grobal Association of International SportsFederations）に変更されている。

を公開しメディアに露出させることは，溺水事故防止に取り組んでいる世界的権威である我々のビジョン，ミッション，価値観，戦略的な目標を紹介するのに役立っている。

我々は，ILS スポーツ委員会のメンバー及びメンバー組織による ILS 競技規則作成へのご尽力と，世界中での国際的なライフセービング競技会を推進するため絶え間ない努力に対し，感謝したい。又，ILS メンバー組織に対し，ライフセービングスポーツとライフセービング地域選手権，世界選手権への参加が継続的に成長していることをお喜び申し上げたい。

用語解説　GLOSSARY OF TERMS

ライフセービングスポーツ（lifesaving sport）：個人，チーム，クルーが身体的努力とスキルで他と競争する活動。その活動は，レクリエーション又は競争的であり，結果を達成するものであり，国際ライフセービング連盟（ILS），及び日本ライフセービング協会（JLA）が発行する一連の規則により管理されている。

競技分野（discipline）：競技分野は，1 つ以上の競技種目で構成されるスポーツの分野である。 ライフセービングスポーツは以下の競技分野から構成されている：プール競技，オーシャン競技，SERC，サーフボート競技，IRB 競技。

競技会（competition）：競技会は複数イベントのプログラムで構成され，複数の競技分野及びイベントからなることがある。選手権（championship）は競技会のタイプの 1 つである。例えば，ナショナルチーム ILS ライフセービング世界選手権は，プール，オーシャンそして SERC のイベントを含んでいる。

イベント/競技種目/競技（event）[5]**：**競技種目は，規定された同じルールと条件による一連のレースである。ライフセービングスポーツのイベントには，障害物スイム，ラインスロー，SERC，サーフスイム[6]，オーシャンマン/オーシャンウーマン及びビーチフラッグスがある。

レース（race）：1 つのレースとは，あるイベントにおいてタイム又は順位によって勝者を決める，スピードを競う 1 つの競争である。たとえば，複数のヒートからなる予選の中の 1 つのヒートは 1 つのレースであり，A 決勝も 1 つのレースである。

予選/ヒート（heats）：予選とは，競技者を除外して勝者が次のラウンドや準々決勝，準決勝，決勝レースに進む予備的なレースのことである。（文脈により「予選」又は「ヒート」と表記を変える場合がある）

ラウンド（round）：ラウンドは，同じ競技種目のヒートの集まりである。例えば，「8 ヒートからなるラウンド」などと言う。

ランスルー（run through）：ビーチフラッグス競技のラウンド内で行われるランスルーは，そのラウンドにおいてどの競技者を競技から除外するか決定する。

決勝（final）：決勝は，予選で上位だった選手らによる最終レースである。

A 決勝（A-final）：A 決勝は，予選を 1 位から 8 位で通過した競技者によるレースで，最終的な 1 位から 8 位までの順位を決定する。

B 決勝（B-final）：B 決勝は，予選を 9 位から 16 位で通過した競技者によるレースで，最終的な 9 位から 16 位までの順位を決定する。

タイム決勝（time-finals）：タイム決勝は，予選を行わない競技種目の一連のレースの集まりである。その競技種目の勝者はタイムにより決定される。

---

[5] 【JLA 注釈】文脈により「競技種目」又は「競技」と表記を変える場合がある

[6] 【JLA 注釈】英語版は surf swim とあるが，サーフレースのことを指している。

所属団体（affiliation）[7]**：**競技会に参加する競技者の所属団体又はチームの母体で，地域クラブ，学校クラブ等のこと。**クラブチーム（club team）**と呼称されることもある。

チーム（team）[8]：競技会にエントリーした複数の競技者からなる集団のこと。チーム競技種目に出場する少数のユニットのことも「チーム」と呼称されることがあるが，チーム競技種目はあくまでチームが競うものであり，実際に出場した少数の競技者ユニットはそのチームを代表する存在として「チーム」と呼称されている（チーム競技種目には出場人数が限定された「チーム」が出場していると見做す）。尚，行動規範（2.15 参照）を適用する対象である「チーム」は，実際の競技者，コーチ，アシスタント，観客，その他チームと共に行動する者が含まれると定義される。

---

[7] 【JLA 脚注】JLA 競技規則独自の用語解説。競技会に参加する団体が様々な名前で呼ばれている状況に鑑み，認識を共有するため追加した。

[8] 【JLA 注釈】脚注 7 に同じ。

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

第 1 章

ILS と JLA

THE INTERNATIONAL LIFE SAVING FEDERATION

第 1 章　ILS と JLA
THE INTERNATIONAL LIFE SAVING FEDERATION

1.　ILS の歴史　HISTORY

1.1　FIS の歴史　History of the Fédération Internationale de Sauvetage

19 世紀末，複数の国のライフセービング組織がライフセービング技術や経験を交換するなどして，互いに協力し，学び合っていた。組織立った国際的なライフセービング活動は，1878 年，南フランスのマルセイユ（Marseille）で国際会議が開催されたときに遡る。それ以降数十年の間は，各国ライフセービング活動において多くの独自の功績がみられた。まもなく，アイデアを交換するため国際フォーラム開催の必要性が認識された。精力的に活動していたフランス人レイモンド・ピテ（Raymond Pitet）は，1900 年パリ世界博覧会開催中，世界連盟の設立を目的に，ライフセービング会議を組織した。この時，目的を達成するには至らなかったが，彼はそのアイデアを諦めなかった。

1910 年 1 月 25 日から 30 日にかけてパリは大洪水に見舞われたが，ライフセーバーらはかつてないほど行動をとる準備が整っていた。これら近隣諸国の人々の連携を目の当たりにしたレイモンド・ピテは，今度はパリの中心部から 7 km に位置する小さな町サン＝トゥアン（Saint-Ouen）にて新たな会議を組織した。

この会議に於いて，ベルギー，デンマーク，フランス，イギリス，ルクセンブルク，スイスから参加の連盟により，1910 年 3 月 27 日，FIS（Fédération Internationale de Sauvetage：国際救助連盟）が設立された。会議に出席できなかったスペインとイタリアも設立証書に署名した。 FIS はフランスで法人化され，設立された後，レイモンド・ピテの居留地パリに本部を置いた。

翌年以降，欧州各国において会議と国際選手権が開催されたが，第一次世界大戦によりライフセービングの国際連盟の拡大が滞った。 2 つの世界大戦の間，水難救助だけでなく，ロードレスキューや山岳救助への関心が高くなった。第二次世界大戦後，FIS は溺水事故防止及びライフセービングスポーツをリードする組織となっていた。

1953 年，最初のプールライフセービング世界選手権が開催され，これが定期開催される世界選手権の始まりであった。FIS は 8 つの創設メンバーから 1993 年には 34 以上のメンバー団体に成長した。1993 年 2 月 24 日，FIS は WLS と合併し ILS を設立した。WLS は 1994 年 9 月 3 日に解散した。

1.2　Wold Life Saving の歴史　History of World Life Saving

1956 年 11 月，オーストラリア，ニュージーランド，南アフリカ，セイロン（現スリランカ），ハワイ，イギリス及びアメリカ合衆国（カリフォルニア支部）の各国サーフライフセービング協会が，国際ライフセービング競技会（ICSLS：the International Council of Surf Life Saving）を設立した。1971 年 3 月 24 日，シドニー（オーストラリア）のクロヌラ（Cronulla）で開催された会議に於いて，ICSLS のメンバーによりワールドライフセービング（WLS：World Life Saving）という新組織が設立された。1977 年 6 月 14 日，設立にかかわった各国：オーストラリア，イギリス，ニュージーランド，南アフリカ及びアメリカ合衆国，の正式な合意を以て定款（Constitution）が採択された。WLS は，人対人を基本とした教育的な海の安全性及び水中プログラム（aquatic programmes）を構築する目的で設立された。1974 年，南アフリカのポート・エリザベス（Port Elizabeth）及びダーバン（Durban）に於いて，ナショナルチームのための最初の世界サーフライフセービング選手権（the first World Surf Lifesaving Championships for National Teamms）が開催された。1981 年，インドネシアのバリ島クタ・ビーチ

（Kuta Beach）に於いて，ライフセービング団体/クラブのための最初の世界サーフライフセービング選手権（the first World Surf Lifesaving Championships for Clubs）が開催された。

WLS は，1971 年の 5 つの創設メンバーから始まり，1993 年には 25 以上のメンバー団体に成長した。1993 年 2 月 24 日，WLS は FIS と合併し ILS を形成した。WLS は 1994 年 9 月 3 日に解散した。

1.3 国際ライフセービング連盟の歴史 History of the International Life Saving Federation

ILS（The International Life Saving Federation：国際ライフセービング連盟）は，1993 年 2 月 26 日にベルギーのルーベン（Leuven）で開催された FIS と WLS の合同総会に於いて，FIS（FédérationInternationale de Sauvetage Aquatique）と WLS の合併合意が公式に締結されたことで創設された。

同日，FIS 及び WLS は ILS 規約草案及び附則草案に合意した。そして 1994 年 9 月 3 日（土），イギリスのカーディフ（Cardiff）に於いて ILS が設立された。創設日は ILS の公式な設立を示すものである。ILS 後援による最初のライフセービング世界選手権も 1994 年，カーディフ及び同じくイギリスのニューキー（Newquay）に於いて開催され，プール競技及びオーシャン競技の両方が実施された。2012 年までに開催されたこの選手権及びこれに続く隔年開催の ILS 選手権は”Rescue”選手権と呼ばれていた。

2014 年[9]，ILS の LWC をより良く表現するため，そして水難事故に関する隔年開催の ILS 世界会議（the biennial ILS World Conference）と区別して表現するため，「Rescue」という語ではなく代わりに「Lifesaving World Championships」（LWC：ライフセービング世界選手権）が使われるようになった。

2. ILS の組織 ORGANISATION

ILS の最高権威は，加盟組織の代表が出席する総会である。総会は ILS の優先順位を定める。選挙総会は 4 年ごとに開催され，理事を選出する。理事会は，総会と総会の間に ILS の事業を履行し，会長が議長を務める。事務局（本部）は現在，ルーヴェン（ベルギー）に所在し，管理部門が置かれている。

ILS は，その業務を 4 つの地域支部（Regional Branches）の傘下に分散化している。支部はアフリカ，南北アメリカ，アジア太平洋，ヨーロッパに於いてその地域のために設置され，地域活動を主導，監督，調整する責任を担っている。

ILS は，主要な活動分野の管理，開発，技術的側面を担当する専門委員会（committees）で構成される委員会（commissions）を創設した。4 つの委員会は，溺水事故防止とその公の教育，レスキュー，ライフセービングスポーツ，事業である。

また ILS は，パートナー組織，政府，非政府組織（NGO），及びスポンサーと協力して，世界中にライフセービングを普及している。

ILS は，人道的ライフセービング活動を普及する重要な方法として，競技会を主催又は認定するという点でユニークな国際連盟である。競技を介したライフセービングは，確固とした目標の 1 つである。

---

[9] 【JLA注釈】ILSウェブサイト（https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/lwc/）にあるとおり，また後述（1.6.1 日本における国際的なライフセービング競技会）のとおり， 2014年まで「Rescue」の呼称が使用されていた。

3. ILS の戦略的目標　STRATEGIC GOALS

ILS の戦略目標は以下の通りである：

- 対象コミュニティ内の溺水事故を削減する能力を構築する，
- 溺水事故防止，ライフセービング，ライフセービングスポーツの世界的権威として ILS を位置づける，
- パートナーシップとコラボレーションを通じて，世界の子供たちの溺水事故を減少させる
- ライフセービングスポーツの適用範囲，力の及ぶ範囲，世間からの認知を拡大する，
- 持続可能なビジネスモデルを創出する，
- グローバルなベストプラクティスを構築し推進する，
- あらゆる国/地域と関わる。

4. ILS スポーツ委員会　SPORT COMMISSION

スポーツ委員会は，国際的なスポーツ競技の場におけるライフセービングスポーツのあらゆる側面を監督する。委員会の責任範囲には次のものが含まれるが，これらに限定されない：

- スポーツ規則，
- 選手権，
- スポーツ・マネジメント，
- アンチ・ドーピング，
- アスリート，
- テクニカルオフィシャル，
- スポーツ育成，
- スポーツ研究。

本委員会は，協力関係にあるスポーツ組織との関係促進について理事会をサポートしている。

5. アスリート委員会　ATHLETES COMMITTEE

2018 年以来，ILS にアスリート委員会が設置されている。ILS アスリート委員会は，選出された少なくとも 6 人から構成され，内 50%は男性，50%は女性である。委員会の任務は，ILS の意思決定プロセスにおけるアスリートの代表権を強化すること，アスリートのスポーツ及びスポーツ以外のキャリアでの成長をサポートすること，及び ILS 全体にわたる意思決定に於いてアスリートの見解を代表することである。アスリート委員会の委員長は，ILS 理事会の投票権を持つメンバーである。

6. イベントマネジメント委員会　EVENT MANAGEMENT COMMITTEE

ILS イベントマネジメント委員会は，理事会が任命した委員長，セクレタリーとしての ILS イベントディレクター，スポーツイベント関連としてスポーツ委員会（Sport Commission）からの代表者，溺水防止会議及び溺水防止イベント関連として溺水防止委員会（the Drowning Prevention Commmission）からの代表者から構成される。ILS イベントマネジメント委員会の任務は，ILS の各イベントのマネジメントを監督することである。

7. JLA について[10]

ライフセービングとは，水辺の環境の安全性を高め，水の事故から人の命を救うための活動である。日本ライフセービング協会（JLA）は，教育，救命，スポーツ，環境，福祉をテーマにライフセービング活動を展開している。JLA は，国際ライフセービング連盟（ILS）に加盟し，世界的なライフセービング組織の一員としてライフセービング活動を行っている。また，ILS は，国際オリンピック委員会からライフセービング競技の国際的な組織として承認されており，今後ライフセービング競技の更なる普及・発展が期待されている。JLA は，原則として本競技規則を ILS の競技規則に準拠させ国際的な基準に合わせたライフセービング競技の普及・発展を目指している。

7.1 日本におけるライフセービング競技会

ライフセービング競技は，スポーツを通してライフセービングの知識や技能を高めるとともにフレンドシップを築きライフセービングを普及・発展させるために重要な役割を持っている。また，ライフセービング競技種目は，いずれもレスキューを想定して競技化されたものである。競技のために努力した過程は，水辺で安全に活動するための体力や技能を身に付け，さらにレスキューにも生かされる。仮にフェアでない行為をして勝ったとしても，レスキューすることができる能力にはならないのである。したがって，ライフセービング競技はフェアの精神に則って行われる。

7.2 日本における国際的なライフセービング競技会

ライフセービング競技の国際的な競技会は，ライフセービング世界選手権（現在の Lifesaving World Championships; LWC, 2014 年までは Rescue シリーズ）とワールドゲームズがあげられる。1992 年には静岡県下田市でライフセービング世界選手権（Rescue’92）が開催され，日本におけるライフセービングの普及に大きな影響を与えた。また，ワールドゲームズとは，国際スポーツ団体連合に加盟しているスポーツの中で，オリンピックで行われている以外の競技種目が行われるスポーツ・イベントである。ライフセービング競技は 1989 年カールスルーエで開催された第 3 回大会から正式種目となり，2001 年第 6 回大会は秋田県で開催された。2017 年第 10 回ポーランド大会では男子障害物リレー（4×50 m）において世界新記録で優勝を果たすなど，日本のライフセービング競技の競技力は著しく向上している。

現在，日本国内での国際競技会として『三洋物産 インターナショナル ライフセービングカップ』（通称，三洋カップ）が 2006 年からほぼ毎年開催され，各国のナショナルチームが派遣されている。また 2019 年度の全日本プール選手権大会に香港チームの，全日本種目別選手権大会に南アフリカチームの参戦があるなど，これまで国内向けであった競技会にも海外からの参加が相次ぐようになってきている。尚，全日本プール競技選手権大会は 2018 年開催から ILS 認定を取得しており，世界記録が認められる競技会となっている。2022 年にワールドマスターズゲームズのライフセービング競技が福井県の若狭和田ビーチで開催される予定であったが，新型コロナ感染症（COVID-19）流行のため 2027 年 5 月に延期となった。

7.3 国内のライフセービング競技会

日本におけるライフセービング競技の始まりは，1975 年に神奈川県鎌倉市材木座海岸で開催された第 1 回ライフガード大会であるとされている。当時の競技種目は，素手での救助方法を競い合うものや

---

[10] 【JLA 注釈】この「7. JLA について」は JLA が追加した節である。

カッターレースなどが行われていた。その後，年に 1 回開催されていたこの大会は，1987 年第 13 回大会からインタークラブ・ライフセービング選手権と名称を改め，この大会から世界基準のオーシャン競技種目が多く導入されるようになった。その背景には，当時オーストラリアとの間で行われていた豪日交換プログラムによるライフセーバーの人的交流が大きな影響を与えていた。1989 年からはインタークラブ選手権とは別に全日本選手権が開催され，1991 年にはインタークラブ選手権を全日本選手権に併合し現在の全日本選手権に受け継がれている。また，1986 年から静岡県下田市白浜海岸でジャパン・サーフカーニバルが開催され 2004 年から全日本種目別選手権に名称を変更している。さらに，日本では地域クラブとともに多くの学校クラブ設立に伴い 1986 年神奈川県藤沢市辻堂海岸にて第 1 回全日本学生選手権（プール）が始まった。1988 年からは第 1 回全日本室内選手権が開催されるようになり 2010 年には第 1 回全日本学生プール選手権が行われた。これらの競技会は JLA 主催競技会として毎年開催され，現在の全日本選手権では約 1,300 名の選手が参加している。

2023 年度現在，JLA は以下の競技会の主催を予定している：

- 全日本ライフセービング選手権大会,
- 全日本ライフセービング・プール競技選手権大会,
- 全日本ライフセービング・SERC 選手権大会,
- 全日本ライフセービング・IRB 競技選手権大会（2023 年 11 月初開催予定）
- 全日本学生ライフセービング選手権大会,
- 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会,
- 全日本学生ライフセービング・SERC 選手権大会,
- 全日本ジュニア/ユース/マスターズ選手権大会（ビーチ）,
- 全日本ジュニア/ユース/マスターズ選手権大会（サーフ）,
- 全日本ジュニア/ユース/マスターズ選手権大会（プール）,
- サーフカーニバル・全日本ライフセービング種目別選手権大会,
- オーシャンサーフチャレンジ in 白浜。

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

第 2 章

共通競技総則

GENERAL RULES AND PROCEDURES

第 2 章　共通競技総則
GENERAL RULES AND PROCEDURES

ライフセービングのスポーツは ILS の使命でもある世界中の溺水事故防止に寄与するものである。ライフセービング・スポーツの国際的な組織である ILS は，ライフセービング競技会が安全で且つ公平な制度の下で開催され得るよう，競技規則を制定するものである[11]。

いかなる ILS 加盟連盟であっても，ILS への正式な申請と承認なしに「世界」イベントと称するライフセービング競技会を実施してはならない。さらに，”ILS”，“International Life Saving（国際ライフ・セービング）”，“Lifesaving World Championships（ライフセービング世界選手権）”，“LWC”，“Oceanman（オーシャンマン）”，“Ocean M（オーシャン M）”，”Ocean M Lifesaver Relay（オーシャン M ライフセーバーリレー）”，“Oceanwoman（オーシャンウーマン）”，"World（世界）"，” Lifesaving（ライフセービング）”，“Life Saving（ライフ・セービング）”，“Rescue Series（レスキューシリーズ）”，“World Lifesaving Championships（世界ライフセービング選手権）”，“World Water Safety（世界ウォーターセーフティー）”という語/用語は，正式申請及び ILS の書面による同意がなければ，いかなるライフセービング競技会に関して使用できない。

1. ILS 認定競技会[12]　ILS-SANCTIONED COMPETITION

ILS だけが他のライフセービング競技会を ILS 認定とすることができる。そして全ての ILS 認定ライフセービング競技会は最新版 ILS 競技規則（ILS Competition Rule Book）を用いなければならない。

ILS は世界選手権（world championships），国際選手権（international championships），ILS 地域選手権（ILS regional championships）そしてナショナル選手権（national championships）を認定でき，その他の国際（international）又はナショナル競技会（national competitions）も認定できる。

認定の目的は，ILS 認定の下で開催される全ての種目が一貫した基準に準拠するようにし，またそれらが ILS のイメージを傷つけないようにすることである。そのような競技種目は ILS 正規会員団体が運営し，開催地域の正式な許可を得て，リスク管理及び所定の保険の手続きを行うものとする。ILS 認定でない競技種目では，世界記録の更新はない。全ての ILS 加盟団体は，自国/地域の競技種目全てが ILS に認定されるようにすることが推奨されている。

A. 主催団体には，競技会が認定に必要な仕様を満たし認定申請を完了する責任がある。認定申請はILS地域事務局（ILS Regional Secretary）及びILS本部（ILS headquarters）により受理されなければならない。主催団体は申請手続きについてILS本部と連絡をとるものとする。ILS認定申請様式はウェブサイト https://www.ilsf.orgから入手可能である。

B. 全てのILS認定競技会において，ILSは，認定に必要な全ての仕様を満たす責任のある競技会の組織委員会との公式リエゾン（連絡係）に，ILSスポーツ委員会（ILS Sport Commission）の議長（又は議長から任命された者）を任命する。

---

[11] 【JLA 注釈】JLA もまた同様に，JLA が主催/認定する競技会が安全且つ公平な制度の下で開催され得るよう，ILS 競技規則を可能な限り反映させた JLA 競技規則を制定するものである。

[12] 【JLA注釈】JLA認定競技会については，「基本規程」第5章，及び「認定競技会規程」を参照のこと。

2. 競技会の組織と管理 COMPETITION ORGANISATION AND ADMINISTRATION

A. ILSが実施する，又はILSが認定しILS加盟団体の下で実施される全ての競技会（世界選手権を含む）は，ILS競技規則，ILS及び関連する加盟団体の規約，それら規約に基づく規定の対象となる。一部の競技会には特別な条件が適用されることがあるが，その場合，競技組織団体は全ての参加者にその旨を明確にしたハンドブック，公報，案内などを発行する[13]。

B. 競技会にエントリーすることで，参加者は競技会を管理する関連規則，規定，手順を知る責任と義務があることを認識しているものとする。

C. 競技会の主催者は，競技会へのエントリー資格及びエントリーにより課せられる責任に関する全ての情報を，競技者又は所属団体/クラブが入手できるようにせねばならない。

D. 競技会を適切に実施するため以下に例示するような情報提供も必要である：

- 競技会の名称及び特性,
- ILS 加盟団体/JLA 加盟団体の名称及び住所,
- 主催者を明記した組織委員会（Organising Committee）の名称及び住所,
- 適切な免責事項，情報開示及び ILS/JLA 認定に関する勧告と，競技会は「ILS 及び/又は ILS 加盟組織の権限及び規定の下に開催される」又は「JLA 及び/又は JLA 加盟組織の権限及び規定の下に開催される」という趣旨の声明文,
- 競技会の開催場所及び開催日，ブリーフィングの日時及びその他詳細情報，マーシャルへの集合, エントリーの開始日及び終了日, どのように（そしてどこで）エントリーできるか，そしてエントリー費用,
- 実施を予定している全ての競技 — 特殊な種目又は複数部門にわたる競技種目の場合，「区間」，コースの全長及びその他詳細情報が含まれていること,
- エントリーが拒否される条件及び年齢制限の詳細,
- 主催者が加入する保険（私有財産，公的責任，及び個人賠償責任保険の観点から適切なもの）についての詳細,
- 器材についての特殊な要求仕様の詳細（もしあれば），及び器材検査の時刻と場所,
- 表彰と賞金の詳細一覧と，競技結果から賞が決定される方法,
- 上訴に関する特別な手続きや預託金についての詳細,
- 競技の延期，中止，放棄，取消，そして競技種目の一部又は全部を変更することに関する規定,
- 競技者には，必要があれば，ILS/JLA の加盟団体，所属団体/クラブ又はその他の関連当局から書面による承認を得る義務があるとの喚起,
- 競技会又は競技種目における競技者/チームの最大数，及びその数の管理方法,
- 競技中に器材の変更又は交換が必要になった場合の変更/交換方法,

---

[13] 【JLA 注釈】同様に，JLA が実施する，又は JLA が認定し JLA 加盟団体の下で実施される全ての競技会は，JLA 競技規則，JLA 及び関連する加盟団体の規約，それら規約に基づく規定の対象となる。一部の競技会には特別な条件が適用されることがあるが，その場合，競技組織団体は全ての参加者にその旨を明確にした要項，公報，案内などを発行する。

- クラフトに貼付するステッカーや，テクニカルオフィシャル，作業グループ及び競技者らが着用する服装で，スポンサーが特定できるものに関するスポンサーの意向，及び（もしあれば）競技者の器材又は服装で他の企業ロゴを表示することに関する制約，
- 任命されたオフィシャルがそれぞれ何を判定するか，
- 競技会に適用されるペナルティーの規模，
- 水温：競技会開催日の平均値，気温及び湿度：競技会開催日の平均値，
- 通常と異なるコースの危険性又は特殊器材の必要性：例えば，ウェットスーツ，補助具など，競技会場及びチェックイン場所への分かりやすいアクセス方法。

2.1 各種委員会，セーフティー オフィサー及びセキュリティーオフィサー Committees, Safety Officer, Security Officer, and Security Officer

各競技会について，当局は組織委員会，コンペティション委員会を設置，及び安全・緊急事態職員を任命する。小規模な競技会では，複数の委員会の機能を一つに統合してもよい。

組織委員会，コンペティション委員会，及びセーフティーオフィサー委員会等の関係は，章末の模式図で説明されている。

2.2 組織委員会 Organising Committee

組織委員会は，競技会の競技及び非競技の観点から，安全，物流，及び運営組織を計画・展開する責任を負う。組織委員会は競技会の性質に応じて編成される。

組織委員会はライフセービング・スポーツ担当部局（JLA ではライフセービングスポーツ本部）と連携をとり，同担当部局に対して責任を負う。

組織委員会はコンペティション委員会の編成を決定し，必要に応じて同委員会をサポートする。

組織委員会のどんな会合であっても，公式記録を取り，保管せねばならない。

2.3 コンペティション委員会[14] Competition Committee

コンペティション委員会は，競技会の運営にかかる全ての事項について監督する。この委員会は，競技規則に従って，競技種目を変更，延期，取り消すことができ，また，競技会の場所を変更することができる。

コンペティション委員会は競技会の体制化，運営に関する事項について，組織委員会，チーフレフリー，セーフティーオフィサー，セキュリティーオフィサー及び関連する緊急事態要員，専門家らから，適宜助言を求めるものとする。

コンペティション委員会のどんな会合であっても，公式記録を取り，保管せねばならない。

2.4 セーフティーオフィサー Safety Officer

A. セーフティーオフィサーは関連当局により1人任命され，競技及び競技以外の安全及び救急サービスの全てについて検討し，組織委員会及びコンペティション委員会に助言しなければならない。規模の大きな競技会では，様々な役割責務を担う緊急・安全委員会を設置するのがよい。この委員会の委員長は組織委員会及びコンペティション委員会メンバーを

[14] 【JLA注釈】コンペティション委員会は，競技会によっては，大会委員会，実行委員会などと呼称する場合がある。

も務める。

B. セーフティーオフィサー又は緊急・安全委員会による助言は公式記録として保存されなければならない。

2.5 セキュリティーオフィサー Security Officer

競技会によっては，関係当局によってセキュリティーオフィサーが置かれることがある。セキュリティーオフィサーはテクニカルオフィシャルではないが，競技及び非競技の保安に関する全てについて検討し，組織委員会，コンペティション委員会，及びセーフティー委員会に助言する。また，セキュリティーオフィサーは競技施設及び環境において，全ての参加者，観客，器材及び装備などの安全を確保するため，適切なセキュリティー計画，手順，セキュリティー要員が確実に準備/配置されていることに責任がある。

提出した助言を公式に記録し，保存せねばならない。

3. 競技会の安全 COMPETITION SAFETY

安全な競技会開催は不可欠であり，競技会の計画における優先事項である。組織委員会は，競技会関係者の安全確保のため，適切な資金を提供する責任がある。

A. 組織委員会はセーフティーオフィサーを任命する。セーフティーオフィサーは，競技者，オフィシャル，そして観客その他の安全確保のため，競技施設と環境の全てが安全に使用でき，適切な安全計画，器材，クラフト，手法，緊急事態要員が所定のとおりであることを確認する責任を負う。

B. セーフティーオフィサーは組織委員会及びコンペティション委員会のメンバーである。

C. 競技施設が安全であり，適切な安全・緊急対応計画，器材，手法及び要員が配置されていることをILSスポーツ委員会/JLAライフセービングスポーツ本部が確認するまで，いずれの競技会もILS/JLAの認定を受けられない。

D. いずれのオーシャン競技種目も，チーフレフリー又はセーフティーオフィサーが海の状態を評価しコンペティション委員会に報告するまで実施されない。コンペティション委員会のみが，競技会又は競技種目を取消す，予定変更する，又は開催場所を変更する権限を有する。

E. チーフレフリー又は任命された救急サービスのコーディネーター（安全・緊急対応計画に記名あり）は，競技会中の緊急事態を掌握するものとする。

F. **注意**：チーフレフリーと救急サービスのコーディネーターとの間で共通の言語が話される必要がある。必要に応じて，組織委員会がコミュニケーションを支援するために通訳を任命する場合がある。

3.1 安全及び緊急対応計画 Safety and emergency plan

A. 組織委員会は以下の事項を担保する安全及び緊急対応計画を準備する：

- 開催場所が競技会の目的に合致し適格であること，
- 競技者，競技会要員及び観客の安全性全般，
- 競技者，テクニカルオフィシャル，競技会要員，又は観客らの怪我又は疾病を含む大小の緊急時のため，所定どおり緊急事態要員が配置され手順が定まっていること。

B. 当該計画には以下の事項が含まれる：

- 競技者，テクニカルオフィシャル，競技会要員，観客が競技会で使用する施設の概説，
- 計画及び指揮系統及び救急サービスのコーディネートを主導する権限を有する個人を特定していること，
- 安全要員，プロトコル（陸上及び海上の監視を含む），そしてそれらの職務を特定していること，
- 救急サービスを展開するためのロジスティック情報を特定していること—すなわち，要員とその配置，競技会場へのアクセス情報，器材，コミュニケーション手順と方法，車両のアクセス，代替会場など，
- 緊急医療施設を特定していること—これには，応急処置サイトの数，場所及びタイプ，各サイトの設備，応急処置サイトに常駐又は待機している（呼べばすぐ来る状態の）要員などの情報が含まれる—また，現場の，及び現場以外の医療施設を特定していること—これには，最も近い医療センター及び病院の場所と連絡方法の詳細などの情報が含まれる，
- 傷病者[15]の搬送又は救助チームが駆けつけるため待機している緊急車両の運営に関する手順を特定していること，
- 競技者が行方不明になった場合の捜索救助（SAR: Search and Rescue）活動のため十分な明るさを確保できるよう，オープンウォーター競技の開始及び終了時刻を特定していること，
- **注意：** 一般的に競技の終了時刻は，効果的な SAR 活動をするのに明るさが十分でなくなる時刻より 90 分以上前である。
- 利用可能な救急サービス及びそれらの業務手順が特定されており，内外の当局やサービスをどのように有効化すればいいか特定されていること，
- 競技会中に競技者，テクニカルオフィシャル，競技会要員，観客らの死亡又は深刻な負傷事案があった際の意思決定の責任を特定していること。

C. 緊急対応活動に協力予定の現地当局及び対応機関ともこの安全・緊急対応計画を共有し，ブリーフィングでチームマネージャー及びオフィシャルにも説明すること—緊急医療施設の利用法及び詳細を記した計画概要を各チームマネージャーに提供し，全ての競技会要員にも承知させること。

3.2 非常時会場変更計画 Relocation contingency plan

A. オープンウォーター競技では，悪天候により厳しい暑さ，寒さ，嵐，大波，うねりなど危険な状況が起こりうる。また，海や浜の汚染といった人為的災害も軽視できない。プール競技では，水質や停電，機械の故障という問題も起こり得る。

B. 組織委員会は非常時会場変更計画を準備し，悪天候や競技会の一部又は全てが実施できない状況での手順及び手続きを明確にしておくこと。

C. 非常時会場変更計画は以下のように作成する：

---

[15] 【JLA 注釈】ILS 競技規則原文は patients（傷病者）だが，あえて他の箇所の victims（被救助者）に合わせず，救急隊等の救急サービスで多用される「傷病者」としている。尚，IRB 競技では「ペイシェント」の呼称を採用した。

- 競技会の一部又は全ての中止，取消，延期，会場変更を誰がどのような手続きで決定するかを特定している，
- 競技会の一部又は全部が定められた時間内に安全に実施できる代替会場を特定している，
- 中止，取消，延期，会場変更に関する決定及び指示を伝える責任の所在と手順を特定している，
- 代替会場に競技者，競技会要員，器材を異動させるロジスティック計画の概要を説明している，
- 代替会場での設営及びタイムテーブルを調整する責任の所在が記されている。

注意：競技会の安全及び非常時計画，安全ガイドラインのサンプルなど詳細情報は https://www.ilsf.org を参照のこと。

4. 技術的安全及びテクニカルオフィシャル TECHNICAL, SAFETY AND OTHER OFFICIALS

組織委員会は，テクニカルオフィシャル選任を手配するものとする。テクニカルオフィシャルとは，ライフセービング競技の規則及び規定を適用し，規則違反，パフォーマンス，タイム，順位を判定することで，競技会を統制する者のことである。

4.1 テクニカルオフィシャル行動規範 Technical officials code of conduct

A. 全てのオフィシャルは，ライフセービング競技の国内/地域内管理団体（日本ではJLA）により認定されていなければならない。また，競技会のオフィシャルに任命されるには，オフィシャル参加申請が承認されなければならない。

注意：経験又は専門資格を有する者に専門的な役割を与える場合がある：タイムキーパー[16]，レコーダー[17]，安全担当，医療担当，船上ジャッジ（IRBジャッジ）など。それらの役割担当者には役割と責任についての指示が与えられる。

B. オフィシャルは競技チームを「コーチ」することはできず，また同様に手助けすることもできない。これに違反したと判断されたオフィシャルはそれ以降オフィシャルとして行動する資格を失う。ただし，競技者を含むグループにオフィシャルが講習会又は研修会を実施することは，この規則に違反したとみなされない。

C. 詳細については「S2-15 行動規範」を参照のこと。

D. **ミーティング**：オフィシャルは競技運営にあたり，判定基準などを共有/確認するため，ミーティング（オフィシャル会議を含む）へ適宜参加すること。

E. **服装**：オフィシャルは白又は青の上着，白又は青のショートパンツ，白帽子を着用する。必要に応じてレインコート等の防雨/防寒具を着用することが出来る。

注意：主催者がイベント固有のユニフォームを提供する場合，それを着用する必要がある。

4.2 ローカルイベントマネージャー Local Event Manager

ローカルイベントマネージャー（又は別名の管理者）は組織委員会の監督下にあり，競技会の間はコンペティション委員会の監督下にある。ローカルイベントマネージャーは競技規則及

---

[16] 【JLA 注釈】S2-4.22 B.の記述の通り「計時ジャッジ」と同義。

[17] 【JLA 注釈】競技規則内には「レコーダー（recorder）」という役職は定義されていないが，実質的に「S2-4.23 記録ジャッジ」のことと同義とする。

び組織委員会の決定の範囲内で競技会を組織する責任を負う。ローカルイベントマネージャーは開催場所において組織委員会を代表し，あらゆる問題に対処する。

4.3 ILS イベントディレクター ILS Event Director

ILS が管理する競技では，ILS 競技ディレクターが任命され，ILS と ILS スポーツ委員会がライフセービング世界選手権を計画し進めるのをサポートし，コンペティション委員会に競技について報告する。

組織委員会は以下の，及び以下に限定されないオフィシャルの任命手配を行う：

テクニカル：

- チーフレフリー
- デピュティーチーフレフリー
- エリアレフリー（オーシャン）
- イベントディレクター（プール）
- セクショナルレフリー
- レフリースチュワード/ヘッドスコアラー
- コンペティションリエゾンオフィサー
- コーススーパーバイザー
- スクルーティニアコーディネーター及びスクルーティニア
- 装備及び機器コーディネーター
- アナウンスコーディネーター及びコメントパネル

ジャッジ

- チーフジャッジ
- フィニッシュジャッジ
- レーンジャッジ
- コースジャッジ
- スペシャリストジャッジ
- 電子機器スペシャリストジャッジ
- 計時ジャッジ
- 記録ジャッジ
- スターター
- チェックスターター

非テクニカルオフィシャル：

- マーシャル
- チェックマーシャル
- プレゼンテーションスチュワード
- 上訴委員長
- 上訴委員
- 規律委員長
- 規律委員

- セキュリティーオフィサー

安全オフィシャル：

- セーフティオフィサー
- エリアリスク管理オフィサー
- パワークラフトコーディネーター
- ウォーターセーフティーコーディネーター
- ウォーターセーフティー要員
- コミュニケーションコーディネーター
- 医療/FA コーディネーター
- コース統計係
- 感染対策マーシャル

注意 1：小規模競技会では，安全性の規定が損なわれないのであれば，複数のオフィシャルの役割を兼ねさせてもよい。

注意 2：競技会に参加する者は常に，競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に注意し，観察したこと又は懸念事項を直ちに報告する必要がある。

注意 3：既に下した判断又は今後検討する必要のある判断を支持するために，オフィシャルは競技規則のどんな侵害又は違反をも記録しておくこと。

テクニカルオフィシャル　TECHNICAL OFFICIALS

4.4 チーフレフリー　Chief Referee

チーフレフリーは以下のことを行う：

A. コンペティション委員会と連携して，実際の競技実施に関連するすべての事項，及び最終的な結論がILS規則/JLA規則でカバーされていない事項について，責任を負う — また，チーフレフリーは，実施する競技会又は競技を管理する規則と規制を履行する，

B. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち，その決定をセーフティーオフィサー及びコンペティション委員会に伝える，

注意：チーフレフリーは，捜索及び救助活動を開始及び調整する権限を持つ — チーフレフリーはそれらの行動をセーフティーオフィサー及びコンペティション委員会に直ちに報告せねばならない，

C. 競技者，パワークラフト，ウォーターセーフティー要員，オフィシャル，ライフセーバー/ライフガードから直接受けた安全上の懸念報告に直ちに対応し，セーフティーオフィサー及び/又はコンペティション委員会に適切に伝達する，

D. エントリー条件，タイムテーブル，会場レイアウト，特別競技，安全性，緊急時の手配など，競技会の実施及びプログラムに関して，上級オフィシャル及び/又はチームマネージャー及び/又はコーチ及び/又は競技者向けの事前及び事後説明会を実施する，

E. 必要と思われる変更をプログラムに加え，遅滞なくすべての関係者に伝える — いかなる変更も，競技者とオフィシャルの安全と福祉を考慮したものであるべきである，

F. 報告，抗議，規則違反，及びオフィシャル，競技者，コーチ，マネージャー，競技に関す

る全ての事項について検討し裁定する — いかなる決定も「S2-18 抗議及び上訴」にあるような上訴の対象となる場合がある。

G. 競技会又は競技中のいかなる不適切行為をも検討し裁定する — 必要とあらば，更なるペナルティーを検討するためILS/JLAに違反又は違反者を報告する，

H. 必要に応じて競技者を失格又は罰する権限を行使する — 関連する競技が終了するまで，チーフレフリーは失格又はペナルティーを通知する必要はない，

I. 必要に応じて，オフィシャル，チームマネージャー，コーチ，競技者らとのブリーフィングを実施する，

J. 競技会の実施に関して，適切な提案事項を添えてILS/JLA当局に報告する。

4.5 デピュティーチーフレフリー Deputy Chief Referee

デピュティーチーフレフリーが置かれた場合，以下のことを行う：

A. 競技会の指揮と運営を補助し，チーフレフリーが不在の場合はその権限と責任を代行する，

B. チーフレフリーの権限内で，競技会の特定の範囲を管理する，又は特定の任務，権限を与えられる，

C. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち，その決定をチーフレフリーに伝える，

D. デピュティーチーフレフリーも，必要とあらば捜査及び救助活動を開始する権限を持ち，セーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はそれらの代理人に報告する。

4.6 エリアレフリー（オーシャン） Area Referee (Ocean)

エリアレフリー（複数の場合もあり）が置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリー又はデピュティーチーフレフリーに対して，必要条件に対する適切なコースレイアウトを含め，競技会の特定エリア又はセクション又はいくつかの競技のまとまりを管理又は体制化する責任を負う，

B. 特定の管理エリアでの競技会及び競技種目を統制する規則及び規定を実行する，

C. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，担当するエリアでの競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち，その決定をチーフレフリーに伝える，

D. エリアレフリーは，エリアリスク管理オフィサーと連携して，捜査及び救助活動を開始する権限を持ち，直ちにセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はその代理人に報告する，

E. チーフレフリーの裁量で，（エリアレフリーが）抗議を検討し裁定する，

F. 管理下にあるセクショナルレフリーらに，担当エリアを管理するための特定の要件について説明する，

G. エリアでの実施に関して，レフリー又はエリアの権限者に報告及び提案事項を提供する。

4.7 イベントディレクター（プール） Event Director (Pool)

イベントディレクター（複数の場合もある）が置かれた場合，以下のことを行う：

A チーフレフリーに対して，競技会の特定エリア又はセクション又はいくつかの競技のまと

まりを管理又は体制化する責任を負い，特定の管理エリアでの競技会及び競技を統制する規則及び規定を実施する — 特にイベントディレクターは以下のことを行う：

- 競技開始のため準備する（例えば，スターティングブロック上で位置につく）ようホイッスルを吹く。
- 競技者がスタートの位置につくようホイッスルを吹く前に，器材がセットされ，チーフタイムキーパー[18]が準備完了の合図を出していることを確認する，
- 競技者が配置についていることをスターターに合図し，スターターに引き継いで，そして，
- 競技者のフィニッシュ順位を記録する，

B. イベントディレクターは，失格を含めて各競技に関するすべての結果書類を監督及び照合することと，それらをレコーダーが受け取っていることを確認する責任を負う，

C. イベントディレクター（及びスターター）は，彼又は彼女の意見でスタート条件に違反があった又はスタートが公平でなかった場合，ホイッスルの合図又はその他の手段で競技者を呼び戻す責任を負う。

4.8 セクショナルレフリー Sectional Referee

セクショナルレフリーが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリー又はエリアレフリーに対して，必要条件に対する適切なコースレイアウトを含め，競技会の特定セクションを管理又は体制化する責任を負う，

B. 特定の責任セクションでの競技会及び競技種目を統制する規則及び規定を実施する，

C. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，担当するセクションでの競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち，その決定をエリアレフリー及びエリアリスク管理オフィサーに伝える，

D. セクショナルレフリーは，エリアレフリー，エリアリスク管理オフィサーと連携して，捜査及び救助活動を開始する権限を持ち，直ちにセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はその代理人に報告する，

E. チーフレフリー又はエリアレフリーの裁量で，（セクショナルレフリーが）抗議を検討し裁定する，

F. 任命されたすべてのオフィシャルが各自の立場と責任を認識していることを確認する，

G. チーフレフリー又は担当のILS/JLA当局者に，セクションの運営に関する報告及び提案事項を提供する。

4.9 レフリースチュワード/ヘッドスコアラー Referee Steward/Head Scorer

レフリースチュワード/ヘッドスコアラーが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリーの監督の下で行動する，

B. 競技会の全ての競技及び点数スコアの手書き記録及び電子記録の保持について責任を負う，

C. リザルトカード及び競技実施に必要な文房具の供給と配布を手配する，

---

[18] 【JLA 注釈】「タイムキーパー」は S2-4.1 A **注意**の脚注を参照のこと。

D. 競技会の実施に必要な記録手順を監督し，レコーダー[19]をセクショナルレフリーに割り当てる，

E. 各セクションからの結果集計を監督する，

F. セクショナルレフリーの求めに応じて，ラウンド，準々決勝，準決勝，決勝のドローを監督する，

G. ジャッジがマーキングシートを用いて結果を決定する競技（例えばSERC）において，編集エラーが発生した際，レフリースチュワードは直属のレフリーと連絡を取り結果を決定する，

H. チーフレフリーの署名を得て世界（及びその他の）記録申請書を完成させる，

I. 競技結果についてメディアと連絡を取る，

J. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちに関係するレフリー又はその代理人及びセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.10 コンペティションリエゾンオフィサー Competition Liaison Officers

コンペティションリエゾンオフィサーが置かれた場合，以下のことを行う：

A. （もし置かれていれば）リエゾンコーディネーター及びエリアレフリー又はセクショナルレフリーの監督下で行動する，

注意：通常，リエゾンコーディネーターは複数のリエゾンオフィサーの内の1人であり，チーフレフリーと連携してリエゾンの処理を合理化し，可能な限り実用的，効率的に競技会を実施できるようにする，

B. 競技者，コーチ，チームマネージャー，オフィシャルとの間に立ち，競技の実施に関して支援し，競技規則や質問のコミュニケーションを図る，

C. 競技者，コーチ及びチームマネージャーがアクセスできるように配置される，

D. 競技者，コーチ及びチームマネージャーから提起された，競技の実施，コース又は安全性に関するいかなる懸念についても，チーフレフリー，エリアレフリー又はセクショナルレフリー又はイベントディレクターに助言する，

E. 競技者，コーチ，チームマネージャーに対して，抗議や上訴の手続き，及びチーフレフリーへの最善のアプローチ方法について案内をする，

注意：リエゾンオフィサーらは，常にバイアスなしに職務を遂行し，オフィシャル，競技者，コーチ，チームマネージャーらに対してオープンで中立的な立場を維持した業務を実践する，

F. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにセーフティーオフィサー又はチーフレフリー又はその代理人に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオ

[19] 【JLA 注釈】「レコーダー」は S2-4.1 A **注意**の脚注を参照のこと。

フィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.11 コーススーパーバイザー Course Supervisors

コーススーパーバイザーが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリー又はエリアレフリー又はセクショナルレフリー又はイベントディレクターに対して，安全，適切，公平なコースレイアウトについて責任を負う，

B. エリアリスク管理オフィサー（ARRO）と連携して，競技会中に一般に予想されるビーチ及び水中ビーチの条件を評価する — 利用可能なビーチ及び砂，潮汐，カレント，うねり，風の状況及びその他関連するものを含む，

C. パワークラフトコーディネーター及びその他任命された担当者と協力して，競技会前及び競技会中の水上コースの設置及び調整を監督し，可能な限り競技条件の遵守を確保し，すべての競技者にとって安全，適切，公平，平等なレース条件を提供する，

D. すべての競技者にとって実用的，安全，公平，平等なレース条件を提供するために，水中イベントに関連するビーチ及びライフセービング競技コース，ビーチでのコースの設定と調整を監督する，

E. コースの条件に関して，競技者又は競技者パネル，コンペティションリエゾンオフィサー，その他の職員との連絡を取る，

F. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.12 スクルーティニアコーディネーター及びスクルーティニア Scrutineer Coordinator and Scrutineers

スクルーティニアコーディネーターが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリーの監督の下で行動する，

B. 計測装置と器材検査の統制及び組織化を担当し，全てのクラフト，ボート，及び/又は機器がILSから承認された現行仕様に従って動作することを確認する，

C. 器材検査エリアと計測装置の正しいセットアップを手配する，

D. 使用する器材検査の基準が，現行の装置と器材の仕様に沿っていることを確認する，

E. 競技装置及び器材の（検査）手続きプログラム及びタイムテーブルを手配し記録をメンテナンスする，

F. スクルーティニアを監督し，場所，時間帯及び特定の責任範囲を割り当てる名簿（シフト）を作成する，

G. スクルーティニアと協力して，競技者の器材が競技アリーナに入る前にクラフトと器材を検査し調べる，

H. 競技種目を観察し，特定のクラフト，モーター，器材の性能がメーカーの性能仕様を越えていると思われる場合，それら観察結果をチーフレフリーに知らせる，

I. 必要だと思われる場合，又は求めがあった場合，単一競技又は競技会の開催中及び/又は終わってからの検査を手配する，

J. 違反及び競技者，マネージャー，コーチが提起した懸念事項について，チーフレフリーと連絡を取る，

K. チーフレフリー又は当局者に，スクルーティニアプログラムの実施に関するレポート及び推奨事項を提出する，

L. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.13 装置及び器材コーディネーター Gear and Equipment Coordinator

装置及び器材コーディネーターが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリーの監督の下で行動する，

B. 競技用の装置及び器材の正しい組み立てに責任を持つ，

C. 装置及び器材をアシストする組織委員会の作業員を監督する，

D. 装置及び器材の修理及び警備/返却を調整，交代，手配する，

E. 組織委員会及びオフィシャル向けに発行された装置と器材の記録を整備する，

F. 装置及び器材を他の場所に移動するのを監督する，

G. 競技会中の装置及び器材のどんな紛失又は破損でもチーフレフリーに報告する，

H. 競技会終了時に，全ての装置及び器材が水洗いされ適切に収められていることを確認する，

I. 装置及び器材部門に関するレポート及び推奨事項をチーフレフリー又はILS/JLA担当者に提供する，

J. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.14 アナウンスコーディネーター及びコメントパネル Announcing Coordinator and Commentary Panel

アナウンスコーディネーターが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリーの監督の下で行動する，

B. 協力関係にあるスポンサー及び組織委員会が設定したILS/JLAのプロモーションテーマを含め公にアナウンスすること及び（アナウンスのための）システムに注意を払う — アナウンスコーディネーターは緊急時の安全衛生のアナウンスについてセーフティーオフィサーと連絡を取る，

C. アナウンスパネルチームメンバーのシフト名簿，担当場所，担当職務，責任範囲を監督する，

D. アナウンスのシステム及び様々な器材のセットアップについてアドバイスしアシストする，

E. 観客，競技者，コーチ，マネージャー，オフィシャル，作業員らに，競技会の進行状況をアナウンスチームから確実に通知するようにする，
F. アナウンスすべき競技会タイムテーブル及び特別イベントの情報をアナウンスチームに知らせ，競技会の詳細についてアナウンスチームが有益で正確であることを確認する，
G. チーフレフリー，セーフティーオフィサー又は組織委員会の求めに応じて，競技の開催やその他の事項を説明しアナウンスする，
H. 賞，メダル，VIP及びスポンサーの紹介について，式典部門と連携する，
I. アナウンス部門の運営についてチーフレフリー又はILS/JLA担当者に報告及び推奨事項を提出する，
J. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

ジャッジ　Judges

A. 競技会におけるジャッジの役割は多種多様だが，主たる活動は，ILS/JLA競技規則及びチーフレフリーの指示に従って，競技運営を監督及びアシストすることである。
B. 全てのジャッジは，競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に注意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー又はセクショナルレフリー又はイベントディレクター及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。
C. 競技会の規模に応じてジャッジの各役割を組み合わせてもよく，以下のカテゴリーに分類できる。

4.15 チーフジャッジ　Chief Judge

チーフジャッジは以下のことを行う：

A. チーフレフリー，エリアレフリー/セクショナルレフリー又はイベントディレクターに対して責任を持つ，
B. 競技のコース設営を監督又はアシストする，
C. エリア/セクションのジャッジのシフト名簿，ローテーションの作成，配置場所の定義を行い，任務及び責任範囲を割り当てる，
D. フィニッシュを最適に判断でき，及び競技結果を最適に記録できるよう，ジャッジを配置する，
E. 必要に応じて，ジャッジ又はレコーダー[20]の決定を判定する，
F. 競技規則の違反又は侵害をエリアレフリー/セクショナルレフリーに報告する，
G. 結果を調整し，結果のカードに署名し，セクショナルレフリーに渡す，

[20] 【JLA 注釈】「レコーダー」は S2-4.1 A **注意**の脚注を参照のこと。

H. スタートした競技者の数を数え，全ての競技者がコースを完了した（又は「DNF」と記録された）ことを確認し，緊急時においてはチーフレフリー及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に通知する。

4.16 フィニッシュジャッジ Finish Judge

フィニッシュジャッジは以下のことを行う：

A. 競技者のフィニッシュ順位を判定する，
B. 競技規則の違反又は侵害をチーフレフリー又はエリアレフリー/セクショナルレフリー又はイベントディレクターに報告する，
C. 競技のフィニッシュを妨害なく最も良く見渡せるようフィニッシュラインの両側に位置する，
D. 必要に応じてILS/JLA判定補助具（例えば，ビデオ）を参照してフィニッシュを判定する，
E. 判定にばらつきがある場合，レフリー又はチーフジャッジの監督の下，多数派の判定結果を採用する，
F. 競技結果に留意しつつチーフジャッジ又はチーフレフリーに助言する，
G. 可能であれば，着順が判定されたとき，順位を示すものを発行する，
H. 競技コースの設置をアシストする。

4.17 レーンジャッジ（IRB 競技） Lane Judge (IRB)

レーンジャッジ（IRB）は以下のことを行う：

A. 競技の観察を通し，事実のジャッジを行う，
B. できれば2人1組になり，各競技種目の各レーンに配置されること，
C. 競技全体を通してクルーの動作を観察する — 特に指定されたビーチの位置からスタートとゴールの手順や競技規則にクルーが従っている事を確認する，
D. 各レース終了時に，必要に応じてIRBとモーター等の確認を行う，
E. 競技終了時にIRBを確認する際は，クルーのメンバーがその場にいる事を確認し，異常（失格の内容）が確認された場合は，それが修正される前に他のジャッジとクルーの1人に注意喚起すること。これによりレーンジャッジと競技者との誤解を避けることができる。
F. ドライバーがIRBから下船するのをコントロールできず躓いて転倒するような力で，クルーが「ビーチにぶつかった」場合，いかなる攻撃的な操縦をも観察する，
G. ドライバーがしっかりとポンツーンに座り両足がIRBの床に乗っている事を，IRBの外に足を出し下船する直前に確認する，
H. エリアレフリー/セクショナルレフリー及びチーフレフリーに対して責任を負う。

注意：競技者は，違反がチーフレフリーに報告されるまではペナルティーを与えられるべきでない。

4.18 レーンジャッジ（プール） Lane Judge (Pool)

レーンジャッジ（プール）は以下のことを行う：

A. 特定のレーンに配置され，そのレーンの競技において起こった事実を観察する（ジャッジ

を担当する），

B. 競技規則の違反又は侵害をチーフジャッジ，又はエリアレフリー/セクショナルレフリー又はイベントディレクターに報告する，

注意：競技者又はチームは，違反がチーフレフリーに報告されるまではペナルティーを与えられるべきでない。

4.19 コースジャッジ Course Judge

コースジャッジは以下のことを行う：

A. 競技において起こった事実を観察する（ジャッジを担当する），

B. 絶えず観察を継続するため，可能な限り高所に配置されたり，オーシャン競技ではボートに配置されたりする，

C. 安全上の懸念事項又はレスキュー事態があれば直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する，

D. ボートに乗船している場合，必要に応じてそれは救助艇としても活動し，レスキューの際はアシストする — クルーは，競技エリアの両サイドにおいて，ボードライダー，他のクラフト及びサーファーと（実施する競技のタイプを考慮した）適切な距離を保つ，

E. 競技会又は規則のどんな侵害でも，観察及びノートして，チーフジャッジ，又はエリアレフリー/セクショナルレフリー又はイベントディレクターに報告する，

F. 特に競技条件の変更があった時は，競技会が始まる前及び進行中に全てのブイの並びをチェックする，

G. IRB競技では，ドライビング及びクルーの技術が「ドライビング及びクルー安全手順」に沿っているか確認する，

H. ドライバー及び/又はクルーのテクニックが警告事項だとみなされる場合，コースジャッジはドライバー及び/又はクルーメンバーに正しい安全テクニックを警告する権限を持つ — それら違反はチーフレフリーに報告される，

I. ドライビング又はクルーのテクニックが安全でなく危険であるとみなされる場合，その競技についてある個別のクルーメンバーを失格とする，又はその競技及びそれ以降の競技会で失格にするかの勧告を添えてチーフレフリーに報告する，

注意 1：「警告事項（cautionary matter）」とは，常識と技術が無視される状況又は自身を危険にさらす状況になった時，ドライバー及び/又はクルーメンバーに求められる基準に違反することを指す，

注意 2：「安全でない又は危険又は安全違反」とは，ドライバー及び/又はクルーメンバーが，自分らの安全，自分らのIRB，他の競技者又は彼ら/彼女らのIRBに，負傷又は衝突の危険を引き起こす又は危険に晒すことを指す。

J. ボートに乗船しているコースジャッジは以下のことを行う：

- 競技の開始前にセクショナルレフリー/チーフジャッジに連絡し，指示を受ける，
- 競技者が全てのブイを回らなければならない競技では，海の状況が許す限りブイのラインの内側に常駐する，

- ボードレスキュー及びレスキューチューブレスキュー及びレスキューチューブ競技では，コースジャッジ及びフィニッシュジャッジのような働きをし，チームが競技会の条件及び競技規則を遵守しているかどうかをすぐに観察できるよう常駐する，
- 競技会又は規則のどんな侵害でも，観察及びノートして，チーフジャッジ，又はエリアレフリー/セクショナルレフリー又は（その違反に）関係するジャッジと連携して裁定する者に報告する。

K. IRB競技では，ボートに乗船したコースジャッジ及び専用ボート（duty boat）クルーは，以下のことを行う：

- チーフレフリーからの要請があった場合，ペイシェント[21]をブイまで移送する — 指示に従い，競技開始前に指定されたブイにペイシェントを下す，
- クルーが競技の競技会の条件及び競技規則を遵守しているかジャッジがすぐに観察できるよう，IRB を連ブイと同じラインに位置させる，
- 全てのペイシェントが回収されるまでブイ付近に留まる。

4.20 スペシャリストジャッジ Specialist Judge

スペシャリストジャッジは競技を裁定するが，それは SERC に限定されない。

4.21 電子機器スペシャリストジャッジ Electronic Device Specialist Judge

A. スタート，フィニッシュ及び順位を含むレースの各場面をジャッジする及び競技中の競技者の行動を確認するために，電子機器スペシャリストジャッジを置くことができる。
注意 1：ILS/JLA当局は，その裁量で，どのソースを最終決定に使うか指定する，
注意 2：必要とあらば同一競技会で複数の異なる機器を最終決定のために用いてもよい。

B. 電子機器スペシャリストジャッジ（ビデオ，フィニッシュゲート，カメラ，ドローンオペレーター等を含む）は，オフィシャル及び/又は指定された外部ソース（例えば，テレビ/ライブストリームなど）が操作する機器を使用して，指定されたジャッジが見るためにレースを記録するものとする。

C. チーフレフリー，又はエリアレフリー/セクショナルレフリー又はイベントディレクターに対して責任を負い，特定の競技を監督するように配置/及び，又はセットアップされる。セクション/エリア内での電子記録デバイス使用の責任を負う。

D. 指示通りに，競技の特定のフェーズ及び競技のフィニッシュを記録する。

4.22 計時ジャッジ Timekeeping Judge

計時ジャッジは以下のことを行う：

A. チーフレフリー又はチーフジャッジ又はイベントディレクターに対して責任を負う，

B. 特にイベントのタイムキーパーとして働く — それによりこれらのジャッジは「事実の判定者」とみなされる，

C. 要求されている，又は競技規則又はセクショナルレフリーにより課されるタイム又はタイムのある全競技のタイムを計測し記録する，

D. 計時の他，割り当てられたジャッジの役割を実行できるようにしている。

---

[21] 【JLA 注釈】IRB 競技における被救助者役の呼称は「ペイシェント」を採用する。

4.23 記録ジャッジ Recording Judge

記録ジャッジは以下のことを行う：

A. チーフレフリー又はチーフジャッジ又はイベントディレクターの監督の下活動する，

B. マーシャルと連絡を取り，ドローをアシストし，競技結果及びドロー結果をアナウンサーに伝える，

C. 各々配置された競技者又はチームが競技でフィニッシュした順位を記録し，チーム競技ではチームの全メンバーが記録されるようにする，

D. チーフレフリー/チーフジャッジがリザルトカードをチェックしサインするようにする，

E. 競技結果/失格の記録を保持し，競技結果がレフリースチュワード及びマーシャルに渡るようにする，

F. 必要に応じて，得点又は総当たり戦の累進的合計を保持する，

G. 必要に応じて記録の役割の他，割り当てられたジャッジの役割を実行できるようにしている。

4.24 スターター Starter

スターターは以下のことを行う：

A. イベントディレクター又はチーフレフリーから競技者を委ねられた時点で，コース条件に関するブリーフィングを含め，スタートについて競技者に対して，チェックスターターと共に独立した管轄権をもつ，

B. 高所，又はスタートの条件が公平かどうかを最も良く観察でき，そしてチェックスターターの合図が見える場所に位置する，

C. スタートが差し迫っていることを競技者に適切に合図するようにする，

D. スタートが公平でないとスターター又はチェックスターターが判断すると，ホイッスル，2発目のスタートピストル又はその他の方法で競技者を呼び戻す，

E. スタートをブレイク[22]した，又はスターターの指示に故意に従わなかった，又はその他スタート時に妨害した競技者を失格又は除外にする権限を持つ，

F. 全ての失格をセクショナルレフリーに知らせる，

G. 競技のスタート前に，競技者，ウォーターセーフティー，専用ボート，ジャッジ，器材及び（IRB競技での）ペイシェントが正しく配置されていることを確認する，

H. 競技の条件に関する疑問点をチーフレフリーに照会する，

I. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

注意：スタート時，耳の保護具の着用を強く推奨する。

---

[22] 【JLA 注釈】Break（又は breakaway）は，和製英語の「フライング」に相当する行為である。

4.25 チェックスターター Check Starter

チェックスターター（ブレイクジャッジ[23]と呼称することもある）は以下のことを行う：

A. スターターと連携する，

B. 競技において適切な位置にいて，競技者が整列してスタートの用意ができた時に合図をする。

C. スタート時に違反があった，又はスタートが公平でなかったと判断した場合，ホイッスル合図又はその他の手段により競技者を呼び戻す。

D. 必要に応じて，競技中にコースジャッジの役割を求められる，例えば，チーム競技でのリレーバトン/チェンジオーバー，器材交換及び交換部品（gear）の配置，

E. スターターと連携して，競技のスタート前に，競技者，ウォーターセーフティー，専用ボート，ジャッジ，器材及び（IRB競技での）ペイシェントが正しく配置されていることを確認する，

F. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

非テクニカルオフィシャル Non-Technical Officials

4.26 マーシャル Marshall

マーシャルは以下のことを行う：

A. チーフレフリー，エリアレフリー/セクショナルレフリー又はイベントディレクターの監督の下行動する，

B. スタートラインに進む前に，競技者のエントリーが適切であり，競技者が正しく招集されていることを確認する責任を負う，

C. エントリー条件，ドロー，競技の順番，タイムテーブル，スポンサーのユニフォーム，コース及びその他の手配について，チーフレフリー，エリアレフリー/セクショナルレフリー又はイベントディレクターと連携する，

D. 全ての競技者が競技総則を遵守していることを確認する，

E. 交換部品（gear）及び器材の仕様又はILS標準又は安全要件を競技者が遵守しているかについてスクルーティニアと連携する，

F. 違反又は不正行為についてチーフレフリーに助言する，

G. ドローを競技者に開示し，マーシャルエリアの競技者の規律を維持する，

H. エントリー及びドローに関して，アナウンサー，レコーダー[24]，タイムキーパー[25]及びスチュワードと連携する，

I. 競技者をドロー順に集める，

---

[23] 【JLA 注釈】Break Judge

[24] 【JLA 注釈】「レコーダー」は S2-4.1 A **注意**の脚注を参照のこと。

[25] 【JLA 注釈】「タイムキーパー」は S2-4.1 A **注意**の脚注を参照のこと。

J. 出場する競技者の数がその競技の人数制限に準拠しているか確認する，
K. 水に入るレースにおいて，チーフレフリー，マーシャル及びコース統計係と連携し，スタートする競技者数を確認する，
L. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.27 チェックマーシャル Check Marshall

チェックマーシャルは以下のことを行う：

A. マーシャルをアシストする，
B. いかなる競技者チーム変更をもマーシャル，エリアレフリー/セクショナルレフリー又はイベントディレクター及びチーフレフリーに報告する，
C. 競技者，器材のいかなる違反又はその他の不正行為をマーシャル及びチーフレフリーに報告する，
D. マーシャルをアシストして，競技者をスタート準備のため指定された順に並べ，各レース開始前に全ての競技者名とレース番号が記録されていることを確認する，
E. スタートラインまで全競技者に同行し，全競技者がドローの通りに位置していることを確認する，
F. 全競技者の服装がこの競技規則又はILSが定めた他の条件に従っていることを確認する，
G. IRB競技ではペイシェントマーシャルと呼ばれ，ペイシェント（被救助者）が自分のブイの位置を認識し，十分な時間を持って安全に沖のブイまで移送し，レースが円滑に進む様にする，
H. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.28 式典スチュワード Presentation Steward

式典スチュワードが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリーに対し，表彰される競技者，受賞者を順序良く待機させる責任を負い，全てのトロフィー及び賞が表彰台で準備されていることを確認する，
B. VIPに関するILS/JLA礼典を含め，式典についてのILS/JLA及びスポンサー要件に注意する，
C. 賞，メダル及びその他表彰の適切な紹介についてアナウンスコーディネーターと連絡を取る，
D. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はその代理人に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出して

もよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.29 上訴委員長 Appeals Committee Convenor

上訴委員会の招集者，つまり上訴委員長はチーフレフリーから付託された事案を裁定するための上訴委員会委員を任命する責任がある。

4.30 上訴委員 Appeals Committee member

上訴委員は，チーフレフリーから付託された全ての事案について裁定を下す責任を負う。上訴委員長は，適切な上訴委員会の委員を選定し，個々の事案について裁定させる。

4.31 規律委員長 Disciplinary Committee Convenor

規律委員会の招集者，つまり規律委員長は，コンペティション委員会，チーフレフリー又は上訴委員から付託された事案を解決するために委員を任命する責任がある（「S2-16 不正行為」を参照すること）。

4.32 規律委員 Disciplinary Committee member

規律委員は，コンペティション委員会，チーフレフリー，又は上訴委員会から付託された全ての事案に裁定を下す責任を負う。規律委員長は，適切な規律委員会の委員を選定し，個々の事案について裁定させる。

4.33 セキュリティーオフィサー Security Officer

関係当局はセキュリティーオフィサーを 1 人任命することができる。セキュリティーオフィサーはテクニカルオフィシャルではないが，競技及び非競技の保安に関する全てについて検討し，組織委員会，コンペティション委員会，及びセーフティー委員会に助言する。また，セキュリティーオフィサーは競技施設及び環境において，全ての参加者，観客，器材及び装備などの安全を確保するため，適切なセキュリティー計画，手順，セキュリティー要員が確実に準備/配置されていることに責任がある。

セキュリティーオフィサーは，提出した助言を公式に記録し，保存せねばならない。

安全オフィシャル SAFETY OFFICIALS

4.34 セーフティーオフィサー Safety Officer

セーフティーオフィサーは安全委員会の議長を務め，組織委員会及びコンペティション委員会のメンバーとして助言を提供し，そして以下のことを行う：

A. チーフレフリーと連携して活動する，

B. 緊急事態における迅速且つ効果的な安全，レスキュー及び復帰を提供する安全，捜索及びレスキュー及び緊急時対応計画を策定し，実行する — このプログラムは競技を実施するコンペティション委員会によって承認されるものとする，

C. 競技者，パワークラフト，ウォーターセーフティー要員，オフィシャル及びライフセーバー/ライフガード要員から直接得た安全上の懸念報告に直ちに対応及び記録し，必要に応じてチーフレフリー及び/又はコンペティション委員会と連絡を取る，

D. 競技者，オフィシャル及びその他競技に関する要員と競技会周辺をサポートする要員について，その安全と福祉に常に留意すること。重大な損害が発生する看過できないリスクが

あると結論付けるに充分な根拠があるときは，いつでも競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持つ。その決定はコンペティション委員会に報告する – この安全についての責任と権限には，競技会における感染症伝播リスクやその他の福祉上のリスクに注意を払う及び対応することが含まれる。

E. セーフティーオフィサーは，必要とあらば救助活動を即座に開始及び調整し（指揮し，統制する），チーフレフリー及びコンペティション委員会に通知する権限を有する，

F. 緊急時には，他のサービスを調整して，重要連絡，輸送及び熟練要員を提供する，

G. 競技会前に関連する全てのサービスについて概要説明し，以下のことを確実なものとする：

H. 他のサービス関係者全員が各自の責任を認識しており，

I. 全レフリーが安全及び緊急時プランを認識している。

J. 医療/応急処置/緊急事態/安全の要員及び地域の緊急事態に対応するグループ（警察，救急車，消防及び関連する公共機関など）と連携し調整する，

K. 競技会中は都合の良い場所に位置し，チーフレフリーと常時連絡可能な状態にしておく，

L. ライフセービングサービス及び他の指定された要員に，緊急プラン及び緊急時に必要な支援について説明する，

M. チーフレフリー又は担当のILS当局者に，安全システムの運用に関するレポート及び推奨事項を提供する，

N. セーフティーオフィサーは，競技会の規模に応じて，資格とスキルが許す限り，安全チームの他の役割の責任を引き受けてもよい。

4.35 エリアリスク管理オフィサー（ARRO） Area Risk and Response Officers (ARRO)

A. エリアリスク管理オフィサーは競技エリアごとに任命され，セーフティーオフィサーに報告せねばならない（報告の義務を負う）。

B. エリアリスク管理オフィサーは，エリアレフリー及びセクショナルレフリー又はイベントディレクター及びコーススーパーバイザーと協力し，以下のことを行う：

- 競技エリアの初期リスク評価を実施し，その後も定期的にリスク評価を行い競技状況を継続的に監視する，
- 競技が完了するまでの時間を監視し，競技条件に関するいかなる懸念をも記録する，
- スタートした競技者に対するフィニッシュした競技者の割合の傾向を監視する，
- コース統計係が不在の場合，スタートした及びフィニッシュした競技者の記録を含めてその役割を引き受け，各レースでフィニッシュしていない競技者数を算出する — もし説明のつかない競技者がいる場合，直ちにセーフティーオフィサーに連絡し，それからセクショナルレフリー/レフリーに伝える，
- 競技者，パワークラフト・ウォーターセーフティー要員，オフィシャル及びライフセーバー/ライフガード要員から競技会の状況に関するフィードバックを取得し，記録し，そして直ちに伝達し，安全上の懸念をセーフティーオフィサー及びエリアレフリーに直接報告する。

C. 上記タスクの結果はセーフティーオフィサーに伝えられる。

D. エリアリスク管理オフィサーは競技会に関与する競技者，オフィシャル及びその他要員の

安全と福祉に常に留意し，重大な損害という看過できないリスクがあると結論付けるに信頼に足る根拠があるときはいつでも，競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち，その決定をセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はその代理人に報告を上げる。

E. エリアレフリー/セクショナルレフリーと連携して，エリアリスク管理オフィサーは，どんな捜索及び救助活動でも開始する権限を有し，直ちにセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はそれらの代理人に通知する。

F. エリアリスク管理オフィサーは，セーフティーオフィサー又は政府機関の代表者の監督の下，フォワードコーディネーター（forward coordinator）として管理し続ける必要がある — これは混乱し矛盾した要員への指示及び救助資産及び群衆統制に関する矛盾した説明を避けるためである。

4.36 パワークラフトコーディネーター Power Craft Coordinator

パワークラフトコーディネーターが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリーの，及び緊急時においてはセーフティーオフィサー及び/又はエリアリスク管理オフィサーの監督下で活動する，

B. 競技実施にあたり，競技実施に必要なIRB及びクルーの募集についてアドバイスをし調整をする

C. ウォーターセーフティークラフト及びボートに乗船しているジャッジの両方の活動を監督する，

D. 競技会前及び競技会中のコース敷設を監督する，

E. ウォーターセーフティーコーディネーター（が任命されていない場合）の責任（役割）を引き受ける — 競技会のウォーターセーフティーに関する事項を監督する，

F. クルーの配置及び職務についてシフト，ローテーションを組み，クルーに説明する，

G. IRBがしっかりと整備され，装備が整って競技が出来る状態にする，

H. クラフトが使える状態であるか，ウォーターセーフティー活動及びジャッジに使えるかに関する問題をチーフレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに報告する，

I. 全てのレフリー及びコーディネーターと連絡が取れる効果的なコミュニケーションシステムが整っているか確認する，

J. セーフティーオフィサーと常時連絡を取り合う，

K. チーフレフリー又は担当のILS当局者に，安全システムの運用に関するレポート及び推奨事項を提供する，

L. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにレフリー又はその代理人及び/又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.37 ウォーターセーフティーコーディネーター Water Safety Coordinator

ウォーターセーフティーコーディネーターが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリーの，及び緊急時においてはセーフティーオフィサー及び/又はエリアリス

ク管理オフィサーの監督下で活動する，

B. 水に入る競技の進行中，競技会の安全について責任を負う，

C. ウォーターセーフティー要員を監督し，シフトを組む，

D. レスキュークラフト及びウォーターセーフティー要員の配置を調整する，

E. ウォーターセーフティーのレベルに関するいかなる懸念事項についてセーフティーオフィサーの注意を喚起する，

F. IRB競技において（任命されている場合）セーフティーオフィサーとして，クルー及びペイシェントの安全を守る

G. 全ての競技会において，ウォーターセーフティーが所定のとおりで，事前に評価された要求とおりであることを確認する，

H. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.38 ウォーターセーフティー要員 Water Safety Personnel

ウォーターセーフティー要員は以下のことを行う：

A. ウォーターセーフティーコーディネーターの，及び緊急時においてはセーフティーオフィサー及び/又はエリアリスク管理オフィサーの監督下で活動する，

B. ウォーターセーフティーコーディネーターの指示により，ビーチ及び水中に配置される，

C. ウォーターセーフティーのレベルに関するいかなる懸念事項についてウォーターセーフティーコーディネーターの注意を喚起する，

D. 担当するウォーターエリアにおける競技会の安全について責任を負う，

E. ウォーターセーフティーコーディネーターの指示の下，必要に応じて他エリアをアシストする，

F. 全ての競技会において，ウォーターセーフティーが所定のとおりで，事前に評価された要求とおりであることを確認する，

G. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにウォーターセーフティーコーディネーター及び/又はエリアリスク管理オフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.39 コミュニケーションコーディネーター Communications Coordinator

コミュニケーションコーディネーターが置かれた場合，以下のことを行う：

A. チーフレフリーの，及び緊急時においてはセーフティーオフィサー及び/又はエリアリスク管理オフィサーの監督下で活動する，

B. 競技会の期間中，組織委員会及びコンペティション委員会のメンバー，安全，医療及び作業の要員を含む全ての上級オフィシャル及びIRBと効果的に無線通信ができるようにする，

C. チーフレフリー又は関係するILS/JLA担当者と協力して，競技会に必要な無線機器の必要数とタイプについて合意する，
D. 無線機器の支給，メンテナンス及び返却を担当する中央管理センターを監督する，
E. 競技会でのコールサイン/周波数のリスト及び無線手続きを公開する，
F. チーフレフリー又は担当のILS/JLA当局者に，セクションの運営に関するレポート及び推奨事項を提供する，
G. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.40 医療/FA コーディネーター Medical/First Aid Coordinator

医療/FA コーディネーターが置かれた場合，チーフレフリーの，及び緊急時においてはセーフティーオフィサー及び/又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）の監督下で活動する。

A. 実施する競技会の性質とリソースを考慮して，必要な役割を引き受けるため，適切な資格を取得している。
B. 競技会において医療/FA（ファーストエイド）サービスを組織し運営する責任を持つ。
C. 必要に応じて，競技者又はオフィシャルの身体的及び心理的健康状態を評価し，健康でない競技者又はオフィシャルがいれば，彼ら/彼女ら自身の及び/又は他の競技会参加者の健康安全のために，チーフレフリーを介して競技会に参加させないようにする。
D. 競技会の運営に影響する可能性のある医学的判断をチーフレフリーに説明する。
E. 重大事故又はその他の事件，又は競技者，オフィシャル，アシスト要員及び/又は公衆の安全に関して，負傷者及びその他の者が避難するための組織委員会が策定した計画に留意する。
F. 競技会会場でのFAステーション（救護所）及び医療/FA要員を含めたその他の医療サービス及び物資の配置を指示する。
G. 連絡が付く状態にあり，医療又はFAの専門家が医療又はFA事案に対処するのをアシスト又は指示できる位置についている。
H. 医療/FA部門の運営についてチーフレフリー又はILS/JLA担当者に報告及び推奨事項を提出する。
I. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.41 コース統計係 Course Statistician

コース統計係は以下のことを行う：

A. エリアリスク管理オフィサー（ARRO）及び/又はセクショナルレフリー/エリアレフリーの監督下で行動する，

B. 担当エリアの記録を保存し，データがレフリースチュワードに確実にわたるようにする，

C[26]. 担当エリアのマーシャルと連絡を取り，水に入るレース毎にスタートする競技者人数を取得する，

D. スタートした及びフィニッシュした競技者を記録し，各レースでフィニッシュしていない競技者数を算出する，

E. 競技種目完了にかかる時間を監視し，競技会の進行状況に係るいかなる問題点をも記録する，

F. 各レースにおいて説明のつかない競技者がいる場合，直ちにエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に，及び（ARRO不在時は）セーフティーオフィサーに，次に（対応可能であれば）セクショナルレフリー/エリアレフリーに報告する，

G. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はエリアリスク管理オフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

4.42 感染対策マーシャル Infection Control Marshall

感染対策マーシャルは（COVID 等の感染症発生で必要な場合）以下のことを行う：

A. セーフティーオフィサー及び/又はセクショナルレフリー/エリアレフリーの監督下で行動する，

B. 指定されたエリアでの活動において，常に視覚的に分かり易い恰好で立ち会わなければならない，

C. 全ての感染症対策及び（関連する場合）管理計画及び/又は特定の方針/プロトコル/訓練が，効果的に実施され遵守されるようにする，

D. 必要なマスク，手洗い及び洗浄体制を確保し管理する，

E. 感染対策を確実に実践するため，担当範囲内の競技者，オフィシャル，コーチ，マネージャー，観客が確実に物理的距離を保つよう実際的な措置を促進し講じる，

F. 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにセーフティーオフィサー及び/又はセクショナル/エリアレフリー及び/又はエリアリスク管理オフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

5. 世界記録及び日本記録[27] WORLD RECORDS AND JAPAN RECORDS

A. ILS世界記録は，競技規則集第8章に詳述されているILSの基準に適合する50 mプール及び器材を使用してのみ樹立することができる。

B. 世界記録は，ライフセービング世界選手権（LWC），マルチスポーツ競技会（例：ワールドゲームズ），ILS地域選手権（ILS regional championships），ナショナル選手権

---

[26] 【JLA 注釈】ILS 競技規則 2023 版では，この C が E と誤記され，それ以降の記号付けが間違っている。

[27] 【JLA 注釈】原本では世界記録についてのみ記述してあるが，本書では日本記録についても追記した。

（national championship），パン・ナショナル選手権（pan-national championships，例：英連邦選手権），及びILS競技規則を遵守しILSが認定したその他の選手権又は競技会で樹立することができる。

C. ILSは，ILS競技規則に記載されている全てのプール競技において，ユース，オープン，マスターズの男女の個人世界記録を認定（recognise）するものとする。これには55歳以上のマスターズ競技者の200 m障害物スイムが含まれる。これには54歳以下のユース，オープン及びマスターズ競技者，並びにILS LWCにおいて実施される男女カテゴリーを除いた男女混合又は男女別チームカテゴリーの100 m障害スイムが含まれない。

D. チーム（リレー）競技の世界記録は，オープン及びユース年齢カテゴリーのラインスロー，マネキンリレー，障害物リレー，メドレーリレー及び（プール）ライフセーバーリレーで認定される（ナショナルチームとクラブチームの記録の区別はない）。ナショナルチーム及びインタークラブチームが世界記録を申請するには，ILSライフセービング世界選手権ハンドブックで規定されているチーム資格要件を満たさなければならない。

注意1：ILSは，ナショナルチームとインタークラブチームのそれぞれの最速タイムを個別の世界記録として認定しない。即ち，オープン及びユースの各カテゴリーのリレー競技では，最速タイムのみが世界記録として認定される。

注意2：ILSは，マスターズチーム（リレー）世界記録を認定しない。

E. リレー競技でILS世界記録を樹立するには，チームは，ILS LWCハンドブックで規定されているオープン及び/又はユースのナショナル又はインタークラブの資格要件（該当する場合）を満たさなければならない。

F. 世界記録は，ILSの正会員（full member），準会員（associate member）又は通信会員（corresponding member）である団体の会員で，且つ，ILS認定競技会又はILS主催競技会に参加資格のある者が樹立し保持することができる。

注意：ILS正会員は，準会員又は通信会員に所属する会員がILS LWC，地域選手権等，及びILS公認競技会に出場する許可を与えねばならない[28]。この許可が無い場合，世界記録はILSで認定されない。

G. ユース競技者は，その時点で競技しているカテゴリー（即ち，ユース又はオープン競技会）に関係なくユース又はオープンの世界記録を樹立することができる。

H. マスターズ競技者は，競技しているカテゴリーに関係なく（即ち，参加しているマスターズ又はオープン競技に関係なく）マスターズ及び/又はオープンの世界記録を樹立することができる。但し，マスターズ競技者は，指定されたマスターズ年齢区分のマスターズ記録のみ主張することができる

I. ライフセービング世界選手権のマスターズ，インタークラブ又はナショナルチームで達成された全ての記録は，自動的に（そしてドーピング検査無しに）承認（approve）されるものとする。

注意1：LWCでの記録が漏れなく記述されるよう世界記録申請フォームに記入することを推奨する。チーフスチュワード/ヘッドスコアラーはこのプロセスを支援すること。

---

[28] 【JLA 注釈】ILS 正会員（の会員）しか LWC 等に参加できないので，準会員，通信会員の会員は正会員に出場許可を得る必要がある。

注意2：ILS LWC，ワールドゲームズ，ILS地域選手権，又はILS認定競技会で達成されたマスターズ世界記録は，陰性のドーピング検査証明書が無くとも認定されるものとする。

J. 他の競技会での記録は，以下を満たすことを条件に認証（approve）されるものとする：
- その競技会は ILS により認定されて（sanctioned）なければならない，
- 全ての記録は，少なくとも競技の 3 日前までに広告により公にアナウンスされ，公で開催された競技会で樹立されなければならない，
- （競技種目に特化したものを含む）施設の規格及び器材の仕様書は，検査担当者又は別途 ILS 管理委員会（ILS Management Committee）又は ILS 認定競技会を主催する ILS メンバー組織により任命された又は認証された有資格者により保証されなければならない，
- ILS は，全自動審判計時装置によりタイムが記録された時に限り世界記録を受け入れる。

K.[29] 1/100 秒まで等しいタイムは同タイムとして認定され，同タイムを樹立した複数の競技者は「ジョイントホルダー（Joint Holders）」と称される。

L. レースの勝者のタイムのみが世界記録として申請することができる。ただし，そのレースに年齢グループの異なる競技者がいる場合，各年齢区分における最速競技者による世界記録としてそれぞれのタイムが申請され得る。

M. 記録樹立レースでタイムが同じであった場合，同じタイムの各競技者を勝者とみなし，世界記録を共同で保持するものとする。

N. あるレースで記録が樹立され，後のレースでそれが破られた場合，先のタイム及び後のタイムが歴代の世界記録として認定される。

O. 世界記録は，ドーピング検査が陰性であることを含め全ての規定を遵守していることをチーフレフリーが保証しサインした公式なILS記録申請フォーム（この章末を参照，又はILS Record Application Form：www.ilsf.orgで入手可能）を用いて，競技会の組織委員会のしかるべき責任と権限のある者により申請されなければならない。申請書は，競技終了後28日以内にILS記録管理人（ILS Custodian of Records）に送ること。

P. ILS記録申請書を受理し次第，及び申請書に記載の情報が正確だと認識され次第，ILS記録管理者は，ILS事務局長が世界記録を公表すること，そしてILS会長とILS事務局長の署名入り世界記録認定書を競技者に付与することを提言する。

Q. ドーピング・コントロールと世界記録
- ILS ドーピング防止規則に準拠した対象者及び無作為の検査システムのあるインタークラブ又はナショナルチームのライフセービング世界選手権，ワールドゲームズ，又は ILS 地域選手権で樹立された全ての世界記録に対して，陰性のドーピング検査証明は不要である。
- ILS 認定競技において ILS 世界記録又はそれと同タイムを達成したユース又はオープン競技者は，レース後に「ドーピング・コントロール」を受け，ILS 認定競技会で樹

[29] 【JLA 注釈】ILS 競技規則 2023 版では，この K が H と誤記され，それ以降の記号付けが間違っている。

立された世界記録を認定するための ILS 記録申請に添えて陰性のドーピング検査証明書を提出せねばならない。ILS が認定していない競技会では，記録は認定されない。

- もし競技会においてドーピング・コントロールがなかった場合，競技者はレース後 24 時間以内にドーピング・コントロールに従わなければならない。
- ILS LWC，ワールドゲームズ又は ILS 地域選手権，又は ILS 認定競技会で樹立されたマスターズ世界記録は，陰性のドーピング検査証明書が無くても認定される。

R. 世界記録申請が受理されず，その決定に不服がある場合，ILSスポーツ委員会（ILS Sport Commission）に付託され検討されるものとする。

日本記録[30] Japan Records

A. 記録は，JLAの主催競技会又はJLAが記録を認定すると認めた認定競技会において認定される。

B. 記録はチーフレフリーにより，正式に発表されたものでなければならない。

C. 日本記録は，日本の国籍を保有した者が樹立した最高の認定記録とする。リレー種目の競技者が日本国籍でない場合は，日本記録の対象とならない。

D. 日本記録は以下の種目に限られる：

- 障害物スイム（200 m），
- 障害物スイム（100 m），
- マネキンキャリー（50 m），
- レスキューメドレー（100 m），
- マネキンキャリー・ウィズフィン（100 m），
- マネキントウ・ウィズフィン（100 m），
- スーパーライフセーバー（200 m），
- ラインスロー，
- マネキンリレー（4×25 m），
- 障害物リレー（4×50 m），
- メドレーリレー（4×50 m），
- プールライフセーバーリレー（4×50 m）。

E. JLAの主催競技会においては競技会終了をもって認定とする。

F. その他，新しく日本記録が樹立されたときは，次の手続きをとらなければならない：

- JLA により記録を認定すると認められた認定競技会の主催団体は，競技会終了の日から 7 日以内に「日本記録申請書」を JLA に申請する，
- 国際競技会においては，ILS の競技規則を採用している種目に限り記録を申請することができる，
- 世界選手権及びワールドゲームズにおいては，その競技会の統括団体が証明する報告書をもってこれに代える，
- JLA に申請された記録は，競技審判委員会の審査・承認を経てこれを発表する。

---

[30] 【JLA 注釈】この「日本記録」は英語版に無い JLA 競技規則独自の項目である。

6. 競技会の公式な開始と終了 OFFICIAL START AND COMPLETION OF COMPETITION

A. 競技会は，主催者からエントリー募集が公式に発行されたとき開始するとみなす。

B. 競技会の公式な終了は最終競技種目の終了から20分後である。ただし，抗議，上訴又は規律審査に関する問題がある場合，最終解決まで競技会は継続する。

7. 自然条件 PREVAILING CONDITIONS

A. 競技者は，オープンウォーター競技は主催者の管理の及ばない環境条件（例えば，水や砂浜の状況，悪天候など）の影響を受ける可能性があること，及び競技者は自然現象の運に委ねられていることを認識し，受け入れること。

B. 自然現象により事故が発生した場合，一切の抗議又は上訴は受け入れられない。チーフレフリー及び/又は関係するオフィシャルは，事故が自然現象により生じたか否かを判断する絶対的な権限をもつ。

8. 録画装置 VIDEO RECORDING DEVICES

A. クラフトへの取付け Mounted on craft

ビデオカメラは，「S8 設備及び器材の規格と検査手順」の規定を満たす限り，ボード，サーフスキー，サーフボート及び IRB に取り付けることができる。

B. 競技者への取付け Attached to competitors

サーフボートのスイープ及び IRB ドライバーを除き，レースのスタートからフィニッシュまでの間，競技者がビデオカメラを着用する，又は他の方法で競技者に取り付けることはしてはいけない。

9. 通信機器 COMMUNICATION DEVICES IN COMPETITION

競技者はレースの開始から終了までの間，電子通信機器を使用してはならない。

10. 服装等 COMPETITION ATTIRE

競技者は ILS 及び/又は JLA により認可されたコスチューム（costumes），服装（clothing），衣装（dress）を着用する。競技者が適切な服装等を着用していないとチーフレフリーが判断した場合，競技者はいずれの競技会にも参加が許されない。

競技会の服装に関連する規格は第 8 章を参照のこと。

競技者の服装等が以下に適合しない場合，チーフレフリーは競技者を排除する権限を有する：

A. 水着 Swimwear

競技者が着用する水着は第 8 章に定められる水着に適合すること。また以下を満たすこと：

- 一般良識に反し不快感を与えるものであってはならない，
- 商業特定方針（commercial identification policy）に準拠していること。
- 男子及び女子の競技者は共に，競技に有利とならなければ，水着の下に繊維素材の水着「モデスティ水着」を着用することができる – これらの水着は，男子はショートスタイル，女子はツーピーススタイルに限る，

- 宗教的及び/又は文化的多様性の観点から，ILS/JLA は競技に有利とならなければ，身体の大部分を覆うような繊維素材の水着（体形にぴったりしていないもの）を着用することが認められる。

B. 保護衣服　Protective clothing

プール種目のスイマー及びオーシャン種目のスイマーを除き，その他の保護衣服（例えば，ショートパンツ，ラッシュベスト，T シャツ等）は，本競技規則又は主催者により別途定めがない限り，個人種目及びチーム種目の両方において競技者の判断で着用することができる。ラッシュベスト，T シャツ及びショートパンツ，ロングタイツ又はストッキングは，ラインスロー種目及びスイム以外のオーシャン種目又はチーム種目のスイム以外の区間においてのみ着用が許可される。

注意：ボードパドラーは保護衣服を着用してもよいが，天候によりチーフレフリー又は競技会の代表者の承認が無ければ，競技者の腕を袖で覆うことは許されない。

C. フローティングベスト及びヘルメット　Flotation vests and helmets

フローティングベスト（Flotation vests）とヘルメットは，IRB 種目では着用せねばならない。ボード，サーフスキー，サーフボート，オーシャンマン/オーシャンウーマンの個人種目及びリレー種目のクラフト区間においても着用してよい。

D. サーフボート種目において　In surfboat events

スイープ，オール（漕ぎ手）は，条件によっては衣服（ウェットスーツ及びブーツを含む）を着用することができる。ウェットスーツの仕様（S8-4.8 ウェットスーツ）は適用されない。

E. IRB競技種目において　In IRB events

競技者は，ウェットスーツ，ブーツ，グローブ及びフードを含む衣服を着用することができる。ただし，IRB チューブレースにおいてクルーパーソンとペイシェント[31]はグローブを着用することが許可されない。ウェットスーツに関する仕様（S8-4.8 ウェットスーツ）は適用されない。

F. 競技用キャップ及びヘルメット[32]　Competition caps and helmets

- 競技者の安全，識別，そしてジャッジをアシストするため，全ての競技におけるレースのスタート時に，競技者は競技用キャップ及び/又はヘルメットを着用せねばならない。
- 各競技種目において同一チームの全競技者は，同一のキャップ及び/又はヘルメットを着用する。キャップ/ヘルメットに競技者名を入れることは認められる。ハンドラーが競技規則に沿っているかをジャッジし，及び指定されたレーンにいるかを確認できるように，ハンドラーもキャップを着用せねばならない。
- オーシャン競技において，競技のスタート時及びチーム競技の各区間のスタート時に，紐をあごの下で留めてキャップを競技者の頭に着用しなければならない。

---

[31] 【JLA 注釈】原語では”rescuers and victims”だが「第 7 章 IRB 競技」で統一されている呼称である「クルーパーソンとペイシェント」と記述した。

[32] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会において使用するキャップは，別途定める「競技用キャップに関する規程」にも則っていること。

- プール競技及びシミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技において，競技のスタート時及びチーム競技の各区間のスタート時に，オーシャン競技キャップ又はゴム製/シリコン製のキャップを競技者の頭に着用しなければならない。
- 競技者はオーシャン競技キャップの下に，ゴム製又はシリコン製のキャップを着用してもよい。
- 全てのサーフボート，ボード，サーフスキー，IRB の競技種目において，競技者は，スイムキャップと同じ条件でヘルメットを着用することができる。ヘルメットは，チームカラー及びデザインで表現されなければならない。ヘルメットの色については第 8 章を参照のこと。
- 競技者/チームは，スタートの後にキャップ又はヘルメットがとれたり，失っても，違反なしに競技が終了できていれば失格とはならない。ただし，その競技者/チームが正しく種目を終了したことが確認できる場合に限る。

  注意：フィニッシュを担当するオフィシャルがキャップ又はヘルメットを脱いでよいとの指示を出すまでは，個人/チームを特定するキャップ又はヘルメットを着用し続けること（正確な着順を記録するため）。
- IRB 競技に於いて，IRB ドライバー，クルーパーソン[33]及びペイシェント役は認定された水上安全ヘルメットを着用しなければならない。

  注意：ヘルメットの規格は第 8 章を参照のこと。
- サーフボート競技に於いて，全ての漕ぎ手及びスイープは，競技会のオフィシャルにより別途指示がない限り，水上安全ヘルメットを着用しなければならない。
- **注意**：ヘルメットの規格は第 8 章を参照のこと。

G. ベスト[34] Vests

- プール競技の競技者は，主催者側が別途判断しない限り，視認性の高い特徴的なベストの着用は不要である。
- 競技又は練習のため膝の深さより深いオープンウォーターに入る競技者及びハンドラーは，個人/チームの安全と特定のため主催者から指定された視認性の高い特徴的なベストの着用が求められる。このとき，ハンドラーも視認性の高いベストを着用しないと警告を受ける。オーシャン又はオープンウォーターにおいて実施される種目において，視認性の高いベストの着用は必須である。
- オーシャン種目で着用するベストは，高い視認性があり，首から腹部（midriff）まで繋がったスリーブレスでなければならない。泳がない競技者（例えば，パドラー，ハ

---

[33] 【JLA 注釈】原本では「crew」と書かれているが「crewperson」の誤植だと思われる。

[34] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会におけるベストについて，以下の規則を追加する：

- 本協会標章が取り付けられ，且つ本協会が認めたものであること，
- 競技者は，出場する競技会以外の競技会ロゴや競技会スポンサー名など，その競技会に適さない標記のあるものを着用してはならない，
- 泳がない競技者（例えば，パドラー，ハンドラー）であっても，本協会が主催又は認定する競技会においては，膝の深さより深いオープンウォーターに入る競技者と同等のベストを着用すること，
- 主催者から指定のベストを配布される場合がある，その場合は配布されたベストを着用すること。

ンドラー）は異なる様式の視認性の高いベスト（例えば，袖のあるラッシュベスト）の着用を許可される。

- これらのベストは，水着， PFD（S2-10 H 参照），保護服，ウェットスーツの上から着用しなければならない。IRB 競技については S2-10 H を参照のこと。
- 競技者は，フィニッシュの判定を補助するため視認性の高い色のベスト又はビブスの着用を求められることがある。その場合，ベスト又はビブスは ILS/JLA が支給する。
- 競技会主催者が視認性の高いベストを支給した場合でも，競技者は，以下の条件に合致する場合に限り，自身のベスト着用を許可され得る：
- ベストの色が主催者が規定したものと同じである，
- ベストが競技会スポンサーの要求に適合している，
- ベストが ILS/JLA により承認されている。
- 主催者が，安全のため，競技者/チームの識別のため，判定のために，競技種目別/エリア別/性別ごとに異なる色のベストを規定した場合，主催者がベストを支給する。この場合，所属団体/クラブ又はチームが用意した視認性の高いベスト（又はキャップ）を，規定されたベスト（又はキャップ）の下に着用する必要は無い。

H. ライフジャケット及びPFD　Lifejackets and Personal Flotation Devices (PFDs)

- ボード，サーフスキー，サーフボート，オーシャンマン/オーシャンウーマンの個人種目及びリレー種目のクラフト区間においては PFD（Personal Floating Devices）を着用してもよい。
- IRB 競技では，トレーニング中及び競技中の双方において，ドライバー，クルー，ペイシェントが認定された PFD を着用することが義務付けられている。視認性の高い安全ベストを PFD の上に着用する必要は無い。
- PFD の規格は「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

I. 眼鏡類　Eyewear

- シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技を除き，ゴーグルを着用してよい。
- サングラス，視力矯正用眼鏡は全ての種目で許可される。ただし，競技種目に適したデザインに限る。

J. 履物　Footwear

- 競技者は，競技種目説明に別途明記されていない限り，また状況に基づいてチーフレフリーが判断しない限り，競技会の競技において履物を着用してはいけない。
- プール競技におけるマネキン・ハンドラーは履物を着用してよい。
- 1 km 及び 2 km ビーチラン， 3×1 km ビーチランリレー，及びオーシャン M ライフセーバーリレーのラン区間において，競技者は履物を着用してよい。

K. ウェットスーツ　Wetsuits

- ウェットスーツは，水温が 16℃以下の場合にのみ，オーシャン競技において許可される。チーフレフリーは，天候，海，その他，海象条件に応じて，ウェットスーツの着用を許可することができる。水に入る競技種目，又は水に入る恐れのある場合に，競技者はウェットスーツの着用が勧められる。

- チーフレフリーは，セーフティーオフィサー及びコンペティション委員会と相談のうえ，天候及び/又は風による冷却が参加者の低体温へのリスクになる場合には，水温が 16℃より高い場合でもウェットスーツの着用を許可できる。水に入る競技種目，又は水に入る恐れのある場合に，競技者はウェットスーツの着用が勧められる。
- 競技者が着用できるウェットスーツ又はクラゲ除けスーツは 1 着までである。
- 水温が 13℃未満の場合は，ウェットスーツを着用しなければならない。
- IRB 競技者及びサーフボートスイープは，どんな条件であってもウェットスーツを着用してよい。
- 水温が 13.0 ℃未満の際は，泳ぎが伴う競技を実施してはならない。
- ウェットスーツは，「S8 設備及び器材の規格と検査手順」の基準を満たさなければならない。

L. クラゲ除けスーツ Marine Stinger Suits

- チーフレフリーは，海象条件に応じて，クラゲ除けスーツ（marine stinger suits）の着用を許可することができる。水に入る競技種目，又は浸水の恐れのある場合に，競技者はウェットスーツの着用が勧められる。
- クラゲ除けスーツは競技会の主催組織によって承認されるべきである。

11. 年齢区分 AGE CATEGORIES

11.1 年齢区分の定義[35] Determining Age Categories

ライフセービング世界選手権等の競技において，ILS は IOC ガイドラインに従って競技者の年齢を決定するものとする。競技者の年齢及び適格年令群は，当該競技者が競技に参加する年の 12 月 31 日現在において何歳であるかによって決定される。
以下に例を示す：

オープン競技会 Open Competition	
該当者：	競技開催年の 12 月 31 日以前に 16 歳になる競技者。最高年齢の制限はない。
非該当者：	競技開催年に 15 歳未満又は 15 歳になる競技者。

ユース競技会 Youth Competition	
該当者：	競技開催年の 12 月 31 日以前に 15, 16, 17, 18 歳になる競技者。
非該当者：	競技開催年に 14 歳未満又は 19 歳になる競技者。

マスターズ競技会 Masters Competition	
該当者：	競技開催年の 12 月 31 日以前に 30 歳になる競技者。最高年齢の制限はない。
非該当者：	競技開催年に 29 歳になる競技者。

ILS マスターズ個人競技種目は，30 歳から 75 歳以上までの 5 歳刻みで実施することができる，例えば，30～34，65～69，75 歳以上。

[35] 【JLA注釈】JLA主催競技会の参加条件としての年齢区分及び年齢の数え方は，競技会の目的や規模等を考慮して別途決定する場合がある。

ILS マスターズの 2 人チーム競技種目は，30 歳から 75 歳以上までの 5 歳刻みで実施することができる，例えば，最年少のチームメンバーの年齢に基づいて，30～34，65～69，75 歳以上。

ILS マスターズの 3 人チーム競技種目は，3 人のチームメンバーの年齢の合計が 90～109，110～129，130～149，150～169，170 歳以上の年齢グループで実施される。

ILS マスターズ・サーフボートの年齢区分は，4 人の漕手（スイープを除く）の年齢の合計が，120～139，140～159，160～179，180～199，200～219，220～259，260 歳以上の 7 つの年齢区分で実施される―第 6 項参照[36]。

連盟は，どの年齢区分のマスターズ競技を実施するかを必要に応じて決定する。

19 歳サーフボート　19 Years Surf Boats	
該当者：	大会開催年の 12 月 31 日以前に満 16 歳，17 歳，18 歳，19 歳になる者。
非該当者：	大会開催年に 15 歳又は 20 歳になる競技者。

23 歳サーフボート　23 Years Surf Boats	
該当者：	競技開催年の 12 月 31 日以前に 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23 歳になる競技者。
非該当者：	競技開催年に 15 歳，又は 24 歳になる競技者。

IRB 競技　Inflatable Rescue Boats	
IRB ドライバー　IRB Drivers:	
該当者：	競技開催年の 12 月 31 日以前に 18 歳になる競技者。最高年齢の制限はない。
非該当者：	競技開催年に 17 歳以下になる競技者並びに国内連盟により IRB 資格を与えられていない競技者及び無免許のドライバーである競技者。
注意：	多くの国において，ドライバーは，海上船舶を操縦するために法制度に基づいて免許を付与される必要がある。組織委員会は，参加要件の 1 つとして現地の要件を伝えなければならない。
IRB クルーパーソン，ペイシェント及びハンドラー　IRB Crewpersons, Patients and Handlers:	
該当者：	競技開催年の 12 月 31 日以前に 16 歳になる競技者。最高年齢の制限はない[37]。
非該当者：	競技開催年に 15 歳未満又は 15 歳になる競技者。

[36] 【JLA 注釈】JLA 競技規則では「第 6 章サーフボート競技」を省略している。

[37] 【JLA 注釈】この表では修正が間に合っていないが，第 7 章本文「S7-2.4 競技者の条件」にある通り，クルーパーソン，ペイシェント，ハンドラーの年齢制限が変更されている。

12. 障害を持った競技者 COMPETITORS WITH A DISABILITY

A. 資格のあるすべての競技者に機会を提供したいという願いから，永久的な障害を持つ競技者が競技種目/競技会に参加するための便宜を図ることができる。

B. 競技会のコンペティション委員会に申請した場合，他の競技者に不利益がない場合に限り，何らかの許容措置を認めることができる。この許容措置には，スタート，フィニッシュ，器材の改造，競技規則などが含まれるが，これらに限定されるものではない。

C. 当該事項に関するコンペティション委員会の決定は最終的なものとし，抗議の対象とはならない。

注意 1：本項は，負傷した競技者を支援するためのものではない。本項は，永久的な障害を持つ者が ILS/JLA の競技会に参加できるように支援することを目的としている。

注意 2：本項はまた，通常のコースにおいて，競技のランナーに許容を認めることで，例えば，交換用の膝又は腰及び/又は筋肉及び/又は関節の損傷及び/又は衰えを伴う競技者を支援することを目的としたものではない。そのような競技者は，人生の出来事により彼ら/彼女らの能力が制限されるだろうことを受け入れねばならず，許容措置を受ける対象ではない。

注意 3： チームや個人が，ランナーが他の競技者を追い越さないこと，あるいは単にレースで相対的な順位を維持することを約束しても，その競技における他の競技者に対する不利益を排除するものとはみなされないことが明確にされた。

注意 4：ILS/JLA は，永久的な障害を持つ競技者のために，個別の競技規則を発行し，インクルーシブ競技を開催することもできる。

13. 国内/地域内クラブ間移籍及び国際クラブ間移籍 INTER CLUB NATIONAL AND INTERNATIONAL MEMBER COMPETITION TRANSFERS

A. 団体/クラブ間でのメンバーの競技者としての登録の移籍の取り決めを管理するのは，国内連盟の責任である。

B. 競技者は，海外団体/クラブへ移籍する場合，申請しなければならない。申請には，競技者は所属団体/クラブだけでなく地域（region）及びナショナル組織（日本であればJLA）の承認を必要とする：

- 申請者は，現在所属している団体/クラブに許可を求め，それを（もしあれば）地域（region）組織，及びナショナル組織に送付し承認を得る，
- ナショナル組織は，その決定を申請者に通知し，承認された場合，承認された旨を申請者の新たな所属団体/クラブのナショナル組織に送付する，
- ナショナル組織は，移籍承認の送付を不合理に保留してはならない，
- ILS スポーツ委員会は，国際移籍に関する係争を，当事者と競技し解決する — ILS スポーツ委員会の決定は最終的なものである。

注意：上記の団体/クラブ間の国際移籍規則は，ナショナルチーム選手権には適用されない。

14. ドーピング・コントロール DOPING CONTROL

14.1 薬物ポリシー Drug policy

ILS には，全ての ILS 世界選手権，ILS 地域選手権及びライフセービングが含まれるマルチスポーツゲームズについて，薬物検査を行いドーピングフリーの競技会へのポリシーがある。ILS アンチ･ドーピング規則をウェブサイト https://www.ilsf.org にて閲覧又はダウンロードすること。

ILS は，主催国/地域が ILS 薬物ポリシーに加え，法律又は法的要件を定めているものと認識している。競技者には，出場登録手続きの一部として，そのような要件が周知されなければならない。

ILS アンチ・ドーピング規則の違反は，アスリート個人結果の失格（得点，メダル及び賞の没収を含む）となる。チーム競技では，チームメンバーに ILS アンチ・ドーピング規則違反があれば，そのチーム全体がその競技を失格になり，得点，メダル及び賞を失うことになる。

ドーピング・コントロールには，以下の定義が適用される：

A. 個人競技種目 Individual events

個人競技種目（個人種目）は1人の競技者で競わなければならない。個人競技者はハンドラー（例えば，オーシャンマン/オーシャンウーマン，スーパーライフセーバー）の助けを借りることができる。一つの競技種目において，又は次のラウンドに進んだ際，個人競技者は交代することはできない。競技者が規則違反，ドーピング違反等により失格となった場合，その競技種目における全ての資格を失う。

B. チーム競技種目 Team events

チーム競技種目（チーム種目）は，1つの競技種目又はレースを，SERCのような個別ユニットとして，又はリレー競技のように他と分離して，共に競技する同じナショナルチーム，クラブ又はライフセービング団体からの2人以上の複数競技者で競う。チームメンバーは，次のラウンドに進んだ際交代することができるが，1つのレース中に交代することはできない。1人以上の競技者が規則違反，ドーピング違反等により失格となった場合，チーム全体がその競技種目における全ての資格を失う。

C. チームのメダル又は得点 Team medal count or point score

競技会における総合優勝チームを決めるため，（個人及びチーム競技の第1位などに基づく）獲得メダル数又は得点の集計が行われる。主催者は，チームのメダル数又はPoint スコアの基本詳細を通知するものとする。1人以上の競技者が規則違反により個人競技又はチーム競技で失格になった場合，それら競技者又はチームにメダル又は得点は与えられないが，主催者による別の取り決めが無い限り，チームが獲得しているメダル数又は得点は維持される。

注意：上記の「個人競技種目（individual events）」及び「チーム競技種目（team events）」の定義は，ILS アンチ・ドーピング規則で用いられる「個人スポーツ（individual sport）」及び「チームスポーツ（team sport）」の定義と同一である。「クルー（crew）」という用語は，ILS 競技に関して「チーム」と同じ意味の効果を持つ。

15. 行動規範 CODE OF CONDUCT

15.1 競技者，テクニカルオフィシャル及びメンバーの行動規範 Code of conduct for competitors, technical officials and members

ILS/JLA の競技会は注目を集める公的イベントである。ILS/JLA は，世間からポジティブなイメージを持ってもらえるよう全ての競技者，オフィシャル及びメンバーが協力することを期待している。ILS/JLA 又はライフセービング競技会のイメージに困惑又はダメージを引き起こす可能性のある行為は，規律委員会に付託することになり，その罰則には個人又はチームの競技会からの追放が含まれる場合がある。

ILS/JLA は競技者，オフィシャル及びメンバーに最高の行動基準を期待する。これらの期待は，ILS/JLA 規約及び本書の競技規則に反映されている。

行動規範を適用する対象である「チーム」は，実際の競技者，コーチ，アシスタント，観客，その他チームと共に行動するものが含まれると定義される。この規範を侵した個人又はチーム，あるいはその両方が，競技会において失格になることがある。

15.2 ライフセービング競技のフェアプレー規範 Fair-play code for lifesaving competitions

競技会，特に世界選手権は，善意の精神及びスポーツマンシップに則って実施されることが重要である。

競技者は規則に従い，その範囲内で競技することが求められている。規則違反はチーフレフリーに報告され，チーフレフリーは「S2-16 不正行為」に記述された行動を起こすことができる。

チームメンバーは，自身の国/地域，組織，所属団体/クラブ，スポンサー及び ILS/JLA を代表している。よって，チームメンバーは，選手権や社交の催しを含む関連活動の間，常に適切且つ礼儀正しく行動すべきである。

チーム又はそのサポーターによる不適切行為は重大な違反行為であり，相応の処分が下される。

他のチームを混乱させ邪魔しようとする行為は重大な違反行為であり，相応の処分が下される。

全ての参加者の行為は，以下の「ILS/JLA フェアプレー規範（code of fair play）」により評価される：

A. ILS/JLAは以下の事項を履行する：

- メンバーを介してフェアプレーを推進し，奨励すること，
- 競技者，コーチ，テクニカルオフィシャルそして管理者に対し，ライフセービングスポーツにおける最高水準のスポーツマンシップと良識ある行動を維持する必要性を強く印象付けること，
- 規則が公正であり，競技者，コーチ，テクニカルオフィシャルそして管理者らに明確に理解され，適切に施行されることを確実なものとすること，
- 規則が一貫して公平に適用されるようあらゆる努力を尽くすこと，
- 性別，性自認（gender identity），インターセックス（intersex）状態，性的指向（sexual orientation），年齢，能力，人種又は身体的特徴などにかかわらず，すべてのメンバーを平等に扱うこと。

- 他の競技者に対して有利にならないという条件の範囲で，障害を持つ競技者に便宜を図るあらゆる合理的な規定を作成すること。

B. ILS/JLAのテクニカルオフィシャルは以下の事項を履行する：
- 競技会の規則と精神を遵守すること，
- 他者に対して誠実で，公正で，そして倫理的であること，
- 自身の外見，言動についてプロフェッショナルであること，
- 規定された方法に則り，係争を公平かつ迅速に解決すること，
- 厳格に公平であること，
- 皆のために安全な環境を維持すること，
- 他者を尊重し思いやること，
- 積極的な模範となること。

C. 競技者は以下の事項を履行する：
- 競技会の規則と精神を遵守すること，
- オフィシャルに対し敬意を持って接し，レフリーとジャッジの決定を疑わず不平なく受け入れること，
- 決して不正を考えず，特に，薬物を使用して自身のパフォーマンスを向上させようとは思わないこと，
- 常に合理的に自制すること，
- 潔く寛大に，成功と失敗，勝利と敗北を受け入れること，
- 競技エリアの内外を問わず，共に競い合った競技者そしてチームメンバーに敬意を持って接すること。

D. チームマネージャー及びコーチは以下の事項を履行する：
- 競技者にフェアプレーの原則を理解し，その遵守を要求すること，
- 競技者の薬物使用を決して容認しないこと，
- 競技者の長期的な健康上，又は身体的な発達に対して僅かでもリスクを伴う危険性のある手法又は習慣を決して採用しないこと，
- 自チームの競技者又は対戦相手が有利になるように規則を操作しようと試みないこと，
- ILS/JLA とそのメンバー組織の規定と威信に敬意を払い，それらを回避したり抜け道を考えようと試みないこと，
- ILS/JLA で果たすべき特別な役割を認識し，常にスポーツマンシップと良識ある行動の模範を示すこと，
- 他チームの権利を尊重し，決して他チームに損害を与えようと故意に行動しないこと，
- 競技者，コーチ，テクニカルオフィシャルの権利を尊重し，損害をもたらすような搾取/行動をしないこと，
- 規則及び規定の範囲内，又はフェアプレーの基本原則の範囲内ではない行動により，競技の結果に影響を及ぼすようなことをしないこと。

E. チーム/団体/クラブ代表者，メディア代表者，サポーター及び観客は以下の事項を履行す

る：

- ILS/JLA の威信と規定を尊重し，それらを回避したり抜け道を考えようと試みないこと，
- テクニカルオフィシャルの権限を受け入れること，
- 競技の精神を遵守すること，
- 常に合理的に自制し，良識ある行いを示すこと，
- 他者を尊重し思いやって関わること，
- 潔く寛大に，競技に関わる全ての成果を認めること。

16. 不正行為 MISCONDUCT

16.1 不正行為と懲罰 Conduct and discipline generally

ILS/JLA は，事前に定められ公開されている罰則，又は規律委員会の決定に基づき，その裁量により，競技者個人，所属団体/クラブ，又はナショナルチームに罰則を科すことができる。

16.2 不正競争 Competing unfairly

A. 競技者[38]・チームは，不正行為をしたと判断された場合，その競技が失格となるか，又は競技会から除外される。チーフレフリーは規律委員会に報告し，処遇決定を委任することがある。不正行為とは，以下のような場合等をいう：

- ドーピング又は，ドーピングに関連した行為を行った場合，
- 他の競技者になりすまして競技を行った場合，
- 同じ種目に 2 度出場した場合，
- 他の団体/クラブの競技者として，同じ種目に 2 度出場した場合，
- 自分が，優位になるように故意に他の競技者を妨害した場合，
- 登録しないまま競技を行った場合，
- 認可を得ずに他団体/クラブ又は国/地域のために競技を行った場合，
- 競技種目又は競技する位置を決める投票や抽選で不正を試みた場合，
- 規則に適合しない器材を用いて競技を行った場合，
- チーフレフリー又は特別に指定されたオフィシャルの指示に反し競技を行った場合，
- 他の競技者又はハンドラーを押したり，進路を妨害した場合，
- 競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けた場合（障害競技者のため主催団体が特別に認めた場合を除く），
- （フェアプレー規範に記載されている）競技会の精神に反して参加した場合。

B. 競技者，チーム，ハンドラーが不正に競技したかどうかの判断について，チーフレフリー又はそれと同等のテクニカルオフィシャルが絶対的な裁量権を持つ。

C. ILS/JLAは「不正競争」の問題について，競技前/競技中/競技後にその絶対的裁量権に基づき調査し処置することができる。それには，メダルの返却，規律委員会への付託，その他が含まれる。

---

[38] 【JLA】ハンドラー，マネキンハンドラーを含む。

16.3 重大な規律違反 Serious discipline offence

A. 競技者又はチームが，重大な規律違反に相当する可能性がある場合，直ちに組織委員会に連絡し，詳細を報告すること。違反の可能性が高いことを報告しないこと自体が規則違反となる。

B. 重大な規律違反の申し立ては規律委員会に付託される。

C. 競技においてチーフレフリーが競技者又はチームを重大な違反により失格とした場合，チーフレフリーは，競技者又はチーム及びそのメンバーに対して更なる罰則の適用を裁定する規律委員会に報告することもある。

16.4 規律委員会 Disciplinary Committee

A. 組織委員会は3名以上からなる規律委員会の委員を任命する。

B. 組織委員会は，当該競技会の各出場チームのマネージャーの氏名，連絡先，電話番号を規律委員会に提供する。

C. 規律委員会は，書面による不正行為の訴え，又は上訴委員会/チーフレフリーにより付託された問題について調査する。

D. 規律委員会はまた，違反が行われたか否かを決定する調査を開始し，場合によっては訴えを提起することもできる。そして規律委員会は，第三者が訴えを提起した場合と同じように手続きを進めることができる。

E. 規律委員会は，競技会からの除名/失格，そしてタイトル/トロフィーの没収など相応の罰則を科すことができる。

F. 規律委員会は，ILS事務局長（ILS Secretary General）/JLA事務局長にその調査内容及び裁定について書面で報告する。

G. 訴えの申し立ては書面にて提出されなければならない。また，告訴人は委員会の求めがあれば，いつでも委員会の会合に出席し，委員会の調査に応じられるようにしておかねばならない。

H. 申し立てられた者は各審問において，チームマネージャーを伴って出席する権利を有する。

I. 規律委員会の審問/調査/上訴委員会の審問に関わる全ての者は，本章に規定されている行動規範を受け入れ，遵守せねばならない。またそれらに限定されることなく，係る審問又は調査に関わる全ての者は，
- 正直で，公平で，道徳的であること，
- 他者を尊重し，配慮すること，
- 常に適切な自己管理を行っていること，
- 関与する全ての者に，正直に，誠意を持って，丁寧に，尊重して対処すること。

J. 調査のガイドライン：
- 聴取又は問合せには正式な証拠規則までは適用されないが，関与する全ての人々は正直に，誠意をもって行動しなければならない，
- 委員会への申し立て又は付託は，競技者又はチームの代表者に対して読み上げられなければならない，
- 申し立て側の証拠を提示する，

- 申し立てをされたチームメンバーの証拠も提示する，
- 各証人は，当該証人を召喚した当事者（もしいる場合）からの尋問を受け，また相手方当事者からの反対尋問を受ける―証人を召喚した当事者は，再尋問する権利を有するが，その他の尋問は，委員会の許可がある場合を除き，許可されない，
- 伝聞証拠及び無関係の証拠は認められない，
- 当事者以外の証人は，証拠を提示するように求められるまで，審理での聞き取りを受けないこととする。

16.5 評決の告知 Notification of Findings:

A. 委員会は密室で決定を下すものとする。申し立てが正当であると証明された場合，委員会は罰則を科すことができる。評決及び罰則の告知は，関与するチームメンバー，彼又は彼女のチーム又は所属団体/クラブ，そしてチーム又は所属団体/クラブの関係国/地域に対し，委員長から速やかに書面にて行われる。

B. 評決及び（もしあれば）罰則は，直ちに効果を発するものとする。

17. 失格及び DNF DISQUALIFICATIONS AND “DID NOT FINISH” CLASSIFICATIONS

競技者又はチームは，競技又は競技会全体で失格となる場合がある。予選又は決勝において競技者が何らかの理由で競技を失格になった場合，その競技者が保持するはずだった順位は次にフィニッシュした競技者に与えられ，全ての下位の競技者は一つ上の順位に繰り上がる。

（エリミネーション（除外/勝ち残り）形式競技種目特有の順位及び点数配分については，ビーチフラッグス，オーシャンマン/オーシャンウーマン，及びオーシャン M エリミネーション形式を参照のこと。また，「ラウンドロビン（Round Robin）」の点数配分，失格，除外，そして DNF についてはサーフボート競技を参照のこと）

競技者が何らかの理由で失格になった場合，その競技者の順位，タイムは最終の競技結果に含まれない。

競技者はどんな失格についても抗議又は上訴することができる[39]。

A. DNF (Did not finish) Did not finish (DNF)

- ある競技者が予選又は決勝において何らかの理由により競技を終了しなかった場合，その競技者が獲得したであろう順位は次の競技者に与えられ，下位の競技者の順位も 1 つずつ繰り上がる。
- 競技者が競技を終了しなかった場合，競技結果にはその選手の順位，タイムを含めない。

B. 競技会全体での失格 Disqualification from competition

所属団体/クラブ又は競技者が失格（競技会全体において失格）となる例：

- 競技会参加資格を満たしていない場合，
- 行動規範に違反した場合，
- 他の競技者になりすました場合，又は競技会参加資格を満たしていない競技者を出場させた場合，
- 会場施設・宿泊施設，その他の競技会関連施設を故意に損壊した場合，

[39] 【JLA 注釈】本節 S2-17 及び次節 S2-18 にあるように，実際にはどんな失格にでも抗議又は上訴できるわけではない。

- 競技役員を侮辱（暴言・暴力）した場合。

C. 競技種目別の失格　Disqualification from events

所属団体/クラブ又は競技者が失格（当該種目）となる例：

- 競技開始時に競技者がいなかった場合,
- 総則や競技種目の競技規則に違反した場合。

D. 競技終了時に，競技者はチーフレフリー又はそれと同等のジャッジから失格を通告される。競技者は，チーフレフリー又は同等のジャッジの許可があるまで競技エリアから離れてはならない。

E. 競技者の違反がテクニカルオフィシャルのミスによってもたらされた場合，チーフレフリーの判断により競技者の違反は取り消すことができる。

注意：各競技分野の章末に関係する失格（DQ）コード表がある。

18. 抗議と上訴　PROTESTS AND APPEALS

組織委員会には，競技規則，競技基準，タイムテーブル及びその他の事項を，必要とあらば削除し，変更を加え，又は開催時刻を変更する権利がある。そして各チームマネージャーに確実に通知が届くよう最善が尽くされる。これらの組織委員会の決定に対する抗議は受け付けられない。

加えて，チーフレフリーが必要だと判断し，事前にチームに通知した場合，競技種目のコースと競技エリアがこの競技規則の記述から変更されることがある。

競技者又はチームマネージャーは，チーフレフリーに抗議することができ，さらに以下に規定する方法でチーフレフリーの決定に異議を申し立てることができる。この章の末尾にある抗議申立書/上訴申立書を参照のこと。

注意：ビーチフラッグスの抗議及び上訴のプロセスについては，下記の特定の節を参照のこと。

18.1 抗議の種類　Types of protests

A. ペナルティーを科し得る抗議は以下のカテゴリーに大きく分けられる：

- 競技会参加申し込みの手続き，又は参加資格についての抗議,
- 器材検査や器材適性についての抗議,
- 競技中に起きた行為や競技規則違反についての抗議。

B. 競技者又はチームが直接干渉を受けた場合を除き，同一競技内の他の競技者又はチームの行為に対するどんな抗議も受け付けない — 例えば，オフィシャルがある競技者又はチームに対し何らかの行動を起こした又は起こさなかったにかかわらず，同一レースで直接干渉を受けていない限り，別の競技者又はチームは抗議することができない。

18.2 抗議の申し立て　Lodging a protest

抗議の申し立てに関する条件は以下のとおりとする：

A. フィニッシュジャッジのフィニッシュ着順の判定に直接的に抗議することは認められない。

B. 競技種目又はレースが実施される条件に対する抗議は，競技種目又はレースの前にチーフレフリーに対して口頭で行われなければならない。また，抗議があったことをチーフレフ

リーは，競技開始前に競技者に伝えなければならない。

C. 競技者又はチームに対する抗議，或いはオフィシャルの判定に対する抗議は，競技結果の掲示，又はチーフレフリーからの通告のうち，どちらか早く行われた時刻から15分以内に口頭でチーフレフリーに行われなければならない。さらに口頭による抗議後15分以内に，英語[40]で書かれた抗議/上訴申立書フォーム又はその他受理可能なフォームをチーフレフリーに提出しなければならない。

注意：結果が最終的なものとして宣言されていない場合，チーフレフリーの裁量でこれらの制限時間を延長することができる。

D. 抗議が申し立てられた場合，裁定がなされるまで競技の結果は保留される又は確定されないものとする。抗議が支持された場合，順位及び（関連している，又は，必要とあらば）トロフィーの授与は修正された結果に従って変更されるものとする。

E. 抗議の顛末は，競技結果カード又は結果記録の裏面に記載され，同時に抗議申立書にも記載すること。

F. 抗議の手数料は不要である。チーフレフリーが直接に，又はレフリーの判定に不服のあるチームが上訴して上訴委員会に問題を付託する場合，必ず手数料が発生する。

18.3 ビーチフラッグスにおける抗議 Protests in Beach Flags

A. ビーチフラッグス競技において，除外に対する抗議は，当該ラウンドの終了から5分以内又は次のランスルーが開始される前まで（どちらか早い方）に，口頭でなされなければならない — ビーチフラッグス除外に抗議があれば，チーフレフリーは競技を進める前に直ちに遅滞なく，受けた抗議を検討する — ビーチフラッグス除外への抗議にレフリーが裁定したら，それに対して上訴することは認められない，

B. レフリーはまた，上述の手順とタイミングに基づいて決定するため，ビーチフラッグス除外の抗議を，ビーチで裁定する上訴委員会の代表者に直接付託する権限がある — この場合，書類は不要で，手数料の支払いも不要である，

C. 競技者は，正しい手順に沿っていれば，ビーチフラッグス競技での失格判定に対して抗議及び/又は上訴することができる。

18.4 抗議の裁定 Adjudication of protests

抗議の裁定は以下のようにする。

A. 抗議が正しく申し立てられたら，チーフレフリーはすぐにその抗議を裁定することも，上訴委員長に付託することもできる。

注意：失格又は抗議の付託を記録する際に技術的又は管理上の誤りがあったと判断された場合，誤りを修正することができ，抗議又は上訴は先入観なく続行される，

B. チーフレフリーは，抗議が軽薄である又は深刻でないものと（その絶対的な裁量で）判断した場合，抗議を受理しないことを選択しても良い。

C. レフリー又はエリアレフリー又はセクショナルレフリーが抗議を受理した場合，彼ら/彼女らは，抗議した競技者，その他の競技者，その競技種目の全てのオフィシャル及びその競技種目の運営を考慮して，適切だと思われる方法で抗議を裁定する。

---

[40] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会では日本語で書かれたフォームを提出すること。

D. チーフレフリーが裁定して抗議を認めない，又は抗議の受理を拒否した場合，そのことを上訴委員会に上訴することができる。上訴する場合は，チーフレフリーが裁定を競技者に伝えてから30分以内に，預託金[41]を添えて上訴委員長に上訴しなければならない。

注意：結果が最終的なものとして宣言されていない場合，チーフレフリーの裁量でこれらの制限時間を延長することができる。

E. 抗議内容を検討するための補助としてビデオ又はその他の電子機器を用いることができる。但し，抗議した時点で，信頼に足る明確に映った証拠と映像再生機器を準備する責任は抗議した側にある。

注意：HD仕様の9 inch/228 mm（対角線長さ）のタブレット型デバイスが，抗議を適切に裁定するのに必要な最小サイズだと一般に考えられている。

18.5 上訴委員会 Appeals Committee

組織委員会は適切な経験及び実践的知識のある者を上訴委員長に任命する。

組織委員会は，3 人で構成される上訴委員会が同時に 2 つ開催されるのに必要な人数の上訴委員を予め任命しておく。上訴委員長は，個々の事案を裁定する上訴委員会の委員を，経歴と経験に基づいて選任する。

通常，1 つの上訴委員会は 3 人で構成され，定足数は 2 人となる。

議論する対象について前回の意思決定に参加していた者は上訴委員会に含めない。

A. 上訴委員会はチーフレフリー又は上訴委員長により付託された全ての抗議を取り扱う。

B. 上訴を審理するのに手数料（預託金）が発生し得る。発生する場合，チーフレフリーから上訴委員会に直接付託したものであれ，チームがチーフレフリーの決定に異議を唱えたものであれ，案件が上訴委員会に付託された時点で，この手数料が支払われる。上訴が支持されると手数料は返還され，そうでない場合手数料は没収される。

C. 上訴委員会は上訴を裁定し，その裁定及び科せられる罰則（失格以外の罰則を含む）について競技者及び関係するテクニカルオフィシャルに助言を与える。裁決の理由は口頭及び抗議申立書により簡潔に提供される。

D. 上訴委員会の裁定は，さらに上訴することができない最終的なものである。

E. 上訴委員会は，行動規範に対する重大な違反を規律委員会に付託することができる。

F. 上訴委員会は，双方に事案について述べる機会を与えた後，裁定を下す。

G. 上訴委員会の審問に関するガイドラインは，規律委員会の手順に類似する（S2-16.4を参照のこと）。

H. 上訴内容を検討するための補助としてビデオ又はその他の電子機器を用いることができる。但し，上訴した時点で，信頼に足る明確に映った証拠と映像再生機器を準備する責任は上訴した側にある。

注意：HD 仕様の 9 inch/228 mm（対角線長さ）のタブレット型デバイスが，上訴を適切に裁定するのに必要な最小サイズだと一般に考えられている。

I. 上訴委員会は，入手できた全ての関連証拠を聴取したあと，密室で決定を下すものとする。

---

[41] 【JLA注釈】JLA主催競技会において，預託金は10,000円とする。

J. 上訴を支持する（すなわち同意する）判定，又は上訴を退ける（すなわち反対する）判定は，チームマネージャー/競技者/関与するチームメンバーに，そしてチーフレフリー及び上訴委員長にも，口頭又は書面で届けられる。

K. 他のすべての競技者，チーム及び競技会の最善の利益のため，上訴に関与した競技者又はチームのため，上訴を支持する決定に対する行動方針を決定することは，チーフレフリーの義務である。

L. 上訴委員会は更なる調査のため，重大な ILS/JLA規則又は規定（補足規則を含む）違反を規律委員会に付託することができる。

抗議申立書　PROTEST FORM

Part 1：抗議は JLA 競技規則及び/又は JLA 公式文書に従って申し立てねばならない。
競技会参加申し込みの手続き又は参加資格；器材検査又は器材適正；競技中に起きた行為及び/又は競技規則違反について抗議できる。

抗議申し立て競技者又はチーム名（楷書体で記入）：	
競技種目名：	
競技エリア：	
レーン／ヒート／ロックアップ：	
日時：	
私/私たちは，右に対して抗議します：	
競技者（署名）：	
チームマネージャー（署名）	

オフィシャル記入欄

	オフィシャル職位	時刻
種目結果発表時刻 （正確な時刻を記載する）		
口頭抗議受理者：		
抗議申立書受理者：		
裁定：	❑支持する（抗議に同意する） ❑退ける（抗議に反対する） ❑上訴委員会に附託する ❑規律委員会に附託する	
備考：		
チーフレフリー（署名）：		
競技者又はチームマネージャーへの裁定宣告時刻：		
申立者の裁定受理署名：		

~~裏面：上訴申立書~~

上訴申立書　APPEAL FORM

Part 2: 上訴は JLA 競技規則に従って申し立てねばならない。
上訴委員会の裁定は最終的なものである。

上訴の根拠又は説明：

オフィシャル記入欄

	オフィシャル職位	時刻
口頭上訴受理者：		
上訴申立書受理者：		
上訴預託金受理者：		
上訴預託金返金者（該当する場合）：		
上訴委員長名：		
裁定：	❑支持する（抗議に同意する） ❑退ける（抗議に反対する）	
上訴委員長（署名）：		
競技者又はチームマネージャーへの裁定宣告時刻：		
申立者の裁定受理署名：		
特記事項：		

WORLD RECORD APPLICATION FORM VERSION 2023

What	Reply		
Type of Record			
Record			
Name of the ILS Sanctioned Competition Please add the Sanctioning Document.			
Event			
Gender	☐ Man ☐ Woman ☐ Mixed		
Age Group	☐ Open ☐ Youth ☐ Masters Age group:		
Family Name of the Competitor			
First Name(s) of the Competitor			
Date of Birth (Year/Month/Day)	/ /		
Name of the Team			
Names of the Relay Team Members (names in order of competing)	Family Name	First Name	Date of Birth Y/M/D
1.			
2.			
3.			
4.			
Country			
Member Organisation			
Record claimed (0'00"00 minutes) Please add the official result			
Date of Race	Day:	Month:	Year:
Time of Race (24h scale)			
Venue: Country			
Venue: City			
Chief Referee Name			
Chief Referee Signature			
Date			

Doping Control	
External Sample Code Please add the certificate	

Note 1: The ILS does not recognise world records for any Masters team events, for the 100m Obstacles event for Youth, Open and for Masters under 55 years of age, and mixed or single gender events in team categories except where conducted in those gender categories at Lifesaving World Championships.

Note 2: Masters world records set at any ILS LWC, World Games or ILS regional championships, ILS sanctioned competition shall be recognised without a negative doping test certificate.

An interactive version of this form is available online at www.ilsf.org.

The completed form must be sent to the ILS Custodian of Records, Dr. Detlev Mohr PhD, e-mail: detlev.mohr@dlrg.de or to the Sport Commission of the ILS Region in accordance with the record rules.

競技会組織構造－模式図

COMPETITION ORGANISATIONAL STRUCTURE – SCHEMATIC DIAGRAM

ライフセービング連盟/関連当局
LIFESAVING FEDERATION/AUTHORITY

ローカル組織委員会 LOCAL ORGANISING COMMITTEE (LOC)

コンペティション委員会
COMPETITION COMMITTEE (CC)

LOC 代表 LOC Representatives	競技組織代表 EVENT ORGANISATION Representatives	安全及び緊急対応代表 SAFETY & EMERGENCY Representatives	ILS スポーツ委員会代表及びチーフレフリー ILS SPORT COMMISSION Representatives And Chief Referee(s)
• 競技種目承認 • ボランティア • コンペティションサービス • サイトの物流 • 作業グループ • 輸送手段 • 補給 • メダル及び賞品 • 会場マネージャー • その他	• 管理事務 • 登録 • リザルト • 総合プログラム • 各種調査 • その他	• 安全，セキュリティー及び非常時の計画 • 安全業務 • セキュリティー業務 • 応急処置(FA) • パトロール • 当局 • その他	• チーフレフリー • テクニカルオフィシャル • 会合予定調整 • ブリーフィング • 競技種目タイムテーブル • オフィシャルの認定 • リエゾン • その他

安全委員会
SAFETY COMMITTEE

上訴委員会
APPEALS COMMITTEE

規律委員会
DISCIPLINARY COMMITTEE

競技者/チームマネージャー/コーチ/その他
参加登録
ATHLETES/ TEAM MANAGERS/ COACHES/OTHER REGISTRATIONS

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

第 3 章
プール競技
POOL EVENTS

第 3 章　プール競技
POOL EVENTS

この章では，以下のプール競技について述べる：

- 障害物スイム - 200 m 及び 100 m,
- マネキンキャリー - 50 m,
- レスキューメドレー - 100 m,
- マネキンキャリー・ウィズフィン - 100 m ,
- マネキントウ・ウィズフィン - 100 m,
- スーパーライフセーバー - 200 m,
- マネキンライフセーバーメドレー - 100 m
- ラインスロー - 12.5 m,
- マネキンリレー - 4×25 m,
- 障害物リレー - 4×50 m,
- メドレーリレー - 4×50 m,
- プールライフセーバー混合リレー　- 4×50 m,
- レスキュートウリレー - 4×50 m。

1. プール競技の一般規則　GENERAL CONDITIONS FOR POOL COMPETITION

チームマネージャー及び競技者は，競技スケジュール，競技規則及び競技の方法に精通している責任を有する。

A. 競技者は招集場所への集合が遅れた場合，種目を開始することができない（DQ3）。

B. 競技者又はチームが競技の開始時に不在だった場合，失格となる（DQ4）。

C. 競技者とオフィシャルのみが指定された競技エリアのプールデッキに入ることが許される。競技者は競技していないとき，オフィシャルは職務についていないとき，指定された競技エリアを離れなければならない。

D. 競技規則で特別に定められていない限り，人工的な推進手段は競技で使用することはできない（例えば，水かき，アームバンド）。

E. プール種目において，粘着性，接着性のある物質（液体状，個体状，又は噴霧するもの）を，競技者の手や足へ使用すること，又は掴みやすいようにマネキン又はレスキューチューブの表面への使用すること，又はプールの底を蹴りやすくするために使用すること，は認められない（DQ7）。

F. 予防的，医療的，治療的又は運動学的な目的に用いられるボディテープは，それが競争的優位性を与えない限り，チーフレフリーの判断で認可される。

注意：上記のことは，一般に，体（四肢を含むが手足は含まない）のテーピングが許容され得ることを意味する。また，一般的なテーピングは許可されない：複数の指（2本以上の指を一緒にテープで固定）は，泳ぐときやマネキンを掴む助力になり得る：及び，指一本でも，マネキン/器材を掴んだりマネキンキャリーの助力になるようであれば許可されない。

G. 競技者は，特に許可された競技種目（例えば，障害物スイム，マネキンを伴った浮上，4

×25 mマネキンリレー）を除いて，プールの底を補助に利用してはならない（DQ8）。

H. 競技者は，プールの付属品（例えば，レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品）を補助として用いてはならない（DQ17，24）。

I. 競技中に他の競技者を妨害した競技者は失格となる（DQ2）。

J. 競技種目別規則で特に指定されていない限り，競技者及び器材はレース中及びレースが終了した時点で，指定されたレーン内に留まっていなければならない：競技者はプールから出るよう指示されるまで水中に留まっておく（DQ9）。
競技者は，プール端のタッチ板を越えてではなく，プールサイドから退水しなければならない。

K. 競技者は全ての種目において所属団体/クラブ又は国の代表チームのプール競技用キャップを着用せねばならない。（デザインがプール競技用と同じであれば）オーシャン競技のキャップ，又はゴム製，シリコン製キャップを着用しても良い。

L. ジャッジによるか又は全自動審判計時装置によるかを問わず，着順判定は抗議又は上訴の対象とならない。

M. イベントディレクター，スターター，又はチーフレフリー（又はチーフレフリーが指定した者）によるスタートに関する決定は抗議又は上訴の対象とならない。

N. チーフレフリーは，器材の不調又は干渉があった場合，レースの再走/再投げを許可する場合がある。再走/再投げのタイムが公式タイムとなる。

O. 落としたフィンの回収：競技者は，マネキンの扱い方に違反していない限り（「3.3 マネキン」を参照），スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。
競技者は，別のヒートで再度スタートすることはできない。

2. スタート THE STARTS

A. 各レースのスタート前，イベントディレクター又は指定されたオフィシャルは以下を行う：

- 全てのテクニカルオフィシャルが位置についていることを確認する，
- 競技者，マネキンハンドラー，被救助者役らが適切な服装で正しい位置についていることを確認する，
- 全ての器材が安全で正しい位置に配置されていることを確認する，
- 競技者に水着以外の全ての衣服を脱ぎ，レースの準備をするよう伝える。

B. 競技者及びテクニカルオフィシャルが規則通りにスタートする準備ができたら，指定されたオフィシャルは以下を行う：

- 各レースの公式開始を長いホイッスルで合図し，競技者に，スターティングプラットフォームで位置につくように，又はマネキンリレー競技の場合は水中に入るように指示する，
- コースに向かって腕を伸ばしてスターターに（競技者がスターターの管理下にあることを）合図する。

C. 上記の手続きが行われたにもかかわらず，競技者又はチームがレースのスタートにいなかった場合，又は不適当な服装であった場合，オフィシャルは責任を負わない，即ち，競技者/チーム/ハンドラーによる上記に関する抗議又は上訴は許されない。

注意 1：チーフレフリーの判断で，「オーバーザトップ（over the top）」方式スタートが用いられる場合がある。

注意 2：ラインスローのスタート手順はラインスロー（S3-14）の「競技の説明」を参照せよ。

2.1 飛込スタート Dive start procedure

世界選手権/JLA 主催競技会においては，1 回制スタートとする。

A. 長いホイッスルにより競技者はスターティングプラットフォームに上がり，そこに留まる。

B. スターターの「Take your marks」の号令によって，競技者はスターティングプラットフォーム前方に少なくとも一方の足の指を置き，速やかにスタートの姿勢をとる。競技者が静止したら，スターターは音によるスタートの合図を出す。

C. 競技者は，スターティングプラットフォームから，又はプールデッキから，又は水中で一方の手をスタート壁/縁又はスターティングブロックに触れたまま，スタートしてもよい。

2.2 水中スタート In-water start procedure

水中スタートで開始されるマネキンリレー及びラインスローでのスタート手順の詳細は，各競技種目の説明を参照のこと。

2.3 失格 Disqualification

A. スタートの合図をする前にスタートした（即ち，スタート動作を開始した）競技者は全て失格となる（DQ10）。
競技者は，スタートの合図の前に「前方へのスタート動作」を起こした場合に失格となる。競技者が動いたことが全て失格となるわけではない。スタートの合図を予想して明らかに前方へのスタート動作を起こした競技者が失格となる（DQ10）。
1人あるいはそれ以上の競技者がスタート動作を起こしたか否かの判断は，イベントディレクター，スターター及びチーフレフリーの裁量による。一般に，ある競技者のスタート動作が他の競技者の不正スタートにつられて生じたと判断された場合は，不正スタートによる失格とはしない。

B. 失格が宣告される前にスタートの合図が発せられていた場合，競技は続行し不正スタートした競技者は，競技終了後失格となる（DQ10）。

C. スタートの合図の前に明らかに不正スタートをしたとみなされる場合は，スタートの合図をしないで，その競技者を失格とする：他の競技者は戻され再スタートをする（DQ10）。

D. 競技者を呼び戻す合図は，スタートの合図と同じ合図を繰り返すと共に不正スタートロープ（フライングロープ）[42]を落とし競技者を呼び戻す。又は，チーフレフリー又はチーフレフリーが指名した者が，スタートが不正であったと判断した場合，チーフレフリー又は

---

[42] 【JLA 注釈】ILS 原文及び World Aquatics（旧 FINA）規則（文献[3]）では false start rope（不正スタートロープ）だが，日本水泳連盟（文献[4]）で呼称「フライング」（和製英語）を採用していることから，括弧内に併記した。

チーフレフリーが指名した者はホイッスルを吹き，続いてスターターの合図を繰り返す。

E. マネキンキャリー・ウィズフィン（100 m）の場合，呼び戻す合図は可能ならば水中音とする。もし呼び戻す合図として別の信号が用いられる場合，競技者には予め伝えておく。

F. オフィシャルの間違いにより競技者が違反した場合，その違反は取り消される。

注意 1：イベントディレクター，チーフレフリー及びスターターの任務は，公正なスタートを保障することである。イベントディレクター，スターター又はチーフレフリーが，技術的・器材的な問題を含む何らかの理由でスタートが公正でないと判断した場合，競技者は呼び戻され再スタートが行われる。

注意 2：イベントディレクター，スターター，又はチーフレフリー（又はチーフレフリーが指名した者）によるスタートに関する判断は，抗議又は上訴の対象にはならない。

3. マネキン MANIKINS

3.1 マネキンの浮上 Competitors surfacing the manikin

A. 競技者がマネキンと共に水面に浮上する際，競技者はプールの底を蹴ったり押したりしてもよい。

B. 競技者は，

- マネキンと共に水面に浮上せねばならない，
- マネキンの頭頂部が 5 m ライン（マネキンキャリー，レスキューメドレー，スーパーライフセーバー）又は 10 m ライン（マネキンキャリー・ウィズフィン）を越える時点で，マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない（キャリー），
- 水面に浮上した後，再び潜ってはならない。

注意 1：競技者は，指定された 5/10 m ラインより前で，少なくとも一方の手でマネキンを掴んで水面に浮上しなければならない。競技者は，指定された 5/10 m ラインを越えたら，潜水して泳いではならず，それらのラインを越えた後レースを終えるまで，マネキンを持ったままずっと水面にいなければならない。

注意 2：「マネキンの浮上」の規則は，マネキンの頭頂部が 5/10 m ラインを越える時のみ適用される（JLA では，マネキンの頭頂部が 5/10 m ラインを越える時だけでなく，マネキンを持って水面に浮上する間に適用されると解釈する）。

注意 3：「マネキンを運ぶ（キャリー）」を判定する時，競技者とマネキンは一体/1 つの存在として扱われる。判定には，競技者の動き，運ぶ（キャリー）技術，そしてマネキンの位置が重視される。マネキンの上に水がかかることは判定基準にはならない。

注意 4：「水面」とは静水状態のプールの水平面を意味する。

3.2 マネキンを運ぶ（キャリー） Carrying the manikin

競技のより公平な判定のためマネキンキャリーのルールが改定され，マネキンの喉（首），口，鼻，又は目を握る又は掴む失格，腕をマネキンの喉（首）にかける又は巻きつけてキャリーする失格が削除された。

A. マネキンが運ばれる（キャリーされる）競技において，マネキン（被救助者）は，呼吸停止だと想定する。水がマネキンの顔にかぶることは，ジャッジの基準ではない。

B. 競技者は，少なくとも一方の手で且つ常にマネキンに触れてマネキンを運ばなければなら

ない。

C. マネキンを押してはいけない — 「押す」とは，マネキンの頭部が競技者の頭部の前方にあることと定義される[43]。

D. 競技者は，マネキンの頭部をキャリーする方向に向けてマネキンを運ばねばならない，即ち，マネキンは，底部がキャリーする方向を向いてキャリーされてはならない。

E. マネキンの密閉プラグ（sealing plug）を掴んでは（摘まんでは）ならない。

F. 競技者とマネキンは一体とみなし，キャリーの姿勢の時いずれかは水面より上にとどまっていなければならない。

注意 1：「水面」とは静水状態のプールの水平面を意味する。

注意 2：競技者**及び**マネキンが共に完全に「水面下」であれば，失格となる[44]。

注意 3：折返し又はフィニッシュ壁/縁にタッチするための最後のストローク/ランジ（一伸び）のため，又はリレーのマネキン受け渡しのため，競技者及びマネキンが共に水面下になったとしても，失格とはならない。

G. 「マネキンを運ぶ（キャリー）」の規則は，マネキンの頭頂部が5 m又は10 mラインを越えた時点から適用される。

H. マネキンリレーの5 mのスタートゾーン内及びチェンジオーバーゾーン内，及びライフセーバーリレーのチェンジオーバーゾーン内では，「マネキンを運ぶ（キャリー）」の規則は適用されない。しかしながら競技者は少なくとも一方の手で，マネキンの受け渡し時を含め常時マネキンに触れている必要がある。

注意：すべての競技と同様，マネキンリレー及びライフセーバーリレーのフィニッシュにおいて　リレーの最終競技者に（本節で定義される）標準的な「マネキンを運ぶ（キャリー）」の規則が適用される。

3.3 マネキンを引っ張る（トウする） Towing the manikin

A. マネキンを引っ張る（トウする）際，（被救助者としての）マネキンは，呼吸していると想定する。引っ張る（トウする）前に，競技者は，10 mのピックアップゾーン内において，マネキンを正しく確保せねばならない。「正しく確保」とは，レスキューチューブをマネキンの本体回り及び両腕の下に装着し，クリップをオーリング（O-ring）にかけることをいう。

注意：プールの水深が浅くてマネキンにチューブを装着する間競技者が立つことができる場合は失格ではない。

B. マネキンの頭頂部が10 mラインを通過していなければ，競技者は10 mピックアップゾーン内に戻って，マネキンを確保し直してもよい。

---

[43] 【JLA 注釈】他の判定基準に鑑み，JLA 主催競技会においてこの「頭部」は「頭頂部」と読み替えて判定する。

[44] 【JLA 注釈】LWC2024 テクニカルオフィシャル予定者向けニュースレターNo.2[5]に於いて，この後に続く次の文章の追記が発表された：「但し，競技者の頭部又は腕などの体の一部がレース全体を通して水面上にあれば，通常のストローク又はキックサイクルの一部として競技者が水面下に一瞬沈んだとしても失格ではない」。
ニュースレターNo.2[5]の解説に鑑み，JLA 主催競技会に於いてこの「レース全体を通して水面上にあれば」とは，レース中「一瞬たりとも水面下にあってはならぬ」ではなく，「通常ストローク又はキックサイクルの一部として瞬間的に水面下にあることを除いて，概ね水面上にあれば」を意図しているものとする。

C. マネキンを引っ張る（トウする）際，競技者は，仰向け，横向き，前向きで泳いでよく，またどんなキック又はストロークをしてもよい。

D. 競技者は，10 mピックアップゾーンを越えているとき，マネキンの顔が水面の上にあるようにレスキューチューブで正しく確保せねばならない。

注意：「マネキンを引っ張る（トウする）」の規則が修正された。5 mマークまでにマネキンの両腕の下にマネキンを巻いて確保するという以前の要件は，10 mマークまでの間にマネキンを確保するように変更された。

E. レスキューチューブの紐は，マネキンの頭頂部が10 mラインを越えた時点で，完全に伸ばされていなければならない。

F. レスキューチューブとマネキンが離れた場合，競技者は失格となる。引っ張っている間，レスキューチューブがマネキンの一方の腕の下からずれても，10 mラインで「正しく確保」されていて，マネキンの顔が水面より上にあれば失格にはならない。

G. レスキューチューブの紐がマネキンの回りに巻き付いて，紐が短くなっていると見做される場合，競技者は失格となる。

H. マネキンがレスキューチューブの中で回転しても，マネキンの顔が水面より上であれば，競技者は失格にならない。更に，マネキンが10 mラインにおいて正しく確保され顔が水面より上であれば，マネキンは頭を先にして運ばれる必要はない。

注意：「マネキンを引っ張る（トウする）」の規則は，マネキンの顔が水面より上である限りマネキンがレスキューチューブの中で回転しても失格にならないように修正された。

3.4 マネキンハンドラー Manikin handlers

A. マネキントウ・ウィズフィン，スーパーライフセーバー，及びマネキンライフセーバーメドレーでは，競技者のチームのメンバー1人がマネキンハンドラーとしてアシストする。チーフレフリーが承認すれば，チームメンバー以外でも当該競技会に然るべき立場で登録している者がマネキンハンドラーを務めてもよい。

B. マネキンハンドラーは，競技用キャップを着用しなければならない。

C. マネキンハンドラーは，マネキンを渡す間，少なくとも一方の手を使って，マネキンを指定されたレーン内のいずれかの場所に於いて，直立させ，そして顔を折返し壁に向け，自然に浮く状態で保持する。

D. マネキンハンドラーは，競技者が折返し壁に触れた後であればマネキンを離してよいが，競技者が引っ張る（トウする）ためマネキンに意図的に触れた場合，直ちにマネキンを離さねばならない。

E. 自分の体の一部，保持しているマネキン，及び/又は引き起こした水の動きが，当該レースの他の競技者の妨げにならないようあらゆる努力をする（さもなくばマネキンハンドラーが担当する競技者が失格になることがある）。

F. マネキンハンドラーは，競技中故意にプールに入ってはならない。

G. レースについてのオフィシャルの指示全てに従うこと。

4. 組み合わせ配置 SEEDING

A. プール競技において組み合わせ配置（シード）を行う。

B. プール競技では，競技者は個人種目及びチーム種目のタイムを提出することが求められ

る。

C. タイムが提出されていない競技者は，一番遅いタイムだとみなされる。

D. 同タイムであった競技者らの順番は抽選で決定される。また，タイムを提出していない競技者ら（一番遅いタイムとして同タイムとみなされる）の順番も抽選で決定される。

4.1 予選における組み合わせ配置 Seeding in heats

（エントリー数に応じて）競技で予選と決勝が行われる場合，競技者は以下の方法により提出されたタイムに応じて組み合わせ配置される。

A. 1ヒートしかない場合：

そのヒートは決勝として組み合わせ配置され，最終セッションで泳ぐことになる。

B. 2ヒートある予選の場合：

最も早い競技者を第2ヒートに配置し，２番目に早い競技者を第1ヒートに配置する。３番目に早い競技者を第2ヒートに，４番目に早い競技者を第1ヒートに，というように配置する。

C. 3ヒートある予選の場合：

最も早い競技者を第3ヒートに配置し，次に早い競技者を第2ヒートに配置し，その次に早い競技者を第1ヒートに配置する。4番目に早い競技者を第3ヒートに，5番目に早い競技者を第2ヒートに，6番目に早い競技者を第1ヒートに，7番目に早い競技者を第3ヒートに，というように配置する。

D. 4ヒート以上ある予選の場合：

最後の3ヒートは上記Cに従って組み合わせ配置する。最後の3ヒートの1つ前のヒート（最後から4ヒート目）は，２番目に早い競技者群で構成される。最後の4ヒートの1つ前のヒート（最後から5ヒート目）は，３番目に早い競技者群で構成される。以後同様。レーンは，下記の「3.4.3 レーンの割り当て」に記載の方法に従って，提出されたタイムの降順で割り当てられる。

E. 例外：

1つの競技で複数のヒートがある場合，各ヒートには最低3人の競技者を配置する。

4.2 タイム決勝の組み合わせ配置 Seeding in time-finals

競技がタイム決勝で行われる場合，競技者は提出されたタイムに応じて以下の方法により組み合わせ配置される。

A. 1ヒートしかない場合：

そのヒートは決勝として組み合わせ配置する。

B. 2ヒート以上の場合：

最も早い競技者群が最終ヒートに配置され，次節の詳細のとおりレーン割り当てされる。次に早い競技者群が最後から2番目のヒートに配置され，全ての競技者が提出タイムに応じてヒートに配置されレーン割り当てされるまで，同様に続く。

4.3 レーンの割り当て Assignment of lanes

８レーンあるプールの第４レーンに最も早い競技者又はチームを配置する（レーンは，スタート側から見てプールの右側を第１レーンとする）。次に早いタイムの競技者又はチームをそ

の１つ左のレーンに配置し，以下，右，左と交互に配置する。同タイムの競技者は抽選により，前述の方法に従ってレーンを割り当てられる。

4.4 決勝における組み合わせ配置 Seeding in finals

プール競技のスタート位置は以下のように組み合わせ配置される：

A. 予選のタイムに基づき，上位8位までの競技者はA決勝，9位から16位までの競技者はB決勝に割り当てされる。

B. 予選の同じヒート又は異なるヒートにおいて，8位又は16位を決める競技者のタイムが1/100秒精度で同じだった場合，どの競技者がA, Bどちらの決勝に進むかを決定するためスイムオフを行う。そのスイムオフは関与する競技者の予選ヒート終了後1時間以内には行われない（ただし，関与する競技者がより短い時間で行うことに同意した場合を除く）。再度同タイムであれば，もう一回スイムオフが行われる。

C. A又はB決勝において棄権した又はスタートしなかった（DNS）競技者又はチームは，チーム得点の点数を獲得しない（すなわち，「不参加」の加点は零点である）。

D. 競技者が1人以上又はチームが1チーム以上A決勝を棄権した場合，B決勝から競技者（又はチーム）が繰り上げられ，代替として最大4人（又は4チーム）までの競技者が予選ヒートから繰り上げられる。控えの競技者が足りなくても，招集できた競技者によりB決勝を行う。時間的に余裕があれば両決勝は予選タイムに基づき再シード（再度，組み合わせ配置）される。

注意：プール競技において，代替競技者は予選ヒートのタイムに基づき決定される。

5. 計時と順位の決定 TIMEKEEPING AND DETERMINATION OF PLACING

競技の順位及び記録を決定するために，計時は全自動審判計時装置[45]又はデジタルストップウォッチのいずれかによって行われる。

5.1 全自動審判計時装置による計時 Automatic officiating equipment

A. 設置されたいかなる機器も，競技者のスタート及び折返しの妨げになってはならない。全自動審判計時装置はスターターにより作動され，競技者のタイムが簡単に読み取ることが出来ねばならない。

B. 全自動審判計時装置により記録されたタイムは，勝者及び全ての順位，さらに各レーンに適用されるタイムを決定することに使用される。結果は1/100秒まで記録されること。

C. 全自動審判計時装置によって判定された着順とタイムは，ジャッジ及びタイムキーパーの判定より優先される。これにはタイムキーパーが操作するバックアップストップ（the buck-up stops：ボタン又はプランジャー）が含まれる。

D. 電子計時に加えて，1レーンあたり最低2人のタイムキーパーが必要である。これらのタイムキーパーはバックアップストップ（ボタン及びプランジャー）及び個別の（手動）ストップウォッチの両方を操作できる。

E. もし電子機器が故障した場合，及び/又は，バックアップストップ（ボタン又はプランジ

[45] 【JLA注釈】JLA主催競技会における全自動審判計時装置とは，（財）日本水泳連盟の「自動審判装置等公認規則」に基づく装置を基本とする。

ャー）で競技者のタッチが認識されなかった場合，手動ストップウォッチを用いて以下の通りとする：

- タイムキーパーが 3 人で内 2 人が同タイムの場合，そのタイムを公式とする。もしタイムキーパー3 人のタイムが異なる場合，中間のタイムを公式とする。もし 1 台の時計が故障した場合，他 2 台のタイムの平均が公式となる。
- タイムキーパーが 2 人で同タイムの場合，そのタイムを公式とする。もし 2 人のタイムキーパー（のタイム）が異なるとき，2 つのタイムの平均を公式とする。もし 1 台の時計が故障した場合，残った 1 台のタイムが公式となる。
- もし手動タイムキーパーにより記録されたタイムが示す着順とフィニッシュジャッジが決定した着順とが一致しない場合，フィニッシュジャッジの着順が優先される。
- 当該競技者に与えらえるタイムは同一とする。例えば，もし 2 人の競技者がいる場合，与えられるタイムは自動機器で正しく記録された競技者のタイムとする。それ以外で自動機器で正しく記録されたタイムが無い場合，与えられるタイムは，当該競技者それぞれのタイムの和を当該競技者のストップウォッチの数で除したものとする。

5.2 手動による計時 Manual time keeping and officiating

A. ILS認定ライフセービング競技会で全自動審判計時装置が使用できない場合，1人の競技者のタイムは3人のタイムキーパーにより記録されねばならない。別途2人のタイムキーパーが指定されており，そのどちらかは，競技中に時計がスタート又はストップしたタイムキーパー，又は何らかの理由でタイムを記録できなかったタイムキーパーと交代するよう指示される。

B. 時計はスタート合図があった時に始動し，競技者の身体のいずれかの部分が（タイムキーパーに明瞭に目視できるよう）フィニッシュ壁/縁に触れたときに停止する。

C. 3人のタイムキーパーのうち2人のタイムが同じであれば，そのタイムを公式とする。もし3人のタイムが異なるとき，中間（2番目）のタイムを公式とする。もし1台の時計が計時できなかった場合，残り2つのタイムの平均を競技者の公式タイムとする。

D. 手動タイムキーパーの記録したタイムによる順位が，フィニッシュジャッジの判定と一致しない場合は，フィニッシュジャッジの決定した順位を優先する。当該競技者のタイムは，みな同じとする。例えば，2人の競技者が関係する場合，2人のタイムは2人のタイムの合計を2で除したものとする。

6. テクニカルオフィシャル TECHNICAL OFFICIALS

A. テクニカルオフィシャルは，種目が公正に且つILS/JLA規則及び手順の範囲内において運営されるように保障する。

B. テクニカルオフィシャルはまた，競技者の動作が種目別競技規則を順守しているか否かを評価する。

C. テクニカルオフィシャルは，自分が判定するレーンが明瞭に見えるように配置されなければならない。

7. 障害物スイム（200 m 及び 100 m） OBSTACLE SWIM (200 m and 100 m)

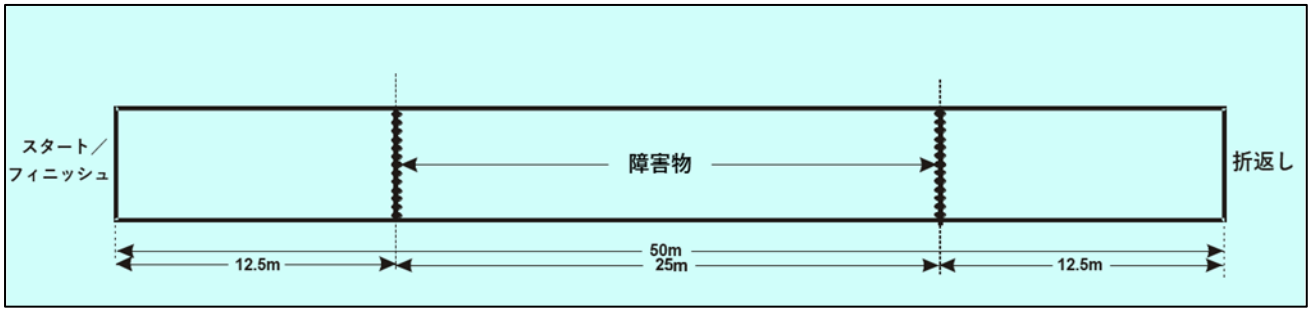


図 1：障害物スイム（200 m 及び 100 m）

7.1 競技の説明 — 200 m Event description – 200 m

競技者は音による合図で飛込みスタートし，水中の障害物の下を 8 回通過しながら 200 m 泳いで，プールのフィニッシュ壁/縁にタッチする。

A. 競技者は，飛込んでから第1障害物までの間に；各障害物を通過した後；及び折返してから障害物の下を通過する前に，水面に浮上しなければならない。

B. 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際，プールの底を蹴っても押してもよい。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破ることを意味する。

C. 障害物に向かって泳ぐ，又は障害物にぶつかることは，失格となる行為ではない。

7.2 競技の説明 — 100 m Event description – 100 m

競技者は，音による合図で飛込みスタートし，水中の障害物の下を 4 回通過しながら 100 m 泳いで，プールのフィニッシュ壁/縁にタッチする。

A. 競技者は飛込んだ後，競技者は第1障害物までの間に；各障害物を通過した後；及び折返した後に障害物の下を通過する前に，水面に浮上しなければならない。

B. 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際，プールの底を蹴っても押してもよい。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破ることを意味する。

C. 障害物に向かって泳ぐ，又は障害物にぶつかることは，失格となる行為ではない。

7.3 器材 Equipment

障害物：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

障害物は，全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。第 1 障害物は，スタートの壁から 12.5 m のところに設置し，第 2 障害物は逆の端から 12.5 m のところに設置する。2 つの障害物の距離は 25 m とする。

7.4 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-2 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 障害物の上を通過してしまった後，ただちに障害物の上又は下を戻り，あらためて障害物の下を通過し直さなかった（DQ11），

B. 飛込んだ後又は折返した後，障害物の下を通過する前に浮上しなかった（DQ12），

C. 各障害物を通過後，浮上しなかった（DQ13），

D. 浮上する際，プールの付属品（レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品等）を

補助として用いた場合 — ただし，プールの底は含まれない（DQ17），

E. 折返しの際，壁/縁にタッチをしなかった（DQ14），

F. フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった（DQ15）。

8. マネキンキャリー（50 m） MANIKIN CARRY (50 m)

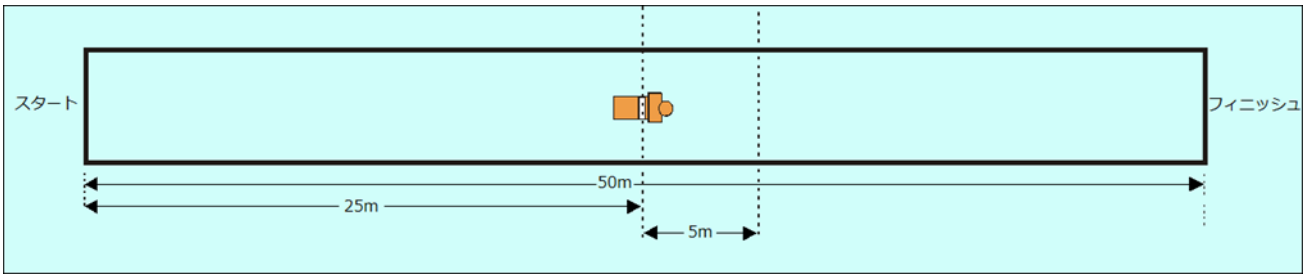


図 2：マネキンキャリー（50 m）

8.1 競技の説明 Event description

競技者は，音による合図で飛込みスタートし，自由形で 25 m 泳ぎ，それから潜って，沈んでいるマネキンを引き上げる。競技者は，飛込みスタートしてマネキンを回収する前までに，一旦水面上まで浮上せねばならない。競技者は，5 m のピックアップゾーン内でマネキンを水面に引き上げ，そのマネキンをプールのフィニッシュ壁/縁まで運ぶ。

マネキンを水面に引き上げる際，競技者はプールの底を押してもよい。

競技者がプールのフィニッシュ壁/縁にタッチした時点で競技は完了する。

8.2 器材 Equipment

A. **マネキン**：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。
マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

B. **マネキンの設置：**マネキンは1.8 mから3 mの間の深さに置く。3 mより深い場合，マネキンを台（又はその他適切な補助物）の上に置き，既定の深さになるようにする。

C. マネキンは，背を下にして，フィニッシュの方向に頭を向け，胸部中央ラインの上端が25 mライン上にくるように置かれる。

D. **マネキンの浮上：**競技者は，マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに，マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない。

8.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. マネキンに向かって潜る前に水面に浮上しなかった（DQ16），

B. マネキンと一緒に水面に浮上する際，プールの付属品（例えば，レーンロープ，排水管，水中ホッケー設備等）を補助に用いた — 但し，プールの底は含まれない（DQ17），

C. マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに，マネキンを正しく運ぶ（キャリー）状態にしなかった（DQ18），

D. 「S3-3マネキン」の解説のように，マネキンを正しくない方法で運んだ（DQ19），

E. フィニッシュ壁/縁にタッチする前にマネキンを放した（DQ21），

F. フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった（DQ15）。

9. レスキューメドレー（100 m） RESCUE MEDLEY (100 m)

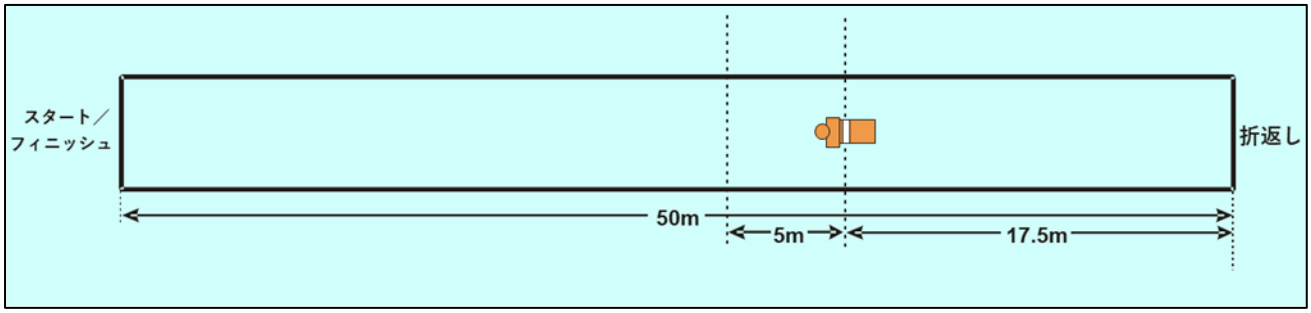


図 3：レスキューメドレー（100 m）

9.1 競技の説明 Event description

競技者は，音による合図で飛込みスタートし，自由形で 50 m 泳ぎ，折返し，潜水して，折返し壁から 17.5 m の位置に沈められたマネキンまで潜行する。

競技者は， 5 m のピックアップラインまでの間にマネキンを水面に引き上げ，その後フィニッシュ壁/縁にタッチするまでの残りの距離，マネキンを運ぶ。

競技者は，折返しの際呼吸してもよいが，足が折返し壁/縁を離れた後は，マネキンと一緒に水面に浮上するまで呼吸してはならない。

マネキンを水面に引き上げる際，競技者はプールの底を押してもよい。

9.2 器材 Equipment

A. **マネキン**：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

B. **マネキンの設置**：
- マネキンは 1.8 m から 3 m の間の深さに置く。3 m より深い場合，マネキンを台（又はその他適切な補助物）の上に置き，既定の深さになるようにする。
- マネキンは，背を下にして，フィニッシュの方向に頭を向け，胸部中央ラインの上端が 17.5 m ライン上にくるように置かれる。

C. **マネキンの浮上**：競技者は，マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに，マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない。

9.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 折返し後マネキンを引き上げる前に浮上した（DQ22），

B. マネキンと一緒に水面に浮上する際，プールの付属品（例えば，レーンロープ，排水管，水中ホッケー設備等）を補助に用いた — 但し，プールの底は含まれない（DQ17），

C. マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに，マネキンを正しく運ぶ（キャリー）状態にしなかった（DQ18），

D. 「S3-3マネキン」の解説のように，マネキンを正しくない方法で運んだ（DQ19），

E. フィニッシュ壁/縁にタッチする前にマネキンを放した（DQ21），

F. フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった（DQ15）。

10. マネキンキャリー・ウィズフィン（100 m） MANIKIN CARRY WITH FINS (100 m)

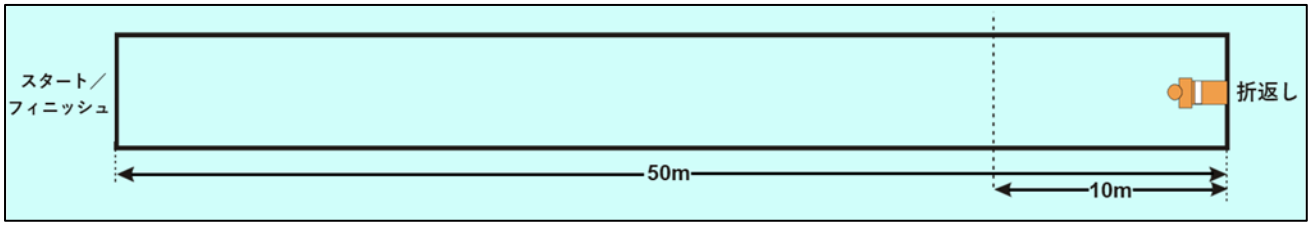


図 4：マネキンキャリー・ウィズフィン（100 m）

10.1 競技の説明 Event description

競技者は，フィンをつけ，音による合図で飛込みスタートし，自由形で 50 m 泳ぎ，それから，折返し壁から 10 m までの間にマネキンを水面に引き上げる。その後競技者はプールのフィニッシュ壁/縁にタッチするまでマネキンを運ぶ。

競技者はマネキンに触れる前に浮上する必要はない。

競技者はプールの折返し壁/縁にタッチしなくてもよい。

マネキンを水面に引き上げる際，競技者はプールの底を押してもよい。

10.2 器材 Equipment

A. **マネキン，フィン：**「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

B. **マネキンの設置：**マネキンは1.8 mから3 mの間の深さに置く。3 mより深い場合，マネキンを台（又はその他適切な補助物）の上に置き，既定の深さになるようにする。
マネキンは，プールの底に接するように背を下にして，マネキンの底（脚側）がプール壁に接し，フィニッシュの方向に頭が向くように置かれる。
施設の設計上，プールの壁がプールの底と直角ではない場合，マネキンは壁にできるだけ近く，水面で測定した距離が壁から300 mm以内に位置しなければならない。

C. **マネキンの浮上：**競技者は，マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに，マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない。

D. **落としたフィンの回収：**競技者は，マネキンの扱い方に違反していない限り（「S3-3 マネキン」を参照），スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。
競技者は，別のヒートで再度スタートすることはできない。

10.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. マネキンと一緒に水面に浮上する際，プールの付属品（例えば，レーンロープ，排水管，水中ホッケー設備等）を補助に用いた — 但し，プールの底は含まれない（DQ17），

B. マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに，マネキンを正しく運ぶ（キャリーする）状態にしなかった（DQ23），

C. 「S3-3マネキン」の解説のように，マネキンを正しくない方法で運んだ（DQ19），

D. フィニッシュ壁/縁にタッチする前にマネキンを放した（DQ21），

E. フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった（DQ15）。

11. マネキントウ・ウィズフィン（100 m） MANIKIN TOW WITH FINS (100 m)

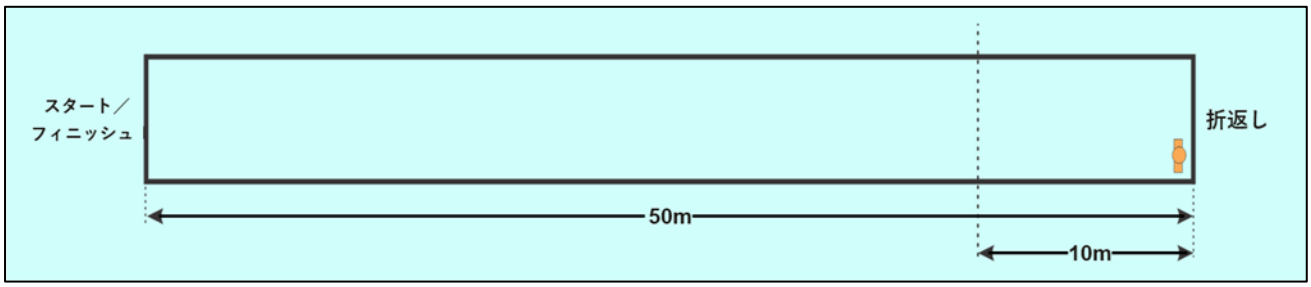


図 5：マネキントウ・ウィズフィン（100 m）

11.1 競技の説明 Event description

競技者は，フィンとレスキューチューブを装着し，音による合図で飛込みスタートし，自由形で 50 m 泳ぐ。折返し壁/縁にタッチした後，10 m のピックアップゾーンまでの間に，競技者はマネキンにチューブを正しく装着し，フィニッシュまで引っ張る。競技者がプールのフィニッシュ壁/縁にタッチしたとき競技は終了する。

競技者は，折返し壁/縁にタッチする前に浮上する必要はない。

11.2 器材 Equipment

A. **マネキン，フィン，レスキューチューブ**：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したマネキンとレスキューチューブを用いなければならない。マネキンは，浮いたとき胸部の横ラインの上部が水面にくるように水を入れ密閉される。

B. **マネキンの設置**：競技者のチームのメンバー1人がマネキンハンドラーとして補助する。マネキンハンドラーは，マネキンを渡す間，少なくとも一方の手を使って，マネキンを指定されたレーン内のいずれかの場所に於いて，直立させ，顔を折返しの壁に向け，自然に浮く位置で保持する。
マネキンハンドラーは，競技者が折返し壁/縁にタッチした後マネキンを放してよいが，競技者がマネキンを引っ張る（トウする）ため確保しようと意図的にマネキンに接触したら，直ちにマネキンを放さねばならない。
マネキンハンドラーは競技者又はフィニッシュ壁の方にマネキンを押してはならない。
競技中，マネキンハンドラーは故意にプールに入ってはいけない。
チーフレフリーが認めれば，チームメンバーでない者でも，当該競技会に然るべき立場で登録されていれば，ハンドラーを務めてもよい。マネキンハンドラーは，コンペティション・キャップをかぶらねばならない。

C. **スタート時のレスキューチューブ**：スタートにおいて，レスキューチューブ本体と紐は，競技者に指定されたレーン内であれば，競技者の判断で自由に配置してよい。但し競技者は，レスキューチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。レスキューチューブのクリップは，マネキンに装着するまで外したままにしておく。

D. **レスキューチューブの装着**：レスキューチューブは正しく装着せねばならない — 競技者の判断で，ループ（肩掛け部分の紐の輪）を一方又は両方の肩にかけるか，肩から胸にか

けるかする。レスキューチューブを正しく着用していたのであれば，マネキンに接近する際，又はマネキンを引っ張っている間に，ループが競技者の腕又はひじに落ちても，失格にはならない。

E. **マネキンの確保**：競技者は，折返し壁/縁にタッチしたあと，10 mピックアップゾーン内において，レスキューチューブをマネキンの両腕の下の胴体に巻き付け，オーリングにクリップ留めして，マネキンを正しく確保する。マネキンの頭部[46]が10 mラインを通過していなければ，競技者は10 mピックアップゾーン内に戻って，マネキンを確保し直してもよい。

注意：折返し壁/縁にタッチする前に意図せずマネキンに触ることは失格ではない。

F. **マネキンを引っ張る**：競技者は，「プール競技の一般規則」に詳述の通り，マネキンを引っ張らなければ（トウせねば）ならない。レスキューチューブはマネキンに装着されなければならず，レスキューチューブの紐は，マネキンの頭頂部が10 mラインを通過するまでに，完全に伸びた状態にせねばならない。

G. レスキューチューブとマネキンが外れたら，競技者は失格となる。10 mラインにおいてレスキューチューブが「正しく付けられ」，マネキンの顔が水面より上にあれば，競技者がマネキンを引っ張っている間に一方の腕からレスキューチューブがずれても失格にはならない。

H. レスキューチューブの紐がマネキンに巻かれている又は巻きついて紐が短くなっているとみなされる場合，競技者は失格となる。

I. マネキンがレスキューチューブ内で回転しても，マネキンの顔が水面より上に残っている限り，競技者は失格にならない。マネキンが10 mライン時点で正しく確保され，且つ顔が水面より上に残っていれば，マネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。

J. **落としたフィンの回収**：競技者は，マネキンの扱い方に違反していない限り（「S3-3 マネキン」を参照），スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は，別のヒートで再度スタートすることはできない。

K. **レスキューチューブの不具合**：レース中，レスキューチューブ，紐及び/又はハーネス（ベルト）に技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断すれば，チーフレフリーはその競技者を別のヒートで再スタートさせてもよいが，それは，レスキューチューブが主催団体から提供され，全ての競技者は提供されたレスキューチューブを使わねばならない規則になっている場合に限る。

11.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-4 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. プールの水深が浅くてマネキンにチューブを装着する間競技者が立つことができる場合を除いて，レスキューチューブをマネキンに巻きつける際，プールの付属品（レーンロープ，階段，水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合（DQ24），

B. 競技者が折返し壁/縁にタッチする前に，レスキューチューブのクリップをオーリングに

[46] 【JLA 注釈】他の判定基準に鑑み，JLA 主催競技会においてこの「頭部」は「頭頂部」と読み替えて判定する。

かけた場合（DQ30），

C. 競技者が（初めて折返し壁/縁にタッチした後）意図的にマネキンに触れた後，ただちにマネキンハンドラーがマネキンを放さなかった場合（DQ27），

D. マネキンハンドラーが，マネキンを競技者の方，又はフィニッシュ壁/縁側へ押した場合（DQ28），

E. マネキンハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合，又は競技者がマネキンを掴んだ後，マネキンハンドラーが意図的にマネキンと接触した場合（DQ25），

F. マネキンハンドラーが競技中故意にプールに入った場合，プールに入り他の競技者の動きを妨害した場合，又は競技の判定を妨害した場合（DQ29），

G. 50 m地点で競技者がプールの壁/縁にタッチする前にマネキンに故意に触れた場合（DQ26），

H. レスキューチューブを正しくマネキンに巻き付けて確保しなかった場合（即ち，マネキンの胴体及び両腕の下に巻いていない，及びクリップをオーリングにかけていない）（DQ31），

I. マネキンの頭頂部で判定して10 mのピックアップゾーン内にあるうちに，マネキンにレスキューチューブを巻き付けて確保しなかった場合（DQ32），

J. マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに，レスキューチューブの紐が完全に伸ばされていない場合（DQ34），

K. マネキンの頭頂部が10 mラインを越えた後，レスキューチューブの紐が完全に伸びた状態でマネキンを引っ張っていない場合（DQ35），

L. マネキンの顔が水面下にある状態で引っ張った場合（DQ20），

M. マネキンを引っ張らず（トウせず）に押す又は運んだ（キャリーした）場合（DQ33），

N. レスキューチューブがマネキンの周りに正しく装着された後，レスキューチューブとマネキンが離れた場合（DQ36），

O. レスキューチューブとマネキンが所定の位置にない状態でフィニッシュ壁/縁をタッチした場合（DQ37），

P. 競技者がフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15）。

12. スーパーライフセーバー（200 m） SUPER LIFESAVER (200 m)

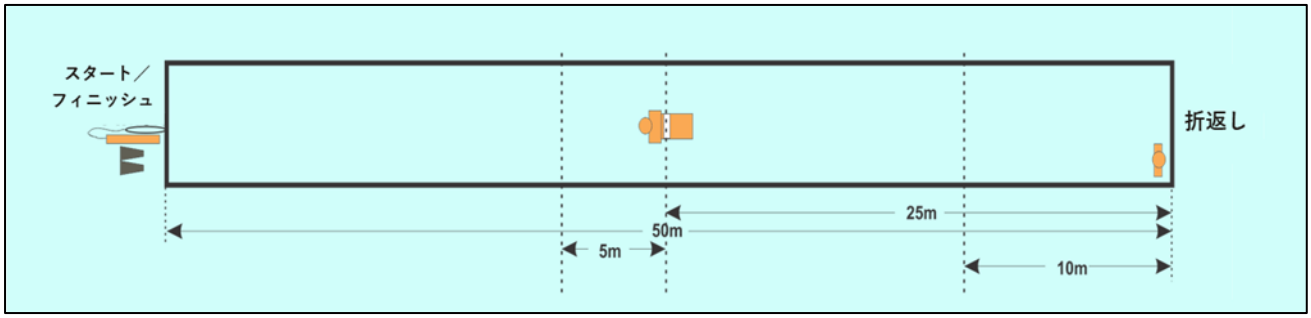


図 6：スーパーライフセーバー（200 m）

12.1 競技の説明 Event description

競技者は，音による合図で飛込みスタートし，自由形で 75 m 泳ぎ，水中に潜ってマネキンを引き上げる。競技者は，5 m ピックアップゾーン内でマネキンと共に水面に浮上し，折返し壁/縁までマネキンを運ぶ。壁/縁にタッチした後，競技者はマネキンを放す。

水中で，競技者はフィンとレスキューチューブを装着し，自由形で 50 m 泳ぐ。壁/縁にタッチした後の 10 m ピックアップゾーンまでの間に，競技者はマネキンの周りにレスキューチューブを正しく付け，マネキンをフィニッシュまで引っ張る。

競技は，競技者がプールのフィニッシュ壁/縁にタッチして完了する。

12.2 器材 Equipment

A. **マネキン，フィン，レスキューチューブ**：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したマネキン及びレスキューチューブを用いなければならない。キャリーに用いる第1マネキンは水を一杯に入れ密閉する。トウに用いる第2マネキンは，浮いたとき胸部の横ラインの上部が水面にくるように水を入れ密閉する。

B. **フィンとレスキューチューブの置き方**：スタートの前に，競技者はフィンとレスキューチューブを指定されたレーン内のプールデッキ上 — スターティングブロック/台（podium）ではない — に置かねばならない。

C. **運ぶマネキンの置き方**：マネキンは1.8 mから3 mの間の深さに置く。3 mより深い場合，マネキンを台（又はその他の補助）の上に置き，既定の深さになるようにする。
マネキンは，プールの底に接するように背を下にして，フィニッシュの方向に頭が向くように置かれ，横ラインの上部が25 mラインにくるようにする。

D. **第1マネキンの浮上**：競技者は，マネキンと共に浮上する際，プールの底を押してもよい。
競技者は，マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに，マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない。

E. **（レスキュー）チューブとフィンの装着**：競技者は，折返し壁/縁に初めてタッチした後，第1マネキンを手放す。競技者は，水中でフィンとレスキューチューブを装着し，自由形で50 m泳ぐ。

F. **レスキューチューブの装着**：レスキューチューブは正しく装着せねばならない — 競技者の判断で，ループ（肩掛け部分の紐の輪）を一方又は両方の肩にかけるか，肩から胸にかけるかする。レスキューチューブを正しく着用していたのであれば，マネキンに接近する

際，又はマネキンを引っ張っている間に，ループが競技者の腕又はひじに落ちても，失格にはならない。

G. **引っ張るマネキンの置き方**： 競技者のチームのメンバー1人がマネキンハンドラーとして補助する。マネキンハンドラーは，マネキンを渡す間，少なくとも一方の手を使って，マネキンを指定されたレーン内のいずれかの場所に於いて，直立させ，顔を折返しの壁に向け，自然に浮く位置で保持する。
マネキンハンドラーは，競技者が折返し壁/縁にタッチした後マネキンを放しても良いが，競技者がマネキンを引っ張る（トウする）ため確保しようと意図的にマネキンと接触したら，直ちにマネキンを放さねばならない。
チーフレフリーが認めれば，チームメンバーでない者でも，当該競技会に然るべき立場で登録されていれば，ハンドラーを務めてもよい。マネキンハンドラーは，コンペティションキャップをかぶらねばならない。
ハンドラーは競技者又はフィニッシュ壁の方にマネキンを押してはいけない。
競技中，マネキンハンドラーは故意にプールに入ってはいけない。

H. **マネキンの確保**：競技者は，折返し壁/縁に初めてタッチしたあと，10 mピックアップゾーン内において，レスキューチューブをマネキンの両腕の下の胴体に巻き付け，オーリングにクリップ留めして，マネキンを正しく確保する。マネキンの頭部[47]が10 mラインを通過していなければ，競技者は10 mピックアップゾーン内に戻って，マネキンを確保し直してもよい。
注意：折返し壁/縁にタッチする前に意図せずマネキンに触れることは失格ではない。

I. 競技者は，プール競技の一般規則に詳述の通り，マネキンをトウせねば（引っ張らなければ）ならない。レスキューチューブはマネキンに付けられなければならず，レスキューチューブの紐は，マネキンの頭頂部が10 mラインを通過するまでに，完全に伸びた状態にしなければならない。

J. レスキューチューブとマネキンが外れたら，競技者は失格となる。10 mラインにおいてレスキューチューブが「正しく付けられ」，マネキンの顔が水面より上にあれば，競技者がマネキンを引っ張っている間にレスキューチューブがずれても失格にはならない。

K. レスキューチューブの紐がマネキンに巻かれている又は巻きついて紐が短くなっているとみなされる場合，競技者は失格となる。

L. マネキンがレスキューチューブ内で回転しても，マネキンの顔が水面より上にある限り，競技者は失格にならない。マネキンが10 mライン時点で正しく確保され，且つマネキンの顔が水面より上に残っていれば，マネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。

M. **落としたフィンの回収**：競技者は，マネキンの扱い方に関する規則に違反していない限り（「S3-3 マネキン」を参照），スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は，別のヒートで再度スタートすることはできない。

N. **レスキューチューブの不具合**：レース中，レスキューチューブ，紐及び/又はハーネス（ベルト）に技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断すれば，チーフレフリーはそ

[47] 【JLA 注釈】他の判定基準に鑑み，JLA 主催競技会においてこの「頭部」は「頭頂部」と読み替えて判定する（ILS 競技規則 2023 版でも修正が漏れていた）。

の競技者を別のヒートで再スタートさせてもよいが，それは，レスキューチューブが主催団体から提供され，全ての競技者は提供されたレスキューチューブを使わねばならない規則になっている場合に限る。

12.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-4 にある規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. プールの付属品（例えば，レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品）を補助として用いた場合ーただし，マネキンを浮上させる際のプールの底は含まれない（DQ17），及び，プール水深が浅くレスキューチューブをマネキンに巻き付けて確保する間競技者が立てる場合，

B. マネキンの頭頂部が5 mのピックアップゾーンを越えるまでに，マネキンを正しく運ぶ状態にしなかった場合（DQ18），

C. 「S3-3マネキン」の解説のように，マネキンを正しくない方法で運んだ（DQ19），

D. フィニッシュ壁/縁にタッチする前にマネキンを放した（DQ21），

E. レスキューチューブをマネキンに巻きつける際，プールの水深が浅くてマネキンにチューブを装着する間競技者が立つことができる状況で[48]，プールの付属品（例えば，レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品）を補助として用いた場合（DQ24），

F. 競技者が折返し壁/縁にタッチする前に，レスキューチューブのクリップをリングにかけた場合（DQ30），

G. 競技者が（初めて折返し壁/縁にタッチしてから）意図的にマネキンに触れた後，マネキンハンドラーがただちにマネキンを放さなかった場合（DQ27），

H. マネキンハンドラーが，マネキンを競技者の方，又はフィニッシュ壁側へ押した場合（DQ28），

I. マネキンハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合，又は競技者がマネキンを掴んだ後マネキンハンドラーが意図的にマネキンに触れた場合（DQ25），

J. マネキンハンドラーが競技中故意にプールに入った場合，プールに入り他の競技者のパフォーマンスを妨害した場合，又は競技の判定を妨害した場合（DQ29），

K. 150 m地点で競技者がプールの壁/縁にタッチする前にマネキンに故意に触れた場合（DQ26），

L. レスキューチューブを正しくマネキンに巻き付けて確保しなかった場合（即ち，マネキンの胴体でない場所，両腕の下でない場所，及びクリップをオーリングにかけていない）（DQ31），

M. マネキンの頭頂部で判定して10 mピックアップゾーン内にあるうちに，マネキンにレスキューチューブを巻き付けて確保しなかった場合（DQ32），

N. マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに，レスキューチューブの紐が完全に伸ばさ

---

[48] 【JLA 注釈】英文をそのまま直訳しているが，「プールの水深が浅くてマネキンにチューブを装着する間競技者が立つことができる状況で」の条件節は十分校閲されぬまま挿入された可能性がある。ここでは，水深が浅くてプールの底を利用する（立つ）ことを除いて，プールの付属品を補助として用いると失格である，ということを意図しているものと解釈する。

れていない場合（DQ34），

O. マネキンの頭頂部が10 mラインを越えた後，レスキューチューブの紐が完全に伸びた状態でマネキンを引っ張っていない場合（DQ35），

P. マネキンの顔が水面下にある状態で引っ張った場合（DQ20），

Q. マネキンをトウせず（引っ張らず）に押す又は運んだ（キャリーした）場合（DQ33），

R. レスキューチューブがマネキンの周りに正しく装着された後，レスキューチューブとマネキンが離れた場合（DQ36），

S. レスキューチューブとマネキンが所定の位置にない状態でフィニッシュ壁/縁をタッチした場合（DQ37），

T. 競技者がフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15）。

13. マネキンライフセーバーメドレー（100 m） MANIKIN LIFESAVER MEDLEY (100 m)

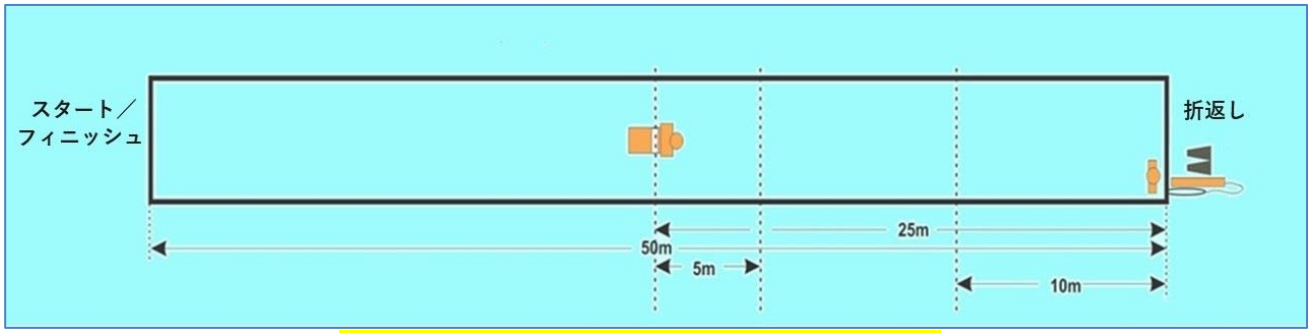


図 7：マネキンライフセーバーメドレー（100 m）

13.1. 競技の説明 Event description

競技者は音による合図で飛込みスタートし，自由形で 25 m 泳ぎ，そして水に潜り沈んでいるマネキンを引き上げる。競技者は飛込みスタート後，マネキンを引き上げる前に水面へ浮上しなければならない。競技者はマネキンを 5 m のピックアップゾーン内において水面へ引き上げ，プールの折返し壁/縁まで運ぶ。競技者はマネキンと共に浮上する際，プールの底を押しても良い。競技者はプールの壁/縁にタッチした後，そのマネキンを手放す。

競技者は水中でフィン及びレスキューチューブを装着し，10 m のピックアップゾーン内において第 2 マネキンの周りにレスキューチューブを正しく装着し，そしてフィニッシュまで引っ張る。

競技者がプールのフィニッシュ壁/縁にタッチした時，競技は終了する。

13.2. 器材 Equipment

A. マネキン，フィン及びレスキューチューブ：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したマネキン及びレスキューチューブを用いなければならない。
この競技の為，キャリーに使用される第1マネキンは水で完全に満たされ，密封される。トウイングに使用される第2マネキンは，浮いた際 胸部の横ラインの上部が水面に来るように水で満たされ密閉される。

B. フィン及びレスキューチューブの設置：競技開始前に，マネキンハンドラーはフィン及びレスキューチューブを，50 m折返し地点のプールデッキ上 – スターティングブロック/台（podium）ではない – の指定されたレーン内に設置せねばならない。

C. キャリー用マネキンの設置：この競技の為，マネキンは水で完全に満たされ，密封される。このマネキンは1.8 mから3 mの間の深さに設置される。水深が3 mを超える場合，マネキンが既定の深さに設置される為に，台（またはその他の補助）の上に設置されねばならない。マネキンは背を下にして，頭部を折返し壁へ向け，（マネキンの胸の）横ラインの上端が（プールの）25 mライン上にあるように設置される。

D. 第1マネキンの浮上：第1マネキンと共に浮上する際，競技者はプール底面を押しても良い。

E. キャリー：競技者は，マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに，マネキンを正しい状態で運び始めていなければいけない。競技者はその後，プール競技における一般規則に

記載された方法で，マネキンを折返し縁/壁まで運ぶ。

F. トウ用マネキンの設置：競技者のチームメンバーの1人がマネキンハンドラーとして補助を行う。マネキンハンドラーは，マネキンを渡す間，少なくとも一方の手を使って，マネキンを指定されたレーン内のいずれかの場所に於いて，直立させ，顔を折返しの壁に向け，自然に浮く位置で保持する。
マネキンハンドラーは，競技者が折返し壁/縁にタッチした後マネキンを放してよいが，競技者がマネキンを引っ張る（トウする）ため確保しようと意図的にマネキンに接触したら，直ちにマネキンを放さねばならない。
チーフレフリーが認めれば，チームメンバーでない者でも，当該競技会に然るべき立場で登録されていれば，ハンドラーを務めてもよい。マネキンハンドラーは，コンペティション・キャップ　をかぶらねばならない。
ハンドラーは，競技者又はフィニッシュ壁の方にマネキンを押してはならない。
マネキンハンドラーは，競技中故意にプールに入ってはならない。

G. 第2マネキン：まず折返し壁/縁にタッチし第1マネキンを手放した後に，競技者はフィン及びレスキューチューブを装着し，その後で第2マネキンの確保を行う。
注意：折返し壁/縁にタッチする前に意図せず第2マネキンに接触する事は，この行為をもって失格とはならない。

H. 第2マネキンの確保：競技者は10 mピックアップゾーン内において，レスキューチューブをマネキンの両腕の下の胴体に巻き付け，オーリングを留め，マネキンを正しく確保しなければならない。マネキンの頭部が10 mラインを通過していなければ，競技者は10 mピックアップゾーン内に戻って，マネキンを確保し直してもよい。

I. レスキューチューブの装着：競技者はレスキューチューブを正しく装着しなければならない。競技者の判断で，ループ（肩掛け部分の紐の輪）を一方または両方の肩にかけるか，又は肩から胸にかける。レスキューチューブを正しく装着していたのであれば，マネキンをトウする間，ループが競技者の腕又はひじに落ちても，失格にはならない。

J. 競技者は，プール競技における一般規則に記載の通り，マネキンをトウしなければならない。レスキューチューブはマネキンに装着される必要があり，レスキューチューブの紐は，マネキンの頭頂部が10 mラインを通過するまでに完全に伸びた状態にならなければならない。

K. レスキューチューブがマネキンから外れ，離れてしまった場合，競技者は失格となる。10 mラインにおいてレスキューチューブが「正しく装着され」，かつマネキンの顔が水面より上にある限り，競技者がマネキンを引っ張っている間にレスキューチューブがずれても失格にはならない。

L. レスキューチューブの紐がマネキンに巻かれ，又は巻き付いて紐が短くなっていると見なされる場合，競技者は失格となる。

M. マネキンがレスキューチューブ内で回転しても，マネキンの顔が水面より上にある限り，競技者は失格とならない。マネキンが10 mライン時点において（レスキューチューブにより）正しく確保され，かつマネキンの顔が水面より上にある限り，マネキンは必ずしも頭を先頭にして引っ張られる必要は無い。

N. 落としたフィンの回収：競技者はマネキンの扱い方に関する競技規則に反していない限り（「S3-3 マネキン」を参照），スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は，別のヒートで再度スタートすることはできない。

O. レスキューチューブの不具合：レース中，レスキューチューブ，紐及び/又はハーネス（ベルト）に技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断すれば，チーフレフリーはその競技者を別のヒートで再スタートさせてもよいが，それは，レスキューチューブが主催団体から提供され，全ての競技者は提供されたレスキューチューブを使わねばならない規則になっている場合に限る。

13.3. 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-4 にある規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 第1マネキンに向かって水に潜る前に，一度も水面に浮上しなかった場合（DQ16），

B. プールの付属品（例えば，レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品）を補助として用いた場合 – 但し，マネキンを浮上させる際にプールの底面を使用する事を除く（DQ17），

C. マネキンの頭頂部が5 mのピックアップゾーンを越えるまでに，マネキンを正しく運ぶ（キャリーする）状態にしなかった場合（DQ18），

D. 「S3-3 マネキン」に記載のある通り，正しくない方法でマネキンをキャリーした場合（DQ19），

E. 折返し壁/縁にタッチする前に第1マネキンを放した場合（DQ21），

F. レスキューチューブを第2マネキンに巻き付ける際，プールの水深が浅くてマネキンにチューブを装着する間競技者が立つことができる状況で[49]，プールの付属品（例：レーンロープ，階段，水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合，及び，水深が浅く競技者の足がプール床につく状況において，レスキューチューブをマネキンに巻き付ける際，プール床を補助として利用した場合（DQ24），

G. 競技者が折返し壁/縁にタッチする前に，レスキューチューブのフックをO型リングにかけた場合（DQ30），

H. （競技者がまず折返し壁/縁にタッチし，フィンを着用した後に，）意図的にマネキンに触れた後，マネキンハンドラーが直ちにマネキンを放さなかった場合（DQ27），

I. マネキンハンドラーが，競技者又はフィニッシュ壁方向にマネキンを押した場合（DQ28），

J. マネキンハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合，又は競技者がマネキンを掴んで以降，ハンドラーが意図的にマネキンと接触した場合（DQ25），

K. マネキンハンドラーが競技中故意に水に入った場合，又は水に入り他の競技者のパフォーマンスを妨害した場合，又は競技の判定を妨害した場合（DQ29），

---

[49] 【JLA 注釈】英文をそのまま直訳しているが，「プールの水深が浅くてマネキンにチューブを装着する間競技者が立つことができる状況で」の条件節は十分校閲されぬまま挿入されたと思われる。ここでは，水深が浅くてプールの底を利用する（立つ）ことを除いて，プールの付属品を補助として用いると失格である，ということを意図しているものとする。

L. 50 m地点の折返し壁/縁にタッチする前に，故意にマネキンに触れた場合（DQ26），
M. レスキューチューブを正しくマネキンに巻き付けて確保しなかった場合（即ち，マネキンの胴体でない場所，両腕の下でない場所，及びクリップをオーリングにかけていない）（DQ31），
N. マネキンの頭頂部で判定して10 mピックアップゾーン内にあるうちに，マネキンにレスキューチューブを巻きつけて確保しなかった場合（DQ32），
O. マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに，レスキューチューブの紐が完全に伸びた状態になっていない場合（DQ34），
P. 10 mラインを越えた後，レスキューチューブの紐が完全に伸びた状態でマネキンを引っ張って（トウして）いない場合（DQ35），
Q. マネキンの顔が水面より下に位置した状態でマネキンを引っ張った（トウした）場合（DQ20），
R. マネキンを引っ張らず（トウせず）に押す又は運んだ（キャリーした）場合（DQ33），
S. レスキューチューブがマネキンの周りに正しく装着された後，レスキューチューブとマネキンが離れた場合（DQ36），
T. レスキューチューブとマネキンが所定の位置にない状態でフィニッシュ壁/縁にタッチした場合（DQ37），
U. フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15）。

14. ラインスロー 12.5 m LINE THROW– 12.5 m

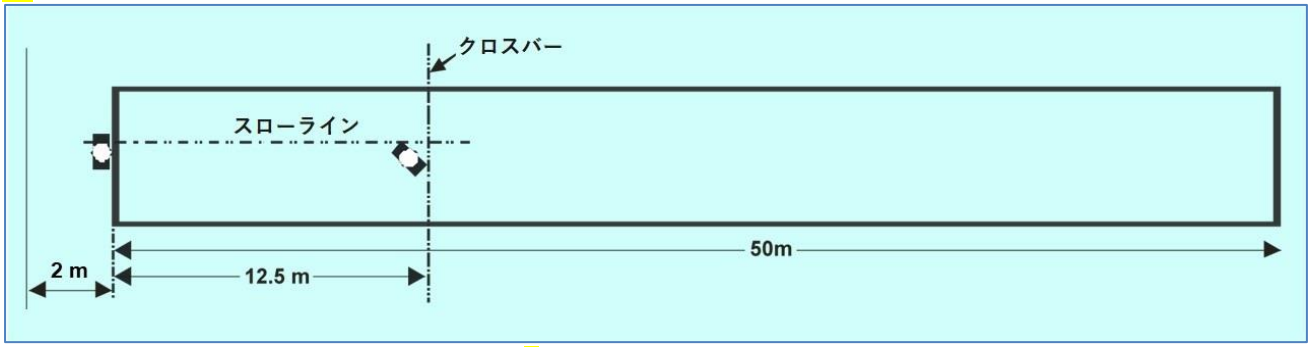


図 8：ラインスロー 12.5 m

14.1 競技の説明 Event description

競技者は，競技 45 秒の競技に於いて，プールの縁のスローゾーンから重りの付いていない 1 本のラインを，（プールの端から）12.5 m の距離にある硬いクロスバーの手前の水中にいる仲間のチームメンバーに投げる。競技者はその被救助者役をプールのフィニッシュ壁/縁まで引っ張って戻す。

A. スローゾーン：スローゾーンとは，各チームに割り当てられたレーンにより囲われた領域である。これはプール壁の垂直エッジ（縁）からチームのレーンの手前側に広がり，チームのレーンのレーンロープ（lane ropes）中心を延長した印付けられていないラインで両サイドが決まり，プールデッキのエッジ（縁）又は隆起したプラットフォームまで広がっている[50]。スローゾーンの後方ラインを印す必要はないが，スローと手繰り寄せに支障が無いよう，プール壁の垂直エッジ（縁）から最低でも2.0 mは必要である。

注意1：ジャッジの観点から，競技者は自身のレーン内に留まることが求められる。しかしながら，足がラインに乗っているかという位置の問題ではなく，むしろ，競技中に他チームを妨害していないかが重視される。

注意2：必須要件ではないが，スロー及び被救助者役を手繰り寄せるための領域を明確にするため，プール壁の垂直エッジ（縁）から約2.0 m後方の床にライン又は，一時的にロープ又はテープのバリアを設置しても良い。競技者がこのエリア内で後方に移動するのは失格とはみなされない。

B. スタート：1回目のホイッスルで，競技者ら（即ち，スロアー（thrower）及び被救助者役）はスタートの準備をする。「スロアー」は一方の手でスローラインの一方の端だけを持つ。被救助者役はラインのもう一方の端を持ち水に入りクロスバーまで進む。この時ラインは，被救助者役とスロアーの間で伸びている。余ったラインはクロスバーの上又は下のどちらにあってもよく，12.5 mクロスバーより向こう側まで伸びている場合，余ったラインはクロスバーの上又は下を通過してよい。

スタートの前に投げる練習は許されない。

2回目のホイッスルで，スロアーは遅滞なくスタートの位置に着く。全ての競技者がスタ

---

[50] 【JLA 注釈】プール壁垂直エッジ及びレーンロープの中心をそのままプールデッキに延長したラインで囲われる領域で，旧ルールで 1.5 m までに規定されていたような後方の制限はない（後述の注意 2 のとおり，後方約 2.0 m にラインを引くこともある）。

ートの位置に着いたとみなされたとき，スターターは号令「Take your marks」を発する。全てのスロアー及び被救助者役が静止したとき，スターターは音によるスタートの合図を発する。

C. スタートの姿勢：スロアーは，スローゾーン内で被救助者役に向き合うように立ち，踵と膝の両方，又は，踵と膝のいずれかを揃えてつけて，両腕をまっすぐに伸ばして体側につける。スローラインの端を片手で持つ。
被救助者役は，自身に指定されたレーンの固いクロスバーの手前側に位置している。被救助者役は，スローラインに触れ，クロスバーを片手又は両手で掴む。

D. 音によるスタートの合図で：スロアーはラインを回収し，被救助者役に投げ返したら（被救助者役がそれを掴み），被救助者役がフィニッシュ壁/縁にタッチするまで水中の被救助者役を引っ張る。

E. 被救助者役は，それが「公正なスロー（fair throw）」であるならば，スローラインを掴むことができる。公正なスローとは，被救助者役が，指定されたレーンのクロスバーの前又は後ろにおいて，手を使ってスローラインを掴むことができることである。レーンマーカー（lane marker）は「レーン内」ではない[51]。
被救助者役が指定されたレーン内に完全に留まり，クロスバーを掴んで離さない限り，被救助者役は足又は身体の他の部分を使って，自身のレーン内にあるスローラインを，手で掴める場所まで操作しても良い。
被救助者役は，クロスバーに沿って手をどこにでもスライドすることができるが，体のどこかがラインに触れるとき，そしてラインを掴むとき，クロスバーを掴んでいなければならない。
スローラインに到達しようとしてクロスバーを引っ張ることに対してペナルティーは無い。
注意：被救助者役は，スタートの合図の後クロスバーを離してもペナルティーは無いが，身体のいずれかの部分を使ってラインを集める又は手で掴むときは，クロスバーを手で掴んでいなければならない。

F. **水中で引っ張る**：プールの縁まで引っ張られている間，被救助者役は前を向いた状態で，且つ両手でスローラインを掴んでいなければならない。スローラインを手繰り寄せてはならない。安全上の理由により，被救助者役が壁/縁にタッチするために，一方の手をスローラインから放してもよい。これは失格にはならない。
被救助者役は水泳用ゴーグルを装着することができる。

G. スロアーは，被救助者役を引っ張っている間スローゾーンから出た場合，失格となる。スロアーは他チームを妨害してはならない，又は，隣接レーンに割り当てられたスペースを使用してはならない。これは，スロアーが少なくともどちらか一方の足全部を，床の上又はスローゾーンの上空に拘わらず，スローゾーンの内縁の中に留めているかで示され得る。スロアーの足のいずれかの部分がスローゾーンの「プール縁（pool edge）」を超えてもペナルティは無い。

---

[51] 【JLA 注釈】ILS 競技規則では lane marker と表記されているが，JLA では当面，レーンロープのことだと解釈する。

注意1：スロアーは，腕を使って被救助者役を引き寄せなければならない，そして，スローラインを手で掴んで又は身体のいずれかの部分に巻きつけて歩く又は走ること，又は，被救助者役をフィニッシュ壁に引き寄せている間，故意に後ろ向きに歩くことは許されない。

注意2：もし床にライン，又は，一時的なロープ又はテープバリアが，プール壁の垂直エッジ（縁）から約2.0 m後方に置かれている場合，競技者がこの領域内で後方に移動しても，失格とはみなさない。

H. スロアーは，どちらか一方の足が全部スローゾーン内に位置し，且つ，他の競技者を妨害しない限り，スローゾーンの外に落ちたスローラインを回収してよい。水に入った（又は落ちた）スロアーは失格となる。

I. 他のレーンへの干渉を避けるため，被救助者役は退水してはならず自分のレーンに留まる。任命されたオフィシャルがレース完了の音による合図を出す前に，競技者が腰を超えて水から出ようとする，又は，プール縁又はレーンロープに座ると，チームは失格となる。

同様に，スロアーは，任命されたオフィシャルが競技完了の合図を出すまで指定されたスローゾーン内に留まらないことにより，当該競技の他チームを妨害してはならない。

J. **時間制限**：スロアーは公正なスローを行い，45秒以内にフィニッシュ壁/縁まで被救助者役を引っ張らなければならない。

スロアーは，45秒後の音による終了合図の前に被救助者役をフィニッシュ壁/縁まで連れてこられなかったら，“Did Not Finish”（DNF）となる。

14.2 器材 Equipment

A. **スローライン**：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。スローラインの長さは16.5 mから17.5 mでなければならない。競技者は主催者が用意したスローラインを用いなければならない。

B. 硬い（曲がらない）**クロスバー**を，スタート側のプールの端から12.5m地点の水面に各レーンを横断するように設置する。許容差は各レーンに於いてプラス100 mm，マイナス0.00 mmである。

14.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-2 にある規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. ラインスロアーが投げる練習をした場合（DQ58），

B. 被救助者役が，フィニッシュ壁/縁まで引っぱってもらうラインを，身体のいずれかの部分を使って回収又は掴む時に，手でクロスバーを掴み続けていなかった場合（DQ50），

C. 被救助者役が自分のレーンの外にあるスローラインを掴んだ場合（DQ54），

D. 被救助者役がフィニッシュ壁/縁まで引っ張られている間，前を向いていなかった場合（DQ55），

E. 被救助者役がフィニッシュ壁/縁まで引っ張られている間，両手でスローラインを掴んでいない場合（壁/縁にタッチするために一方の手をスローラインから放してもよい）（DQ56），

F. 被救助者役が引っ張られている間，スローラインを手繰り寄せた場合（DQ57），

G. ラインスロアーが，スタートの合図から45秒後の音による終了の合図までの間，指定されたスローゾーン内に留まらず当該競技の他チームを妨害した場合（DQ51），
H. ラインスロアーが，被救助者役をプールのフィニッシュ壁に戻すため，腕を使って手繰り寄せず，ラインを手で掴んで又は身体のいずれかの部分に巻き付けて歩いた又は走った場合（DQ52），
I. 被救助者役が45秒の競技終了の合図の前に，水から出た場合（DQ53），
J. 競技者がフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15）。

15. マネキンリレー（4×25 m） MANIKIN RELAY (4 x 25 m)

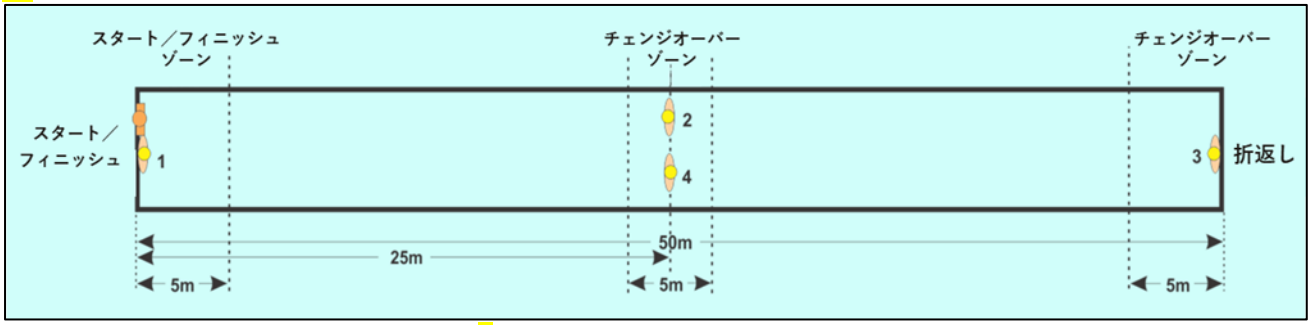


図 9：マネキンリレー（4×25 m）

15.1 競技の説明 Event description

競技者 4 人が順に約 25 m ずつマネキンを運ぶ（キャリーする）。

A. 第 1 の長いホイッスルにより全ての競技者は水に入る。第 2 の長いホイッスルにより全ての競技者はむやみに遅滞せずスタートの準備をする。

B. 第1競技者は一方の手でマネキンを保持し，もう一方の手でスタート壁/縁又はスターティングブロックを掴み，第2，第3，第4競技者はそれぞれ25 m，50 m，75 m地点の水中にいる。

C. スターターは，全ての競技者がスタート位置についたら，「Take your marks」の号令を出す。

D. スターターは，（すべての）第1競技者が静止したら音によるスタートの合図をする。

E. 第1競技者：第1競技者はマネキンを運び，22.5 m地点から27.5 m地点の間の5 mのチェンジオーバーゾーン内で第2競技者に手渡す。

F. 第2競技者：第2競技者はマネキンを運び，折返し壁/縁にタッチし，少なくとも一方の手で折返し壁/縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで待機している第3競技者にマネキンを手渡す。

G. 第3競技者：第3競技者は，第2競技者が折返し壁/縁又はスターティングブロックにタッチする前に一方の手でマネキンにタッチ又はマネキンを掴んでも良いが，第2競技者が折返し壁/縁にタッチするまで折返し壁/縁又はスターティングブロックとの接触を解いてはならない。

第3競技者はマネキンを運び，72.5 m地点から77.5 m地点の間のチェンジオーバーゾーン内で第4競技者にマネキンを手渡す。

H. 第4競技者：第4競技者はマネキンを運び，競技者の身体のいずれかの部分でフィニッシュ壁/縁をタッチすることで競技を完了する。

I. 競技者は，レースとマネキン受け渡しの各自の担当区間を完了した後，各自のレーンのチェンジオーバーゾーン内の水中に留まり，後続の受け渡しに近づかないようにせねばならない。そして，競技完了の合図があるまでそこに留まっていなければならない。

J. マネキンを運んで来る競技者と，それを受け取る競技者だけが，彼らのチェンジオーバーゾーンでのマネキンの手渡しに参加できる。マネキンを運んで来た競技者は，マネキンの頭部がチェンジオーバーゾーン内にある限り，マネキンを受け取る競技者を補助してもよい。

K. 常に（少なくとも）1人の競技者の手がマネキンに触れていなければならない。

L. スタートとリレーのチェンジオーバーゾーンは，旗，ポール又は三角コーン[52]で示される。

M. マネキンを受け渡しする競技者は，チェンジオーバーゾーン内でプールの底を押しても（蹴っても）よい。

N. スタートゾーン及びチェンジオーバーゾーン内では（S3-3で定義した）「マネキンを運ぶ（キャリー）場合」規準で判定されないが，競技者はマネキン受け渡し中を含め常に少なくとも一方の手でマネキンに接触し続ける必要がある。

注意：（S3-3で定義した）標準的な「マネキンを運ぶ（キャリー）場合」の規準は，リレーの最終競技者のフィニッシュに適用される。

O. マネキンの受け渡しは指定されたチェンジオーバーゾーン内で行わなければならないが，それはマネキンの頭頂部で判定する。

15.2 器材 Equipment

マネキン：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

15.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-3 にある規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 「S3-3マネキン」の解説のように，マネキンを正しくない方法で運んだ（DQ19），

B. マネキンを確保して水面に浮上する際，プールの付属品（例えば，レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品）を補助として用いた場合 — ただし，プールの底は含まれない（DQ17），

C. 第2競技者が壁/縁にタッチする前に第3競技者が折返し壁/縁/スターティングブロックとの接触を解いた場合（DQ40），

D. 指定されたチェンジオーバーゾーンの手前又はそれを超えた場所でマネキンが受け渡された場合（DQ41）。

E. （チェンジオーバーゾーンに）入ってくる競技者と出ていく競技者の引継ぎ中に，他の競技者から補助を受けた場合（DQ38），

F. 次の競技者がマネキンを掴む前に，競技者がマネキンを放した場合（即ち，各競技者の一方の手がマネキンに触れていなければならない）（DQ42），

G. マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに，マネキンを正しく運ぶ（キャリーする）状態にしなかった場合（DQ18），

H. 折返し壁/縁又はフィニッシュ壁/縁にタッチする前にマネキンを放した場合（DQ21），

I. 競技者がフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15），

J. 競技者が，リレーの自分の区間を完了した後~~（DQ 50）~~[53]，及びオールクリア（all-clear）の合図が出る前（DQ 60）に，水から出た場合，

---

[52] 【JLA 注釈】いわゆるロードコーン（road cone），パイロン（pylon）と呼ばれるもの。

[53] 【JLA 注釈】原文には（DQ50）が挿入されているが，これはラインスロー用の DQ コードなので，ここでは削除しておく。

K.　1人の競技者が，2つ又はそれ以上の区間に出場した場合（DQ39）。

16. 障害物リレー（4×50 m） OBSTACLE RELAY (4 x 50 m)

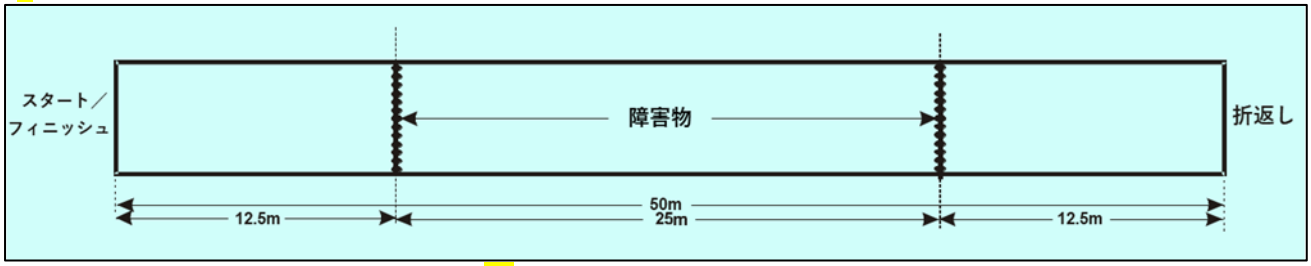


図 10：障害物リレー（4×50 m）

16.1 競技の説明 Event description

競技者 4 人が順に障害物の下をくぐりながら 50 m ずつ泳ぐ。

A. 第1競技者：音による合図で第1競技者は飛込みスタートし，2つの障害物の下を通過しながら自由形で50 m泳ぐ。

B. 第2，第3，第4競技者：第1競技者が折返し壁/縁にタッチした後，第2，第3，第4競技者が順に同じ手順を繰り返す。

C. 飛込後，競技者は最初の障害物の前までに，及び各障害物の下を潜った後水面に浮上しなければならない。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破って浮上することを意味する。

D. 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際，プールの底を蹴っても押してもよい。

E. 障害物に向かって泳ぐ又はぶつかるのは失格に至る行為ではない。

F. 第1，第2，第3競技者は，それぞれの区間が終了したら，他の競技者を妨害することなく，直ちに指定されたレーンから退水しなければならない。第1，第2，第3競技者は退水後，再度プールに入ってはならない。

16.2 器材 Equipment

障害物：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。障害物は全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。最初の障害物はスタートの壁から 12.5 m 地点に設置し，2 番目の障害物は逆のサイドから 12.5 m 地点に設置する。2 つの障害物の距離は 25 m とする。

16.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-2 にある規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 障害物の上を通過し，ただちに障害物の上又は下を戻り，その後下を潜り直さなかった場合（DQ11），

B. 飛び込んだ後，水面に浮上しなかった場合（DQ12），

C. それぞれの障害物を潜った後，水面に浮上しなかった場合（DQ13），

D. 水面に浮上する際，プールの付属品（レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合 — ただし，プールの底は含まれない（DQ17），

E. 前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者がスターティングブロックから離れた場合（DQ40），

F. 競技者がフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15），

G. 競技者が，リレーの自分の区間を完了した後，再度水に入った場合（DQ49），

H.　1人の競技者が，2つ又はそれ以上の区間に出場した場合（DQ39）。

17. メドレーリレー（4×50 m） MEDLEY RELAY (4 x 50 m)

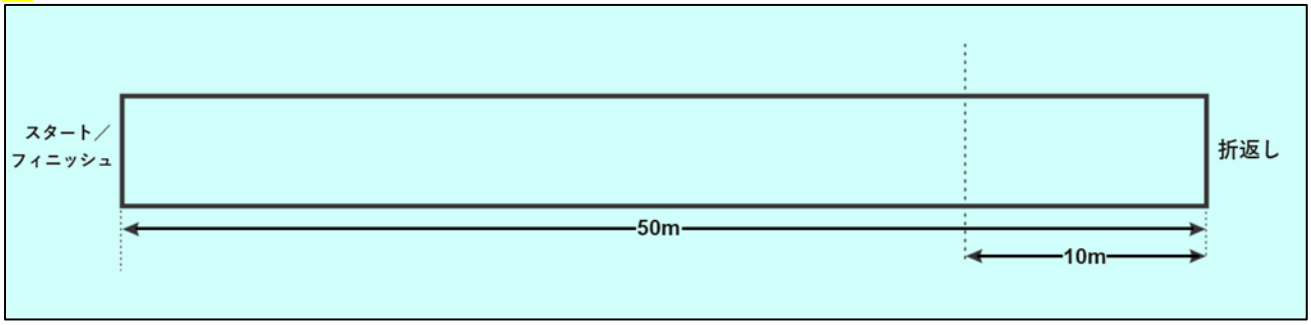


図 11：メドレーリレー（4×50 m）

17.1 競技の説明 Event description

競技者 4 人が順に異なる課題をこなしながら 50 m ずつ泳ぐ。

A. 第1競技者：第1競技者は，フィンを装着せずに音による合図で飛込みスタートし，自由形で50 m泳ぐ。

B. 第2競技者：第2競技者は，第1競技者が折返し壁/縁にタッチした後飛込みスタートし，フィンを装着して自由形で50 m泳ぐ。第2競技者は折返し壁/縁にタッチする前に水面を突き破って浮上する必要はない。

C. 第3競技者：第3競技者は，第2競技者が壁/縁にタッチした後飛込みスタートし，フィンを装着せずレスキューチューブを引いて自由形で50 m泳ぐ。第3競技者は折返し壁/縁にタッチする。

D. 第4競技者：（フィンを装着した）第4競技者は，水中に於いて少なくとも一方の手で折返し壁/縁又はスターティングブロックに触れ，ハーネスを着用する。第4競技者は，第3競技者が折返し壁/縁にタッチする前に，レスキューチューブ，そのハーネス又は紐に一方の手で触れる又は掴んでもよいが，第3競技者が縁にタッチするまで折返し壁/縁又はスターティングブロックに少なくとも一方の手を接触させておかねばならない。第4競技者は手，腕，又は足で壁/縁を押してもよい。

E. 第3競技者は「被救助者役」の役割を演じ，第4競技者にフィニッシュまで50 m引かれている間，レスキューチューブ及び/又はクリップを両手で掴む。

F. 被救助者役は10 mラインを通過する前にレスキューチューブに触れなければならない。レスキューチューブの紐は，「被救助者役」の頭部[54]が10 mラインを越えるとき，10 mラインよりフィニッシュ側で完全に伸びていなければならない。

注意：レスキューチューブの紐が被救助者役のキック力が原因で完全に伸びていない場合，チームは失格とならない。

G. 被救助者役は引っ張られている間キックしてよいが，第4競技者にその他の助力を与えることは許可されない。

H. 被救助者役はレスキューチューブ本体及び/又はクリップを掴まなければならない — 紐ではない。

I. 被救助者役は，引っ張られている間，レスキューチューブ（本体）及び/又はクリップを

[54] 【JLA 注釈】他の判定基準に鑑み，JLA 主催競技会においてこの「頭部」は「頭頂部」と読み替えて判定する。

両手で掴まなければならないが，引っ張られている間にチューブ（本体）及び/又はクリップ上で手の位置を変えても失格とはならない。

J. 第4競技者が，チューブに触れている被救助者役を伴ってプールのフィニッシュ壁/縁にタッチした時，競技は完了する。

K. 第1競技者と第2競技者は自分のリレー区間を終えたら他の競技者を妨害することなくプールから上がらなければならない。第1競技者と第2競技者は，（上がった後）再度プールに入ってはならない。

17.2 器材 Equipment

A. **レスキューチューブ，スイムフィン**：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したレスキューチューブを用いなければならない。

B. **スタート時のレスキューチューブ**：第3競技者のスタートにおいて，レスキューチューブ本体と紐は，競技者に指定されたレーン内であれば，競技者の判断で好きに配置してよい。競技者は，レスキューチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。レスキューチューブのクリップは常に外したままにしておく。

C. **レスキューチューブの装着**：レスキューチューブは正しく装着せねばならない — 競技者の判断で，ループ（肩掛け部分の紐の輪）を一方又は両方の肩にかけるか，肩から胸にかけるかする。レスキューチューブを正しく着用していたのであれば，競技者がアプローチしているとき又は引っ張っている間にループが競技者の腕又はひじに落ちても，失格にはならない。

D. **被救助者役を引っ張る**：競技者は，レスキューチューブの紐を完全に伸ばした状態で被救助者役を引っ張らなければならない。競技者は，被救助者役の頭頂部が10 mラインを越えていなければ，被救助者役を再度確保するために10 mのチェンジオーバーゾーン内に戻ってもよい。

E. **落としたフィンの回収**：競技者は，（マネキンが当該区間で使用されている場合）マネキンの扱い方に違反していない限り（「S3-3 マネキン」を参照），スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は，別のヒートで再度スタートすることはできない。

F. **レスキューチューブの不具合**：レース中，レスキューチューブ，紐及び/又はハーネス（ベルト）に技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断すれば，その競技者を別のヒートで再スタートさせてもよいが，それは，レスキューチューブが主催団体から提供され，全ての競技者は提供されたレスキューチューブを使わねばならない規則になっている場合に限る。

17.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-3 にある規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 前の競技者が壁/縁にタッチする前に，スターティングブロックを離れた場合，又は，折返し壁/縁/スターティングブロックとの接触を解いた場合（DQ40），

B. 競技者がレスキューチューブのクリップをリングにかけた場合（DQ44），

C. 被救助者役がレスキューチューブの紐を掴んでいる場合（DQ45），

D. 被救助者役が腕を動かして協力したり，又はレスキューチューブ及び/又はクリップを両手で掴んでいない場合（DQ46），
E. 10 mラインを越えた後に，被救助者役がレスキューチューブを保持していない又は放してしまった場合（DQ47），
F. 10 mラインを越えた後[55]，レスキューチューブの紐が完全に伸ばされずに第4競技者が被救助者役を引っ張った場合（DQ48），
G. 1人の競技者が，2つ又はそれ以上の区間に出場した場合（第3競技者が被救助者役になることを除く）（DQ39），
H. 競技者がフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15），
I. 競技者が，リレーの自分の区間を完了した後に再度水に入った場合（DQ49）。

[55] 【JLA 注釈】被救助者役（第 3 競技者）の頭頂部が 10 m ラインを超えた後，という意味である。

18. プールライフセーバーリレー（4×50 m） POOL LIFESAVER RELAY (4 x 50 m)

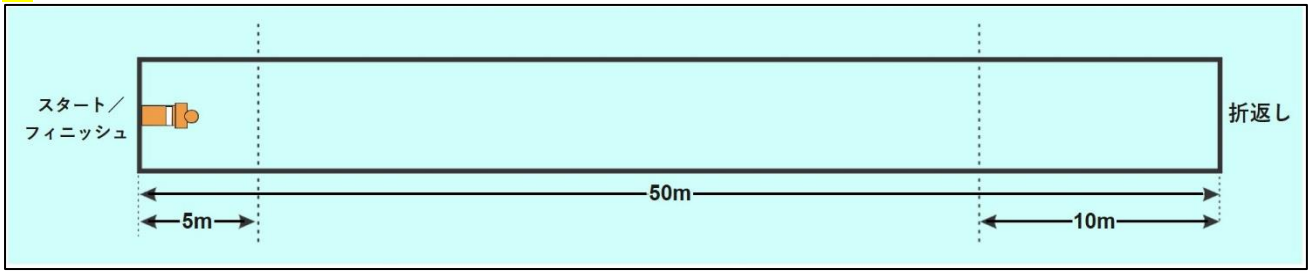


図 12：プールライフセーバーリレー（4×50 m）

18.1 競技の説明 Event description

競技者 4 人が順に異なる課題をこなしながら 50 m ずつ泳ぐ。

A. **第1競技者**：音による合図で第1競技者は飛込みスタートし，フィンを付けずに自由形で50 m泳ぐ。

B. **第2競技者**：第2競技者はフィンを付け，第1競技者が壁/縁にタッチした後飛込みスタートして50 m泳ぎ，潜って水中のマネキンを引き上げる。第2競技者は，第3競技者へマネキンを引き継ぐ前に，折返し縁にタッチする必要はない。

注意：第2競技者は，マネキンと共に水面に浮上するまでの全区間水中を泳いでもよい，又は，スタートしてからマネキンを引き上げるため潜る前までに，1回以上水面に浮上してもよい。

C. **第3競技者**：第3競技者は少なくとも一方の手で折返し壁/縁又はスターティングブロックに接触し，水中でフィンをつけずに待機しておく。第3競技者は，マネキンの頭部が水面に浮上する前に，一方の手でマネキンに触れても又は掴んでもよい。マネキンの頭部が水面に浮上した後，第3競技者は，折返し壁/縁又はスターティングブロックとの接触を解いてよい。第2競技者は，マネキンと共に浮上した後折返し壁/縁にタッチする必要は無いが，第3競技者がマネキンを掴むまで第2競技者はマネキンを離してはいけない（即ち，少なくとも1人の競技者の手が常にマネキンと接触していなければならない）。そして第3競技者はマネキンを50 m運び（キャリー），マネキンを第4競技者に引き継ぐ前に，壁/縁にタッチする。

D. **第4競技者**：（フィンを装着した）第4競技者は水中に於いて，折返し壁/縁又はスターティングブロックに少なくとも一方の手で接触しておく。第4競技者は，第3競技者が壁/縁にタッチする前に，一方の手でマネキンに触れても又は掴んでもよい。第4競技者は，第3競技者が折返し壁/縁にタッチするまで，折返し壁又はスターティングブロックとの接触を解いてはならない，そして，第4競技者がマネキンを掴むまで第3競技者はマネキンを離してはいけない（即ち，各競技者の一方の手が常にマネキンと接触していなければならない）。そして第4競技者はマネキンを運び（キャリー），競技者の体のいずれかの部分でフィニッシュ壁/縁にタッチする。

E. （チェンジオーバーゾーンに）入って来る第2及び第3競技者は，出ていく競技者を補助してもよいが，それはマネキンの頭部がチェンジオーバーゾーン内にある場合に限る。

F. マネキンキャリー区間のチェンジオーバーゾーンは旗，ポール又は三角コーン[56]で示される：
- 第 2 競技者から第 3 競技者への引継ぎ — プール壁から 5 m,
- 第 3 競技者から第 4 競技者への引継ぎ — プール壁から 10 m。

G. 競技者は以下（の地点）ではマネキンを正しい運ぶ（キャリーする）姿勢にせねばならい：
- 第 3 競技者－プール壁から 5 m
- 第 4 競技者－プール壁から 10 m

H. 競技者は，次の競技者がマネキンを掴むまで，マネキンから手を放してはならない（すなわち，各競技者は，一方の手がいつもマネキンに触れていなければならない）。

I. マネキンの頭頂部がチェンジオーバーゾーン内にあれば，第3競技者及び第4競技者は「マネキンを運ぶ（キャリー）」の規則（S3-3で定義）は適用されない。「マネキンを運ぶ（キャリー）」の規則は，リレーの最後のフィニッシュゾーン内においてでも適用される。

J. 第3競技者及び第4競技者は，それぞれの区間でマネキンを受け取った後，プールの壁を手，腕又は足で押してもよい。

K. 第4競技者がマネキンを正しく運び，競技者の身体のいずれかの部分でフィニッシュ壁/縁にタッチすることで競技完了となる。

L. 第1，第2，第3競技者は，それぞれの区間が終了したら，他の競技者を妨害することなく退水しなければならない。退水後は，再度プールに入ってはならない。

M. **落としたフィンの回収**：競技者は，（マネキンが当該区間で使用されている場合）マネキンの扱い方に違反していない限り（「S3-3 マネキン」を参照），スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は，別のヒートで再度スタートすることはできない。

注意：LWCでは，各チームは男性2人，女性2人から構成される。JLA主催競技会でも，各チームは男性2人，女性2人から構成される。
男女が泳ぐ順番はチームが選んでよい。

18.2 器材 Equipment

マネキン：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

スイムフィン：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

18.3 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-3 にある規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 「S3-3マネキン」の解説のように，マネキンを正しくない方法で運んだ（DQ19），

B. プールの付属品（レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合 — ただし，プールの底は含まれない（DQ17），

C. 第3競技者が，マネキンの頭部が水面に浮上する前に壁/縁との接触を解いた場合

---

[56] 【JLA 注釈】いわゆるロードコーン（road cone），パイロン（pylon）と呼ばれるもの。

（DQ59），

D. マネキンの頭頂部が5 mラインを通過する前までに，第3競技者がマネキンを正しく運ぶ（キャリーする）状態にしなかった場合（DQ18），

E. （チェンジオーバーゾーンに）入ってくる競技者と出ていく競技者との間の引継ぎ中に，他の競技者から補助を受けた場合（DQ38），

F. 次の競技者がマネキンを掴む前に，競技者がマネキンを放した場合（すなわち，各競技者の一方の手がマネキンと接触していなければならない）（DQ4），

G. マネキンの頭頂部が10 mラインを通過する前に，第4競技者がマネキンを正しく運ぶ（キャリーする）状態にしなかった場合（DQ23），

H. 競技者がフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15），

I. 1人の競技者が，2つ又はそれ以上の区間に出場した場合（DQ39）

J. 前の競技者が壁/縁にタッチする前に，スターティングブロックを離れた場合，又は，折返し壁/縁/スターティングブロックとの接触を解いた場合（DQ40），

K. 競技者が，リレーの自分の区間を完了した後に再度水に入った場合（DQ49）

19. レスキュートウリレー（4×50 m） RESCUE TOW RELAY (4 x 50 m)

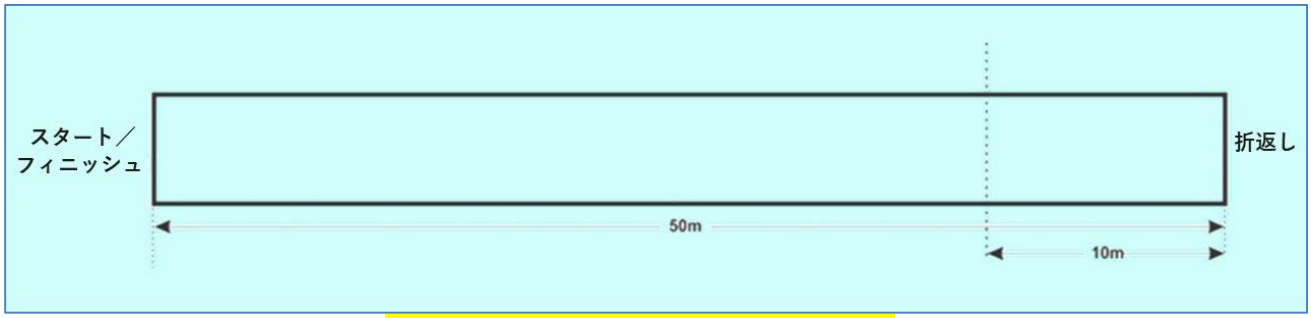


図 13：レスキュートウリレー（4×50 m）

19.1 競技の説明 Event description

4 人の競技者は，それぞれ異なる課題をこなしながら 50 m を順番に泳ぐ。

A. 第1競技者：音による合図で第1競技者は飛込みスタートし，フィンを付けずに自由形で50 mを泳ぐ。

B. 第2競技者：第2競技者は，第1競技者が壁/縁にタッチした後，飛込みスタートし，フィンを装着した状態で自由形で50 mを泳ぐ。

C. 第3競技者：第3競技者は，第2競技者が壁/縁にタッチした後，飛込みスタートをし，フィンを装着した状態でレスキューチューブをトウ（tow）しながら自由形で50 mを泳ぐ。（レスキュアーとしての役割を担う）第3競技者は折返し壁/縁にタッチする。

D. 第4競技者：（被救助者役としての役割を担う）第4競技者は，水中にて少なくとも片方の手を折返し壁/縁又はスターティングブロックに触れた状態で待機する。第3競技者が折返し壁/縁にタッチするより前であっても，第4競技者は片方の手でレスキューチューブ，ハーネス，又は紐部分に触れる又は掴む事が許される。第3競技者が折返し壁/縁にタッチするまで，第4競技者は折返し壁又はスターティングブロックから手を放してはいけない。
注意：第3競技者は，折返し壁/縁をタッチするより前に第4競技者に意図せず触れてしまったとしても，これをもって失格にはならない。

E. 第3競技者がプールの折返し壁/縁にタッチし次第，第3及び第4競技者は折返し壁/縁又はスターティングブロックから手を放し，レスキューチューブの装着を開始してよい。

F. レスキュアー及び/又は被救助者役は，レスキューチューブを被救助者役の両腕の下の胴体に巻き付け，オーリングにフックをかける。

G. レスキュアー及び被救助者役は，折返し壁/縁から離れなければならない。被救助者役は，10 mラインを通過するまでに，レスキューチューブが体に巻かれクリップ留めされて確保されていなければならない。被救助者役の頭頂部が10 mラインを越えるまでに，レスキューチューブの紐が完全に伸び切った状態になっていなければならない。
注意1：被救助者役のキックによる推進力によりレスキューチューブの紐が完全に伸び切っていない状態になったとしても，これをもって失格とはならない。
注意2：レスキュアー 及び/又は 被救助者役は，折返し壁を押しても良い。

H. 10 mラインの外側においては，被救助者役は背を下にてトウされねばならず，レスキューチューブが巻かれクリップした以外のいかなる方法でもトウされてはならない。

I. 10 mラインの外側においては，被救助者役は水面下におけるスカーリング及びキックによ

り推進を補助する事が出来るが，バックストローク（背泳ぎ）や水面上でのリカバリー行為を伴う泳法を取ってはならない。

注意：被救助者役がストリームラインを確保する為，頭部上部に両腕を配置し直す行為は，これをもって失格とはならない。

J. レスキュアーが，レスキューチューブが巻かれクリップ留めした被救助者役を伴い，フィニッシュ壁/縁にタッチする事で競技完了となる。

K. 第1及び第2競技者は，それぞれの区間が終了し次第，他の競技者を妨害することなく直ちに退水しなければならない。第1及び第2競技者は，退水後は再度入水してはならない。

19.2 器材 Equipment

A. レスキューチューブ及びフィン：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照の事。競技者は主催者の準備したレスキューチューブを用いなければならない。

B. スタート時のレスキューチューブ：第3競技者がスタートするにあたり，レスキューチューブ及びその紐について，各自のレーン内であれば，第3競技者は自由に配置する事ができる。競技者は，安全且つ適切にレスキューチューブ及び紐を配置することとする。レスキュアーが被救助者役を確保するまで，レスキューチューブはクリップされていない（unclipped）ままであること[57]。

C. レスキューチューブの装着：レスキューチューブは正しく装着されなければならず，競技者の判断で，ループ（肩掛け部分の紐の輪）を一方または両方の肩にかけるか，又は肩から胸にかける。レスキューチューブを正しく装着していたのであれば，（被救助者役に向かって）接近する，又は（被救助者役）を引っ張る（トウする）間に，ループが競技者の腕又は肘に落ちても，失格の原因にはならない。

D. 被救助者役のトウ：レスキュアーは，被救助者役の体にレスキューチューブを巻きクリップ留めし，且つレスキューチューブの紐が完全に伸び切った状態で，被救助者役をトウせねばならない。「被救助者役の」 頭頂部が10 mラインを越えていなければ，被救助者役を再度確保するために，レスキュアーは10 mのチェンジオーバーゾーン内に戻る事が出来る。

E. 落としたフィンの回収：競技者は，（トウが当該区間で行われる場合，）被救助者役のトウに関する競技規則に違反していない限り（「S3-3マネキン」を参照），スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続する事が出来る。競技者は別のヒートで再度競技を行う事は出来ない。

F. レスキューチューブの不具合：レース中，レスキューチューブ，紐 及び/又は ハーネス（ベルト）に技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断すれば，チーフレフリーはその競技者を別のヒートで再スタートさせてもよいが，それは，レスキューチューブが主催団体から提供され，全ての競技者は提供されたレスキューチューブを使わねばならない規則になっている場合に限る。

19.3 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S3-1 から S3-2 にある規則に加えて，以下の行為は失格になる：

---

[57] 【JLA 注釈】オーリングにクリップがかけられていない状態と解釈する。

A. 前競技者が折返し壁/縁にタッチする前に，第4競技者が折返し壁/縁/スターティングブロックから手を放した場合（DQ40）

B. （水深が浅い事により，競技者の足がプール底面に付いてしまう場合を除き，）被救助者役をレスキューチューブ内に確保する際，プールのいかなる付属品（例：レーンロープ，階段等）を補助として用いた場合（DQ17）

C. 競技者（レスキュアー）が折返し縁/壁にタッチする前に，同競技者がレスキューチューブのフックをO型リングにかけた場合（DQ30）

D. 10 mラインを通過するまでに（被救助者役の頭頂部によって判断される），レスキューチューブが被救助者役に適切に装着されていない場合（DQ61）

E. 被救助者役が10 mラインを通過して以降，レスキュアーがフィニッシュ縁/壁にタッチするまでの間に，被救助者役がレスキューチューブから外れてしまった場合（但し，「19.2 器材　レスキューチューブの不具合」に記載の技術的な不具合を除く）（DQ62）

F. 被救助者役が，仰向けで，クリップ留めしたレスキューチューブ内で確保され，レスキュアーより後ろに位置してトウされていない場合（DQ63）

G. 被救助者役が，背泳又は水面上での腕のリカバリーを伴う何らかの泳法で泳いだ場合（DQ64）

注意：被救助者役が，引っ張る（トウする）ことを補助する為に水面下でスカーリングを行う行為，又はストリームラインを確保する為，頭部上部に両腕を配置し直す行為は，これをもって失格とはならない。

H. レスキュアーよりも先に，被救助者役がフィニッシュ縁/壁にタッチした場合（DQ65）

I. 1人の競技者が，2つ又はそれ以上の区間に出場した場合（DQ39）

J. フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合（DQ15）

K. 競技者が，リレーの自分の区間を完了した後に再度水に入った場合（DQ49）

20. プール競技失格コード表 DISQUALIFICATION CODES FOR POOL EVENTS

コード及び失格内容 Code and Disqualification		競技種目 Events
1.	競技の説明又は共通競技総則に沿って競技しなかった。	全競技種目
2.	チーム，競技者及びハンドラーが不正行為をした場合，競技者又はチームは失格となる。不正行為には下記のような例が含まれる： • ドーピング又は，ドーピングに関連した違反行為， • 他の競技者になりすますこと， • 競技順や位置決めの投票又は抽選で不正を試みること， • 同じ個人種目に 2 度出場すること， • 他のチームの競技者として同じ種目に 2 度出場すること， • コースで自分が優位になるために故意に妨害すること， • 他の競技者又はハンドラーを押して進路を妨害すること， • 競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けること（口頭又はその他の指示を除く）， • （フェアプレー規範に記載の）競技会の精神に反して参加すること。	全競技種目
3.	招集場所への集合に遅れた競技者は，競技をスタートすることができない。これは「did not start」(DNS)又は類義の表現でリザルトシートに記載される。	全競技種目
4.	競技のスタートに不在だった競技者又はチームは，A又はB決勝を除いて，失格となる。これは「did not start」(DNS)又は類義の表現でリザルトシートに記載される。	全競技種目
5.	会場施設，宿泊施設又は他者の所有物を故意に破壊する行為は，個人としての失格，又は競技会全体での失格となる。	全競技種目
6.	競技会全体での失格となるオフィシャルへの侮辱。	全競技種目
7.	プールの底を蹴りやすくするために，手や足又はマネキンやレスキューチューブに粘着性のある物（液体・固形・煙霧質）を用いた場合。	全競技種目
8.	特に認められた場合（例えば，障害物スイム，4×25 mマネキンリレー）を除き，プールの底を補助に用いた場合。	全競技種目
9.	レース終了後，ジャッジの許可がある前に，水から出た場合。	全競技種目

コード及び失格内容　Code and Disqualification	競技種目　Events
10. 競技者がスタートの合図の前に，前方へのスタート動作を開始した場合。	全競技種目
11. 障害物の上を通過し，ただちに障害物の上又は下を戻り，その後下を潜り直さなかった場合。	障害物スイム 障害物リレー
12. 飛び込んだ後又は折返した後，障害物の下を潜る前に浮上しなかった場合。	障害物スイム 障害物リレー
13. それぞれの障害物を潜った後に浮上しなかった場合。	障害物スイム 障害物リレー
14. 折返しの際，壁/縁にタッチをしなかった場合。	障害物スイム
15. フィニッシュの壁/縁にタッチしなかった場合。	全競技種目
16. マネキンに向かって潜る前に水面に浮上しなかった場合。	マネキンキャリー マネキンライフセーバーメドレー
17. マネキンと共に水面に浮上する際，（当該競技で活用可能な）プールの付属品（例えば，レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品）を補助として用いた場合ーただし，指定されている場合[58]，プールの底は含まない。	障害物スイム 障害物リレー マネキンキャリー マネキンキャリー・ウィズフィン マネキンライフセーバーメドレー ラインスロー マネキンリレー レスキューメドレー スーパーライフセーバー プールライフセーバーリレー レスキュートウリレー
18. （フィンを装着しないで運ぶ場合）マネキンの頭頂部が5 m ラインを越えるまでに，マネキンを正しく運ぶ（キャリー）状態で確保していなかった場合。	マネキンキャリー マネキンリレー レスキューメドレー スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
19. （S3-3に記述の通り）正しくないマネキンを運ぶ（キャリーする）方法を用いた場合。	マネキンキャリー マネキンキャリー・ウィズフィン レスキューメドレー スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー マネキンリレー プールライフセーバーリレー

[58] 【JLA 注釈】原文では表現が簡略されているのでここでは敢えて意味を補わず直訳しているが，ここは「特に指定がない限り，プールの底は．．．」と解釈する。

コード及び失格内容　Code and Disqualification	競技種目　Events
20.　マネキンの顔を水面より下にして運んだ場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
21.　フィニッシュの壁/縁又は折返し壁/縁にタッチする前に，マネキンを放した場合。	マネキンキャリー マネキンキャリー・ウィズフィン レスキューメドレー スーパーライフセーバー マネキンリレー マネキンライフセーバーメドレー
22.　折返し後，マネキンを引き上げる前に浮上した場合。	レスキューメドレー
23.　（フィンを装着して運ぶ場合）マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに，マネキンを正しく運ぶ（キャリー）状態で確保していなかった場合。	マネキンキャリー・ウィズフィン プールライフセーバーリレー
24.　レスキューチューブをマネキンに巻きつける際，プールの水深が浅くてマネキンにチューブを装着する間競技者が立つことができる状況で[59]，プールの付属品（例えば，レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの備品）を補助として用いた場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
25.　マネキンハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合，又は競技者がマネキンを掴んだ後，マネキンハンドラーが再度マネキンに触れた場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
26.　50 m/150 m地点で，競技者がマネキンに故意に触れる前にプール壁/縁にタッチしなかった場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
27.　競技者が（先に折返し壁/縁にタッチした後）意図的にマネキンに触れた後，及び，マネキンライフセーバーリレーに限定すると，競技者がフィン，レスキューチューブを装着し，マネキンに意図的に接触した後，マネキンハンドラーがただちにマネキンを放さなかった場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
28.　マネキンハンドラーが，マネキンを競技者の方，又はフィニッシュ壁/縁に向けて押した場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー

[59] 【JLA 注釈】英文をそのまま直訳しているが，「プールの水深が浅くてマネキンにチューブを装着する間競技者が立つことができる状況で」の条件節は十分校閲されぬまま挿入された可能性がある。ここでは，水深が浅くてプールの底を利用する（立つ）ことを除いて，プールの付属品を補助として用いると失格である，ということを意図しているものと解釈する。

コード及び失格内容　Code and Disqualification	競技種目　Events
29. マネキンハンドラーが競技中故意に水に入った場合，水に入り他の競技者を妨害した場合，又は競技の判定に干渉した場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
30. 競技者が折返し壁/縁にタッチする前に，レスキューチューブのクリップをリングにかけた場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
31. レスキューチューブをマネキンの周りに正しく巻いて確保しなかった場合（即ち，マネキンの胴体及び両腕の下に巻いていない，及びクリップをオーリングにかけていない）。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
32. 10 mピックアップゾーン内（マネキンの頭頂部で判定する）で，マネキンに正しくレスキューチューブを巻かなかった場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
33. マネキンを引っ張る代わりに押したり，運んだ（キャリーした）場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
34. マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに，レスキューチューブの紐が完全に伸ばされていない場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
35. 10 mラインを越えた後，レスキューチューブの紐が完全に伸ばされた状態でマネキンを引っ張っていない場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
36. レスキューチューブがマネキンに正しく巻かれた後，外れた場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
37. レスキューチューブとマネキンが所定の位置にない状態でフィニッシュ壁/縁をタッチした場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー マネキンライフセーバーメドレー
38. マネキンを運んでいる競技者と次にマネキンを受け取る競技者以外の競技者が，チェンジオーバーのために助力を与えた場合。	マネキンリレー プールライフセーバーリレー
39. 1人の競技者が，2つ又はそれ以上の区間に出場した場合。	障害物リレー マネキンリレー メドレーリレー プールライフセーバーリレー レスキュートウリレー
40. 前の競技者が壁/縁にタッチする前に，（次の競技者が）ス	障害物リレー

コード及び失格内容　Code and Disqualification		競技種目　Events
	ターティングブロックを離れた場合，又は，折返し壁/縁/スターティングブロックとの接触を解除した場合。	マネキンリレー メドレーリレー プールライフセーバーリレー レスキュートウリレー
41.	指定されたチェンジオーバーゾーンの手前又はそれを超えた場所でマネキンが受け渡された場合。	マネキンリレー
42.	次の競技者がマネキンを掴む前に，競技者がマネキンを放した場合（即ち，各競技者の一方の手がマネキンに触れていなければならない）。	マネキンリレー プールライフセーバーリレー
43.	削除	
44.	競技者がレスキューチューブのクリップをリングにかけた場合。	メドレーリレー
45.	被救助者役がレスキューチューブの紐を掴んでいる場合。	メドレーリレー
46.	被救助者役が腕を動かして協力したり，又はレスキューチューブ及び/又はクリップを両手で掴んでいない場合。	メドレーリレー
47.	10 mラインを越えた後に，被救助者役がレスキューチューブを保持していない又は放してしまった場合。	メドレーリレー
48.	10 mラインを越えた後，レスキューチューブの紐が完全に伸びていない状態で第4競技者が被救助者役を引っ張った場合。	メドレーリレー
49.	競技者が，リレーの自分の区間を完了した後に再度水に入った場合。	障害物リレー メドレーリレー プールライフセーバーリレー レスキュートウリレー
50.	被救助者役が，フィニッシュ壁/縁まで引っ張ってもらうラインを，身体のいずれかの部分を使って回収又は掴む時に，手でクロスバーを掴み続けていなかった場合。	ラインスロー
51.	ラインスロアーがスタート合図後，45秒の音による終了合図までに，指定されたスローゾーン内に留まらず，その競技の他チームを妨害した場合。	ラインスロー
52.	ラインスロアーが被救助者役をプールのフィニッシュ壁まで戻すのに腕を使って引き寄せるのではなく，ラインを手で掴んで又は身体の一部に巻き付けて歩いた又は走った場合。 必須ではないが，スロー及び被救助者役の手繰り寄せのためのエリアを明確にするため，プール壁の垂直エッジ（縁）から約2.0 m後方で，床にライン又は一時的なロープ又はテープのバリアを設置することができる。このエリア	ラインスロー

コード及び失格内容　Code and Disqualification	競技種目　Events
内であれば，スロアーの後方への移動は失格とはみなされない。	
53. 被救助者役が45秒のレース完了の音による合図の前に，水中から出た場合。	ラインスロー
54. 被救助者役が自分のレーンの外にあるスローラインを掴んだ場合。	ラインスロー
55. 被救助者役がフィニッシュ壁/縁まで引っ張られている間，前を向いていなかった場合。	ラインスロー
56. 被救助者役がフィニッシュ壁/縁まで引っ張られている間，両手でスローラインを掴んでいない場合（壁/縁にタッチするために一方の手をスローラインから放すことは認められる）。	ラインスロー
57. 被救助者役がスローラインを「登るように」手繰り寄せた場合[60]。	ラインスロー
58. スロアーがラインを投げる練習をした場合。	ラインスロー
59. マネキンの頭部が水面に浮上する前に，第3競技者が壁/縁との接触を解いた場合。	プールライフセーバーリレー
60. マネキンリレーの競技者が，リレーの担当区間を完了後，及びオールクリア（問題なし）の合図が出される前に水から上がった場合。	マネキンリレー
61. （被救助者役の頭頂部で判断して）10 mラインを通過する前までに，レスキューチューブが被救助者役の周りに装着されなかった場合。	レスキュートウリレー
62. 10 mラインを通過しレスキュアーがフィニッシュ縁/壁にタッチするまでに，（チューブの技術的欠陥以外でーチューブの欠陥ノート参照）被救助者役がレスキューチューブから離れた場合。	レスキュートウリレー
63. 被救助者役が，仰向けでない，レスキューチューブにクリップ装着されていない，レスキュアーの後方にいない，状態でトウされた場合。	レスキュートウリレー
64. 被救助者役が背泳又は水面から腕を出すリカバリーを伴う何らかの泳法で泳いだ場合。 注意：被救助者役がトウされることを助けるため水中でスカーリングすること，及び，被救助者役がストリームラインを確保する為，頭部上部に両腕を配置し直すことは失格ではない。	レスキュートウリレー

[60] 【JLA 脚注】スローラインを掴んだ後，スロアーに引っ張られているときに適用される DQ コードと解釈する。

コード及び失格内容　Code and Disqualification	競技種目　Events
65.　被救助者役がレスキュアーより前にフィニッシュ縁/壁にタッチした場合。	レスキュートウリレー

注意：ラインスロー競技において，45 秒の音による競技終了合図までに被救助者役をフィニッシュの壁まで引っ張って来れなかった場合は，失格（DQ）ではなく，DNF（Did Not Finish =終了しなかった）となる。

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

第 4 章
ビーチ及びオーシャン競技
BEACH AND OCEAN EVENTS

第 4 章　ビーチ及びオーシャン競技
BEACH AND OCEAN EVENTS

この章では，以下のオーシャン競技種目について述べる：

- サーフレース，
- サーフチームレース，
- レスキューチューブレスキュー，
- レスキューチューブレース，
- ランスイムラン，
- ビーチフラッグス，
- ビーチスプリント，
- ビーチラン — 2 km 及び 1 km，
- 3 x1 km ビーチランリレー，
- ビーチリレー，
- サーフスキーレース，
- サーフスキーリレー，
- ボードレース，
- ボードリレー，
- ボードレスキュー，
- オーシャンマン/オーシャンウーマン（及びオリンピック“M”フォーマットバリエーション），
- オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー，
- オーシャンライフセーバー混合リレー（オーシャンマンオーシャンウーマンリレーのバリエーション）。

1. オーシャン競技[61]の一般規則　GENERAL CONDITIONS FOR OCEAN COMPETITION

チームマネージャー及び競技者は，競技スケジュール，競技規則及び競技の方法に精通している責任を有する。

A. 競技者は，マーシャルエリアへの集合が遅れた場合，競技を始めることができない。いくつの予選が必要かを主催者が判断するため，競技が予定されている前日又は当該競技種目実施日の初めに招集してもよい。

B. 競技のスタート時に不在だった競技者又はチームは失格となる。

C. 特別に規定されていない限り，推進力を向上させる人工的な補助具を競技において使用してはならない（例えば，水かき，アームバンド）。

D. オーシャン競技種目において，競技者がボード，サーフスキー，パドルを掴む又は接触し続けるのを補助するため，ワックス又は類似物質を使用することは認められる。

---

[61] 【JLA 注釈】ILS 競技規則 2023 版からこの章のタイトルが「Beach and Ocean Events（ビーチ及びオーシャン競技）」に修正されたが，本文中の修正が間に合っておらず「Ocean Events（オーシャン競技）」とだけ書かれている箇所が散見される。JLA 競技規則 2023 年版では修正せず英語版の表記の通りとし，適宜「ビーチ及びオーシャン競技」と読み替える。

E. 競争で優位にならない限り，予防的，医療的，治療的，運動学的目的で用いられるボディテープは，チーフレフリーの判断で認可される。

F. ビデオカメラは，第8章の要件を満たしている限り，ボード及びサーフスキーに取り付けてよい。ビデオカメラは，レースのスタートからフィニッシュまでの間，競技者が着用又は競技者に取り付けることはできない。

G. すべての競技種目において，競技者は自クラブ又はナショナルチームのスイムキャップを着用しなければならない。オーシャン競技でのキャップは，顎の下でしっかり締められ，各レースのスタートにおいて競技者は頭部にかぶっていなければならない。

H. 競技者が正しく競技を終了したとオフィシャルが確認できる場合，レースの開始後にキャップを失っても競技者は失格とはならない。

I. **競技コース**：コースに対する抗議は，各種目又はレースのスタート前に限り受け付ける。

- 全てのレーンが可能な限り公平で同じ条件となるよう，チーフレフリーは，全てのコースの測定，設定及び配置を，納得いくまで調整することができる。
- ILS/JLA のイベントマネジメント委員会及びチーフレフリーは，競技を安全に，公正に判定し，効率的に運営するため，コースの調整を許可することができる（例えば，距離，レーン又はブイの数，1 レース当たりの競技者の人数）。いずれのコース変更も，レースのスタート前に競技者に伝達されなければならない（例えば，チームマネージャーミーティング時や，マーシャルエリアにおいて，又はスタートの時に）。
- コース全体を通して競技者を正確に導くため，色でコード化したブイ及び旗の使用が推奨される。
- ブイまでの距離は，干潮時の膝の深さ位置から測定する。ただし，距離は，浜の状態及び安全を考慮して変わることがある。競技中にブイが列からずれた場合，ブイの調整が必要となることがある。
- クラフト種目の競技者は，ブイやロープによって進路が妨げられた時の責任は競技者自身にあることを理解した上で，クラフトに乗ってスイムブイの間を通過してもよい。

J. 競技者及びオフィシャルは，競技に出場していないとき，又は審判を務めていないとき，競技エリアから出なければならない。競技エリアは，ラインやフェンスで囲われた浜の区画，又はラインやフェンスの先端から海にまっすぐ伸ばしたライン又はチーフレフリーが特定した区画である。

K. フィニッシュジャッジの着順判定は抗議又は上訴の対象とはならない。

L. スターター又はチーフレフリー（又はチーフレフリーが指定した者）によるスタートの決定は抗議又は上訴の対象とはならない。

M. 自然現象による不利益：自然現象による不利益に伴い発生した出来事は，抗議又は上訴として扱われない（S2-7を参照のこと）。

2. スタート　THE START

2.1 スタート前　Prior to the start

A. マーシャルは：

- 全ての予選及び/又は決勝で，くじで引いた通りの順に競技者を配置する，

- スタートエリアまで競技者及び器材に付き添い，競技者が正しい順に並ぶようにする。

B. 各レースのスタート前，指定されたテクニカルオフィシャルは：
- 全てのオフィシャルが配置についているか確認する，
- 競技者が正しいスタートのため適切な服装及びキャップを着用しているか確認する，
- 器材及びコースの目印が設置されているか確認する。

C. 指定されたオフィシャル，例えばセクショナルレフリーは，競技者がスターターの管理下にあることをスターターに合図する。

2.2 スターター The Starter

スターターは：

A. 合図をする時からレースがスタートするまで，競技者を単独で掌握する，

B. スタートの手順を行っている間，全ての競技者を十分目視できる場所に位置する，

C. 全てのレースのスタートが一貫しており公正であることを確かめる，

D. 不正スタートをした競技者を失格とする（又はビーチフラッグスにおいて，競技者を除外する）。

2.3 スタートの手順 Start procedures

競技をスタートする手順は 3 ステップで，「Take Your Marks（位置について）」を表す合図又は号令により始まり，「Set（用意）」を表す合図又は号令が続き，その後，「Go（ドン）」を表すスタート合図又は号令が続く。

ビーチスプリントでのコマンドは，単に口頭コマンド「Take Your Marks」に続いて口頭コマンド「Set」，そして通常はスタート・ガン（starting gun），エアホーン，電子ブザー又は笛によるスタート（「Go」）の合図が続く。

ビーチ上のライン又は紐で開始するサーフレース又はその他類似の競技種目の場合，「Competitors place your toes on or bihind the Line[62]」のような口頭コマンドは「Take your Marks」と同等である。その次の口頭コマンドは「Set」又は「You are in the Starters Hands[63]」である。そしてスタート（「Go」）の合図が，スタート・ガン，エアホーン，笛又はその他適切な方法で与えられる。

同様に，サーフスキーレースのように水中から開始する競技の場合，「competitors to enter the water[64]」を意味する口頭コマンドは「Take your Marks」と同等である。「Set」コマンドは，口頭での「Set」又は「You are in the Starters Hands」又はオフィシャルが信号旗を高く掲げてスタートが目前に迫っていることを示す，のいずれかでよい。それからスタート（「Go」）合図が，スタート・ガン，エアホーン，笛，又はその他適切な手段によって出される。

---

[62] 【JLA 注釈】参考訳：競技者はつま先をライン上又はラインより後ろ（手前）に置くように。

[63] 【JLA 注釈】参考訳：スターターがあなた方を掌握している／あなた方はスターターの手中にある。

[64] 【JLA 注釈】参考訳：競技者は入水せよ

スタートの手順は，チームマネージャー及び/又は競技者ブリーフィングで説明してもよい。ビーチフラッグス，サーフボート競技[65]，IRB 競技のスタート手順については，それぞれ個々の競技種目の規則を参照のこと。何らかの理由で，スターターがいずれかの号令の後で競技者と話す必要があった場合，スタートの手順をやり直すこと。

A. 何らかの理由で，競技者がスタート位置に付いた後，スターターがスタート準備に満足できない場合，スターターは全ての競技者にスタート位置から離れるよう指示を出し，再スタートをする。

B. スターターは，公正なスタートのためあらゆる努力を尽くすが，スタート合図の「Go（ドン）」の判断は，競技者又はチーム次第である。スターター，チェックスターター又はチーフレフリーにより呼び戻されなかった場合，スタートに関する抗議又は上訴は認められない。

C. スイム，ボード，サーフスキー（ドライスタートの場合），及び複数分野競技（multi-discipline events）の競技者は，スタート後，他の競技者を妨害しなければ，自身の裁量で入水してよい。

D. リレー又は複数分野競技において，最初の区間終了後，第2区間以降の競技者が入水する時，海から上がってくる競技者の進路を妨害した場合は失格とみなされる。

2.4 スタートライン Start lines

A. スタートラインは，次のうちのどれかによって設定される：

- 2 本のポール間の鮮やかな色のコード（紐），
- 2 本のポール間の砂上に引かれたライン，
- 2 本のポール間を結んだ目視ライン，又はスターターが別途設定したライン。

B. スタート時，競技者のつま先はライン（コード，砂上に引かれたライン，目視ラインのいずれか）の上又は後ろでもよいが[66]，競技者の体（ボディー）の一部はラインの上を越えてもよい。

C. ラインが引かれ，ビーチスプリント競技タイプのスタートが採用される競技に於いては，直立スタート姿勢（an upright starting position）が適用された場合を除いて，つま先及び指は，スタートラインの上又は後ろにあること。このような場合，競技者のつま先はラインの上又は後ろでなければならないが，競技者の体（ボディー）の一部はラインを上空で越えてもよい。

D. ボードレースのようにラインが引かれ又はコード（紐）でスタートラインが指定される競技に於いては，競技者が抱えるボードの一部がスタートラインを上空で越えてもよいが，ボードをスタートラインに対して90度又は自然現象に適した角度に維持しなければならない。ボードを置く場合，スタートライン又はチェンジオーバーラインに対して90度で陸側に置かなければならない。

---

[65] 【JLA 注釈】本競技規則ではサーフボート競技は扱わない。

[66] 【JLA 注釈】原文が許容を表す may（．．．でもよい）なのでそのまま翻訳しているが，JLA 主催競技会では「．．．でなければならない」と解釈する。

E. 水上のクラフトに対して目視ラインが用いられるサーフボート[67]及び/又はスキー競技の場合，クラフトの船首はラインの上又は後ろにあり，ラインに対して90度又は自然現象に適した角度にあるものとする。

2.5 失格 Disqualification

A. 全ての競技種目において，1回制スタート（one-start rule）を採用する。

B. 最終のセットポジション（set position）をとった後，且つスタートの合図の前に，最初に前方へのスタート動作を起こした競技者又はチームは失格となる，但し，ビーチフラッグスでは除外となる（DQ7）。

C. 失格が宣告される前にスタートの合図がされた場合，競技者を呼び戻し，再スタートを行う。

D. 競技者を呼び戻すための合図は，スタートと同じ合図等を繰り返し行う。

E. 不正スタートにより失格となった競技者は，競技を継続することができず，スタートラインから離脱せねばならない。

F. 妥当な時間内にスターターの号令に従うことができなかった全ての競技者は，不正スタートとなる（DQ8）。

G. スターターの最初の合図の後，音やその他の方法によって他の競技者を妨害した場合は失格，又は（ビーチフラッグスの場合）除外となる場合がある（DQ9）。

2.6 注意 Notes:

A. スターター及びチェックスターターの任務は，公平なスタートを確保することである。技術的又は器材の不具合，海の条件，又はその他競技者の責によらない事項を含め，何らかの理由により公平なスタートが行えなかったとスターター及びチェックスターターが判断した場合，競技者を呼び戻し，スタートの手順をやり直すこと。

B. 競技者は，スタートの合図の前に，前方へのスタート動作を起こした場合に失格となる。競技者が動いたこと全てが失格となるわけではない。例えば筋肉がピクッと痙攣する又は水中スタートにおいて波で押されるといった意図しない動きは失格にならない。スタートの合図を予想して明らかに前方へのスタート動作を起こした競技者が失格となる。

C. スターター及びチェックスターター各自の裁量で，1人あるいはそれ以上の競技者がスタート動作を開始したか否かを判断する。一般に，ある競技者の早いスタート動作が他の競技者の動きを引き起こす。そのような他の競技者の動作は失格ではない。

D. スタートに関するスターター又はチェックスターターの判断は，抗議又は上訴の対象にならない。

E. スターターは平等で公平なスタートを達成するためにあらゆる努力を払う必要があるが，スタート合図で「Go」を決定するのは，競技者又はチーム次第である。スターター又はチェックスターター又はチーフレフリーによる呼び戻しがない場合，スタートについての抗議は認められない。

---

[67] 【JLA注釈】本競技規則ではサーフボート競技は扱わない。

2.7 チェンジオーバー及びリレーにおけるタッチ Changeovers and tagging in relays

A. リレー競技における引継ぎ又はチェンジオーバーは，特に指定が無い限り（ビーチリレーを参照せよ），競技者が次のチームメンバーにタッチすることにより行われる。
タッチは，競技者がどちらかの手で次の競技者の手又は身体の他の部分に見えるように触れる。全てのタッチは，目視できるように水面よりも上で行われなければならない。

B. タッチされる競技者の足はチェンジオーバーラインの上又はラインの陸側になければならない。

C. リレーにおける競技者は，マーシャルから指定された位置又はレーンから自分の区間をスタートしなければならない。競技者が指定された位置又はレーンからスタートしなかった場合，チームは失格となるリスクがある。

3. フィニッシュ THE FINISH

A. ランでフィニッシュをする種目は，体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない（すなわち，倒れ込んでフィニッシュラインを越えてはいけない）。フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。

B. サーフスキー及びサーフボート（注意：本競技規則ではサーフボート競技は扱わない）など水中でフィニッシュをする種目は，競技者又はチーム又はクルーは，クラフトの一部が，フィニッシュラインを越えた時点で判定される。

C. 競技者がフィニッシュラインを通過せねばならない競技種目に於いて正しく通過できなかった場合，競技者は自身の順位を記録するためやり直して正しくフィニッシュラインを通過し直してよい。

D. 競技者が一旦正しくフィニッシュラインを通過したと判断されたら，その競技者はレースを完了したとみなされる。競技中の間違いを正すために再度コースに戻ってはいけない。

3.1 判定 Judging

A. 全ての競技種目は目視又は電子的手段によって判定される。着順はフィニッシュジャッジにより判定される。同着（引き分け）の場合は同着であると宣告される。

B. 可能であれば（ビデオ又はその他の判定補助技術を含む）電子機器を判定プロセスで利用すること。

C. レースの判定及び/又は記録を支援するために電子的手段を用いる場合，競技者は関係するオフィシャルの指示通りタグを設置せねばならない（例えば，ベストに着用する，指定された手首又は足首の回りに付ける，又はクラフト/サーフボート等の指定された場所，等）。（タグが）使われた場合，そのようなレースの結果は，タグがフィニッシュラインを通過したフィニッシュの順番で判定される。電子タグによる着順判定ができなかった場合，レースの全ての着順は通常方法で目視によって判定及び/又は記録される。

D. ジャッジは，フィニッシュラインが良く見える場所に配置される。必要ならばジャッジは，高い位置に配置される。

E. ジャッジ1は1位と2位の競技者を担当し，ジャッジ2は2位と3位の競技者を担当し，以下同様に担当する（すなわち，ジャッジ1は，まずは着順1位がどの競技者であったかを見る責任があり，同時に2位がどの競技者であったかにも注意を払う）。

F. レースの結果を正しく決定するためにビデオ又はその他の電子式判定補助具を使用する場

合，最初の判定結果が最終判定結果だと宣言せず，チーフレフリー/セクショナルレフリー及びチーフジャッジが当該種目の最終着順結果を決定する。

G. フィニッシュジャッジによる結果が最終だとされた場合，それは最終決定であり，抗議又は上訴は受け付けられない。

H. チーフレフリーの合図で，着順ステッカーが発行及び/又は名前の記録がされる。

I. チーフレフリーは，管理された状況のもとで，競技者又はチームマネージャーがビデオ再生又はその他の電子式判定補助具を観ることを許可できる。

3.2 時間制限 Time limits

A. チーフレフリーの裁量により，競技種目に制限時間を設定することができる。制限時間が設けられる場合は，競技のラウンド開始前に各競技者に伝えられる。

B. チーフレフリーは，制限時間に達した時又は次のラウンドに進む競技者が失格なしに競技を終了して確定した時，フィニッシュする前に棄権するよう競技者に指導してよい[68, 69]。

4. 組み合わせ配置 SEEDING

オーシャン競技において，組み合わせ配置（シード）を行う。

4.1 予選における組み合わせ配置 Seeding in heats

予選において組み合わせ配置を行うが，最初のラウンドでは，クラブが同じ又は（国際競技会の場合）国籍が同じ競技者は，可能な限り異なるヒートに組み合わせ配置する。

4.2 準決勝及び決勝における組み合わせ配置 Seeding in semi-finals and finals

A. 予選後の全てのラウンドにおいて組み合わせ配置をする。予選後のラウンド，準々決勝，準決勝，決勝の組み合わせ配置は，予選の結果に基づく。

B. 予選及び/又は更なるラウンド，又は準決勝の結果に基づいて，上位16人の競技者又はチームが以下の競技種目の決勝に進む：サーフレース，サーフチームレース，ランスイムラン，ビーチラン，サーフスキーレース，サーフスキーリレー，ボードレース，ボードリレー，オーシャンマン/オーシャンウーマン，オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー。

C. （得点を明確にするなどの目的で）必要とあらば，以下の競技でA決勝，B決勝を実施する：ビーチフラッグス，レスキューチューブレース，レスキューチューブレスキュー，ビーチスプリント，ビーチリレー，ボードレスキュー。予選又は準決勝の結果に基づき，上位8位までの競技者又はチームがA決勝に割り当てられる。上位9位から16位までの競技者又はチームはB決勝に割り当てられる。

D. 16人又は16チーム以上の決勝から，1人以上の競技者又は1以上のチームが棄権した時，最大4人の競技者又は最大4チームがリザーブリストから招集される。リザーブは，棄権した競技者又はチームと同じ予選レースから招集される。決勝は再シード（再度，組み合わせ配置）されない。

E. 1人以上の競技者又は1以上のチームが，A決勝が8人になるよう招集される，又はB決勝を

---

[68] 【JLA注釈】JLA主催競技会では，指導ではなく指示できるものとする。更に，競技者の技能不足により安全上競技を継続させることが危険とチーフレフリーが判断した場合も，競技から離れるよう指示できる。

[69] 【JLA注釈】JLA主催競技会では，DNF扱いとする。

棄権する場合，代替として最大4人[70]までの競技者が予選ヒートから繰り上げられる。B決勝は再シード（再度，組み合わせ配置）されない。代替競技者が足りなくても，招集できた競技者によりB決勝を行う。リザーブは，棄権した競技者又はチームと同じ予選レースから招集される。B決勝は再シード（再度，組み合わせ配置）されない。

F. **同着について**：決勝進出に係る同着が生じた場合，（決勝出場枠について）可能であれば同着の競技者又はチームは該当する決勝に進む。決勝の出場枠が足りない場合，決勝出場者を決定するために，同着の競技者間又はチーム間で最終予選を実施する。

4.3 レーン決め抽選 Draws for position

予選及びビーチ種目のスタート位置の最初の抽選は競技会運営側が行いチームに通知される。それに続くラウンド（例えば，準々決勝，準決勝，決勝）のスタート位置の抽選は競技役員が行う。

予選のための最初の抽選及び競技者の組み合わせ配置のための抽選を含め，抽選はチーフレフリーが承認した抽選方法で行う。

4.4 ビーチでのスタート位置 Beach positions

スイム，サーフスキー，ボード，複数分野競技，サーフボート[71]において，スタート位置又はレーンは，海に向かって左から連続して 1, 2, 3, ...とする。ビーチ種目では，海に最も近い位置を 1 とする。

4.5 競技者数の制限 Competitor limits

予選，準々決勝，準決勝，決勝を実施するかどうかはチーフレフリーが決定する。予選又は決勝における競技者の推奨最大人数は，下の表の数を超えないものとする。コンペティション委員会及びチーフレフリーだけが，判定の有効性，環境の条件，安全の配慮及び全競技者への公平性を十分に配慮した上で，当該最大人数の変更を許可できる。

---

[70] 【JLA 注釈】英語版では「最大 4 人」としか記していないが，「最大 4 人又は最大 4 チーム」だと解釈する。

[71] 【JLA注釈】本競技規則ではサーフボート競技は扱わない。

競技種目	最大競技者数/チーム数
サーフレース	32 人
レスキューチューブレース	9 人
ランスイムラン	32 人
ビーチフラッグス	16 人 （決勝は 8 人，又は LWC 等のチーム Point スコア競技会では最大 16 人）
ビーチスプリント	10 人 （決勝は 8 人）
ビーチラン ― 2 km 及び 1 km	40 人
3×1 km ビーチランリレー	40 チーム（1 チームあたり 3 人）
サーフスキーレース	16 人
ボードレース	16 人
オーシャンマン/オーシャンウーマン	16 人（勝ち残り方式は 24 人）
オーシャン M	24 人
サーフチームレース	10 チーム（1 チームあたり 3 人）
レスキューチューブレスキュー	9 チーム（1 チームあたり 4 人）
ビーチリレー	10 チーム（1 チームあたり 4 人）（決勝は 8 人）
サーフスキーリレー	16 チーム（1 チームあたり 3 人）
ボードリレー	16 チーム（1 チームあたり 3 人）
ボードレスキュー	9 チーム（1 チームあたり 2 人）
オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	16 チーム（1 チームあたり 4 人）
オーシャン M ライフセーバーリレー	24 チーム（1 チームあたり 4 人）

5. サーフレース SURF RACE

5.1 競技の説明 Event description

競技者は，浜のスタートラインから走って海に入り，ブイにより指定された 400 m（マスターズでは 280 m）コースを泳ぎ，海岸に戻り，浜の（2 つの）フィニッシュ旗の間を（通過して）フィニッシュする。

フィニッシュ後の着順記録を容易にするため，競技者は以下のいずれかのライン上に並べられ得る：

- フィニッシュラインから約 30 度の角度で浜側に引いたライン，
- フィニッシュラインの 10 m 後方で，フィニッシュラインに直角で，5 m 間隔に引いた複数のライン。

5.2 コース The course

図に示すとおり，U 字型コースはスタートからフィニッシュまで約 400 m とする。スタートとフィニッシュを公平にするため，スタートラインとフィニッシュラインの配置は，海の状況に応じてチーフレフリーの判断で変更され得る。

スタートライン－2 本のポールの間の砂上に線を引く，又は，約 40 m 隔てた 2 本のポールの間に伸ばされた鮮やかな色のコードで明示する。スタートラインは，水際から約 5 m の位置で，第 1 ブイを中心にして置かれる。

フィニッシュライン－5 m 隔てた緑色（又はエリア色）の 2 本の旗の間のライン－は，第 9 ブイを中心に，水際から約 15 m に設置される。

スイムコースは（図解の通り）ブイを目印とし，最も遠いもので膝の深さの位置から約 170 m 沖合に置かれる。（海の）状況によって水上の距離は変更され得る。

5.3 判定 Judging

スタートの合図で，競技者はスタートラインからスタートし，他の競技者を妨害することなく水に入りブイまで泳ぎ，ブイを回って海岸まで戻り，2 本の緑旗（フィニッシュ旗）の間を通過してフィニッシュする。

注意：競技者は，ブイとブイロープに触れてもよいが，ブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

複数のジャッジが，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく，競技の実施を観察するために配置される。

5.4 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加え，以下の行為は失格となる：

A. 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

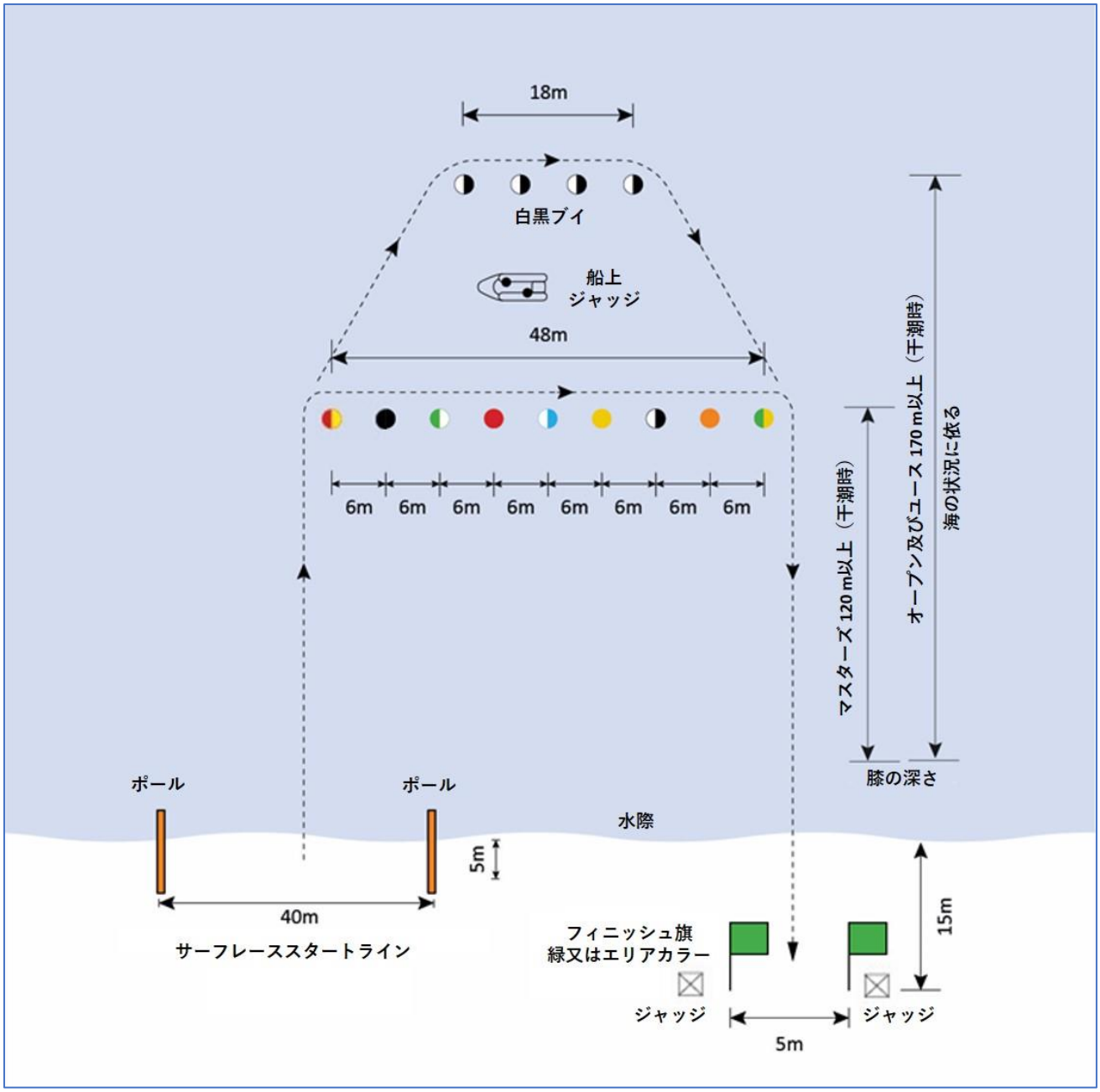


図 14：サーフレース

（距離はおよその数値である）

注意：ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは，海の状況に応じて調整され得る。

年齢区分	およその距離
オープン及びユース	後方ブイセットまで 170 m
マスターズ	前方ブイセットまで 120 m

6. サーフチームレース SURF TEAMS RACE

6.1 競技の説明 Event description

各チームのメンバー3 人全員は浜のスタートラインから海に向かって走り，ブイにより設定された 400 m（マスターズは 280 m）のコースを泳いで回り，岸に戻って浜のフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。

マーシャル（招集）：各チームのメンバー3 名がドロー（抽選）で決められた位置で海を向いて縦 1 列に並ぶ。最初のチームの隣に次のチームが並び，次々に並んでいく。

全チームが集まると，競技エリアを向くよう指示が与えられる。オフィシャルの指示で，水際に最も近い競技者の横列が，海に向かって左側が第 1 ポジションとなるよう競技エリアに進む。競技者の第 1 横列に第 2 横列，第 3 横列が続く（この手順により，各チームからの競技者をスタートライン上に分散させることができる）。

得点：点数は次のように割り当てられる：第 1 位の競技者に 1 点，第 2 位の競技者に 2 点，第 3 位の競技者に 3 点，第 4 位の競技者に 4 点，以下同様。（訳注：チームメンバーの点数を合計して）得点数が最も少ないチームが勝者となる。もし 2 つ以上のチームが同点の場合，それらのチームの中で最も早くフィニッシュした競技者の順により順位を付ける。

競技を終了した競技者全員について獲得順位が記録され，得点が算出される。失格となったチームがある場合は順位が繰り上がり，得点は再計算される。

サーフレースとサーフチームレースを一緒に実施する場合，チーム競技に属さない競技者（＝サーフレースの競技者）はチーム競技（＝サーフチームレース）の得点算出から除外される。

6.2 コース The course

サーフチームレースは，以下に示す図の通りサーフレースと同じコースで実施する。スタートとフィニッシュを公平にするため，スタートラインとフィニッシュラインの配置は，海の状況に応じてチーフレフリーの判断で変更され得る。

6.3 判定 Judging

スタートの合図で，競技者はスタートラインからスタートし，他の競技者を妨害することなく水に入りブイまで泳ぎ，ブイを回って海岸まで戻り，2 本の緑旗（フィニッシュ旗）の間を通過してフィニッシュする。

注意：競技者は，ブイとブイロープに触れてもよいが，ブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

複数のジャッジが，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく，競技の実施を観察するために配置される。

6.4 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加え，以下の行為は失格となる：規定されたとおりにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

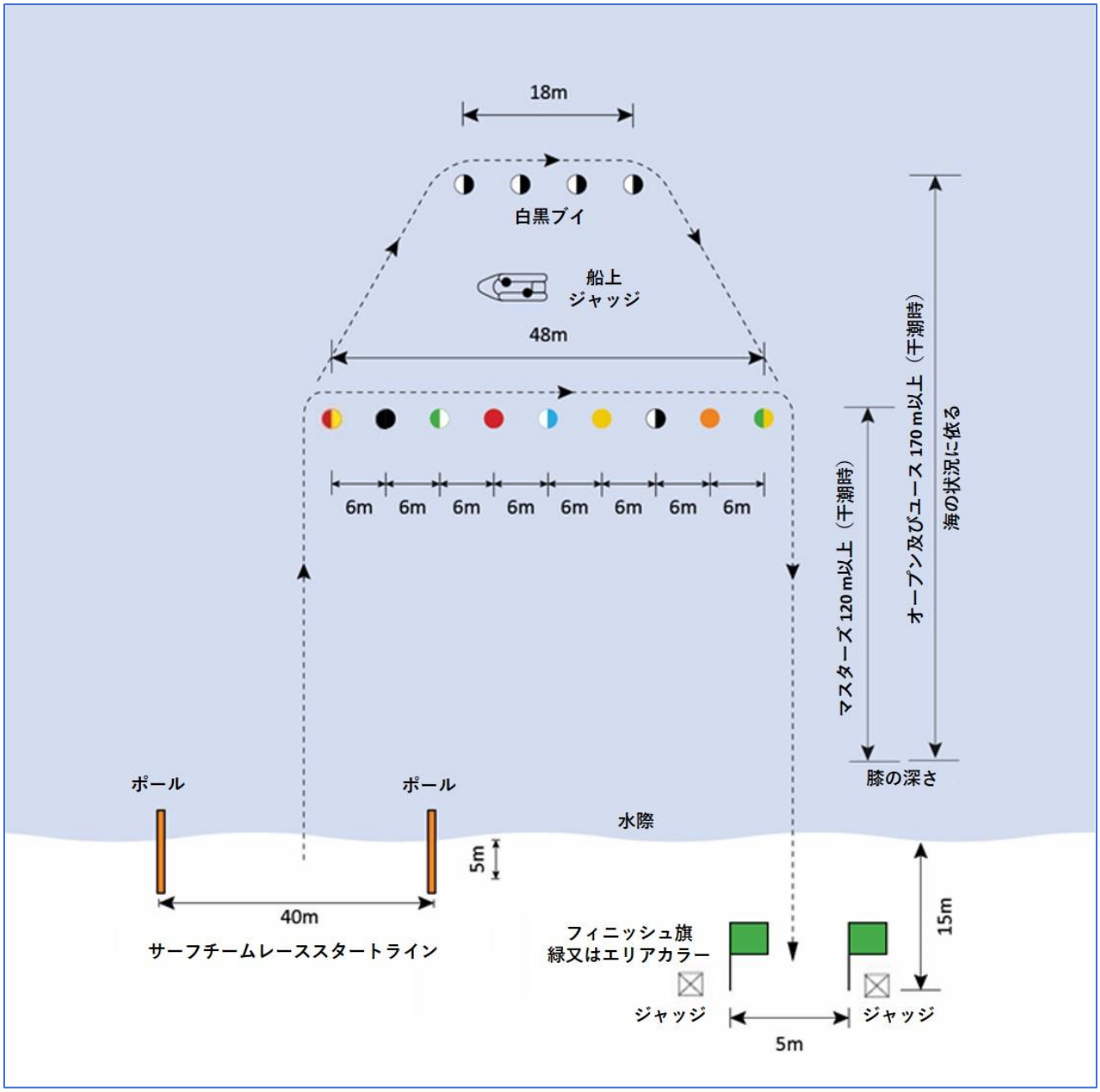


図 15：サーフチームレース
（距離はおよその数値である）

注意：ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは，海の状況に応じて調整され得る。

年齢区分	およその距離
オープン	後方ブイセットまで 170 m
マスターズ	前方ブイセットまで 120 m

7. レスキューチューブレスキュー RESCUE TUBE RESCUE

7.1 競技の説明 Event description

この競技種目には各チームから 4 人の競技者が参加する：被救助者役 1 人，レスキューチューブスイマー1 人，レスキュアー2 人[72]。被救助者役は指定されたブイまで約 120 m 泳ぎ，合図を出してレスキューチューブスイマーから救助されるまで待機する。被救助者役とレスキューチューブスイマーが浜に戻るとき，残っていたレスキュアー2 人が水に入りアシストする。被救助者役に触れたままフィニッシュラインを越える競技者のうち，最初の競技者が越えた時点で（そのチームの）競技は終了する。

A. **スタート**：4人の競技者全員が，スタートラインの指定された位置に集合する。スタートの合図の前に，レスキューチューブスイマー及び器材は，スタート/フィニッシュラインより浜側になければならない。レスキューチューブスイマーは，レスキューチューブを持つ又は身に着けてもよい，また，フィンを手に持つこともできる。レスキューチューブは，肩掛け部分（ループ，輪）を片方又は両方の肩にかけて又はアクロス（across／交差，横断）して身に着ける，もしくは肩にかけ胸にアクロスして身に着けることができる。フィンは，スタートラインを越える前に装着してはならない。

- スターターの合図で，被救助者役が水に入り，指定されたブイまで泳いでタッチし，ブイに触れた状態でもう一方の手を垂直に挙げてブイ到着の合図をする。被救助者役は，その後ブイより沖側の水中で待機する。
- **注意 1**：ここでブイとはブイ本体のことであり，ブイにつながれているロープ及び/又はストラップ等は含まれない。競技者はブイ到着の合図をする前に，水面より上で視覚的に分かるようブイにタッチせねばならない。
- **注意 2**：競技者は，ブイとブイロープに触れてもよいが，指定されたブイに達するためブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。
- チーフレフリーは，被救助者役がブイに触れたことを明確に合図する別の妥当な方法を決定してもよい。
- 競技者は，指定された位置からスタートせねばならない。間違ったブイに泳ぎついて合図をした競技者は失格となる。

B. **レスキューチューブスイマー**：レスキューチューブスイマーは，被救助者役からの合図で，指定された位置からスタートラインを越えて，器材を自身の判断で装着して，指定されたブイの（浜から見て）左側を通過し，ブイの沖側で待機している被救助者役に泳ぎ着く。レスキューチューブスイマーは，被救助者役の両腕の下の体にレスキューチューブを正しくつけクリップをオーリングに掛ける。被救助者役は，レスキューチューブをつけるとき及びクリップを掛けるのに協力してもよい。競技者は，レスキューチューブを被救助者役につけてから，引き続きブイを（時計回りに）回って，浜に向かって被救助者役を牽引する。

注意：競技者は，ブイとブイロープに触れてもよいが，指定されたブイに達するためブイ

[72] 【JLA注釈】サーフライフセービング教本（文献[1]）ではファーストレスキュアー，セカンドレスキュアーだが，ILS 競技規則原文の表記：rescue tube swimmer，resucuers，に倣った。

ロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

C. **レスキュアー**：レスキューチューブスイマーが被救助者役を浜に向かって牽引し始めたら，2人のレスキュアーは各自の判断でスタートラインを越えて水に入り，レスキューチューブスイマーを補助して被救助者役を浜に運ぶ。

D. 被救助者役は，フィニッシュまでドラッグ又はキャリーされなければならない。

E. ***フィニッシュ***は，被救助者役に触れたままフィニッシュラインを立った状態で自身の足で越える最初のチームメンバーの胸で判定される（レスキューチューブがついている必要はない）。

注意1：レスキューチューブスイマーには，レスキュアーが被救助者役をフィニッシュラインまでドラッグ又はキャリーするのを補助すること，又は，フィニッシュラインを超えることは，求められていない。

注意2：被救助者役の全身がフィニッシュラインを越えるまでドラッグする必要はないが，チームは，競技のジャッジの邪魔にならぬよう，及び後続チームがフィニッシュできるように，直ちにフィニッシュラインの浜側に移動することが求められる。

7.2 注意 Notes

A. 全てのチームメンバーは，スタートラインにおいて指定された位置からスタートせねばならない。

B. レスキューチューブスイマー及びレスキュアーは，（理由は何であれ）事前にスタートラインを越えても，自分らの区間を開始する前にスタートラインの浜側に戻れば，失格にはならない。

C. スタート時，レスキューチューブスイマーは，レスキューチューブ及びフィンをスタート/フィニッシュラインより浜側に置くか，又はフィン及びレスキューチューブを手に持ってもよい。レスキューチューブの紐を装着してもよい。

D. レスキューチューブは，競技者の判断で，肩掛け部分を片方の肩にかける又は肩から胸にクロスするかのいずれかで，正しく装着せねばならない。

E. 被救助者役は，レスキューチューブをつけるにあたり，レスキューチューブスイマーに協力してよい。両者のどちらでもレスキューチューブのクリップをかけてもよいが，被救助者役はブイラインより沖側でクリップをかけなければならない。

F. レスキューチューブスイマーは，被救助者役の両腕の下の体にレスキューチューブをつけクリップをオーリングにかけた状態で，被救助者役を牽引せねばならない。

G. 被救助者役は，背を下にしてトウ（牽引）されねばならず，レスキューチューブでクリップ留めされる以外の如何なる方法ででもトウされてはならない。

H. 被救助者役は，水面下でスカーリングして及びキックしてアシストすることが許されるが[73]，背泳又は水の外でのリカバリーを伴う如何なる泳ぎのスタイルをとってはならない。

注意：被救助者役が，流線形にするため又は保護するために腕を頭上の位置に置き直すことは，失格ではない。

I. 被救助者役は，決して歩いて又は走ってアシストしてはならないが，キャリーの間，足を

[73] 【JLA 注釈】スカーリングは水面下のみ許されるが，キックは水面下に限定されない。

上げてアシストしてもよい。

J. レスキューチューブスイマーだけがフィンを使用してもよい。レスキュアーはいずれの器材又はスイムフィンを使用してはならない。

7.3 コース The course

以下の図に示す通り，コースは約 240 m とする。スタートとフィニッシュを公平にするため，海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

A. **スタート/フィニッシュライン**は，緑色（又はエリア色）の旗を付け，約54 m離して水際に位置する2本のポール間の砂上にラインを引く，又はその2本のポール間に鮮やかな色のコード（紐）を張る。ブイに対するスタートラインの配置は，海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で変更してもよい。スタートラインに置いた如何なる紐も，もしレスキューチューブが引っかかる恐れがあるなら，競技者が一旦ライン上に揃ったら，スタートの前に取り除かれ得る。

B. **スイムブイ**は，サーフレースと同様に配置し，全ての競技者が，砂丘及びリップ（カレント）等に関して，等しくチャンスを得られるようにする。

7.4 器材 Equipment

レスキューチューブ，スイムフィン：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

競技者は主催者が用意したレスキューチューブを用いなければならない。

7.5 判定 Judging

フィニッシュジャッジは，フィニッシュラインの両端で，両方の旗ポールの直線上で旗ポールから少なくとも 5 m 離れて配置される。船上ジャッジ 1 人が，図に示す通り，スイムブイと同一線上に配置される。

競技中にいずれかのジャッジが目視し記録された違反は，チーフレフリーに報告され，関係するジャッジと共に当該違反について裁定する。違反を目視した船上ジャッジは，実質的に可能な限り早く且つレース結果が発表される前に，チーフレフリーに報告すること。

7.6 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加え，以下の行為は失格となる：規定されたとおりにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

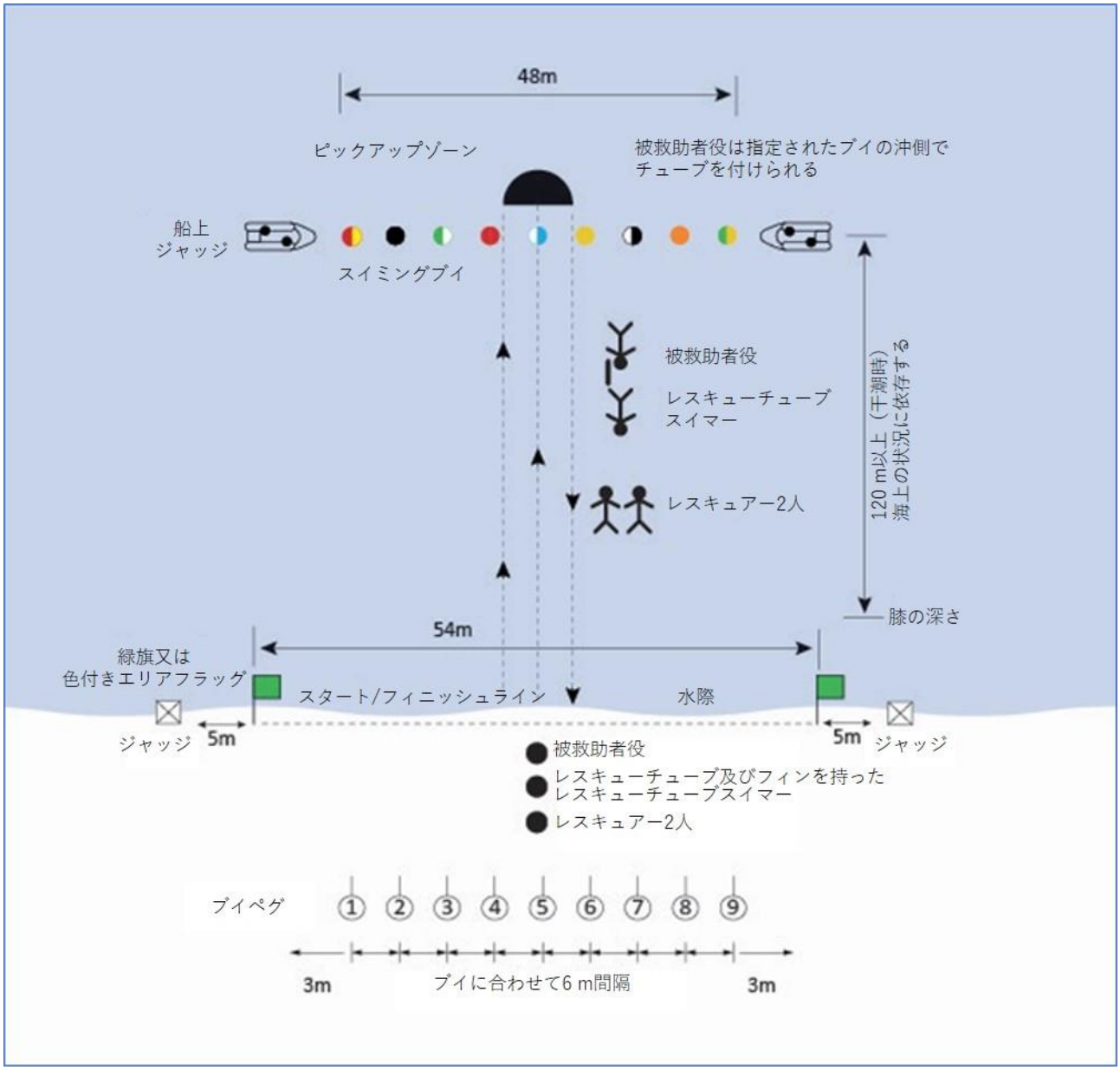


図 16：レスキューチューブレスキュー
（距離はおよその数値である）
注意：ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは，海の状況に応じて調整され得る。

8. レスキューチューブレース RESCUE TUBE RACE

8.1 競技の説明 Event description

レスキューチューブ及びフィンは，競技者に指定されたブイペグに並ぶよう水際から約 15 m に配置する。

競技者は，水際から約 5 m のスタートライン上で位置につく。競技者は，スターターの合図で浜を駆け上がり，各自のレスキューチューブとフィンを取り，各自の判断で器材を装着し，水に入りブイに向かって泳ぎ，指定されたブイを（浜から見て左から）回り，浜に戻ってフィニッシュラインを越える。

注意：競技者は，ブイとブイロープに触れてもよいが，指定されたブイに達するためブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない[74]。

フィニッシュは，体を起こした状態で，フィンを持ちレスキューチューブの肩掛け部分の紐を肩にかけて，フィニッシュラインを越える競技者の胸で判定される。

注意 1：スタート時，レスキューチューブとフィンは，競技者の判断で，指定されたブイペグのところに，且つブイペグの海側に配置されなければならない。

注意 2：レスキューチューブは，肩掛け部分の紐の輪を一方の肩から交差させるか，又は一方の肩の上に掛けて着用されねばならない。

8.2 コース The course

レスキューチューブレースは，レスキューチューブレスキューの一般規則に基づいて実施される。コースは，以下の図に示すとおりレスキューチューブレスキューと同一である。

スタートとフィニッシュを公平にするため，海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

8.3 判定 Judging

船上ジャッジ 1 人が，図に示す通り，スイムブイと同一線上に配置される。フィニッシュジャッジは，フィニッシュラインの両端で，両方の旗ポールの直線上で旗ポールから少なくとも 5 m 離れて配置される。

8.4 器材 Equipment

レスキューチューブ：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したレスキューチューブを用いなければならない。

8.5 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加え，以下の行為は失格となる：規定されたとおりにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

---

[74] 本競技種目ではこの文章のようにブイに到達する必要はないが，ILS原文のとおりここに記しておく。

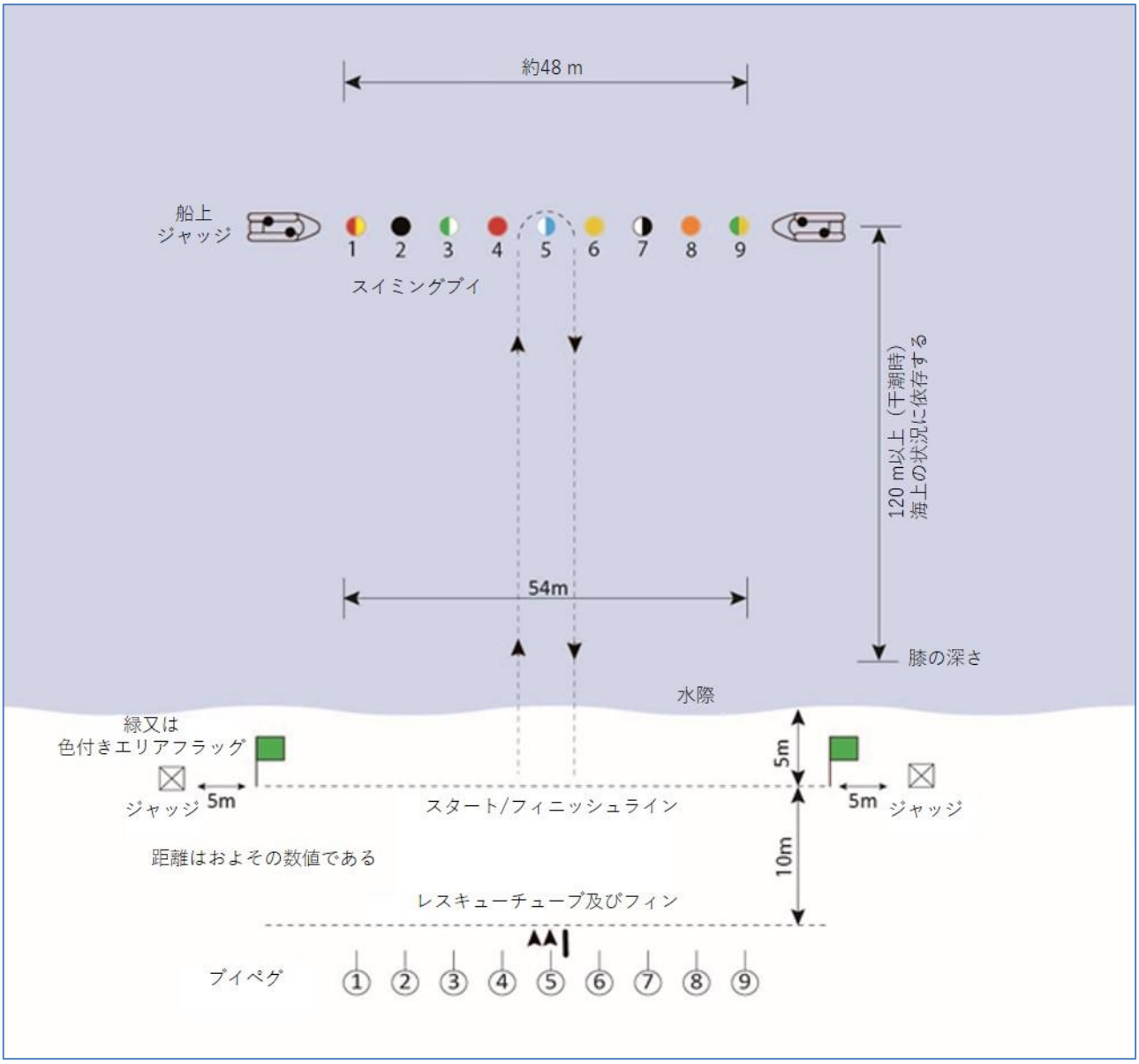


図 17：レスキューチューブレース

（距離はおよその数値である）

注意：ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは，海の状況に応じて調整され得る。

9. ランスイムラン RUN - SWIM - RUN

9.1 競技の説明 Event description

競技者は，スタートラインから走り，折返し旗を回って通過し，入水してブイまで泳ぎ，ブイを回る。競技者は，浜まで泳いで戻り，再度折返し旗を走って回り，フィニッシュラインに走って向かう。

注意：競技者は，ブイとブイロープに触れてもよいが，ブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

9.2 コース The course

以下の図に示すとおり，コースは，競技者が約 200 m 走り，約 300 m 泳ぎ，約 200m 走り，緑色（又はエリア色）の 2 本の旗の間をフィニッシュするようにレイアウトする。

9.3 判定 Judging

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

複数のジャッジが，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく，競技の実施を観察するために配置される。

9.4 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加え，以下の行為は失格となる：規定されたとおりにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

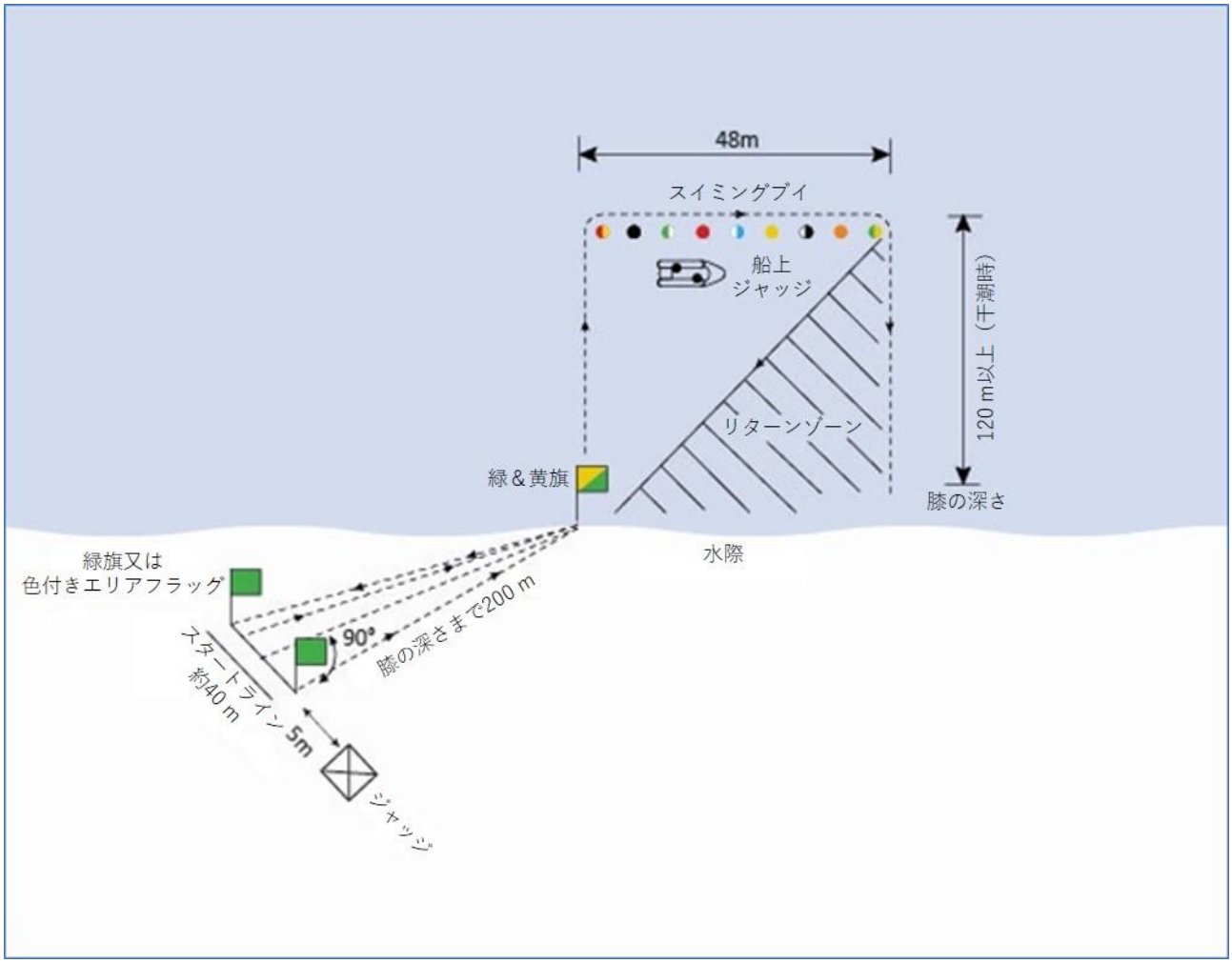


図 18：ランスイムラン
（距離はおよその数値である）
注意：ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは，海の状況に応じて調整され得る。

10. ビーチフラッグス BEACH FLAGS

10.1 競技の説明 Event description

競技者は，ビーチの割り当てられた位置でうつ伏せの状態から，起き上がり，体を回転させて約 20 m 走り，砂上に約 2/3 が見えるように立てられたバトン（ビーチフラッグ）1 本を取る。競技者の数に対してバトンの数は常に少なく，バトンを取れなかった競技者は除外される。

競技者は，顔を下にうつ伏せの姿勢になり，両足のつま先をスタートラインに乗せ，かかと又は足のいずれかの部分を合わせ，両手の指先がそれぞれ相対する手の手首に触れるように両手を重ね，頭を上げておく。両肘を体の正中線に対して 90 度に広げ，腰と胃部が砂につく姿勢をとる。体の正中線はスタートラインに対して 90 度にする。

注意 1：競技者は，スタートエリアの砂をならす，平らにする，押し固めてもよい。競技者が，スタートをアシストするため，砂を盛り上げる又は砂の傾斜を不合理に変更することは許可されていない。

注意 2：競技者は，うつ伏せになる前に手又は足を使って，又，うつ伏せになった後は足を使って，スタートラインの砂を掘りつま先を埋め込んでも良い。

注意 3：競技者はオフィシャルの指示に従わなければならない。競技のスタートを不合理に遅らせた競技者はペナルティーを受ける場合がある（DQ8）。

10.2 スタートの手順 Start procedure

ビーチフラッグスのスタートの手順は，「S4-2 スタート」で説明した手順とは異なる。ビーチフラッグスでのスタートは以下の通り：

スタート前にマーシャルは以下のことを行う：

A. ランスルーのために，くじで引いた通りの順に競技者を配置する，
B. スタートエリアまで競技者に付き添い，競技者が正しい順に並ぶようにする，
C. チーフレフリー/セクショナルレフリーは以下のことを行う：[75]
D. 全てのオフィシャル及び器材が配置されているか確認する，
E. 競技者がスタートラインで位置につくように，長いホイッスルで各レースの公式スタートを合図する，
F. 競技者がスターターの管理下にあることをスターターに知らせる，
G. スターターは，競技者の視界の外に位置すること。

10.3 スタート The start

スターターの「Competitors Ready（コンペティターズ・レディ）」の号令で，競技者は記述されたとおりにスタートの姿勢をとる。スターターの「Heads down（ヘッズ・ダウン）」の号令で，競技者は — 遅滞なく速やかに — 顎を両手の上に乗せる。

A. 意図的な間を置いて全ての競技者が静止した状態になったら，スターターはホイッスルを強く一吹きしてスタートの合図をする。

---

[75] 【JLA 注釈】C 項以降はマーシャルの手順では無く項目記号の付し方がおかしいが，ここでは ILS 競技規則の通りにしている。

B. スタートの合図の後，競技者は自身の足で立ち上がり，競い合ってバトンを取る。

10.4 不正スタート Starting infringements

ビーチフラッグスの不正スタートは以下のとおり：

A. 合理的な時間内でスターターの号令に従えなかった場合，

B. 「ヘッズ・ダウン」の号令の後，且つ，スタートの合図の前に，体の一部が砂から上がる又は，スタートの動作を始めた場合。

ある競技者が失格又は除外となった場合，残りの競技者とバトンの位置を再抽選せずに再度整列させる。ランスルーは，不正スタートがあっても，公正なスタートに影響を与えない限り，そのまま続行すること[76]。

10.5 レーン決め抽選 Draw for positions

事前にレーン決め抽選を行い，さらに各ラウンド後に抽選する。準決勝，決勝では，競技者が 8 人以下になったとき，各ランスルーの後にレーン決め抽選を行う。

10.6 除外される競技者の数 Number of competitors eliminated

予選の各ランスルーにおいて，チーフレフリーは，除外される競技者の数を 1 人又は 2 人とするかを決定する。準決勝及び決勝では，各ランスルーで除外される競技者は，1 人を超えないものとする。

10.7 ランオフ Run-offs

2 人以上の競技者が同時に 1 本のバトンを取り，且つジャッジがどちらの競技者が — 掴んだバトンの位置に関係なく — 先にバトンを取ったか判定できない場合，関係する競技者間でのランオフを行う。同様に，バトンが砂の中に消失した場合はランオフを行う。バトンが砂の中に消失したことが明らかな場合，フィニッシュジャッジはバトンが消失したことを（ホイッスル又は口頭の）合図によって伝え，ランスルーは終了する。

10.8 コース The course

図に示す通り，コースはスタートラインからバトンまで約 20 m とし，16 人の競技者それぞれに最低でも 1.5 m の間隔を確保する。

バトンは，スタートラインと平行に並べ，隣接する 2 人の競技者の間の垂線がバトンの根本付近を通過するようにする。換言すると，バトンは隣接する競技者から等距離になるようバトンライン上に並べられる。

ビーチフラッグスのアリーナには，小石や細かなゴミが無いようにし，砂の表面が固い場合は，安全のため，競技前及び競技中に熊手等で土を掻きならすこと。

10.9 器材及び服装 Equipment and apparel

ビーチフラッグス（バトン）：「第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは，競技者の裁量で着用してよい。

---

[76] 【JLA注釈】JLA主催競技会では，他に影響を与えなくとも，ランスルーを中断する場合がある。

10.10 判定 Judging

チーフレフリー/セクショナルレフリー又はそれらから指名された者は，全体を監督できる位置につく。

スターター及びチェックスターターは，スタートラインの両端に分かれて位置し，スタートの違反を監視する。コースジャッジは，コースの両側に分かれて位置し，ランスルー及び違反の有無を監視する。

フィニッシュジャッジは，バトンラインの数メートル後方に位置し，バトンを取った競技者からバトンを回収し，次のランスルーのためにバトンをセットアップする。

10.11 除外及び失格 Elimination and disqualification

各ランスルーとランオフは別々の区分として判定する。ある区分における違反行為が後続の区分に持ち越され，不利になることはない。

不正スタートをした競技者，他の競技者の進路を妨害した競技者は除外される（失格とはならない）。

不正スタートにより除外された競技者でも，それ以前のレースで獲得した点数及び/又は順位は保持できる。ただし，失格の場合は全ての得点及び順位を失う。

ビーチフラッグス競技において，除外に対する抗議は，5 分以内又は次のランスルーが始まる前（どちらか早い方）に提出せねばならない。ビーチフラッグスの除外に対する抗議が提出されたら，競技が進行する前にチーフレフリーは直ちに遅滞なくその抗議について検討する。チーフレフリーによるビーチフラッグスの除外に対する抗議の裁定結果について，上訴することは認められない。

注意 1：チーフレフリーは，上述の方法で短時間に裁定するため，ビーチフラッグスの除外に対する抗議を，現場の上訴委員に直接付託する権限を持つ。この場合，書類は不要であり預託金も発生しない。

注意 2：競技者は，プロセスが「S2. 共通競技総則」の詳述のとおりであれば，ビーチフラッグスの失格に対して抗議及び/又は上訴することができる。

妨害：妨害とは，「他の競技者の進路を妨害する為に，手，腕，足，又は脚を使うこと」である[77]。

競技者は，バトンを掴む際，自身の胴体を使って位置取りを良くしてもよい。他の競技者の前に肩や胴体を割り込ませてもよいが，その位置取りを良くする又は維持するために手，腕，足，又は脚を使用してはならない。

競技者が正当な方法で前方の位置を獲得し，正常な走行をしている場合，後方の競技者は前方の競技者を回り込まなければならない。

競技者は，遅い競技者の前を横切ってもよい。

2 人以上の競技者が妨害を犯した場合，最初に手，腕，足または脚を使った競技者が除外となる。

---

[77] 【JLA 注釈】「妨害」の定義に「妨害」が含まれる再帰的定義となっているが，ここで言いたいことは「手，腕，足，又は脚を使うこと」が「妨害」の必要条件であるということである。

ただし，（上記）妨害の項の如何にかかわらず，もし競技者が行動規範に違反した場合及び/又はフェアでない競技を行った場合（「S2-16 不正行為」を参照せよ），関係する競技者は失格となる。

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

B. 2本以上のバトンをピックアップ又はブロックした場合（例えば，バトンの上に横たわる又は見えないように覆う）（DQ11）。

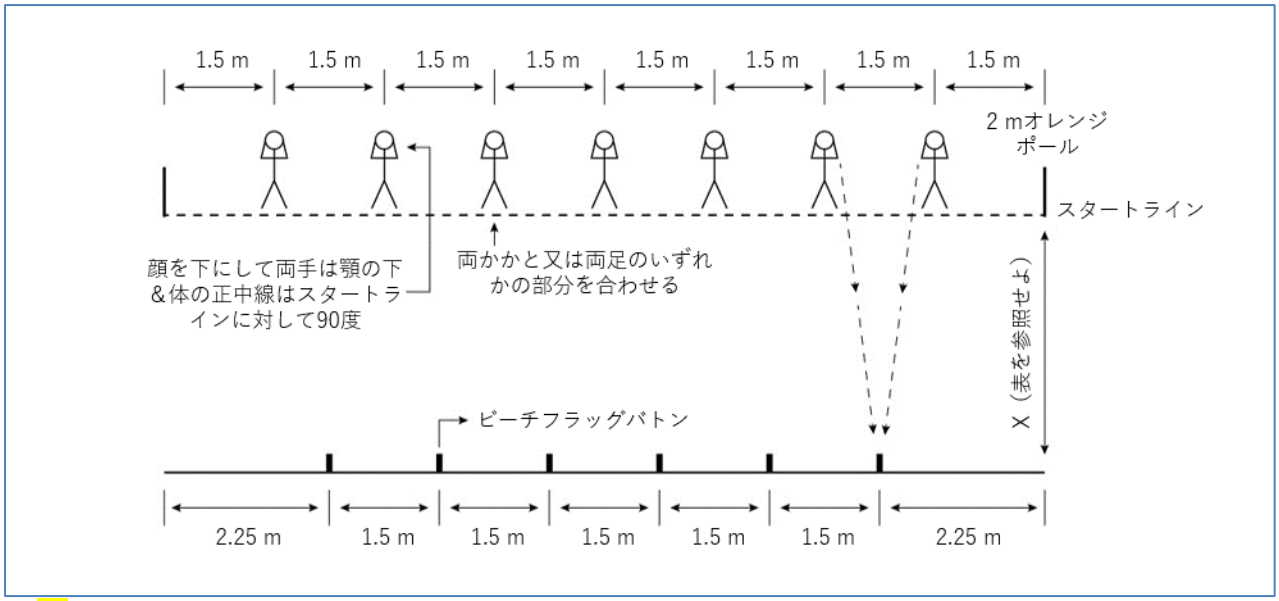


図 19：ビーチフラッグス（ランスルー毎に 1 人ずつ除外する場合）
（距離はおよその数値である）

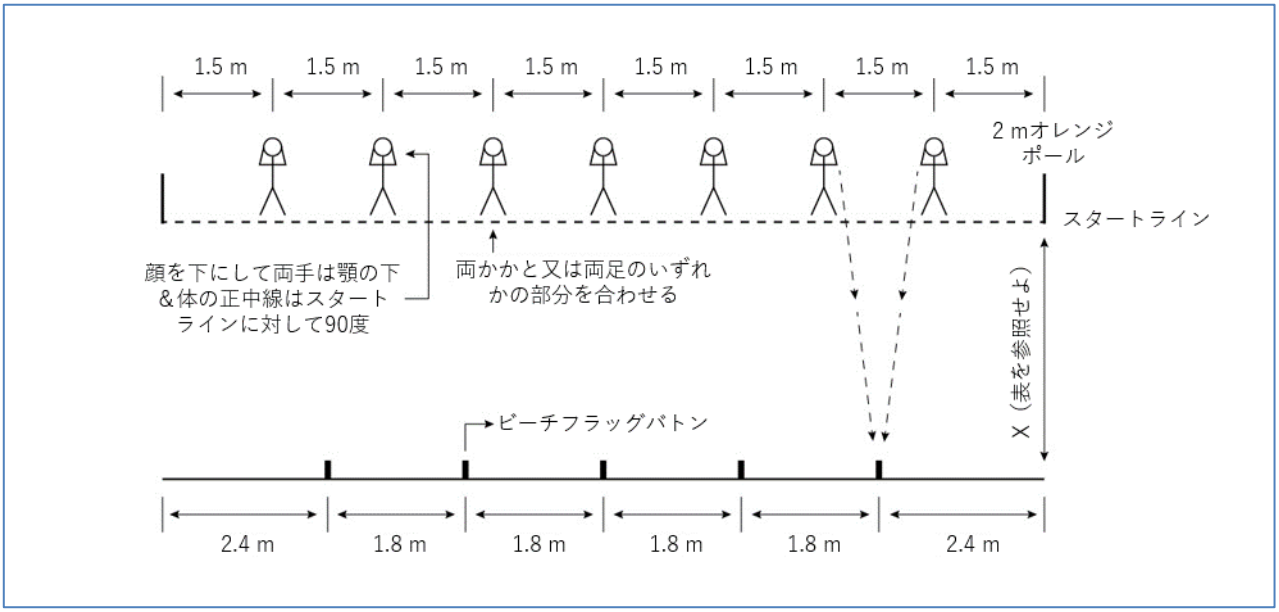


図 20：ビーチフラッグス（ランスルー毎に 2 人ずつ除外する場合）
（距離はおよその数値である）

年齢グループ	距離
オープン及びユース	20 m
マスターズ	15 m

11. ビーチスプリント（90 m 及び 70 m） BEACH SPRINT (90M AND 70M)

11.1 競技の説明 Event description

競技者は，指定されたレーンで位置につく。スタートの合図で，競技者はフィニッシュラインまで 90 m（マスターズは 70 m）のコースをレースする。フィニッシュは競技者の胸（のみ）がフィニッシュラインを越えることで判定される。競技者は，足で立ち体を起こした状態で競技をフィニッシュせねばならない。

11.2 スタート The start

人工的なスターティングブロックの使用は許可されないが，競技者は，スタートの補助のため，砂に穴を掘る及び/又は砂を盛り上げてもよい。競技者は，自身のレーン内の砂をならす又は平らにしてもよい。

11.3 コース The course

以下の図に示す通り，ビーチスプリントコースは，スタートラインからフィニッシュラインまで 90 m（マスターズは 70 m）とする。スタート側のマーシャル用に，そしてフィニッシュ側の競技者のオーバーラン用に，少なくとも 20 m のエリアをそれぞれ設置する。

全ての競技者が同じ距離を走るように，コースは長方形の四角形とし，四隅には 2 m の目立つ色のポールを設置する[78]。

走行レーンは色付きロープで仕切られ，競技者が直線コースを維持できるようビーチに敷設される。レーンの幅は，可能であれば 1.8 m，最低でも 1.5 m とする。

競技者はコース全体を通して自分のレーンを逸脱してはならない。

レーン番号が記されたペグを，走行レーンが分かるよう，スターティングマーク[79]の手前及びフィニッシュラインを越えた位置に設置する。

招集ラインは，スターティングマークの後方 5 mのところにスターティングマークと並行に設置し，高さ 2 m のポールを置く。

11.4 器材及び服装 Equipment and apparel

バトン：「第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは，競技者の裁量で着用してよい。

競技者は，判定を補助するため色のついたビブスの着用を求められることがある。

11.5 判定 Judging

チーフレフリー/セクショナルレフリーは，全体を監督できるよう配置される。

競技者が規定されたとおりコースを走っていることを確認するためのコースジャッジを 2 人任命してもよい。

フィニッシュジャッジは，順位を決める。競技者は，胸のいずれかの部分がフィニッシュラインを越えた順に順位付けられる。競技者は体を起こした状態でそのラインを足で越えなければならない。

---

[78] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会ではこの記述と異なる仕様のポールを用いて四隅を示す場合がある。

[79] 【JLA注釈】原文はstarting markだが，スタートラインのことと解釈する。

11.6 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加え，以下の行為は失格となる：

A. 規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

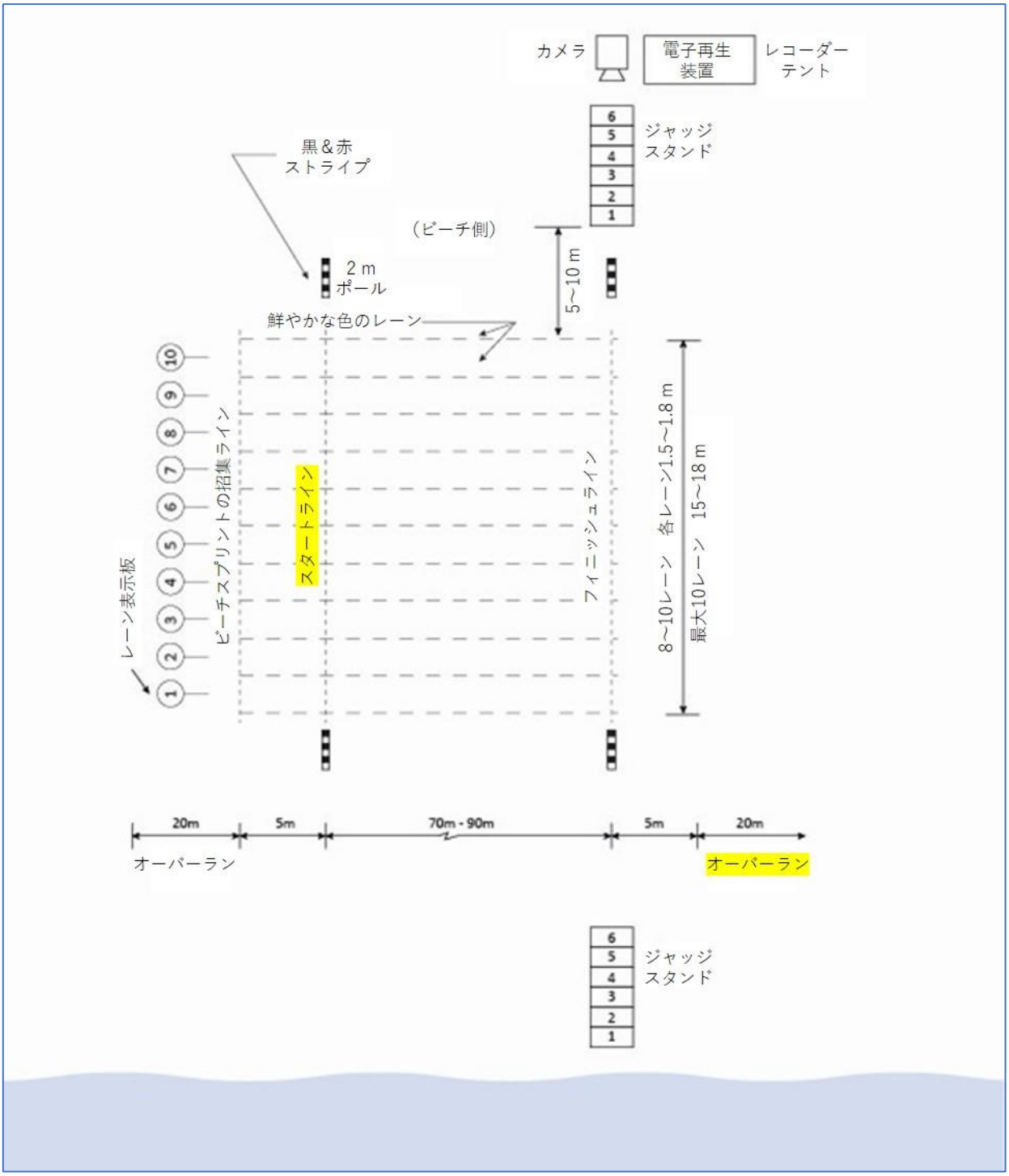


図 21：ビーチスプリント[80]
（距離はおよその数値である）

年齢グループ	距離
オープン及びユース	90 m
マスターズ	70 m

[80] 【JLA 注釈】図中「鮮やかな色のレーン」は「鮮やかな色のレーンロープ」と解釈する。

12 ビーチリレー BEACH RELAY

12.1 競技の説明 Event description

4 人（マスターズでは 3 人）から成るチームが，90 m（マスターズでは 70 m）コースをバトンリレー方式で競技する。スタートにあたり，競技者 2 人ずつ（マスターズでは 1 人と 2 人）がコース両端に分かれ指定されたレーンで位置につく。

スタート後，各競技者は，どちらか一方の手でバトンを持ってコースの 1 区間を完了し，第 1，第 2，第 3 区間終了時に，バトンを次の競技者に渡す。全ての競技者は，この競技の各自の区間を足で立ち体を起こした状態でフィニッシュするものとする。

競技者は，他の競技者の進路を妨害してはならない。

12.2 スタート The start

スタートは，ビーチスプリントと同じで，第 1 競技者が位置につく。

12.3 バトンの引継ぎ Baton changeovers

バトンは，以下の方法で引き継がれる：

A. バトンを渡すためにやって来る競技者は，バトンを境界線まで運ばねばならない（バトンを次の競技者に投げてはならない），

B. 第1，第2，第3の引継ぎでバトンを受け取る競技者は，受け取る間動いてもよいが，バトンを所持する前に競技者の身体又は手のいずれかの部分でも境界線を越えた場合，失格となる，

C. バトンの引継ぎの際にバトンを落とした時は，受け取る側の競技者は（他の競技者の妨害をせずに）バトンを拾い，指定されたレーン内でそのままレースを続けてよい，

D. 引継ぎ以外でバトンを落とした場合は，競技者は（他の競技者の妨害をせずに）バトンを拾い，指定されたレーン内でそのままレースを続けてよい。

12.4 コース The course

コースは，以下の図に示すとおりビーチスプリントに類似したものである。

12.5 器材及び服装 Equipment and apparel

バトン及び服装：「第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは，競技者の裁量で着用してよい。

競技者は，判定を補助するため色のついたビブスの着用を求められることがある。

12.6 判定/チェンジオーバー Judging/changeovers

判定について，スタート及びフィニッシュに関してチーフレフリー，コースジャッジ及びフィニッシュジャッジは，ビーチスプリントと同様の責務が一般的に想定される。

コースジャッジが任命され，チェンジオーバー時に，両端のチェンジオーバーラインでの違反をチェックする。

チェンジオーバーの場合，コースジャッジが認めたいずれの違反も，チーフレフリー/セクショナルレフリーに報告すること。

12.7 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

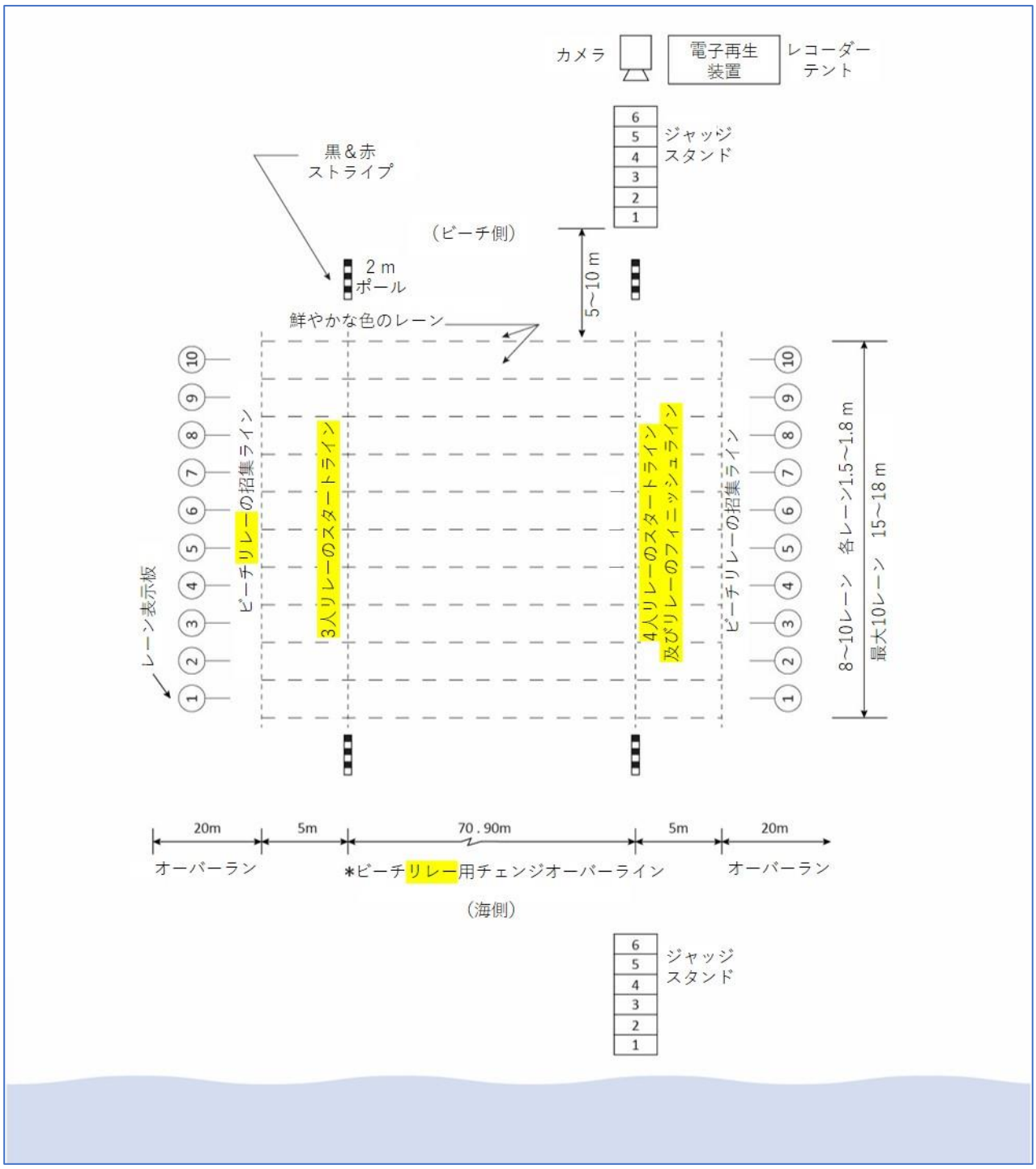


図 22：ビーチリレー[81]

（距離はおよその数値である）

年齢グループ	距離
オープン及びユース	90 m
マスターズ	70 m

[81] 【JLA 注釈】図中「鮮やかな色のレーン」は「鮮やかな色のレーンロープ」と解釈する。

13. ビーチラン（2 km 及び 1 km） BEACH RUN (2 km and 1 km)

13.1 競技の説明 ー 2 km Event description – 2 km

競技者はビーチにおいて 2 km レースする。コースは，総距離を変更しない範囲で，会場の特性に合わせて設定されるものとする。デフォルトの周回距離は 500 m だが，ビーチの広さに余裕があればチーフレフリーは周回距離を 1 km としてもよい。

競技者は，スタートの合図により，レーンを左側通行でレースし 250 m 離れた折返しポールを（時計回りに又は右手に見ながら又はレフリーの指示どおりに）回り，スタート/折返し旗まで 250 m 戻ってくる。

競技者は，スタート/折返しラインの全ての折返し旗を（時計回り又は右手に見ながら又はレフリーの指示どおりに）回り，同様に進んで折返し旗を回るのを 4 回繰り返す。最後の周回で，競技者はフィニッシュラインを越えてレースをフィニッシュする。

他の競技者を故意に押したり妨害して彼らの進行を妨げてはいけない。

複数のジャッジが，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく，競技の実施を観察するために配置される。

フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

13.2 競技の説明 ー 1 km Event description – 1 km

競技者は，上述のビーチのコースを 1 km レースする。

13.3 コース The course

コース（図を参照）として，ビーチ上（実用的には柔らかい砂上）に，水際に平行にレイアウトする。

スタートラインは，砂上に引いたライン又は，緑と黄の旗を取り付けた 2 本のポール間に張った視認性の高い色の合成（繊維）コードとする。フィニッシュラインは，スタート/折返しラインより陸側に約 5 m 離して立てた 2 本の緑旗とする。チーフレフリーがスタート/折返しラインの長さを決定する。

走行レーン：コースは，水際に平行な 2 つのレーンに分けられる。海に近い側のレーンは，スタート/フィニッシュラインから走る区間である。2 つのレーンは色テープ，連続旗，その他の適切な材料により分けられる。

注意：コースを逆方向に走らせる場合，スタートから離れる区間は陸側で，戻り区間は海側となる。

緑＆黄旗を付けた 2 本のポールを，スタートから約 250 m のレーン分離線の終端に 5 m 間隔を空けて設置し，折返し場所とする

13.4 器材及び服装 Equipment and apparel

「第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは，競技者の裁量で着用してよい。履物の着用は任意である。

13.5 判定 Judging

チーフレフリー/セクショナルレフリーは，コースの片側に位置して，全体を監督できるようにする。

競技者が他の競技者に干渉せずコースを走っていることを確認するためのコースジャッジを任命してもよい。

競技者が不必要に押したり干渉していないか確認するため，折返しポールの位置にジャッジを 1 人配置すること。

フィニッシュジャッジは，順位を決める。

13.6 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

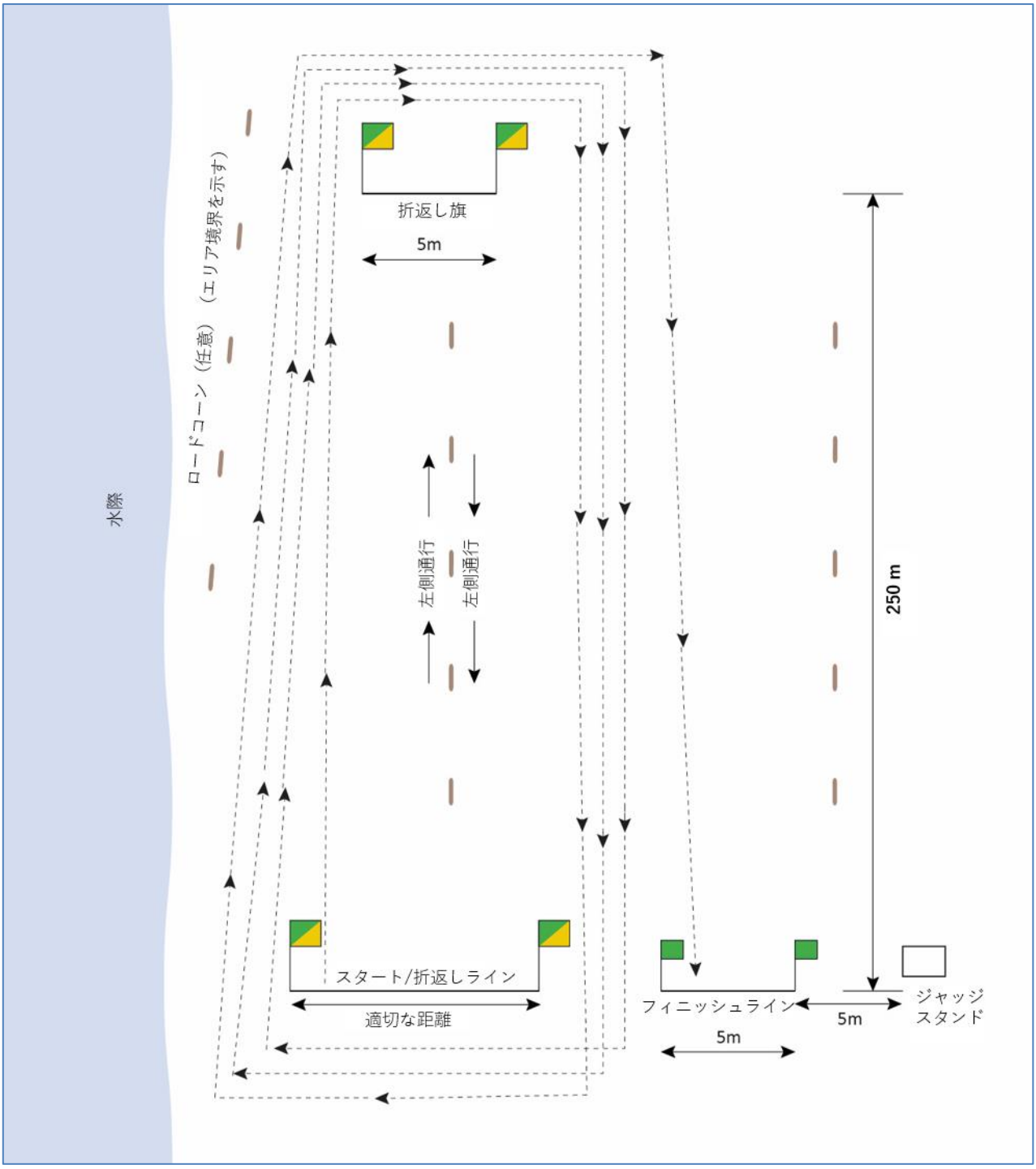


図 23：ビーチラン（1 km 及び 2 km）
（距離はおよその数値である）

距離	コース
1 km ビーチラン	2×500 m 区間
2 km ビーチラン	4×500 m 区間

14. ビーチランリレー（3×1 km） BEACH RUN RELAY (3 x 1 km)

14.1 競技の説明 Event description – 3 x 1 km

3 人の競技者がビーチにおいてそれぞれ 1 km ずつレースする。コースは，総距離を変更しない範囲で，会場の特性に合わせて設定されるものとする。デフォルトの周回距離は 500 m だが，ビーチの広さに余裕があればチーフレフリーは周回距離を 1 km としてもよい。

競技者は，スタートの合図により，レーンを左側通行でレースし折返しポールを（時計回りに又は右手に見ながら）回り，折返し旗に戻って，コースの周回を繰り返す。（チェンジオーバーゾーンに）入ってくる競技者は第 1 折返し旗を（時計回り又は右手に見ながら）回り，次の競技者にタッチする — 次の競技者は，第 1 及び第 2 折返し旗の間のチェンジオーバーゾーンの担当オフィシャルの指示に従いチェンジオーバーゾーンのほぼ中央にあるラインで待機している。タッチは，第 1 折返し旗から次の競技者が第 2 折返し旗を回るまでにしなければならない。

第 2 競技者は，上述と同じコースを回る。

第 3 競技者は，上述と同じコースを回ってフィニッシュラインを通過する。

他の競技者又はチームを故意に押したり妨害して彼らの進行を妨げてはいけない。

複数のジャッジが，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく，競技の実施を観察するために配置される。

フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

14.2 コース The course

コース（図を参照）として，ビーチ上（実用的には柔らかい砂上）に，水際に平行に 2 レーンをレイアウトする。

スタートラインは，砂上に引いたライン又は，緑と黄の旗を取り付けた 2 本のポール間に張った視認性の高い色の合成（繊維）コードとする。フィニッシュラインは，スタート/折返しラインより陸側に約 5 m 離して立てた 2 本の緑旗とする。チーフレフリーがスタート/折返しラインの長さを決定する。

走行レーン：コースは，水際に平行な 2 つのレーンに分けられる。海に近い側のレーンは，スタート/フィニッシュラインから走る区間である（全てのチームメンバーにとっての最初の区間）。2 つのレーンは色テープ，連続旗，その他の適切な材料により分けられる。

注意：コースを逆方向に走らせる場合，スタートから離れる区間は陸側で，戻り区間は海側となる。

緑＆黄旗を付けた 2 本のポールを，スタートから約 250 m のレーン分離線の終端に 5 m 間隔を空けて設置し，折返し場所とする

14.3 器材及び服装 Equipment and apparel

バトン：「第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは，競技者の裁量で着用してよい。履物は任意である。

14.4 判定 Judging

チーフレフリー/セクショナルレフリーは，コースの片側に位置して，全体を監督できるようにする。

競技者が他の競技者に干渉せず競技していることを確認するコースジャッジを任命してもよい。

競技者が不必要に押したり干渉していないか確認するため，折返しポールの位置にジャッジを 1 人配置すること。

フィニッシュジャッジは，順位を決める。

14.5 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

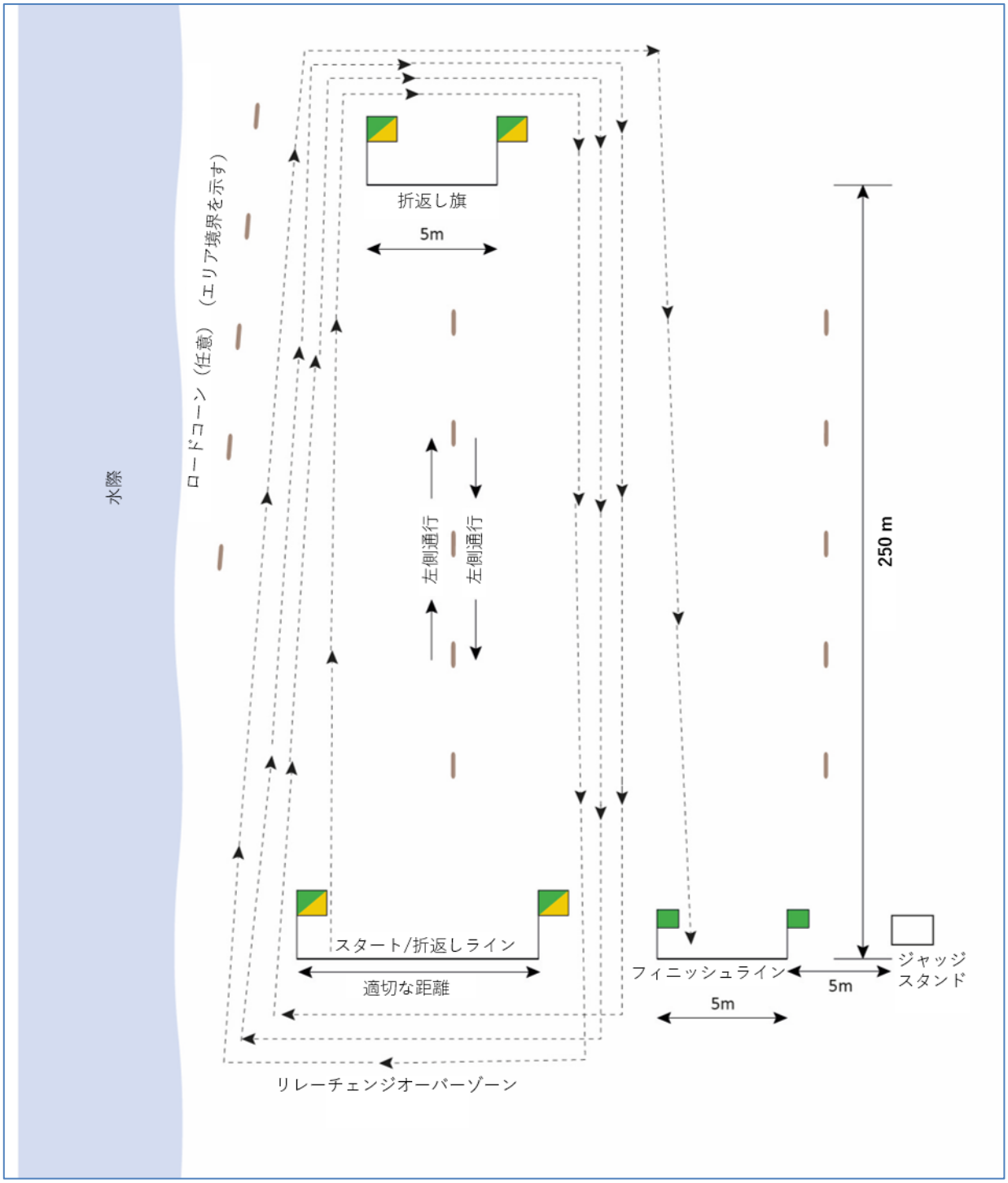


図 24：3×1 km ビーチランリレー

（距離はおよその数値である）

距離	コース
3×1 km ビーチランリレー	3×1 km （競技者 1 人あたり 2×500 m 区間）

15. サーフスキーレース SURF SKI RACE

15.1 競技の説明 Event description

1 人乗りのサーフスキーは，主としてパドルを持つ 1 人の競技者により推進されるクラフトである。 詳細については，ILS の施設及び器材の規格セクションを参照のこと。

競技者は，およそ膝の深さで約 1.5 m の間隔をとって列になり自身のサーフスキーを安定させる。競技者はスタートでのサーフスキーの並べ方についてスターター又はチェックスターターの指示に従わなければならない。

競技者は，スターターの合図で各自のサーフスキーをパドルで漕いで，ブイで標（しる）されたコースを回り，戻ってフィニッシュする。競技者が乗船している，掴んでいる又は運んでいるに拘らず，サーフスキーのいずれかの部分が水中フィニッシュラインを通過することでフィニッシュとなる。

競技者は，サーフスキーから離れたり操作できなくなっても，必ずしも失格とはならない。レースを完了するには，競技者は，サーフスキー及びパドルを確保し（又は再度それらを確保し），サーフスキー及びパドルに接したまま水中フィニッシュラインを海側から通過せねばならない。

競技者は，他の競技者のサーフスキーを掴んだり，その他の妨害をしてはならず，また故意に進路を妨害してはならない。

ドライスタート及びドライフィニッシュ：スターターが公平にスタートさせられない場合，ドライスタート及び/又はドライフィニッシュにより行われる。後述を参照のこと。

15.2 コース The course

コースのレイアウトの詳細は，以下の図のとおり。

スタートとフィニッシュを公平にするため，海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

ブイ：オレンジ色（又はエリア色）の 50 リットルのドラムと同じサイズの 3 つのブイを使用する[82]：2 個の「ターニングブイ」を約 75 m の間を隔て，干潮時の膝の深さ位置からのパドリング距離 300 m 以上沖合に配置する（マスターズは 250 m 以上）— 第 3 の「頂点」ブイは，2 個のターニングブイの中間及びそれらから更に約 15 m 沖合に配置し，3 個のブイで弧を描くようにする。

スタートラインを明確に設置する必要は無いが，必要であれば 2 本のポールで標（しる）し，第 1 ターニングブイがスタートラインの中央に位置するようにする。

フィニッシュラインは，クラフトが浮いた状態でフィニッシュする位置に置いた 2 つのスタンド又はポール又はその他適切なマーカーに付けたオレンジ色（又はエリア色）の旗の間とする。フィニッシュラインの中央に第 3 ターニングブイが（海の状況を考慮しながら）位置するようにする。

---

[82] 【JLA注釈】JLA主催競技会では，50リットルのドラムと異なるサイズのブイを用いる場合がある。

15.3 ドライスタート及びドライフィニッシュ Dry Start and Dry finish

ドライスタートでは，競技者は，2 本のスタートポール（間隔：35 m，位置：水際から約 5 m，長さ：2 m）の間の抽選した位置に，各自のスキー及びパドルと共に並ぶ。

スターターの合図で，競技者は自身の判断で自身のクラフトを水まで運び，図に示すサーフスキーコースをパドルする。

ドライフィニッシュラインは，水際から約 15 m の浜に設定する。ラインの長さは約 20 m で，両端は 4 m 長のポールに取り付けた旗で標（しる）す。フィニッシュ旗は，コースブイと同じ色であること。

A. 競技者は，サーフスキーをパドルして最終ブイを回らねばならないが，最終ブイを回った後の帰路であれば，クラフト又はパドルから離れたり操作できなくなっても失格にはならない。

B. 競技者は，クラフト又はパドルと共にフィニッシュする必要はない。

C. フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

D. 競技者のチームのメンバーは，クラフト及びパドルのコースからの回収をアシストする。チーフレフリーが承認すれば，チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。ただし，他の競技者の進路を妨害してはならない。

E. ハンドラーは：
- 競技用キャップを着用すること，
- 膝の深さより深い海に入る場合，主催者から指定された視認性の高いベストを着用すること，
- ハンドラー自身及びハンドラーが扱う器材が，他の競技者を妨害しないようあらゆる努力を尽くすこと（さもなくば失格になる場合がある），
- オフィシャルの全ての指示に従うこと。

15.4 器材 Equipment

サーフスキー：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者のためにサーフスキー又はパドルを交換することは認められており，他の競技者を妨害せず交換し，そして競技者が元のスタートエリアからレースを再スタートするのであれば，チームの他のメンバーが水際に運んでもよい。

15.5 判定 Judging

複数のジャッジが，競技の実施を観察し，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

15.6 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

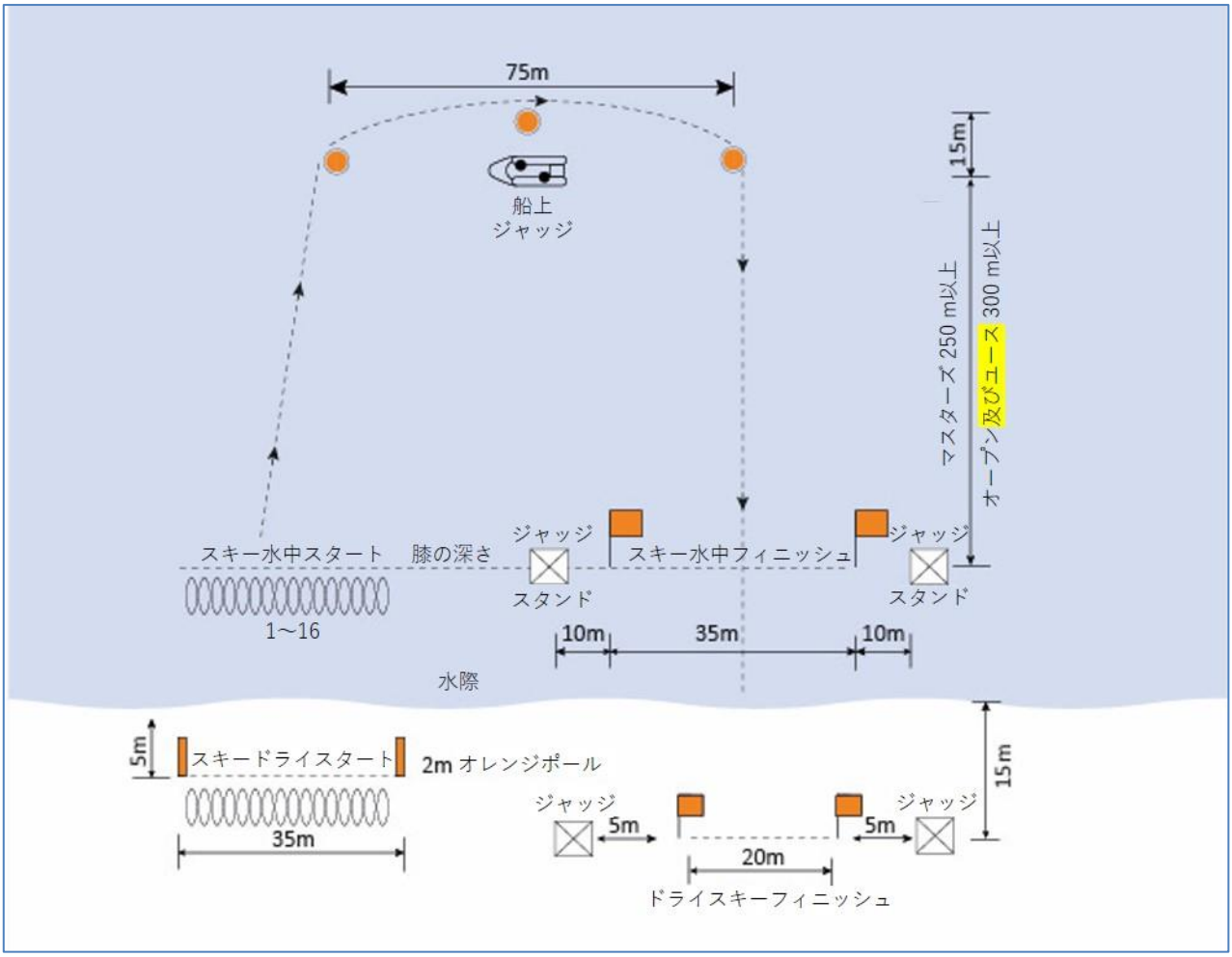


図 25：サーフスキーレース

（距離はおよその数値である）

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

年齢グループ	距離
オープン及びユース	ベースブイまで 300 m
マスターズ	ベースブイまで 250 m

16. サーフスキーリレー SURF SKI RELAY

16.1 競技の説明 Event description

サーフスキーリレーはサーフスキーレースの一般規則の下で実施される。各チームはそれぞれ 3 人の競技者で構成され，同一クラフトを共用してよい。競技者はスタート時のサーフスキーの並べ方について，スターターまたはチェックスターターの指示に従わなければならない。

第 1 競技者：リレー第 1 区間の競技者は，サーフスキーレースと同様にスタートし，パドルしてブイを回る。ここまでのコースを終えたら，第 1 競技者は，自身のクラフト（及びパドル）から離れてもよく，2 本の緑＆黄旗を回って，指定されたチェンジオーバーラインにいる第 2 競技者にタッチする。

第 2 競技者：第 2 競技者は同じコースをとり，2 本の折返し旗を回り，指定されたサーフスキーチェンジオーバーラインにいる第 3 競技者にタッチする。

第 3 競技者：第 3 競技者は同じコースをとり，折返し旗 1 本を回り，もう 1 本の旗の陸側を通過し，2 本のフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。

サーフスキーリレー競技の競技者は，自身の区間を割り当てられた位置から正しくスタートせねばならない。

各チームの第 1 及び第 3 競技者は，抽選したチームの位置からスタートする。但し，各チームの第 2 競技者については，抽選したスタート位置の左右を入れ替える。例えば，16 チームが参加するレースで，抽選により位置 1 と指定された場合，第 1 競技者は位置 1 からスタート，第 2 競技者は位置 16 からスタート，第 3 競技者は位置 1 からスタートとなる。

第 1 及び第 3 競技者のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	...16
第 2 競技者のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	…1

競技者は，他の競技者のサーフスキーを掴んだり，その他の妨害をしてはならず，また故意に進路を妨害してはならない。

16.2 コース The course

コースのレイアウトの詳細は，以下の図のとおり。フィニッシュは 2 本の緑色（又はエリア色）の旗の間である。

サーフスキーリレーにおいて，スタート/チェンジオーバーラインは水中に設定される。スタートとフィニッシュを公平にするため，海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

16.3 器材及び服装 Equipment and apparel

サーフスキー，パドル：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

A. チームのメンバー又はチーフレフリーの承認を得た他チームのメンバーは，チームメンバーが使用したクラフトが，レースしている他チーム又は競技者を妨害しないようにせねばならない。混雑及び器材破損を避けるため，器材を可能な限り早く水際から回収すること。

B. 同一団体から複数のチームが出場する場合，各チームは識別できる数字又は文字を腕，脚，又はキャップに入れること。

16.4 判定 Judging

複数のジャッジが，競技の実施を観察し，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

競技者は，体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。

16.5 クラフトのコントロール Control of craft

競技者は，再度サーフスキー（及びパドル）を確保してクラフトに接触したまま最終ブイを回りコースを完了するのであれば，沖に出る際にサーフスキー又はパドルから離れたり操作できなくなっても，よい。

競技者は，自分のサーフスキーをパドルして最終ブイを回らねばならないが，最終ブイ後の帰路では，自分のクラフト（又はパドル）から離れたり操作できなくなっても，失格にはならない。

16.6 マスターズ・スキーリレーのコース及び手順のバリエーション Masters Ski Relay Course and Procedure Variation

A. マスターズのスキーリレーのスキーコースブイは，オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーのスキー区間に準ずる。競技者は特に指示のない限り，スイムブイ，白黒のボードブイ，及び3つのオレンジのスキーブイを含む水上のすべてのブイを回らねばならない。

B. 約15 m離した2本の緑/黄の折返し旗を（波の状況を適切に考慮して走る距離が最小になるように）海岸線又は膝の深さに設置する。

C. 2本の緑色（又はエリア色）のフィニッシュ旗は約5 mの間隔を空け，更に第2折返し旗から約5 m離して設置する。

注意：これ以外の条件は，通常のコースのまま変更はない。

16.7 失格 Disqualifications

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

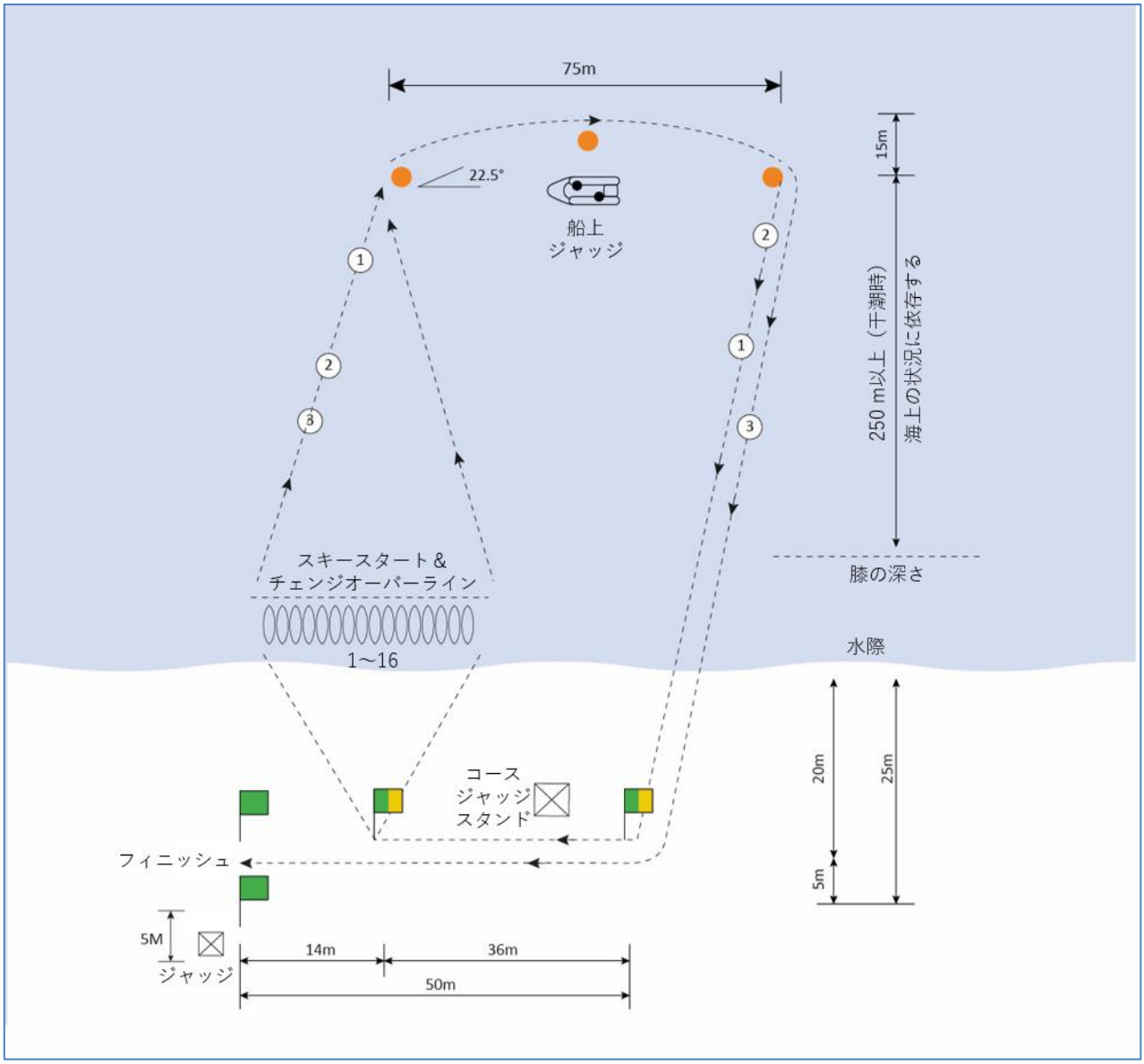


図 26：オープン及びユースのサーフスキーリレー
（距離はおよその数値である）

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

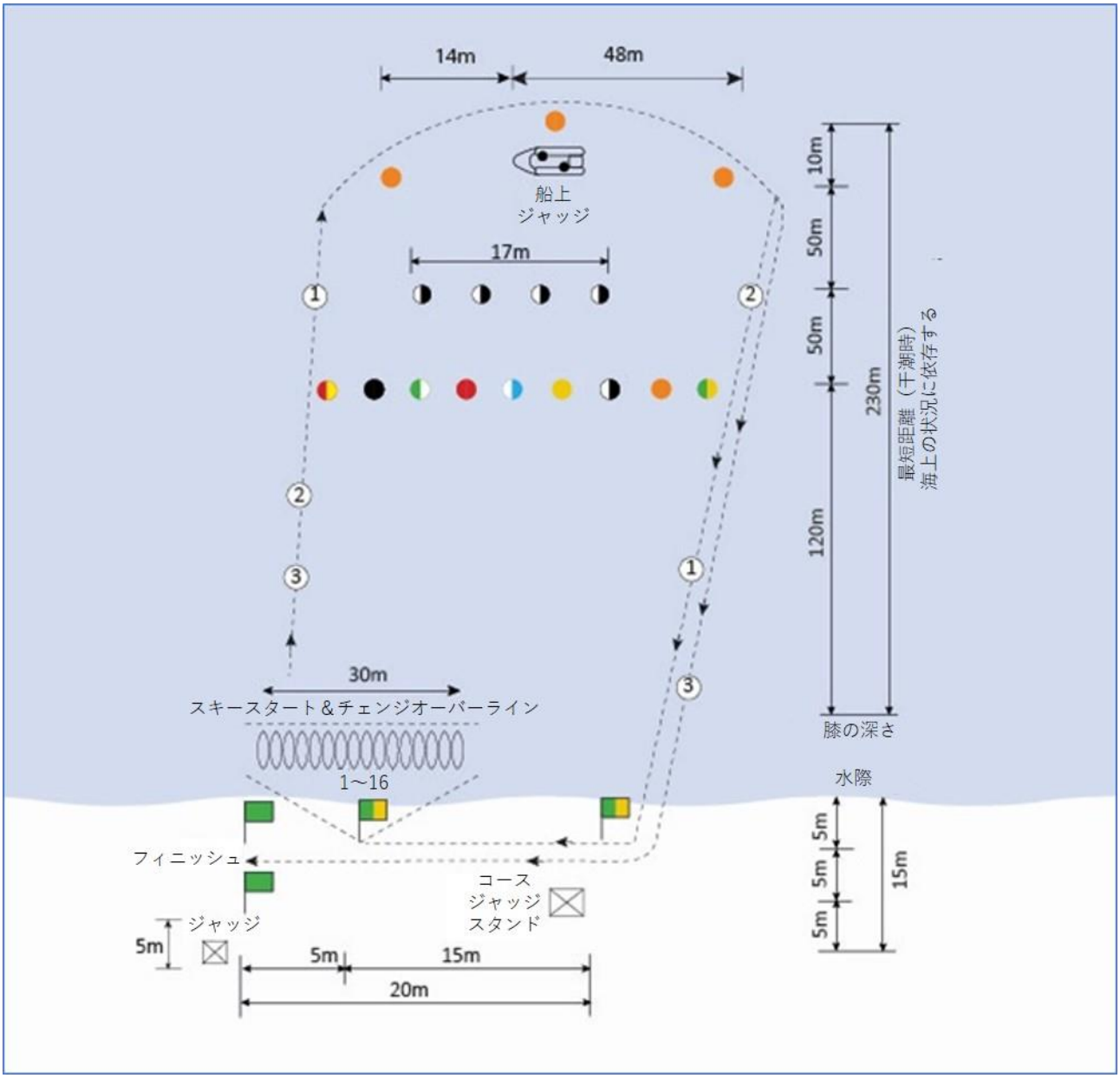


図 27：マスターズのサーフスキーリレー
（距離はおよその数値である）

注意 1：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である[83]。

注意 2：折返し旗は，レフリー又はその代理人がレース時の海の状況を考慮して設置される，例えば，安全性，公平性，実用性の観点から，ビーチから海への急峻な下り及び/又は水際での強いダンパーがある場合，折返し旗は水際から約 5 m の位置まで後退させるべきである。しかしながら，平らなビーチ及び/又はうねりが殆ど無い場合，ランの距離を最小化するため折返し旗は水際又は水中に置いても良い。チェンジオーバーラインは，状況及び折返し旗の位置に応じてビーチ又は水中に設置され得る。

---

[83] 【JLA 注釈】スキーブイの幅は，この図では 14 m+48 m=62 m だが，JLA 主催競技会では本文（S4-16.6 マスターズ・スキーリレーのコース及び手順のバリエーション）にある通りオーシャンマン/オーシャンウーマンリレーのスキー区間に準じて約 50 m を基本とする場合がある。

17. ボードレース BOARD RACE

17.1 競技の説明 Event description

サーフボードは主に競技者の手と腕により推進するクラフトである。詳細は「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

競技者は，ボードと共に，1.5 m の間隔を空けて，ビーチのスタートラインの上又は後ろに立つ。

競技者は，スターターの合図で水に入り，ボードを漕いで，ブイで標（しる）されたコースをパドルし，浜に戻りフィニッシュラインを走って通過する。

競技者は，他の競技者のボードを掴む又はその他の妨害をしてはならず，また故意に彼らの進路を妨害してはならない。

17.2 コース The course

コースのレイアウトは，以下のボードレースの図で詳細を示す。

スタートとフィニッシュを公平にするため，海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

ブイ：50 リットルのドラムと同じサイズの 3 つの黒&白（又はエリア色）ブイを使用する[84]：2 個の「ターニングブイ」を約 75 m の間を隔て，干潮時の膝の深さ位置から 250 m 以上沖合に配置する（マスターズも同様）— もう 1 個の「頂点」ブイは，2 個のターニングブイの中間及びそれらから更に約 15 m 沖合に配置し，3 個のブイで弧を描くようにする。

スタートラインは，2 本のポール間の砂上に描いたライン，又は 2 本のポール間の鮮やかな色のコード（紐）であり，水際から約 5 m の浜に設定する。スタートラインの長さは 30 m である。スタートラインの中央に第 1 ターニングブイが並ぶようにするが，全ての競技者が第 1 ブイを公平に通過できるよう，状況に応じてチーフレフリーの裁量で変更することができる。

フィニッシュラインは，水際から約 15 m の浜に設定した 2 本の黒&白（又はエリア色）の旗の間とする。長さは 20 m で，両端に旗を付けた 4 m ポールを立てる。

フィニッシュラインの中央に 3 番目のターニングブイが並ぶようにするが，海況に応じてチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

17.3 器材 Equipment

ボード：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。ボードの交換は，競技者がスタートラインから再スタートすれば認められる。ボードの交換は，他の競技者を妨害しないのであれば，競技者のチームメンバーが代替ボードをスタートラインまで運んでもよい。

17.4 判定 Judging

フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者はボードをコントロールした状態で，足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

---

[84] 【JLA注釈】JLA主催競技会では，50リットルのドラムと異なるサイズのブイを用いる場合がある。

17.5 クラフトのコントロール Control of craft

競技者は，ボードから離れる又は操作できなくなっても，必ずしも失格になることはない。レースを完了するには，競技者は自身のボードを持ち（又は再度確保して）ボードと共にフィニッシュラインを海側から通過せねばならない。

17.6 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

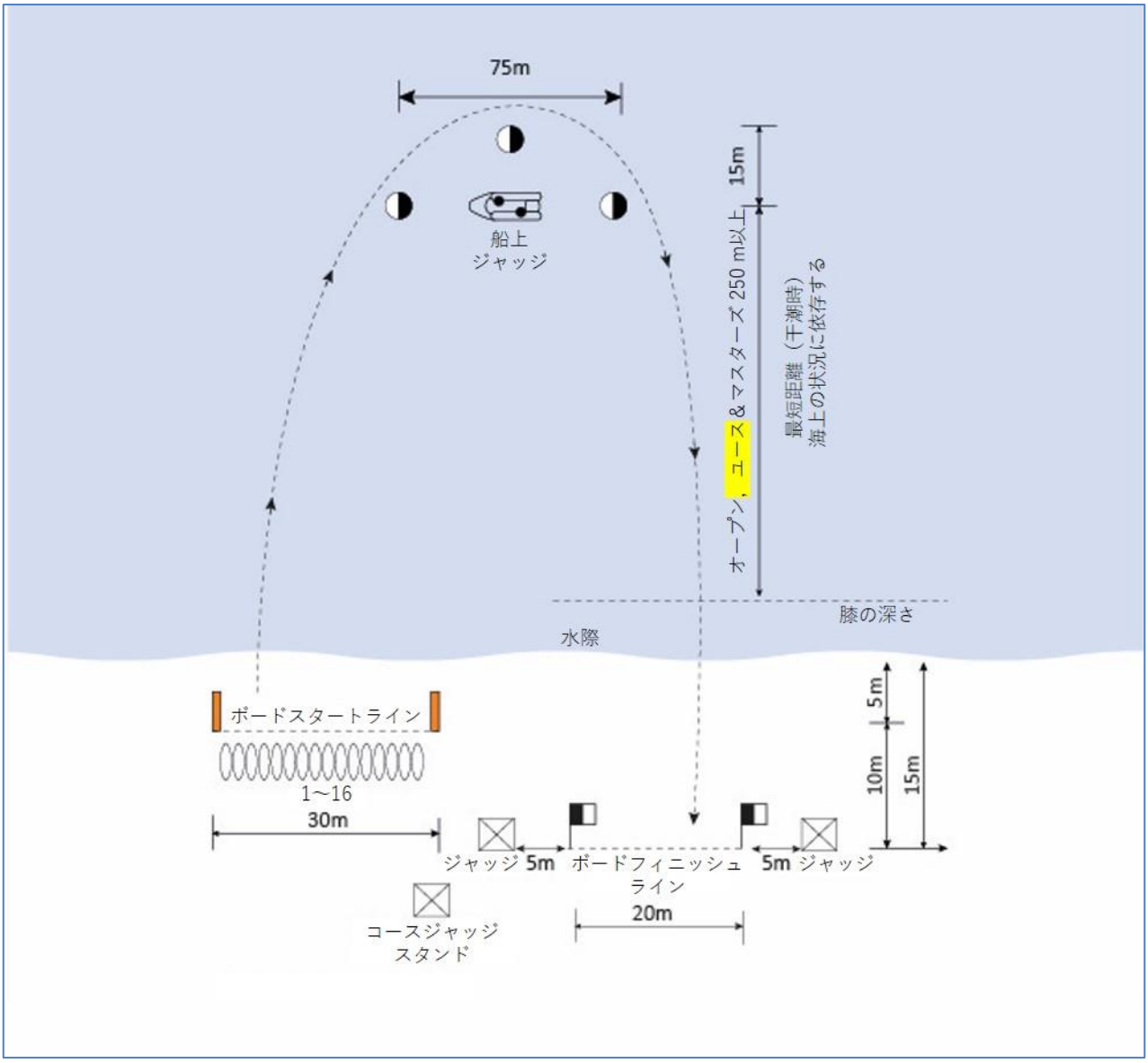


図 28：ボードレース

（距離はおよその数値である）

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

年齢グループ	距離
オープン及びユース	ベースブイまで 250 m
マスターズ	ベースブイまで 250 m

18. ボードリレー BOARD RELAY

18.1 競技の説明 Event description

ボードリレー競技は，ボードレース競技の一般ルールの下で実施される。チームは 3 人で構成され，その 3 人は同じボードを使用してもよい。

第 1 競技者：第 1 競技者はボードレースと同様の手順でスタートし，ブイで指定されたコースを回る。次にボードから離れ（離れる場所はブイを回った後ならどこでもよい）2 本の緑＆黄旗を回って，チェンジオーバーラインで待機している第 2 競技者にタッチする。

第 2 競技者：第 2 競技者は，同じコースをとり，2 本の緑＆黄旗を回ってチェンジオーバーラインで待機している第 3 競技者にタッチする。

第 3 競技者：第 3 競技者は同じコースをとり，折返し旗 1 本を回り，もう 1 本の旗の陸側を通過し，2 本の緑色（又はエリア色）のフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。

ボードリレー競技において，第 2，第 3 競技者は，足をチェンジオーバーラインの上又は陸側に置いて待機する。第 2，第 3 競技者は，タッチされた後，入水するのにスタートラインを越えなくてもよい。

ボードリレー競技の競技者は，指定された正しい位置から各自の区間を開始せねばならない。

各チームの第 1 及び第 3 競技者は，抽選によって決定した位置からスタートする。それに対して，各チームの第 2 競技者は，スタート位置が抽選したものとは逆並びとなる。例えば，16 チームが参加するレースで，抽選により位置 1 と指定されたチームは，第 1 競技者は位置 1 からスタート，第 2 競技者は位置 16 からスタート，第 3 競技者は位置 1 からスタートする。

第 1 及び第 3 競技者のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	...16
第 2 競技者のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	…1

競技者は，他の競技者のボードを掴んだり，その他の妨害をしてはならず，また故意に進路を妨害してはならない。

18.2 コース The course

コースレイアウトは，ボードリレーレース[85]で詳細を示した通り及び以下の図に示す通りとする。

スタートとフィニッシュを公平にするため，海況に応じてチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

18.3 器材 Equipment

ボード：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

A. ボードの交換は，競技者がスタートラインから再スタートするのであれば認められる。ボードの交換は，他の競技者を妨害しないのであれば，競技者のチームメンバーが代替ボードをスタートラインまで運んでもよい。

B. チームのメンバー又はチーフレフリーの承諾を得た他チームのメンバーは，チームメンバーが使用したクラフトが，レースしている他チーム又は競技者を妨害しないようにせねば

[85] 【JLA注釈】原文は「the Board Relay Race」だが，ここは「ボードレース」の誤植だと思われる。

ならない。混雑及び器材破損を避けるため，ボードを可能な限り早く水際から回収すること。

C. 同一団体から複数のチームが出場する場合，各チームは識別ができる数字又は文字を腕，脚，又はキャップに入れること。

18.4 判定 Judging

フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

18.5 クラフトのコントロール Control of craft

競技者は，再度ボードを確保してボードに接触したまま最終ブイを回りコースを完了するのであれば，沖に出る際にボードから離れたり操作できなくなってもよい。

競技者は，自分のボードをパドルして最終ブイを回らねばならないが，最終ブイ後の帰路では，ボードから離れたり操作できなくなっても，失格にはならない。

18.6 マスターズ・ボードリレーのコース及び手順のバリエーション Masters Board Relay Course and Procedure Variation

A. マスターズのボードリレーのボードコースブイは，オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーのボード区間に準ずる。競技者は特に指示のない限り，全てのスイムブイ及び白黒のボードブイを回らねばならない。

B. 約15 m離した2本の緑/黄の折返し旗を（波の状況を適切に考慮して走る距離が最小になるように）海岸線又は膝の深さに設置する。

C. 2本の緑色（又はエリア色）のフィニッシュ旗は約5 mの間隔を空け，更に第2折返し旗から約5 m離して設置する。

注意：これ以外の条件は，通常のコースのまま変更はない。

18.7 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

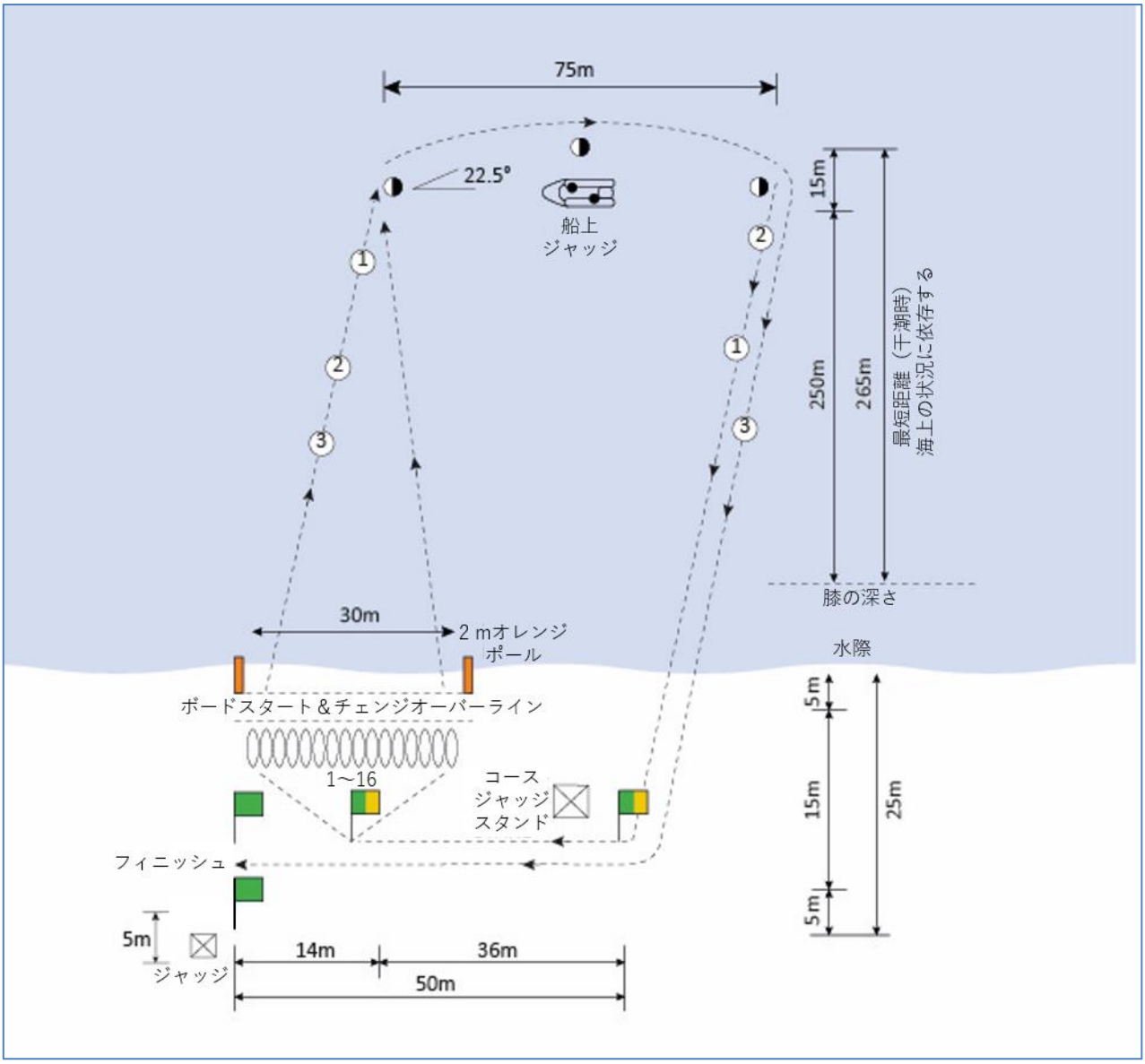


図 29：オープン及びユースのボードリレー
（距離はおよその数値である）
注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

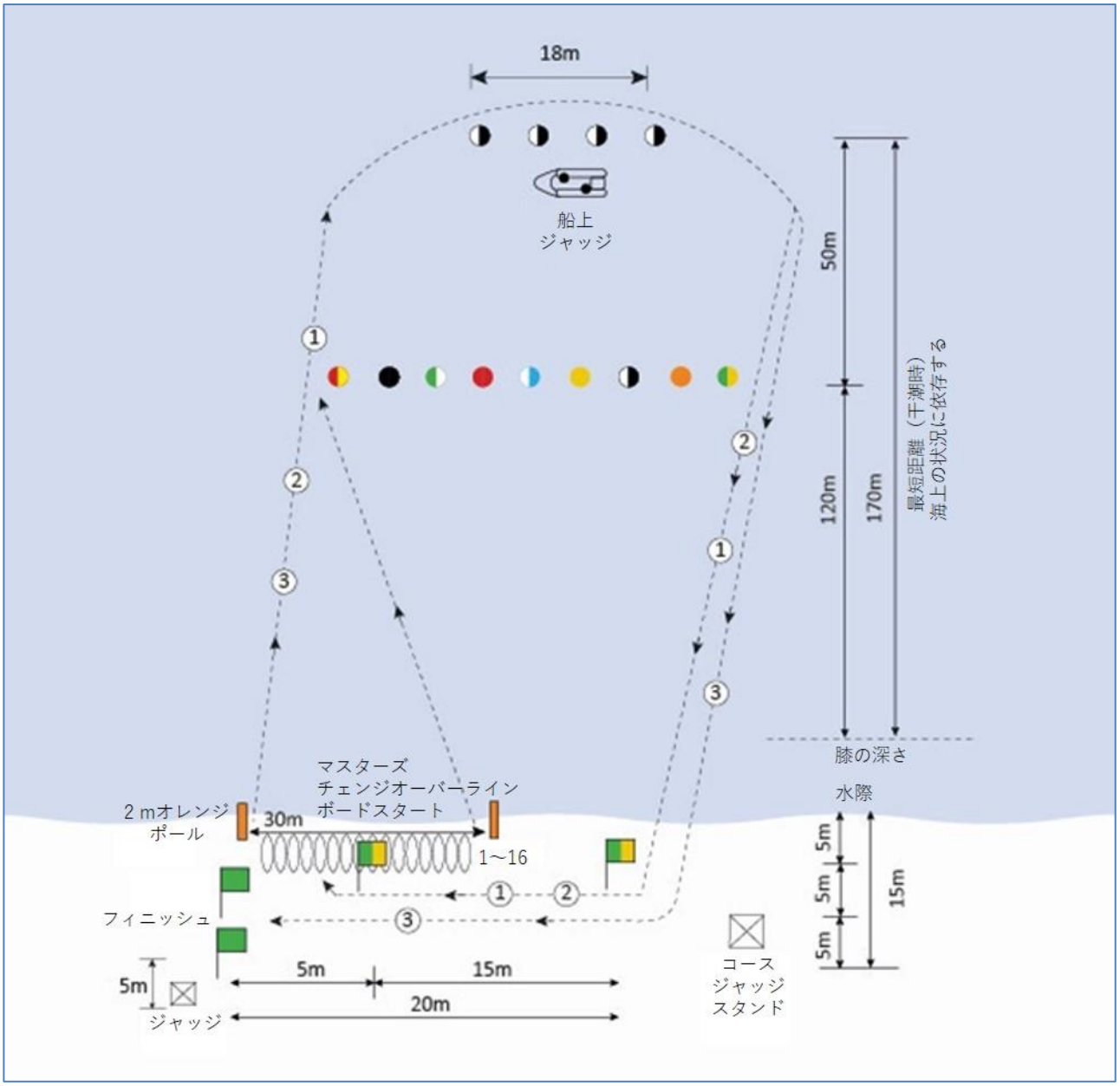


図 30：マスターズのボードリレー
（距離はおよその数値である）

注意 1：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である[86, 87]。

注意 2：マスターズ競技者は，コースを完了するのに全てのスイム及びボードブイを回らねばならない。

注意 3：折返し旗は，レフリー又はその代理人がレース時の海の状況を考慮して設置される，例えば，安全性，公平性，実用性の観点から，ビーチから海への急峻な下り及び/又は水際での強いダンパーがある場合，折返し旗は水際から約 5 m の位置まで後退させるべきである。しかしながら，平らなビーチ

---

[86] 【JLA 注釈】ボードブイの幅は，この図では 18 m だが，JLA 主催競技会では本文 S4-18.6 にあるとおりオーシャンマン/オーシャンウーマンリレーのボード区間（図 32）に準じて 17 m を基本とする。

[87] 【JLA 注釈】この図では 4 つの白黒ブイが描かれているが，JLA 主催競技会では白黒ブイ 2 つで対応することがある。

及び/又はうねりが殆ど無い場合，ランの距離を最小化するため折返し旗は水際又は水中に置いても良い。チェンジオーバーラインは，状況及び折返し旗の位置に応じてビーチ又は水中に設置され得る。

19. ボードレスキュー BOARD RESCUE

19.1 競技の説明 Event description

この競技では，チームの第 1 競技者が約 120 m 沖にある指定されたブイまで泳ぎ，サインを出し，チームの第 2 競技者がボードでピックアップしに来るのを待つ。両者ともに波打際までパドルをして，ボードを保持した状態で砂浜にあるフィニッシュラインを通過する。

A. 両競技者はスタート/フィニッシュラインの指定された位置からスタートする。正しくないブイに泳ぎ着きサインを出した競技者は失格となる。

B. **第1競技者**：被救助者役は，スターターの合図でビーチのスタートラインの指定された位置から水に入り，指定されたブイまで泳ぎ着きタッチし，ブイに触れた状態で，もう一方の手を垂直に挙げ到着の合図をする。その後，ブイより沖側の水中で待機する。

注意1：ここでブイとはブイ本体のことであり，ブイにつながれているロープ及び/又はストラップは含まれない。競技者はブイ到着の合図をする前に，水面より上で視覚的に分かるようブイにタッチしなければならない。

注意2：競技者は，ブイとブイロープに触れてもよいが，指定されたブイに達するためブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

C. 第1競技者がブイに触れたことを明確に伝える合図が別にある場合，チーフレフリーの判断により，そちらの方法を採用してもよい。

D. **第2競技者**：ボードレスキュアーは，被救助者役が到着の合図をしたら，指定された位置からスタートラインを越えて入水し，指定されたブイの沖側の被救助者役までパドルする。被救助者役はブイの沖側でボードに触れなければならない。ボードは，被救助者役と共に海岸に戻る前に，ブイを時計方向に（右手が内側になるように）回らなければならない。ボードは，被救助者役をピックアップしている間，ブイの浜側に入り込んでもよい。

E. 被救助者役は，ボードの前方又は後方に乗る。被救助者は，浜に戻るのにボードをパドルして協力してもよい。

F. フィニッシュは，緑色（又はエリア色）の旗で示されたフィニッシュラインを，体を起こした状態で自身の足で越えた各チームの先頭競技者の胸の位置で判定され，両競技者はボードに接していなければならない。

注意：フィニッシュ結果が記録されるには，最初の競技者がフィニッシュラインを通過した時，両方の競技者がボードに接触していることが必要だが，第2の競技者が足でフィニッシュラインを通過すること及び/又はボードに接触していることは必須ではない。しかし，全てのチームは，競技判定の邪魔にならず後続のチームがフィニッシュできるよう，直ちにフィニッシュラインの陸側に移動することが求められる。

G. ボードレスキュアーは，被救助者役が到着の合図をする前にスタートをしてはならない。ボードレスキュアーは，あらためて正しい位置からスタートするのであれば，被救助者役の到着の合図を待つ間，理由の如何にかかわらずスタート/フィニッシュラインを越えてもよく，失格とはならない。

H. 競技者は，他の競技者のボードを掴んだり，その他の妨害をしてはならず，また故意に進路を妨害してはならない。

19.2 コース The course

コースレイアウトの詳細を下記の図に示す。

ボードは，チーフレフリーから競技の前に指示がない限り，指定されたブイを時計方向（右手が内側になるよう）にパドルして回らねばならない。

19.3 器材 Equipment

ボード：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

19.4 判定 Judging

複数のジャッジが，競技の実施を観察し，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

19.5 被救助者役又はボードのコントロール Control of victim or board

レスキュアー及び被救助者役は，復路でボードから離れても失格にはならないが，フィニッシュラインを通過するときには両者でボードに接していなければならない。

19.6 被救助者役のピックアップ Victim pick-up

ボードの全部が指定されたブイの沖側でなくてもよいが，被救助者役は指定されたブイの沖側でボードに触れなければならない。

19.7 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

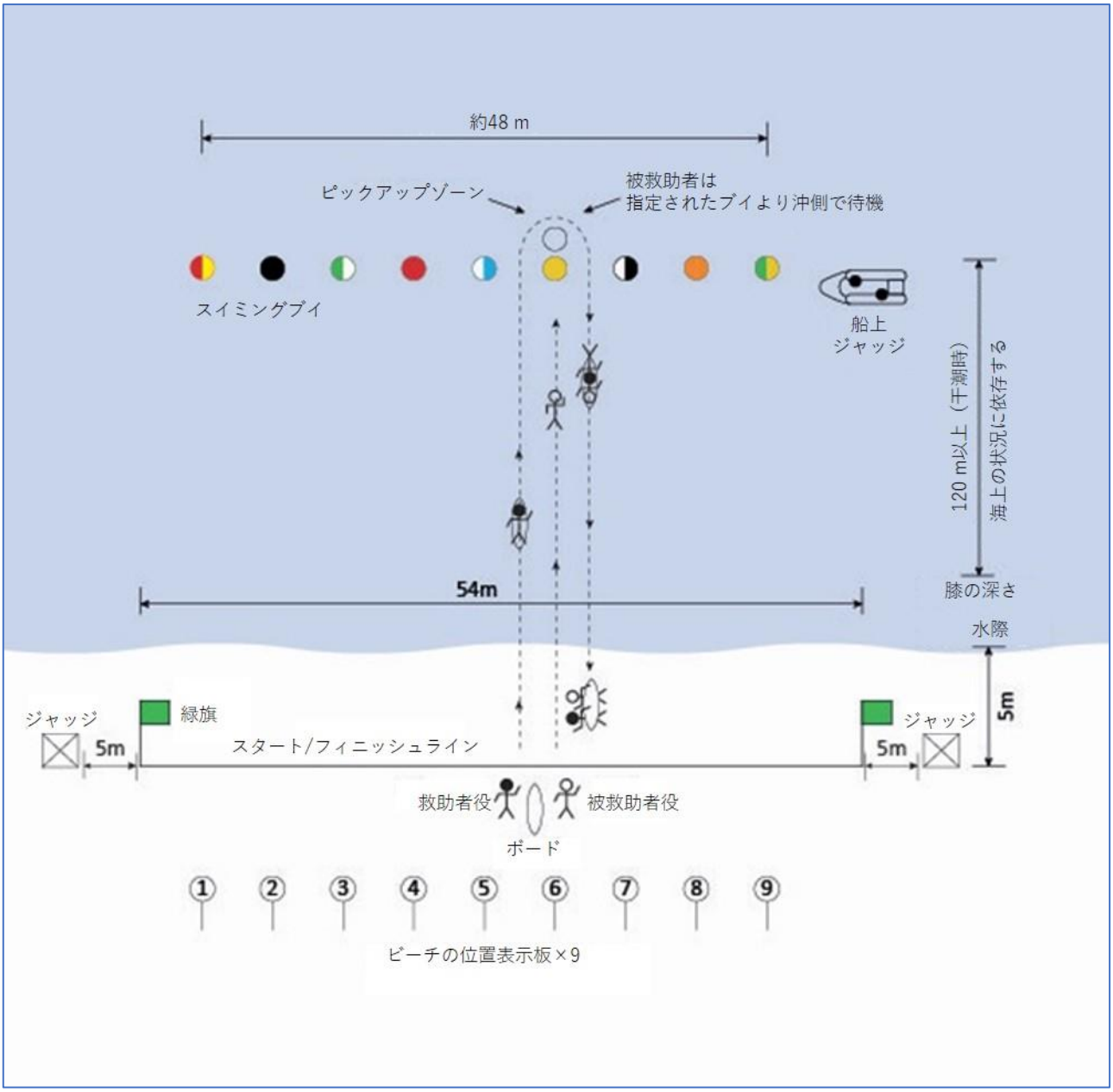


図 31：ボードレスキュー

（距離はおよその数値である）

注意：ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは，海の状況に応じて調整され得る。

20. オーシャンマン/オーシャンウーマン OCEANMAN/OCEANWOMAN

20.1 競技の説明 Event description

競技者は，スイム区間，ボード区間，サーフスキー区間，及びビーチスプリント[88]によるフィニッシュからなる合計約 1.4 km のコースを全て回る。

この節で述べられている相違を除き，各区間ではそれぞれ個別の一般的な競技種目規則が適用される。

各区間の順序は，事前に抽選によって決定される。オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーの区間順序も同じ抽選結果を用いる。

サーフスキー区間が最初の場合，通常の水中スタートで行う。

スタートの位置：競技者はビーチの自身に割り当てられた位置からレースをスタートせねばならない。競技者は，ビーチの指定された正しい位置からクラフト区間を開始せねばならない。ボード及びスキー区間のスタート位置は入れ替わる。例えば，16 人の競技者が参加するレースで，抽選により位置 1 と指定された場合，最初のクラフト区間は位置 1 からスタート，次のクラフト区間は位置 16 からスタートとなる。

1 番目のクラフト区間のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	...16
2 番目のクラフト区間のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	…1

ハンドラー：競技者が属するチームメンバーが，当該競技者を補助する。チーフレフリーが認めた場合，チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。

ハンドラーは：

A. 競技用キャップを着用すること，
B. 膝の深さより深い海に入る場合，主催者から指定された視認性の高いベストを着用すること，
C. 配置図又はオフィシャルの指示する位置にサーフスキーを浮かせて保持する，
D. ハンドラー自身及びハンドラーが扱う器材が，他の競技者を妨害しないようあらゆる努力を尽くすこと（さもなくば競技者が失格になる場合がある），
E. オフィシャルの全ての指示に従うこと。

20.2 コース The course

スイム，ボード，サーフスキー区間のブイの配置は図のとおりである。

スタートとフィニッシュを公平にするため，海況を観ながらチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

ブイまでの距離：スイムブイは干潮時における膝の深さの地点から 120 m 以上沖合に配置する。ボード区間のブイ及びサーフスキー区間のブイは，スイムブイからそれぞれ約 50 m 及び約 100 m 沖合に置く。ボード区間のブイは約 17 m 間隔を空け，サーフスキーブイは約 50 m 間隔を空け，更に沖へ 10 m のサーフスキー「頂」ブイを置く。

---

[88] 【JLA 注釈】原本に beach sprint とあるが，JLA 主催競技会では「ラン区間」と呼称する場合がある。

旗のレイアウト：浜の折返し点として，水際から約 20 m に 2 本の緑&黄の旗を立てる。第 2 折返し旗は第 2 スイムブイと，第 1 折返し旗は第 8 スイムブイと向かい合うように設置する。フィニッシュラインとして，2 本の緑色（又はエリア色）の旗を 5 m の間隔を空けて設置する。これらは，第 1 折返し旗から約 50 m 離れた位置に，水際と垂直に設置する。

スタート及びチェンジオーバーライン：スタート及びチェンジオーバーラインは，長さは約 30 m で，ラインの中心が第 1 スイムブイと向かい合うように水際から約 5 m の浜に引き，両端には 2 m のポールを立てる。

ボード区間又はスイム区間が最初の場合，スタート及びチェンジオーバーラインがスタートラインとなる。又，ボード区間ではボード設置ラインとして用いられる。競技者はレースが開始された後，スタート及びチェンジオーバーラインを越える必要はない。

ボードコース：ボード区間は，スタート及びチェンジオーバーラインから，第 1 スイムブイの外側を通過し，2 つのボードコースブイを回り，第 9 スイムブイの外側を通過して浜に戻り，2 本の折返し旗を回る。

サーフスキーコース：サーフスキー区間は，図のとおりにサーフスキーを浮かべた位置からスタートし，3 つのサーフスキーコースブイを回って浜に戻り，2 本の折返し旗を回る。競技者は，全てのブイの外側を通過せねばならない。競技者は，スイムコースブイ又はボードコースブイの間を横切ってはいけない。

スイムコース：スイム区間は，スタート及びチェンジオーバーラインから，スイムブイを回り，浜に戻り 2 本の折返し旗を回る。

ラン区間コース及びフィニッシュ：レースは，競技者が全ての区間を終えたとき完了する。競技者は，第 1 折返し旗を回り， 2 本目の折返し旗の陸側を通過し，2 つのフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。

注意：競技者は，各区間のブイを回るのと同じ方向に，折返し旗をまわること。

マスターズ：もし海況によりマスターズのオーシャンマン/オーシャンウーマンのスイムコースが 120 m を越えるようであれば，10 m 以上間を空けた 2 つのブイを置くことで，120 m の目印としてよい。この場合，通常のスイムコースはボード区間及びサーフスキー区間の第 1 及び第 3 ターンブイとして使用される。スイムブイよりも 10 m 沖に頂点（apex）ブイを置いて，サーフスキーコースとする。

20.3 マスターズ・オーシャンマン/オーシャンウーマンのバリエーション
Masters Oceanman/Oceanwoman Variation

マスターズ・オーシャンマン/オーシャンウーマンは，2 本の緑/黄の折返し旗を約 15 m 離して（波の状況を適切に考慮して走る距離が最小になるように）海岸線又は膝の深さに設置することを除いて，スタンダードなオーシャンマン/オーシャンウーマンイベントに準ずる。2 本の緑色（又はエリア色）のフィニッシュ旗は約 5 m の間隔を空け，更に第 2 折返し旗から約 5 m 離して水際に設置する。最初の区間がスイム又はボードの場合，競技は水際からスタートする。第 2 及び第 3 区間で競技者がクラフトをピックアップするため，ハンドラーは（適宜）クラフトを水中で保持して良い。

注意：これ以外の条件は，通常のコースのまま変更はない。

20.4 器材 Equipment

サーフスキー，パドル，ボード：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

A. **破損したクラフトの交換**：ボード又はサーフスキーは，破損又は航行不能でない限り，各区間を競技中に交換することはできない。チームメンバー/ハンドラーは，別の器材をスタートライン及びチェンジオーバーラインに別の器材を置くまでであれば，破損したクラフトの交換を補助できる。

B. **パドル**：パドルが紛失又は破損した場合，スタート及びチェンジオーバーラインに戻った場合に限り交換することができる。

C. **器材の撤去**：競技を安全に実施するため，チームメンバー及び/又はハンドラーは，他の競技者の進路を妨害しなければ，破損又は放棄された器材をレース中にコースから撤去することができる。

20.5 判定 Judging

複数のジャッジが，競技の実施を観察し，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

20.6 クラフトとの接触 Contact with craft

競技者は，最終ブイを通過するまではサーフスキー又はボードに接していなければならない。最終ブイから浜に戻る途中でクラフトが離れても失格とはならない。最終ブイに向かう途中でクラフトが離れても失格とはならないが，この場合は，クラフトを回収し，クラフトに接した状態で各区間の最終ブイを回り，コースを完了すること。

20.7 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

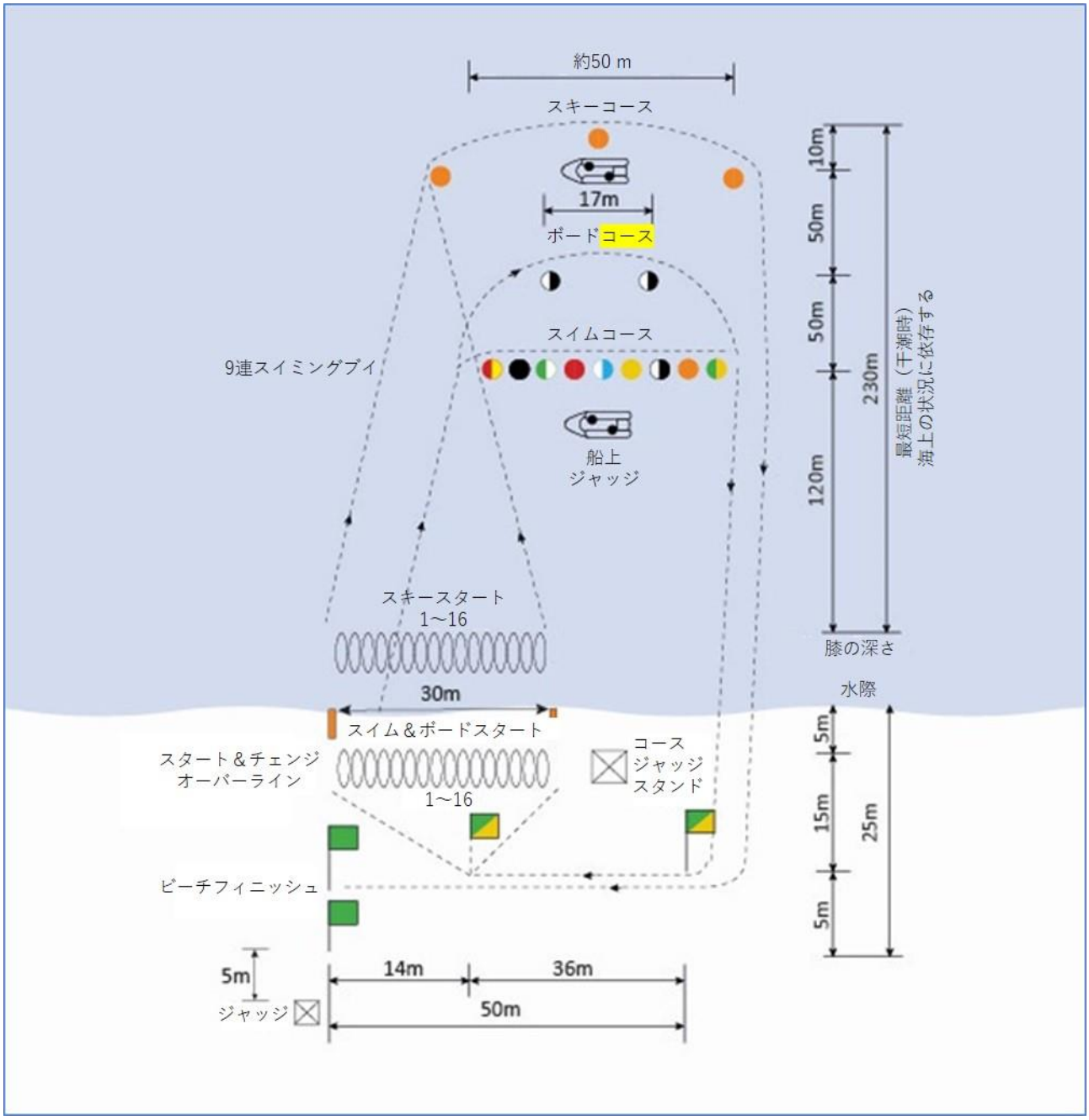


図 32：オープン及びユースのオーシャンマン/オーシャンウーマン
（距離はおよその数値である）

注意：ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは，海の状況に応じて調整され得る。

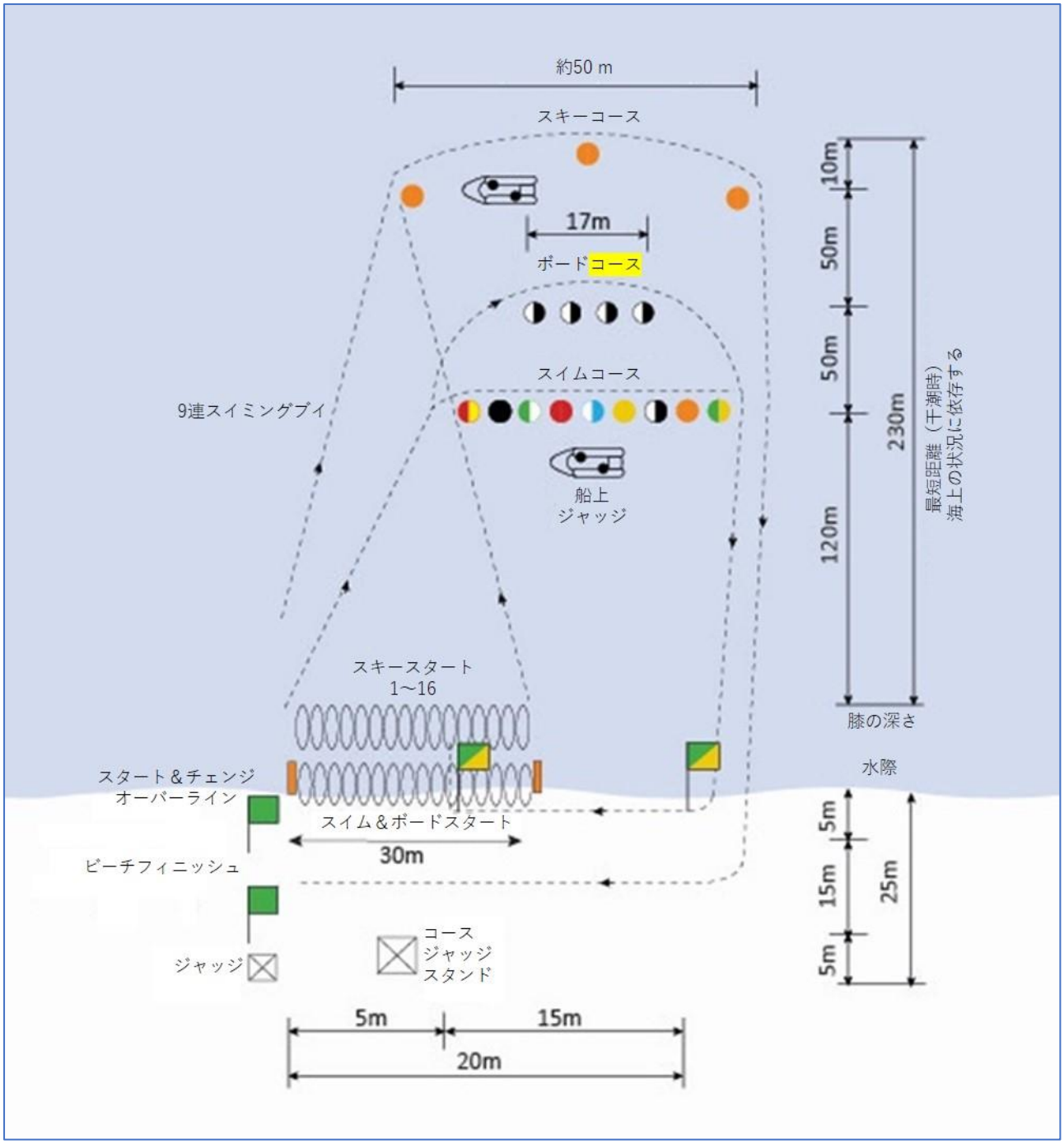


図 33：マスターズのオーシャンマン/オーシャンウーマン
及びオーシャンマン/オーシャンウーマンリレー[89]

（距離はおよその数値である）

注意 1：ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは，海の状況に応じて調整され得る。

注意 2：折返し旗は，レフリー又はその代理人がレース時の海の状況を考慮して設置される，例えば，安全性，公平性，実用性の観点から，ビーチから海への急峻な下り及び/又は水際での強いダンパーがある場合，折返し旗は水際から約 5 m の位置まで後退させるべきである。しかしながら，平らなビーチ

[89] 【JLA 注釈】この図では 4 つの白黒ブイが描かれているが，JLA 主催競技会では白黒ブイ 2 つで対応することがある。

及び/又はうねりが殆ど無い場合，ランの距離を最小化するため折返し旗は水際又は水中に置いても良い。チェンジオーバーラインは，状況及び折返し旗の位置に応じてビーチ又は水中に設置され得る。

21. オーシャン M（個人） OCEAN M (INDIVIDUAL)

21.1 競技の説明 Event description

競技者は，スイム区間，ボード区間，サーフスキー区間の水上コース，及びビーチスプリント[90]のフィニッシュからなる約 1.64 km をカバーする。

この節で述べられている相違を除き，各区間のレース条件は，個々の構成競技部門を規定する規則を含めた，それら競技部門の個別条件として一般に要求されるとおりである。

主催者又はコンペティション委員会から何も発表が無ければ，オーシャン M の各区間の順番は固定で，スイム，ボード，スキーとする。

スタート位置：競技者はスタートライン上のドローで決まった位置からスイム区間及びボード区間をスタートせねばならない。ボード区間の後のスキー区間では，スタート位置が反転する。即ち，24 人でレースするとき，ある競技者のドロー位置が 1 の場合：その競技者はスイム区間とボード区間は位置 1 からスタートするが，スキー区間は位置 24 からスタートする。

スイム区間スタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	...24
ボード区間スタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	…24
スキー区間スタート位置	24	23	22	21	20	19	18	17	…1

クラフトの管理/取扱い：

パーソナルハンドラー：競技者のチームメンバー1 人が競技者のクラフト管理を補助することができる。チーフレフリーが認めた場合，チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。

パーソナルハンドラーは：

A. 競技用キャップを着用すること，
B. 膝の深さより深い水に入る場合，競技主催者が要求する視認性に優れたベストを着用すること，
C. 競技の説明図又はオフィシャルの指示に従って，クラフトを位置させること，
D. 自身及び取り扱っている器材が他の競技者の邪魔にならぬようあらゆる努力を払わねばならない（さもなくば競技者が失格になる場合がある），
E. オフィシャルの指示にすべて従わねばならない。

主要な競技の場合：ある種の競技会（オリンピック型の振興イベントなど）では，ハンドラーが競技場に入ることを許可すべきでない。そのような状況では，競技者又は熟練したオフィシャル（競技主催者によって指名される）が，ボードをドロー順にスタート/チェンジオーバーラインに置き，ボードの後ろにスキー（及びパドル）をドロー（逆）順に置く。クラフトが競技者の邪魔にならぬよう，各ボード間，各スキー間は約 1 m の間隔を空ける。競技者が使った後の器材は，指定されたオフィシャルが競技アリーナにおいて管理する。

21.2 コース The course

スイム，ボード，サーフスキー区間のために，以下の図に示されているようブイを配置する。

---

[90] 【JLA 注釈】原本に beach sprint とあるが，JLA 主催競技会では「ラン区間」と呼称する場合がある。

スタートとフィニッシュを公平にするために，ブイに対するスタートラインとフィニッシュラインの位置関係は，海の状況に応じてチーフレフリーの裁量で変更される場合がある。

観客，公衆，メディア及びスポンサーの関心を高めるため，特別な視聴覚機器が以下のような場所で使用されることがある：チェンジオーバー，フィニッシュアーチ，大型の水上折返しブイ，ビーチの折返しマーカー/旗及びビーチの観客席。

ブイの距離：スイムブイは，50 m の間隔を空けて，水際から約 90 m 沖に設置する。ボード区間ブイとサーフスキー区間ブイは，スイムブイよりも更にそれぞれ約 50 m 沖と 100 m 沖の位置に設置する。ボード区間ブイは約 55 m，サーフスキーブイは約 60 m の間隔を空け，サーフスキーブイには，スキー折返しを補助するために各スキーブイの戻り側約 1 m の位置に小さな追加ブイを置く。

マーカー：レースの各区間の半分の距離にあたるビーチ折返し点において，大きな折返しマーカー（又は約 1 m 離した 2 本の旗）を，ビーチの中央のほぼ膝の深さの水中に位置するように設置する。浅瀬が無い場合，マーカーは水際に配置される。

更に，この折返しマーカーの真後ろのビーチに，約 35 m 間隔を空けた 2 つのビーチマーカーを設置し，フィニッシュ/チェンジラインへの半円形の走路を形成する。

フィニッシュ/チェンジライン：フィニッシュ/チェンジラインは，フィニッシュアーチ又は 5 m の間隔を空けた 1 対の旗で示され，競技アリーナの中心で水際から約 20 m（潮汐に依存する）の位置に設置される。フィニッシュアーチが立てられた場合，（フィニッシュを判定する）ジャッジラインは，アーチの競技者がやって来る側（入り側）に置かれた 2 本の旗で描かれるものとする。

注意：オーシャン M ライフセーバーリレー競技の場合，フィニッシュ/チェンジラインは，チェンジオーバーラインになる。

スタートライン：スタートラインの長さは約 30 m で，水際から約 10 m の位置に，第 1 スイムブイが中心になるよう設置し，両端にポールを置いてもよい。

最初のスイム区間スタート時を除いて，競技者はこの競技のボード区間，スキー区間において，スタートラインを通過しなくてもよい。ボードとスキーは，レース開始前に指示された場所に配置される[91]。

スイムコース：スイム区間は，スタートラインから始まり，第 1 スイムブイを左から右に回り，ビーチに戻り，折返しマーカーを右から左に回り，第 2 スイムブイを左から右に回り，ビーチに戻り，第 1 ビーチマーカーを通過し，フィニッシュ/チェンジアーチを通り抜け，第 2 ビーチマーカーを通過して，ボード区間を開始する。

ボードコース：ボード区間は，ビーチでのボードのピックアップから始まり，第 1 スイムブイ外側を通過し（即ち，パドラーは第 1 スイムブイの左側に位置する），第 1 ボードブイを左から右に回り，第 1 スイムブイ外側を通過してビーチに戻る（即ち，パドラーは第 1 スイムブイ

[91] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会では，スタートライン付近の混雑を避ける等のため，チーフレフリーの判断でクラフトを配置するタイミングを変更する場合がある。

の左側に位置する[92]）。次に，折返しマーカーを右から左に回り，ボードをパドルして第 2 スイムブイ外側を通過し（即ち，パドラーは第 2 スイムブイの左側に位置する），第 2 ボードブイを左から右に回り，第 2 スイムブイ外側を通過してビーチに戻り（即ち，パドラーは第 2 スイムブイの左側に位置する），第 1 ビーチマーカーを通過し，フィニッシュ/チェンジアーチを通り抜け，第 2 ビーチマーカーを通過して，スキー区間を開始する。

サーフスキーコース：スキー区間は，ビーチでのスキーのピックアップから始まり，第 1 スイムブイと第 1 ボードブイ外側を通過し（即ち，パドラーは第 1 スイムブイと第 1 ボードブイの左側に位置する），第 1 スキーブイ（及びマーカーブイ）を左から右に回り，第 1 ボードブイと第 1 スイムブイ外側を通過してビーチに戻る（即ち，パドラーは第 1 スイムブイと第 1 ボードブイの左側に位置する ）。次に，折返しマーカーを右から左に回り，スキーをパドルして第 2 スイムブイと第 2 ボードブイ外側を通過し（即ち，パドラーは第 2 スイムブイと第 2 ボードブイの左側に位置する），第 2 スキーブイ（及びマーカーブイ）を左から右に回り，第 2 ボードブイと第 2 スイムブイ外側を通過してビーチに戻り（即ち，パドラーは第 2 スイムブイと第 2 ボードブイの左側に位置する），第 1 ビーチマーカーを通過し，フィニッシュラインとアーチを通り抜け，レースを終了する。

ラン区間コースとフィニッシュ：競技者がすべての区間を完了してレースは終了する。競技者は第 1 ビーチマーカーを通過し，フィニッシュアーチのフィニッシュ（又は 2 本のフィニッシュ旗の間）を通過せねばならない。

注意 1：競技者は，ビーチマーカー[93]を各区間のブイと同じ方向に回ること。

注意 2：潮流又は海面又はビーチの状況によりスイムブイの距離が水際から 90 m を超える場合，イベントマネジメント委員会は 2 つのボードブイをスイムブイとして使用すると決定してもよい。その場合，競技者は M 字のスイムコースでなく，ビーチに戻らず 2 つのボードブイを続けて周るコースを泳ぎ，その後 M 字コースのボード区間に移る。

注意 3：潮流又は海面又はビーチの状況により，適切な M 字の水上コースを設定するのが実用的でない場合，イベントマネジメント委員会は，代わりに，水上区間に従来のオーシャンマン/オーシャンウーマンのコースを使用し，ビーチコースはそのままにすると決定してもよい。

21.3 器材 Equipment

サーフスキー，パドル，ボード：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

破損した器材の交換：ボード，サーフスキー及び/又はパドルは，破損した又は航行できなくなったのでない限り，レース途中で交換してはならない。チームメンバー/ハンドラーは破損した器材交換を補助することが許されるが，それは，チーフレフリーが指定した競技アリーナの端の場所に，別のクラフトを置くだけである。

---

[92] 【JLA 注釈】これは海から見た位置関係でなく，常に競技者の進行方向を「前」とした位置関係だと解釈すれば意味が通じる。つまり，沖に向かう時/浜に戻る時の両方で「ブイは常に競技者の右側」＝「競技者は常にブイの左側」に位置していることになる。

[93] 【JLA 注釈】原文に「turning flags」とあるが，ビーチの「ビーチマーカー」のことだと思われる。

器材の撤去：競技を安全に進めるため，チームメンバー及び/又はハンドラーは，他の競技者の邪魔にならない限り，レース中に破損した又は乗り捨てられた器材をコースから撤去することができる。

21.4 判定 Judging

複数のジャッジが，競技の実施を観察し，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュは，フィニッシュラインを超える競技者の胸の位置で判定される。

21.5 クラフトとの接触 Contact with craft

競技者は，最終ブイまではサーフスキー又はボードに接していなければならない。各ブイから戻る途中でクラフトから離れても失格とはならない。ブイに向かう途中でクラフトから離れても，再度クラフトに接して各区間の最終折返しブイを回り，コースを終了できればペナルティーは科せられない。

21.6 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」と S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下のような場合は失格となる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

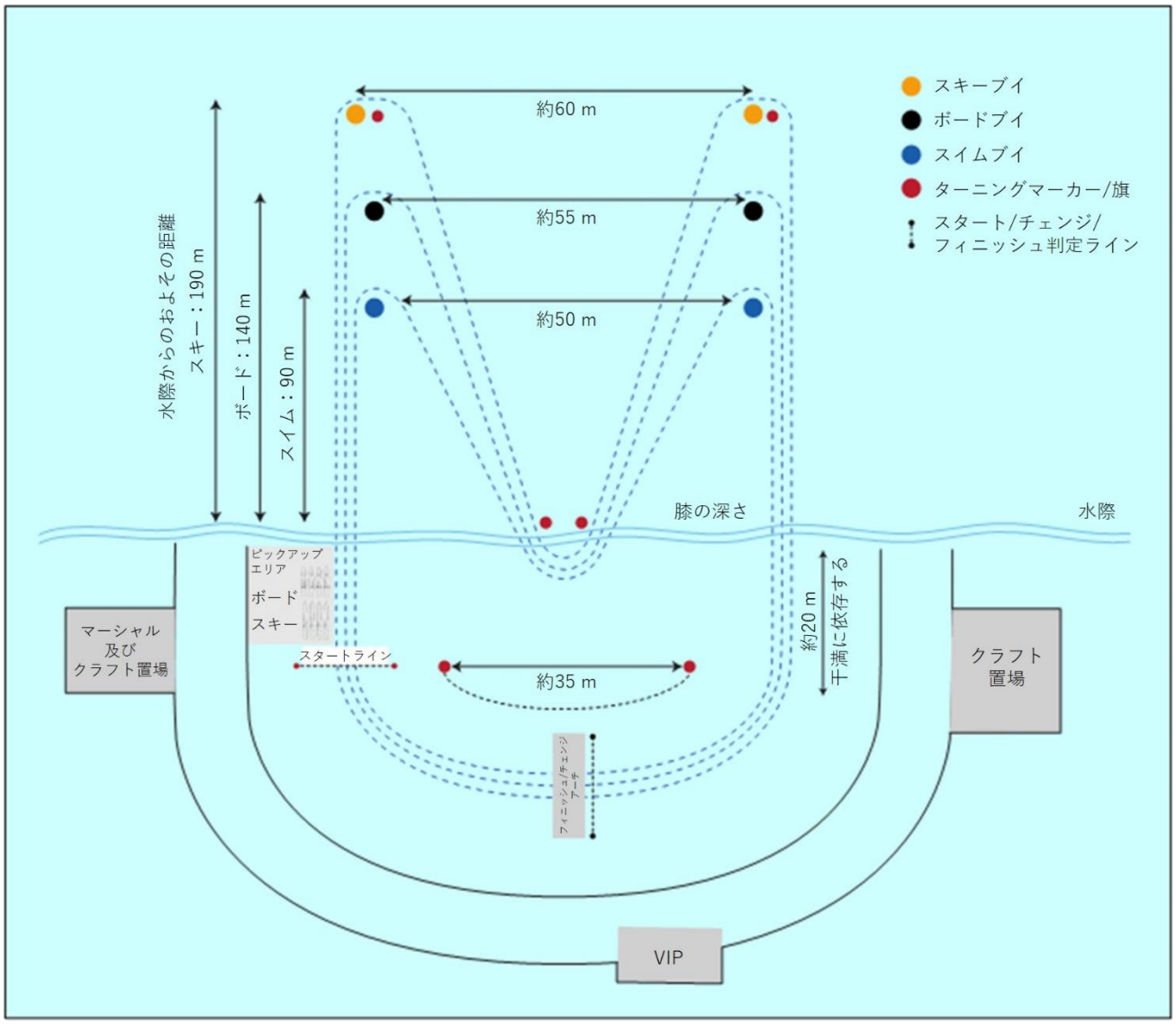


図 34：個人オーシャン M

（距離はおよその数値である）

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

22. オーシャンマン/オーシャンウーマン勝ち残りバリエーション OCEANMAN/OCEANWOMAN ELIMINATOR VARIATION

22.1 競技の説明 Event Description

勝ち残り方式オーシャンマン/オーシャンウーマンは，従来のオーシャンマン/オーシャンウーマン及びオーシャン M コース競技のバリエーションの 1 つである。

勝ち残り方式オーシャンマン/オーシャンウーマン決勝への出場資格は，予選及び更なるラウンド（該当する場合）により決定され，最大 24 人の決勝競技者に至る（**注意**も参照のこと）。主催者又はコンペティション委員会から特に指示がない限り，勝ち残り方式決勝の予選ラウンドは単一レース（即ち，勝ち残り方式ではない）で実施するものとする。

決勝は，次の通り 3 つの勝ち残りレースで実施される：

A. レース1：最後の8人の競技者を除外する，

B. レース2：最後の8人の競技者を除外する，

C. レース3（決勝）：残りの8人の競技者によるレース。

注意：状況によっては，勝ち残り方式決勝の「レース 1」での競技者は 24 人を超える，又は少なくても可能である。この場合，主催者又はチーフレフリーは，最初の勝ち残り方式レースを実施する前に各ラウンドで除外される競技者の人数を伝えなければならない。

主催者又はコンペティション委員会から特に指示がない限り，勝ち残り方式決勝の各ラウンドの区間順は以下のように巡回するものとする：

A. レース1：スイム，ボード，スキー

B. レース2：スキー，ボード，スイム

C. レース3：ボード，スイム，スキー

各レースの間に 5 分間の休憩が設けられるが，その時間は各レースの勝者（先頭の競技者）がフィニッシュラインを越えた時点から開始する。この時間は，諸条件に基づいて主催者の判断により決定することができ，勝ち残り方式決勝が開始する前に伝えられる。

オーシャンマン/オーシャンウーマン勝ち残り形式決勝の競技規則は，以下で変更される場合を除き，従来のオーシャンマン/オーシャンウーマン又はオーシャン M の通りとする：

- 決勝の順位（及びチームに割り当てられるポイントスコアのポイント）は，競技者が除外された時点のラウンド及び順位に依存する，
- いずれのフォーマットに於いても，競技の振興，競技エリア設置及び/又は競技条件に応じて，長い又は短いコース及び/又はラン区間となることがある。
- （折返しのブイ又はマークを見失ったことを含めて）コースを正しく終了しなかった競技者は，次の規定に従うものとする：
- 勝ち残り方式ラウンドの最初のレースで違反が起きた場合，競技者は失格となり，最下位及び相応する得点が割り当てられる，
- 「レース 2」または「レース 3」で違反が起きた場合，競技者は失格となり，当該レースでの最下位が割り当てられる。これは，競技者が既に除外されている競技者より上の資格を既に有するからである。

この種目の勝者は，最初の 2 つの勝ち残りレースでいかなる順位であったかどうかに関わりなく，「レース 3（決勝）」の勝ち残りレースで正しく 1 着に入った競技者である。

注意：レースが「フラットな海」の会場で行われる場合，そして特にこの競技種目のみの競技会として実施される場合，通常のコースとは別の代替コースでの開催が検討され得る。この場合，コースは参加要項によって通知され，要項には，各区間のおよその距離を記したコース図を掲載しなければならない。

22.2 失格 Disqualification

「S2 共通競技総則」と S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下のような場合は失格となる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

23. オーシャンマン /オーシャンウーマンリレー OCEANMAN/OCEANWOMAN RELAY

23.1 競技の説明 Event description

オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーは，個人のオーシャンマン/オーシャンウーマン競技のバリエーションの 1 つである。

競技者 4 人からなるチーム（スイマー1 人，ボードパドラー1 人，サーフスキーパドラー1 人及びランナー1 人）が，事前に抽選で決めた順に一連の区間を回る。

ラン区間は常に最終区間である。サーフスキー区間が最初の場合，通常の水中スタートで行う。

マスターズ：チームは競技者 3 人からなる — スイマー1 人，ボードパドラー1 人，スキーパドラー1 人。マスターズのオーシャンマン/オーシャンウーマンリレーにはラン区間は無い（後述の手順のバリエーションも参照のこと）。

この節で述べられている相違を除き，各区間ではそれぞれ個別の一般的な競技種目規則が適用される。

スタートとフィニッシュを公平にするため，海況を観ながらチーフレフリーの裁量で，ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

競技者は，ビーチの指定された正しい位置から自分の区間を開始せねばならない。

注意：第 2 競技者及び第 3 競技者は，タッチされた後，スタート及びチェンジオーバーラインを越える必要はない。

ボード及びスキー区間のスタート位置は入れ替わる。例えば，16 チームが参加するレースで，抽選により位置 1 と指定された場合，最初のクラフト区間は位置 1 からスタート，次のクラフト区間は位置 16 からスタートとなる。

1 番目のクラフト区間のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	...16
2 番目のクラフト区間のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	…1

注意：スイム区間がレースの 2 番目又は 3 番目の区間である場合，スイム区間の直前区間のスタート位置と同じ位置からレースを開始せねばならない。

スイム→ボード→サーフスキー→ランの順の場合，以下の通りとなる。各区間のコースは時計方向に回る。

スイム区間：スイマーは，ビーチからスタートして水に入り，スイムコースブイを回り，浜に戻り 2 本の緑&黄色の折返し旗を回り，足をスタート/チェンジオーバーライン上又はその陸側に置いてボードと共に待機するボードパドラーにタッチする。

ボード区間：ボードパドラーは，ボードと共に水に入り，第 1 スイムブイの外側を通過し，2 つのボードコースブイを回り，第 9 スイムブイの外側を通過して浜に戻り，2 本の折返し旗を回り，スタート/チェンジオーバーラインを通って，水深が膝の位置でサーフスキーとパドルと共に待機するサーフスキーパドラーにタッチする。

浜に戻る際，ボードパドラーはボードを水際に残してよい。

サーフスキー区間：サーフスキーパドラーは，サーフスキーコースブイをパドルして回り，浜に戻り，水際又は水中で待機するランナーにタッチする。

パドラーは，全てのブイの外側を通過せねばならない。パドラーは，スイムコースブイ又はボードコースブイの間を横切ってはいけない。

ラン区間：ランナーは，第 1 折返し旗を回り，2 本目の折返し旗の陸側を通過し，2 本の緑色（又はエリア色）のフィニッシュ旗の間を通過しフィニッシュする。

注意 1：最終のターニングブイ（turning buoy）の浜側から浜の第 1 折返し旗までのどこでも競技者にタッチしてよい。タッチは水面より上で，はっきりと見えるようにしなければならない。

注意 2：ランナーは戻ってくる競技者にタッチをするため水に入ることが許され，ウェーディング，イルカ飛び（porpoise）/ダックダイブ（duck dive）*,[94]で海底から離れること，波に乗ることが可能で，且つ又，折返し旗に向かって走ってもよいが，ランナーはいかなるときも泳いではならない（ここで泳ぐとは，波に乗るため又は波に乗り続けるための水面より上の腕の泳ぎ動作を含む）。

* 両足で海底を押して離れるのであれば，イルカ飛び/ダックダイブの動きの一部としての水面上での腕の動きは許される。

23.2 器材 Equipment

サーフスキー，パドル，ボード：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームごとに少なくともボード 1 本，サーフスキー1 艇を用意すること。

チームメンバーは，各クラフトのスタートエリアの傍にギアを置くこと。

器材の撤去：競技を安全に実施するため，チームメンバー及び/又はハンドラーは，他の競技者の進路を妨害しなければ，破損又は放棄された器材をレース中にコースから撤去することができる。

ハンドラーは以下のことを行う：

A. 競技用キャップを着用すること，
B. 膝の深さより深い海に入る場合，主催者から指定された視認性の高いベストを着用すること，
C. ハンドラー自身及びハンドラーが扱う器材が，他の競技者を妨害しないようあらゆる努力を尽くすこと（さもなくば競技者が失格になる場合がある），
D. オフィシャルの全ての指示に従うこと。

服装：ビーチスプリントコースにおいて，チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは，競技者の裁量で着用してよい。

23.3 判定 Judging

複数のジャッジが，競技の実施を観察し，フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

---

[94] 【JLA 注釈】ダックダイブ（duck dive）とは日本でドルフィンスルーと呼ばれている動作のこと。

23.4 クラフトとの接触 Contact with craft

競技者は，最終ブイを通過するまではサーフスキー又はボードに触れていなければならない。最終ブイから浜に戻る途中でクラフトが離れても失格とはならない。最終ブイに向かう途中でクラフトが離れても失格とはならないが，この場合は，クラフトを回収し，保持した状態で各区間の最終ブイを回り，コースを終了すること。

23.5 マスターズ・オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー手順のバリエーション Masters Oceanman/Oceanwoman Relay Procedure Variation

マスターズ・オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーは，2 本の緑/黄の折返し旗を約 15 m 離して（波の状況を適切に考慮して走る距離が最小になるように）海岸線又は膝の深さに設置することを除いて，スタンダードなオーシャンマン/オーシャンウーマンリレー競技に準ずる。2 本の緑色（又はエリア色）のフィニッシュ旗は約 5 m の間隔を空け，更に第 2 折返し旗から約 5 m 離して水際に設置する。最初の区間がスイム又はボードの場合，競技は水際からスタートする。第 2 及び第 3 区間において，泳者及びクラフト競技者は（適宜）水中からスタートしてよい。

注意 1：オフィシャルは，競技者が前の競技者からのタッチを待つため入水できる水深を，状況に応じて指示することができる。

注意 2：これ以外の条件は，通常のコースのまま変更はない。

23.6 失格 Disqualification

「S2 共通競技総則」と S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下のような場合は失格となる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

24. オーシャン M ライフセーバーリレー OCEAN M LIFESAVER RELAY

24.1 競技の説明 Event description

オーシャン M ライフセーバーリレーは，オーシャン M 競技種目の 1 つのバリエーションである。

この節で述べられている相違を除き，競技の条件と競技規則はオーシャン M 競技種目に準ずる。

注意：ライフセービング世界選手権では，チームは，男性 2 人，女性 2 人からなる[95]。第 1 競技者がラン区間，第 2 競技者がスイム区間，第 3 競技者がボード区間，最終競技者がスキー区間及びラン区間を担当し，ビーチのフィニッシュアーチ（又は旗）でフィニッシュする。この種目の各区間の性別順を決めるため，競技会開始前[96]に抽選を行うものとする。

24.2 コース The course

コースは，以下の図に示す通り。

競技は，スタート/チェンジ/フィニッシュラインから，ビーチを横切って 125 m 地点まで行き，２つのマーカーを時計回りに回ってフィニッシュアーチに戻る 500 m ラン区間から始まる。ランナーは，フィニッシュアーチの 2 つのマーカーを時計回りに回り，もう一回ランコースを回って，スタート/チェンジ/フィニッシュラインのフィニッシュ側で待機しているスイム競技者にタッチする。

注意：本競技種目のラン区間では，競技者の判断で履物[97]を着用してもよい。

オーシャンMライフセーバーリレーでの競技者間タッチは，スタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインのフィニッシュアーチ側と，フィニッシュアーチから出て行く側に約 5 m のラインとの間のゾーンにおいて行うこと。これから出て行く競技者の足をスタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインの上又はチェンジオーバーゾーン内のスタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインのフィニッシュアーチ側に置くかどうかはチームの裁量で決めてよい。タッチはこのゾーン内で行わなければならない。

注意：効果的にタッチするため，これから出て行く競技者の手が，スタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインに入ってくる競技者側に伸びていてもよいが，タッチの時，競技者の足はチェンジオーバーゾーンのいずれかの端上又はチェンジオーバーゾーン内になければならない。

その後，スイム競技者からボード競技者，そしてスキー競技者へ上述のとおりタッチすることを除き，レースは個人オーシャン M と同様に進められる。

スキー競技者がスキー区間を終了し，第 1 ビーチマーカーを通過し，スタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインを通過して，競技は終了する。

注意 1：潮流又は海面又はビーチの状況によりスイムブイの距離が水際から 90 m を超える場合，イベントマネジメント委員会は 2 つのボードブイをスイムブイとして使用すると決定して

---

[95] 【JLA注釈】JLA主催競技会においてもチーム構成を原則的に男性2人，女性2人とする。

[96] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会では，競技会の公式な開始前ではなく（S2-6 参照），本競技種目のスタートより前を指すこととする。

[97] 【JLA 注釈】原書では「シューズ（shoes）」とあるが，共通競技総則「S2-10 J 履物（Footware）」と同じ用語を用いた。

もよい。その場合，競技者は M 字のスイムコースでなく，ビーチに戻らず 2 つのボードブイを続けて周るコースを泳ぎ，その後 M 字コースのボード区間に移る。

注意 2：潮流又は海面又はビーチの状況により，適切な M 字の水上コースを設定するのが実用的でない場合，イベントマネジメント委員会は，代わりに，水上区間に従来のオーシャンマン/オーシャンウーマンのコースを使用し，ビーチコースはそのままにすると決定してもよい。

24.3 失格 Disqualification

「S2 共通競技総則」と S4-1 から S4-3 に記載された規則に加えて，以下のような場合は失格となる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

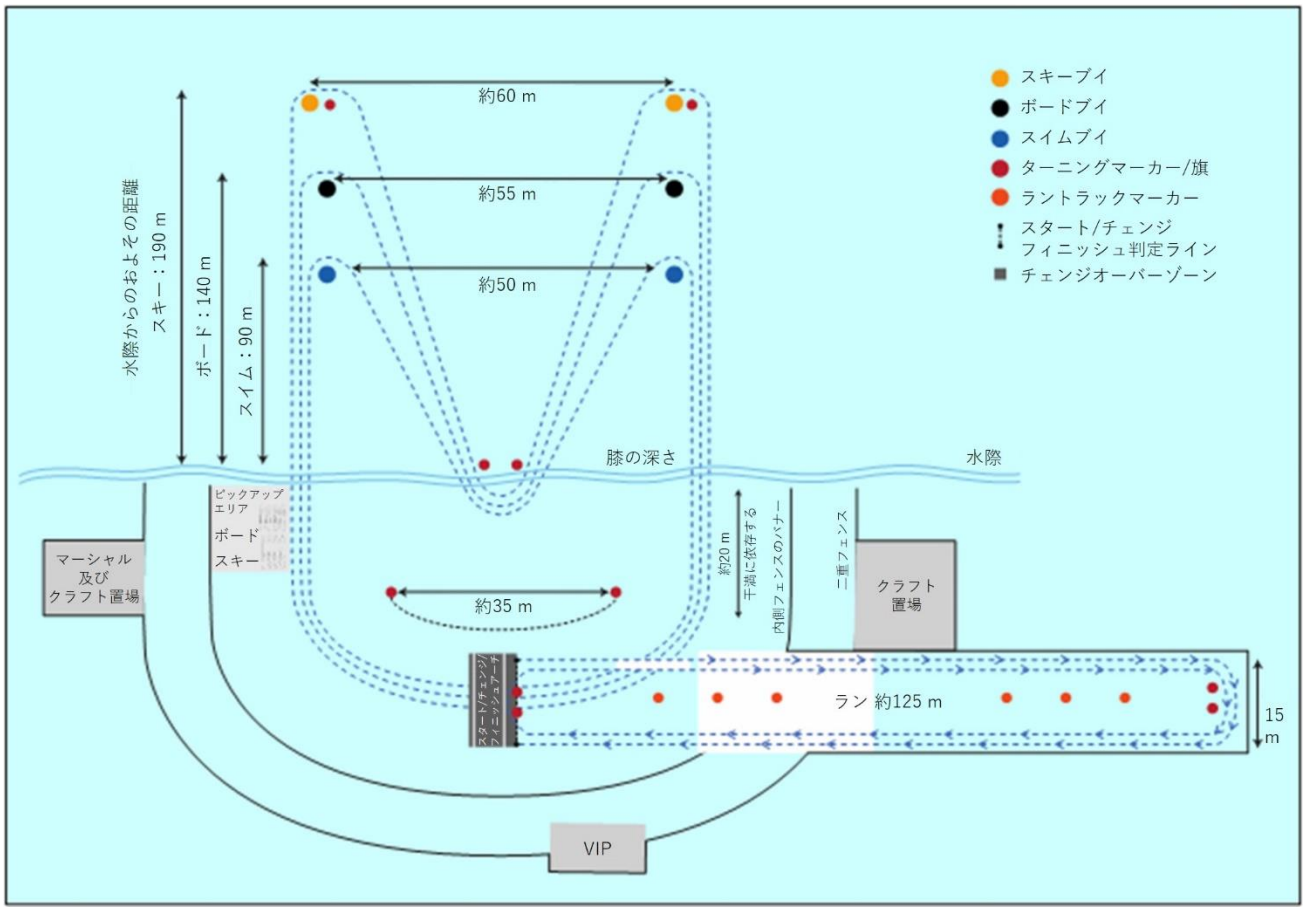


図 35：オーシャン M ライフセーバーリレーのコース
（距離はおよその数値である）
注意：ブイの位置に対する相対的なビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

25 オーシャン競技失格コード表 DISQUALIFICATION CODES FOR OCEAN EVENTS

コード及び失格内容 Code and Disqualification	競技種目 Events
1. 共通競技総則に沿って競技しなかった。	All events
2. チーム，競技者及びハンドラーが不正行為をした場合，競技者又はチームは失格となる。不正行為には下記のような例が含まれる： • ドーピング又はドーピングに関連した違反行為， • 他の競技者になりすますこと， • 競技順や位置決めの投票又は抽選で不正を試みること， • 同じ個人種目に 2 度出場すること， • 他のチームの競技者として同じ種目に 2 度出場すること， • コースで自分が優位になるために故意に妨害すること， • 他の競技者又はハンドラーを押して進路を妨害すること， • 競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けること（口頭又はその他の指示を除く）， • （フェアプレー規範に記載の）競技会の精神に反して参加すること。	全競技種目
3. 招集場所への集合に遅れた競技者は，競技をスタートすることができない。これは「did not start」(DNS)又は類義の表現でリザルトシートに記載される。	全競技種目
4. 競技のスタートに不在だった競技者又はチームは，A又はB決勝を除いて，失格となる。これは「did not start」(DNS)又は類義の表現でリザルトシートに記載される。	全競技種目
5. 会場施設，宿泊施設又は他者の所有物を故意に損壊する行為は，個人としての失格，又は競技会全体での失格となる。	全競技種目
6. オフィシャルへの侮辱は競技会全体からの失格となる。	全競技種目
7. スタートの合図の前にスタートした（すなわち，スタート動作を開始した）最初の競技者又はチームは失格となる。ただし，ビーチフラッグスでは除外となる。	全競技種目
8. 合理的な時間内でスターターの号令に従うことが出来なかった。	全競技種目
9. スターターの最初の合図の後，音やその他の方法によって他の競技者を妨害した競技者は失格となる（ただし，ビーチフラッグスの場合は除外となる）。	全競技種目
10. 指定された位置又はレーン以外からスタートした。	全競技種目
11. 競技者が2本以上のバトンを取った，又はバトンが取れないようにブロックした — 例えば，バトンの上に横たわる又は覆いかぶさってバトンを見えなくする。	ビーチフラッグス

コード及び失格内容　Code and Disqualification	競技種目　Events
12.　規定された通りに競技種目及び/又はコースを完了できなかった。	全競技種目

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

第 5 章
シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技

SIMULATED EMERGENCY RESPONSE COMPETITION

第 5 章　シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技
SIMULATED EMERGENCY RESPONSE COMPETITION

シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）は，室内又は屋外の様々な水泳プールあるいはオープンウォーターのアクアティック環境で行われる。また，SERC はノン・アクアティック環境でも行うことができる。

SERC は，チームとして行動する 4 人のライフセーバーの自発性，判断力，知識及び能力をテストする－彼ら/彼女らは，競技開始前に知らされていないシミュレーテッド・エマージェンシー（模擬緊急事態）の状況において，チームリーダーの指示の下，ライフセービングスキルを適用する。この競技は 2 分の時間制限内にジャッジされる。

全てのチームは同じシナリオ（状況設定）に対応し，同じジャッジらにより審査される。各チームに対して同一シナリオになるようあらゆる努力が払われる。

SERC は男女の区別なく実施される。チームはどのような男女の組み合わせでもよい。

1. シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）の一般規則 GENERAL CONDITIONS FOR SIMULATED EMERGENCY RESPONSE COMPETITION

A. チーム管理者と競技者は，競技会スケジュール，競技規則，手続きに精通している責任がある。

B. マーシャルエリアへの集合が遅れたチームは，SERCの開始を許可されない場合がある。ヒート数についての主催者判断を補助するために，競技前日又は競技当日の最初に招集されることがある。

C. どのように予選，準々決勝，準決勝，決勝を行うかはチーフレフリーが決定する。A決勝は28チーム（1チーム4人）を超えて行うことはできない。

D. 予選が行われる場合，上位16チームに決勝の出場権が与えられる。ヒートが別の「タンク（tank：別のジャッジがいる別のエリア）」で行われた場合，競技「タンク」毎の上位チームが決勝に進む（例えば，予選に4つのタンクが使用された場合，各タンクの上位4チームが決勝に進む）。決勝進出を決める際，予選通過の対象となる同点チームが複数出た場合，同点チーム全部が決勝に進むものとする[98]。1つ以上のチームが決勝を棄権した場合，最大4チームがリザーブリストから招集される。リザーブは，招集ロックアップが終了していない場合に限り，棄権したチームと同じ「タンク」から招集される。決勝は再シード（再度，組み合わせ配置）されない。

E. チームの競技順はチーフレフリーが承認した方法で抽選により決定するものとする。

F. ロックアップ（エリア）にて提供される書面において，シミュレーテッド・エマージェンシーの取扱いについての指示は，すべて英語[99]で行われなければならない。各チームは英語[100]の指示を通訳/翻訳するため，ロックアップ（エリア）に追加で1人を帯同することが

---

[98] 【JLA 注釈】上位 4 チームと同点のチームがあり 4 チームに絞れない場合，その同点チームまで全部が決勝に進む。

[99] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会では「日本語及び/又は英語」とし，詳細は競技会ごとに規定する。

[100] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会では「日本語及び/又は英語」とし，詳細は競技会ごとに規定する。

できる。この者はチームと一緒にロックアップ内に留まる。

注意：主催者は，口頭又は書面による指示の翻訳のため十分な時間を与えねばならない。

G. 競技者は競技開始前の指定された時刻にロックアップエリアに速やかに集合するものとする。競技の開始時にロックアップ（エリア）にいないチームは失格（DQ3）となる。

H. 競技者は被救助者役に対し丁寧に対応する：言葉による暴力及び身体的暴力は不必要且つ不適切であり，ペナルティー又は失格になることがある（DQ10）。

I. 競技者は，眼鏡及びコンタクトレンズ等の矯正用眼鏡類を着用してもよい。これら眼鏡類が無いことは抗議又は上訴の理由にはならない。矯正用ゴーグル又はマスクは不可。

J. 予防的，医療的，治療的又は運動学的な目的に用いられるボディテープは，それが競争的優位性を与えない限り，チーフレフリーの判断で認可される。

K. チームメンバーは，ナショナルチーム又は所属団体（クラブ）のキャップを着用せねばならない。競技者が競技開始後にキャップを紛失しても，当該競技者が競技を正しく完了したことをオフィシャルが確認できる限り，失格とはならない。

L. 競技エリア内に，個人の持ち物又は備品（例えば，時計，電話，その他の通信機器，ゴーグル，マスク，フィンなど）を持ち込んではならない。競技者は，レスキュアー又は被救助者役に危害を加える可能性のある宝飾品を外すように要求されることがある。

M. ジャッジによる得点は抗議の対象とはならない。

1.1 セキュリティー及びロックアップ Security and lock-up

競技開始前及び競技中，チームは競技エリアが見えず，音も聞こえないような「ロックアップ」エリアに隔離される。競技者が隔離されるまで，状況設定，演技者，器材は秘密にされる。

競技の終了後，競技者は後続のチームの競技を観戦することができる。

ロックアップされているチームは，ロックアップされていない者と会ったり，通信してはならない。そのような通信を可能にする装置は禁止されている。

1.2 競技開始 Competition start

チームは，1 度に 1 チームずつロックアップからプールへと誘導され，音による合図の後，様々な場所で様々な救助を必要としている被救助者役に直面することになる。

音によるスタート合図の直前のタイミングで，演技者は被救助者役の演技を始め，合図とともにチームは競技エリアに入る。音による合図と共に競技者は任意の方法を用いて制限時間内に被救助者役に対応する。

1.3 競技エリア （アクアティック環境） Competition arena: Aquatic Environment

アクアティック（“wet”）SERC の目的は，ライフセーバーがチームとして，アクアティック環境において，緊急対応が必要な状況に関連したスキルの一部あるいはすべてを，どのように実施するかを示すことである。

Wet SERC は，室内又は屋外の様々な水泳プールあるいはオープンウォーターのアクアティック環境で行われる。

特に断りのない限り，すべての世界選手権の SERC 競技は，wet 環境において実施される。

アクアティック環境でのシミュレーテッド・エマージェンシーのシナリオは，競技開始まで秘密にされ，以下のアプローチのうち 1 つ以上を用いて作成されなければならない：

- 関連付けられた 1 人又は複数人の被救助者役によるシミュレーションを組み合わせたもの，
- プールでのパーティー，混みあったボートが転覆した，人がいない，職場での事故等，共通のテーマに関係した複数の状況に巻き込まれた被救助者役の集団，
- 加えて，意識不明（unconscious），ショック（shock），負傷（injured），心臓発作（heart attack）又は刺される（stings）又は噛まれる（bites）など，救急処置が必要な医学的／身体的状態の被救助者役やバイスタンダーが含まれる，
- シミュレーテッド・エマージェンシーの状況は，できるだけ現実的に（且つ安全）に演出されるものとし，競技者の想像力をテストするものではない一例えば，やけどを負った被救助者役がいる状況は，火災，電気コード，化学薬品等のシミュレートされた証拠により演出すること。

注意：実際の火，電気コード，化学薬品，その他，被救助者役や競技者を実際の危険にさらすような証拠を使用してはならない。

シナリオ中に状況が変化する（例えば，意識のある被救助者役が意識を失う等）ことがある：

- 被救助者役の状況は，変化しうる状態を反映したものにすること，
- 変化が起こるタイミングは一定とすること，
- 競技中，全ての競技者に対して一貫した変化とすること。

競技エリアは，事前に全チームに対して明確に提示されなければならない。

シナリオ実施エリアの入口と出口の両方の位置が明確に示されなければならない（例えば，どのプールサイドを使用するか）。

SERC の実施中に，使用してよい又は使用してはならない入水／退水エリアがある場合，競技者に事前に知らせなければならない。

特に指示のない限り，競技者は競技エリア内の状況が「発見した通り」であるとみなす。

電光時計が使用可能である場合，競技者と観客のためにカウントダウン時計として使用せねばならない。

1.4 競技エリア（ノン・アクアティック環境） Competition arena: Non-Aquatic Environment

ノン・アクアティック（“dry”)SERC の目的は，ライフセーバーがチームとして，ノン・アクアティック環境において，緊急対応が必要な状況に関連したスキルの一部あるいはすべてを，どのように実施するかを示すことである。

Dry SERC は，ノン・アクアティック環境で実施するため，傷病者の救助よりも，応急処置の技術に重点を置く（ただし，被救助者役の安全確保のために，シナリオの一部で多少の移動を要することがある）。

Wet SERC と同様に，dry SERC のエマージェンシー・シナリオは競技開始まで秘密にされ，以下のアプローチのうち 1 つ以上を用いて作成されなければならない：

- 競技は，適切な環境・場所にて実施する。水辺の近くで競技を実施する場合，競技者が水中に入る必要がないように競技を実施しなければならない，

- 注意：観察/処置が必要な被救助者役は水中には配置されない，
- 関連付けられた 1 人又は複数人の被救助者役によるシミュレーションを組み合わせたもの，
- 自動車事故，ピクニック，職場での事故等，共通のテーマに関係した複数の状況に巻き込まれた被救助者役の集団，
- 意識不明（unconscious），ショック（shock），負傷（injured），心臓発作（heart attack）又は動物に噛まれる（animal bites）など，救急処置が必要な医学的／身体的状態の被救助者役やバイスタンダーが含まれる，
- 複数のテーマに巻き込まれた被救助者役のグループ。

シミュレーテッド・エマージェンシーの状況は，できるだけ現実的に（且つ安全）に演出されるものとし，競技者の想像力をテストするものではない。例えば，やけどを負った被救助者役がいる状況は，火災，電気コード，化学薬品等のシミュレートされた証拠により演出すること。

注意：実際の火，化学薬品，その他，被救助者役や競技者を実際の危険にさらすような証拠を使用してはならない。

シナリオ中に状況が変化する（例えば，意識のある被救助者役が意識を失う等）ことがある：

- 被救助者役の状況は，変化しうる状態を反映したものにすること，
- 変化が起こるタイミングは一定とすること，
- 競技中，全ての競技者に対して一貫した変化とすること。

1.5 状況シナリオ Situation scenarios

シミュレーテッド・エマージェンシーのシナリオは競技開始まで秘密にされ，以下のアプローチのうち 1 つ以上を用いて作成されなければならない：

A. 関連付けられた1人又は複数人によるシミュレーションを組み合わせたもの，
B. プールでのパーティーや混み合ったボートが転覆した等，共通のテーマに関係した複数の状況に巻き込まれた人々の集団，
C. 複数のテーマに巻き込まれた複数の集団，

シミュレーテッド・エマージェンシーの状況は可能な限り現実的（且つ安全）に演出されるものとし，競技者の想像力をテストするものではない。例えば，演技者が，手にやけどを負ったと申し出た状況は，火災，電気コード，化学薬品等のシミュレートされた証拠により演出すること。（実際の火，通電中のコード，実際の化学薬品を使用すべきでない）。

1.6 被救助者役，マネキン，バイスタンダー Victims, manikins and bystanders

被救助者役は演技者が演じ，異なる手当てを必要とするような課題を提示する。模擬的な被救助者役の種類には，泳げない人（non-swimmer），泳ぎが下手な人（weak swimmer），怪我を負ったスイマー（injured swimmer），意識不明の人（unconscious victims）が含まれる。さらに，競技者はバイスタンダーや遊泳者だけでなく，「被救助者」役の CPR 用マネキンに対処する場合もある。

以下の条件が満たされる時，被救助者役の演技は競技中に変化する場合がある（例えば，意識のある被救助者役が意識不明になる）：被救助者の特徴が変化を反映していること，変化のタイミングが一貫していること，競技会を通して全競技者に一貫した変化であること。

被救助者役の種類が目印（例えば，意識不明を示す額の赤/黒の×印）で示される場合，競技者は競技開始前に通知される。競技者がマネキンに対応する場合，呼吸無し脈無しの被救助者役として扱うものとする。

注意 1：競技中，バイスタンダーは直ちに危険にさらされることは無い。

注意 2：呼吸無し，脈拍無しの被救助者役を実際の人が演じる場合，**CPR を模擬的に実施する**のみにとどめること。

1.7 器材 Equipment

競技者は競技エリア内で入手可能な全ての資材や器材を使用することができる。競技者は競技エリア内に自分たちの所持品及び器材を持ち込んではならない。

1.8 スタート及び計時 Start and timekeeping

各チームの緊急対応は，音による合図でスタート及びフィニッシュする。

2. 救助の原則 PRINCIPLES OF RESCUE

2.1. ライフセーバーとライフガードの対応の違い Lifesaver versus lifeguard response

SERC の競技者は，チームリーダーの指示の下，ライフセーバー4 人で構成されるチームとして対応することを求められる。

ライフセーバーは，予期せぬ緊急事態の中で，かつ，時には，特殊な器材，支援又は確立された手順や通信システムの便益がない中で，適切に対応する態勢を要求される。かかる状況では，ライフセーバー個人の安全が常に最優先であり，採点シートにはこれが反映されるものとする。

A. 競技者は以下の基本的救助ステップを適用する：
- 問題の認識
- 状況の評価
- 問題を克服するための行動方針の計画
- 救助を達成するための行動
- 被救助者役に対する手当て

B. 競技者は状況評価の際に，以下を考慮する：
- 救助者の能力
- 被救助者役の人数
- 被救助者役の位置
- 被救助者役の状態（例，泳げない人; non-swimmer，泳ぎの下手な人; weak swimmer）
- 利用可能な救助支援物資（器材）
- 周囲の状態（例，水深，入水及び退水地点）

C. 競技者はその状況評価に基づき，以下を含む行動方針を計画する：
- 協力の要請

- 支援の組織化
- 協力可能な人に対する情報伝達
- 適切な支援物資又は器材の収集
- 必要に応じた救助の実施

D. 計画の立案によって，状況を管理下におき，可能な限り多くの命を守ることを目指す。多数の被救助者役の救助をマネージメントする観点で，救助者には複数の選択肢が与えられる。

E. 簡単にまとめると，救助者は以下のように状況を管理せねばならない：
- 移動可能な人の移動
- 差し迫った危険にさらされている人の安全確保
- 継続的な手当てが必要な人の救助と蘇生

F. 移動可能な人には，自分で安全な場所に移動できる者が含まれる。差し迫った危険にさらされている人には，泳げない人（non-swimmer）及び怪我を負った遊泳者（injured swimmer）が含まれる。継続的な手当てを必要とする人には，意識不明者（unconscious），呼吸停止者（non-breathing）又は脊椎損傷が疑われる（suspected spinal-injured）被救助者役が含まれる。

G. 適切な計画を立案した時点で，それを迅速に行動に移すことが望ましい。競技者は状況変化に注意を払うと共に，自身の行動計画をかかる変化に合わせて変更し，それに対応しなければならない。

H. 救助を実施する際は，競技者は以下の点に注意せねばならない：
- 自分自身が最も安全な位置から救助する
- 救助原則のマネージメント
- 被救助者役には極めて慎重に接近する
- 意識のある被救助者役に直接コンタクト（contact）[101]しないようにする

I. 入水が不可欠な場合，競技者は，自分自身の命を絶対に危険にさらさない状況を作るための，最も有効な技術を選ぶ。

J. 競技者はその意図及び行動をジャッジに明確に示すことが重要である。

3. 判定と採点 JUDGING AND MARKING

採点シートは，1 人のジャッジが状況設定全体を採点し，他のジャッジが個々の被救助者役を担当するように準備すること。1 人の被救助者役に 1 人のジャッジという状況が望ましい。

ジャッジは競技開始前に，状況シナリオ，採点方法，及び採点基準について簡単な説明を受けるものとする。

1 人のジャッジが，1 人の被救助者役，又は 1 つの被救助者役の集団を担当すべきで，そのジャッジは，競技全体を通して状況シナリオの同一部分を，全チームについて評価するものとする。

---

[101] 【JLA 注釈】コンタクト（contact）：レスキュー器材を用いず身体接触を伴う行為（文献[1] p. 105，文献[2] p. 90）。

3.1 採点制度 Marking system

この競技で使用される採点制度では，ジャッジは自身のスキルを活かすことが可能であり，予想しにくい事態に適切な対応を行った競技者に得点を配分する。ジャッジは得点配分を行うにあたって，以下を考慮する：

A. 被救助者役の種類
B. 被救助者役から安全な場所までの距離
C. 利用可能な器材及び使用された器材
D. 判断の速さ
E. 優先順位
F. 行動/仕事の質
G. 被救助者役に対する手当て

被救助者役の問題を迅速かつ正確に認識することは，この競技を成功させる重要な最初のステップである。認識に成功するかどうかは，被救助者役の模擬の質及び事故の演出が密接に関わっている。

被救助者役の優先度についての競技者の正確な判断に対して得点が与えられる。被救助者役の優先度についての競技者の判断は，緊急事態の性質によって異なる。水中の被救助者役の場合，競技者が最初に救助する者を決める際，救助者は以下の被救助者役の優先順位に従うべきである：

A. 泳ぎの下手な者 （weak swimmer），及び自分で移動できる者 （others who are mobile）
B. 大きな危険にさらされている者：泳げない者 （non-swimmer）及び怪我を負った遊泳者 （injured swimmer）
C. 継続的な手当てが必要な被救助者役：意識不明者 （unconscious），呼吸停止者 （non-breathing），脊椎損傷が疑われる被救助者役 （suspected spinal-injured victim）

より高度な技能及び判断力を必要とする救助パフォーマンスに高得点を与えるように，シナリオの特定の側面を重み付けしている場合がある。

この章末にあるサンプル採点シートを参照のこと。これらの採点シートはあくまでもサンプルである。世界選手権毎[102]に独自の競技会固有の採点シートが準備される。シナリオ，点数，重み付けは競技会毎に異なる。

加えて，https://www.ilsf.org に掲載されている，*コーチ，競技者，審判員及びオフィシャルのための SERC ガイド*を参照すること。

3.2 失格 Disqualification

「S2. 共通競技総則」及び 5 章「1. シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）の一般規則」に加えて，以下の行為は失格になり得る：

A. 外部からの援助，指示又は助言を受けた場合（DQ7）。
B. セキュリティーエリア[103]に通信機器を持ち込んだ場合（DQ8）。
C. 競技の一部として提供されていない器材を用いた場合（DQ9）。

---

[102] 【JLA 注釈】JLA 主催競技会においても同様に競技会固有の採点シートを準備する。
[103] 【JLA 注釈】ロックアップエリア及びその他の秘密保持が必要なエリアのこと。

D. 演技者に言葉による暴力又は身体的な暴力を加えた競技者はペナルティー又は失格になり得る（DQ10）。

4. SERC 失格コード表 DISQUALIFICATION CODES FOR SERC

コード及び失格内容 Code and Disqualification	競技種目 Events
1. 総則又は種目別の競技規則に違反した場合。	全競技種目
2. チーム，競技者又はハンドラーが不正行為をした場合，競技者又はチームは失格となる。不正行為には下記のような例が含まれる： • ドーピング又はドーピングに関連した違反行為， • 他の競技者になりすますこと， • 競技順や位置決めの投票又は/抽選で不正を試みること， • 同じ個人種目に 2 度出場すること， • 他のチームの競技者として同じ種目に 2 度出場すること， • コースで自分が優位になるために故意に妨害すること， • 他の競技者又はハンドラーを押して進路を妨害すること， • 競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けること（口頭又はその他の指示を除く） • （フェアプレー規範に記載の）競技会の精神に反して参加すること。	全競技種目
3. 招集場所への集合に遅れた競技者は，競技をスタートすることができない。これは「did not start」(DNS)又は類義の表現でリザルトシートに記載される。	全競技種目
4. A又はB決勝を除き，競技のスタートに不在だった競技者又はチームは失格となる。これは「did not start」(DNS)又は類義の表現でリザルトシートに記載される。	全競技種目
5. 会場施設，宿泊施設，又は他者の所有物を故意に損壊する行為は，個人としての失格，又は競技会全体での失格となる。	全競技種目
6. オフィシャルへの侮辱は競技会全体からの失格となる。	全競技種目
7. 外部からの援助，指示又は助言を受けた場合。	SERC
8. セキュリティーエリアに通信機器を持ち込んだ場合。	SERC
9. 競技の一部として提供されていない器材を用いた場合。	SERC
10. 演技者に身体的又は言葉による暴力を加えた競技者はペナルティー又は失格になり得る。	SERC

SERC：全体 OVERALL –チーフジャッジ用サンプル採点シート

抽選 No： _____ チーム名：_____ ジャッジ名： _____

シナリオの説明：朝，あなた方が地元のプールに来てリラックスしていたところ，水中でトラブルに巻き込まれている人がいることに気付いた。ライフガードはシフトの時間に来ておらず，他のスタッフも見当たらない。このシナリオでは，入水又は退水可能な場所は 1 つしかない。被救助者役の確保又は引き上げは，この入退水エリア内で行わねばならない。他のエリアを使用した場合無得点となる。

判定の注意点： あなたは SERC の全体像を把握し，チーム全体の効率性を評価する。特に，チームリーダーがどのようにチームをコントロールしているかを採点する – 例えば，優先順位の評価，及びチームメンバーの派遣/指示を通じて被救助者役に対応しているか等。また，あなたは，リーダーとチーム間，あるいはチームメンバー同士のコミュニケーションについて採点を行うが，これには被救助者役の状態や，どのような支援が必要かについての情報が含まれ得る。

採点は以下を**考慮せねばならない**：

- リーダーが，全体のコントロールが失われるぐらいにシナリオに専念／関与することで発生したコントロールの喪失。**リーダーが実施するレスキューについては決して採点しないこと。**それらはそれぞれの被救助者役に割り当てられた他のジャッジによって採点される。
- アシスタンスの要請の有無。
  注意：助け[104]を呼んでくるように派遣された人はシナリオ中に戻ってはいけない。

採点の項目 Areas of marking	得点/10
評価 緊急状況の評価 リーダーはチームをまとめ，正しい救助の優先順位を指示したか？ 継続的な評価 （assessment）/評価の見直し （re-assessment）	
コントロール シナリオエリア全域にわたる統制と安全性 リーダーはシナリオ全体を通してコントロールを維持する 継続的な評価 （assessment）/評価の見直し（re-assessment）	
コミュニケーション リーダーからチームへ，及びチームメンバーと被救助者役間の，コミュニケーション及びフィードバック 被救助者役とチームへの効果的な質問/明確な指示	
捜索 シナリオエリアでの効果的な捜索 被救助者役の確認と位置の特定	
チームワーク 適切な情報提供を伴ったチームワーク，招集支援（救急サービス[105]が呼ばれたか） 全ての被救助者役の観察と安全の確保 バイスタンダー/被救助者役の効果的な活用	
被救助者役への乱暴な扱い– **減点**	
合計	

採点の注意（ジャッジにより 0.5 単位で採点される）

Perfect (完璧)	Very Good (優)	Satisfactory (良)	Weak (劣)	Poor (不十分)
10	7.5 – 9.5	5.0 – 7.0	2.5 – 4.5	0.0 – 2.0
シナリオの特定の側面を重み付けし，より高度な技能及び判断力を必要とする救助行為に高得点を与える場合がある。				

[104] 【JLA 注釈】ここでの「助け」は「外部にいる人」を含意している。

[105] 【JLA 注釈】救急サービス：日本での救急車や救急隊に相当する。

SERC：泳げない人 Non-swimmer –サンプル採点シート

抽選 No：_____ チーム名：_____ ジャッジ名：_____

被救助者役：プールサイドに辿り着こうとしている泳げない人

この被救助者役は水面から顔を出そうともがいており，プールサイドに辿り着けないことでパニックになり始めている。被救助者役は，自分の手の届く範囲に救助器材が差し出された場合には，それらを確保する。しかし，コンタクト[106]レスキューをしようとした場合には，彼/彼女はもがいてレスキュアーに掴まろうとする（かつ被救助者役はレスキュアーに背を向けようとしない）。被救助者役が水から出る際には補助が必要で，水中から出た後も溺れたことで疲れ果てている。被救助者役は 1 人でプールに来ている。

判定の注意点：
泳げない人には危険が差し迫った状態にあり，救助の優先順位は高い[107]。被救助者役はレスキュー器材を持たずに直接アプローチするレスキュアーに対しては掴まろうとする。もしコンタクトレスキューを行った場合，「レスキュー」欄は**無得点**とする。被救助者役は，有効（effective）かつ効率的（efficient）な方法でプールサイドに戻し，安全を確保する必要がある。陸上への引き上げは慎重に行われるべきである。被救助者役は尋ねられた質問には回答するが，自ら情報を提供することは無い。被救助者役は怯えているため，救急サービスを呼びに競技エリアを**離れようとはしない**。

採点の項目 Areas of marking	得点/10
被救助者役の認識/アプローチ 泳げない人（non-swimmer, 高優先度[108]）の認識，被救助者役に到達するまでのスピード レスキュアーによる安全なアプローチ	
レスキュー 極めて慎重なレスキュー 有効な（effective）レスキュー，ノンコンタクト[109]かどうか（コンタクトレスキューの場合，この項目は**無得点**）	
被救助者役のコントロール 明確で（clear）有効な（effective）質問と励ましの言葉（reassurance） プールサイドに戻るまでのレスキュー中の元気づけ	
陸上への引き上げ 被救助者役へのケア；頭部の保護 レスキュアーの体格及び体力に合った適切な陸上への引き上げ	
被救助者役への手当て（ケア）及びアフターケア プールサイドから離れた安全な場所；可能であれば保温及び保護 安全性の確認；継続的な元気づけ	
被救助者役への乱暴な扱い– **減点**	
合計	

採点の注意（ジャッジにより 0.5 単位で採点される）

Perfect（完璧） 10	Very Good（優） 7.5 – 9.5	Satisfactory（良） 5.0 – 7.0	Weak（劣） 2.5 – 4.5	Poor（不十分） 0.0 – 2.0
シナリオの特定の側面を重み付けし，より高度な技能及び判断力を必要とする救助行為に高得点を与える場合がある。				

[106] 【JLA 注釈】脚注 101（Page S5-7）参照。
[107] 【JLA 注釈】5.2.1 節 E, F 項では，中程度の優先順位であるが，ここでは原文に即した訳とした。
[108] 【JLA 注釈】注釈 107 に同じ。
[109] 【JLA 注釈】ノンコンタクト（non-contact）：身体接触を伴わない行為（文献[1]p. 105，文献[2] p. 90）

SERC：泳ぎが下手な人 Weak Swimmer – サンプル採点シート

抽選 No：_____ チーム名：_____ ジャッジ名：_____

被救助者役：友人らと遊んでいた泳ぎが下手な人（weak swimmer）で協力的である。

被救助者役は泳ぎが下手な人（weak swimmer）で，友人らと遊んだ後，プールサイドまで戻ろうとしている。被救助者役は友人らについてくるように叫んでいるが，被救助者役自身も友人らがどこにいるのかよく分かっていない。被救助者役はレスキュー器材を掴むことができるが，器材が無くともプールサイドまで戻ることができる。コンタクト[110]キャリーされると，被救助者役はもがいて抵抗する。被救助者役は，他の友人らにプールサイドまで泳ぐようにと伝わっているか心配している。被救助者役は補助無しで自力で水から上がることができる。被救助者役は競技者をサポートしたり，救急サービスへの通報を行ったりと，終始協力的である（ただしコンタクトレスキューをされている間は例外であるが，その後は協力的な被救助者役に戻る）。

判定の注意点：
泳ぎが下手な人（weak swimmer）は迅速に安全な状態にする必要がある。被救助者役は声を掛けられるかジェスチャーがあれば，プールサイドまで戻ることができる；被救助者役はずっと監視下にある必要がある。レスキュー中にコンタクトキャリーをされた場合には，被救助者役はもがいて抵抗し，「レスキュー」欄には低い得点しか与えられない。

採点の項目 Areas of marking	得点/10
被救助者役の認識/アプローチ 泳ぎが下手な遊泳者（weak swimmer）で，移動させる優先順位が高いことを認識する レスキュアーによる安全なアプローチ	
レスキュー 明確な指示によりプールサイドまで戻るよう促す；ノンコンタクトレスキューを行う（コンタクトレスキューの場合は低得点－この項目は最大 5 点とする） 水中にいる間は目を離さない；更なる指示/教示が必要になる場合がある。	
被救助者役のコントロールと活用 効果的なコミュニケーション/指示；他の被救助者役（特に被救助者役の友人ら）の保温/安全確保のために活用する	
陸上への引き上げ 安全を確保して陸上へ引き上げる レスキュアーの体格及び体力に合った適切な引き上げ	
被救助者役への手当て（ケア）及びアフターケア プールサイドから離れた安全な場所；可能であれば保温及び保護 安全性の確認；継続的な観察とケア	
被救助者役への乱暴な扱い– **減点**	
合計	

採点の注意（ジャッジにより 0.5 単位で採点される）

Perfect（完璧） 10	Very Good（優） 7.5 – 9.5	Satisfactory（良） 5.0 – 7.0	Weak（劣） 2.5 – 4.5	Poor（不十分） 0.0 – 2.0
シナリオの特定の側面を重み付けし，より高度な技能及び判断力を必要とする救助行為に高得点を与える場合がある。				

[110] 【JLA 注釈】脚注 101（Page S5-7）参照。

SERC：意識不明・呼吸停止者 Unconscious/Non-breathing Victim –サンプル採点シート

抽選 No：_____ チーム名：_____ ジャッジ名：_____

被救助者役：意識なし（unconscious）呼吸なし（not breathing）の子供（マネキン）
この子供はプールの底に沈んでいる。被救助者役は友人らと遊んでいた。

判定の注意点：
この被救助者役はレスキューの優先順位が低く，継続的なケアが必要なこの被救助者役に対応するために，レスキュアーは優先順位の高い被救助者役への対応をできる限り速やかに実施すべきである。

CPR は可能な限り速やかに開始すべきで，得点には模擬的な CPR 動作の効率性及び有効性を反映すべきである（あなたの国での指導内容/基準に反しているかどうかを採点するものではない）[111]。

採点の項目 Areas of marking	得点/10
被救助者役の認識/アプローチ 被救助者役の特定	
レスキュー （レスキューの優先順位を考慮した）レスキューのスピード プールサイドまで戻るスピード	
被救助者役のコントロール 有効且つ効率的な搬送（carry）	
陸上への引き上げ 被救助者役の慎重な扱い/陸上への引き上げ	
被救助者役への手当て（ケア）及びアフターケア 回復を促すような効果的且つ効率的な CPR プールサイドから離れた安全な場所；安全性の確認；継続的な観察とケア	
被救助者役への乱暴な扱い– **減点**	
合計	

採点の注意（ジャッジにより 0.5 単位で採点される）

Perfect（完璧） 10	Very Good（優） 7.5 – 9.5	Satisfactory（良） 5.0 – 7.0	Weak（劣） 2.5 – 4.5	Poor（不十分） 0.0 – 2.0
シナリオの特定の側面を重み付けし，より高度な技能及び判断力を必要とする救助行為に高得点を与える場合がある。				

[111] 【JLA 注釈】この記述は世界選手権における SERC 競技を前提としたものである。JLA 主催競技会において，CPR の実施に関する基準を設定する場合には，事前に競技者に周知することとする。

SERC：怪我を負った被救助者役 Injured Victim –サンプル採点シート

抽選 No：_____ チーム名：_____ ジャッジ名：_____

被救助者役：肩を負傷していて意識がある被救助者役
水に落ち，肩を怪我している。被救助者役は落ち着いている。

判定の注意点：
サポートが必要な被救助者役で，優先順位は中程度である。レスキュアーはレスキュー器材を使わなければならない。被救助者役はレスキュー器材を持つことができるが，プールから上がるときにはサポートが必要である。被救助者役は，痛めている肩に注意しながら，慎重に水から引き上げられるべきである。被救助者役は非協力的で，支援のため又は救急サービスに通報[112]するために動こうとはしない。

採点の項目 Areas of marking	得点/10
被救助者役の認識/アプローチ 被救助者役が怪我を負った遊泳者で，移動させる優先順位が中程度だと認識する レスキュアーによる安全なアプローチ	
レスキュー 明確な指示によりプールサイドまで戻るよう促す ノンコンタクトレスキューを行う（コンタクトレスキューの場合は低得点－この項目は最大 5 点とする） 水中にいる間は目を離さない；更なる指示/教示が必要になる場合がある。	
被救助者役のコントロール 効果的なコミュニケーション/指示 レスキュー中の励ましの言葉 （reassuarance）	
陸上への引き上げ 負傷した肩に注意しながら水から慎重に引き上げる 安全を確保して陸上へ引き上げる（水中にいる間は目を離さない；更なる指示/教示が必要になる場合がある） レスキュアーの体格及び体力に合った適切な陸上への引き上げ	
被救助者役への手当て（ケア）及びアフターケア プールサイドから離れた安全な場所；可能であれば保温及び保護 安全性の確認；継続的な観察とケア	
被救助者役への乱暴な扱い– **減点**	
合計	

採点の注意（ジャッジにより 0.5 単位で採点される）

Perfect (完璧)	Very Good (優)	Satisfactory (良)	Weak (劣)	Poor (不十分)
10	7.5 – 9.5	5.0 – 7.0	2.5 – 4.5	0.0 – 2.0
シナリオの特定の側面を重み付けし，より高度な技能及び判断力を必要とする救助行為に高得点を与える場合がある。				

[112] 【JLA 脚注】日本での 119 番通報に相当する。

SERC：バイスタンダー Bystander –サンプル採点シート

抽選 No：_____ チーム名：_____ ジャッジ名：_____

バイスタンダー：成人

この成人は，競技者をサポートする，救急サービスに通報するなど終始協力的で，指示されればそれに従ったサポートを行う。

判定の注意点：

バイスタンダーの優先順位は高く，シナリオの目撃者である．指示されれば，競技者のサポート，ファーストエイドの実施，被救助者役についての情報の提供が可能である。

採点の項目 Areas of marking	得点/10
被救助者役の認識/アプローチ 被救助者役がバイスタンダーであり協力的であることを認識する	
関連情報の検討 バイスタンダーへの質問を通じ，シナリオについての情報を検討する （バイスタンダーに指示を与えなかった場合は低得点－この項目は最大 5 点とする）	
指示/教示の実施 レスキュアーが指示/教示を行うことで，レスキューシナリオに対してサポートを受ける；例えば，陸上への引き上げを手伝ってもらう，被救助者役を励ます，緊急サービスに通報を依頼する。	
バイスタンダーの行動の観察 バイスタンダーがレスキュアーの指示に従っているか定期的に確認する。	
継続的な励まし バイスタンダーの行動に対するフィードバックを行い，被救助者役へのさらなるサポートの実施を促す。	
被救助者役への乱暴な扱い– **減点**	
合計	

採点の注意（ジャッジにより 0.5 単位で採点される）

Perfect (完璧)	Very Good (優)	Satisfactory (良)	Weak (劣)	Poor (不十分)
10	7.5 – 9.5	5.0 – 7.0	2.5 – 4.5	0.0 – 2.0
シナリオの特定の側面を重み付けし，より高度な技能及び判断力を必要とする救助行為に高得点を与える場合がある。				

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

第 6 章
サーフボート競技
SURF BOAT EVENT

(JLA 競技規則 2023 年版では省略します)

第 6 章　サーフボート競技
SURF BOAT EVENT

（JLA 競技規則 2023 年版では本競技規則の掲載を省略します）

1. GENERAL CONDITIONS FOR SURF BOAT COMPETITION

1.1 Luck of prevailing conditions

1.2 Competition area

2. THE COURSE

図 36：サーフボートレース
SURF BOAT RACE

3. THE COMPETITION

3.1 Pre-Start

3.2 The Start

3.3 The Seaward Journey

3.4 The Turn

3.5 The Return Journey

図 37：ブイでのサーフボートターン
SURF BOAT TURNS AT BUOYS

3.6 The Finish

4. RACING FORMAT

図 38：サーフボートレースのオプショナルスタート及び/又はフィニッシュ
SURF BOAT RACE OPTIONAL START AND/OR FINISH

5. ROUND ROBIN RACING

6. PENALTIES AND DISQUALIFICATION

7. DISQUALIFICATION CODES FOR SURF BOAT EVENTS

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

第 7 章

IRB 競技

INFLATABLE RESCUE BOAT COMPETITION

第 7 章　IRB 競技
INFLATABLE RESCUE BOAT (IRB) COMPETITION

IRB 競技の目的：

- IRB ドライバーとクルーパーソンの技量を向上すること（以下，あわせて「クルー」という），
- ライフセービングにおけるパトロール業務及び競技双方における安全パフォーマンスの最適化及び信頼性を得るため，IRB とモーターを正確な配備及び整備をクルーに促すこと，
- クルーによるレスキュー技術及び能力を実演すること，
- IRB 技術と操作力について議論し，IRB 技術と操作力を向上させるため，クルー同士の団結を促進させること，
- シミュレーテッドレスキューシナリオにおいてクルーパーソンやペイシェントの安全意識技術を促進させること。

1.　免責事項　INDEMNITY

IRB 競技に参加する全ての参加者は以下を理解し，同意すること：

A. ILS及び/又はILSメンバー団体（日本の場合JLA）は，IRB競技に参加する競技者から発せられる全ての請求行為から免除される。ILS及び/又はILSメンバー団体による請求行為，ILSやILSメンバー団体認定競技会や認定活動から生じた請求行為，関連した請求行為は別である，

B. ILS及び/又はILSメンバー団体による請求行為，ILSやILSメンバー団体認定競技会や認定活動の結果として生じた請求行為，それに関連して生じた請求行為（競技規則に則って実施されているのかそうでないかということになるが）については，ILS及び/又はILSメンバー団体は法律の許す範囲で免責され続ける，

C. A, Bにおける請求行為には，行為，訴訟，プロセス（手順），主張，要求，損害，ペナルティー（罰則行為），損失，費用を含む。ただし，ILS及び/又はILSメンバー団体の適切な保険ポリシーや規約，規則下で請求行為を発する権利のある人物による行為，訴訟等について出される請求行為は含まない，

D. この競技規則に記載されている規則は，安全性を確立し公正なシステムあるいはフレームワークを確実にする目的で作成されている。ライフセービング競技はこの規則により規定され実施されるべきである。

2.　一般条件　GENERAL CONDITIONS

IRB 競技特有の規則や進行に加えて，「S4-1 オーシャン競技の一般規則（特に，A，B，及び E～ J）」と同様に，チームマネージャーと競技者は下記の一般条件を熟知しておく責任がある。

2.1　必須安全事項 Safety essentials

A. **警告**：IRB競技は本質的に危険を伴う競技である。IRB競技に出場する競技者は，自らがレース中に，脚，脊椎，首の損傷に限らず，身体運動，IRBとの接触，気温，天候と海況や溺水による危険があることを理解していなければならない。さらに，怪我あるいは死亡する事故が起こりうる，又はしばしば起こることを理解していなければならない。IRB競

技に出場する競技者は全員，これらの危険性を認識及び理解し，IRB競技のもつ本質的な危険性を前提とし，容認すること。

B. チーフレフリーはレース開始前とレース遂行中，海況及び各種関連条件を納得していなければならない。進行の補助には，ILSイベント安全ガイド（ILS event safety guide）が使用されうる。チーフレフリーは，セーフティーブリーフィング時に詳細を確定しなければならない（S7-2.2に記載）。

C. **安全手順**：コースジャッジは全てのドライビング，動作，安全手順及び技術を監視する。これらの動作及び技術が安全でない，危険又は規則に反していると判断した場合，コースジャッジはレフリーに観察状況を報告し，その権限に沿って勧告する。チーフレフリーは，問題のある競技者らを即座に競技から失格にする又は安全違反を通告する権限を持つ。さらなる罰則，又は規律委員会への付託も勧告され得る。

D. **器材の安全**：スクルーティニアとジャッジは，全ての器材がどのように競技中に使用されているかを監視し，競技中のいかなる時も，安全でないあるいは危険な器材の修理や代用品を要求する権利を与えられている。

E. **ヘルメット**：認可された（EN1388又は同等の）水上ヘルメットの着用は，全ての種目においてドライバー，クルーパーソン，ペイシェントに義務付けられている。IRBのペイシェントは練習中も競技中もヘルメットを着用しなければならない。ヘルメットの下にキャップを着用することは義務付けられていない。「S2-10 F 競技用キャップ及びヘルメット」，又は「S8. 設備及び器材の規格と検査手順」も確認すること。

F. **PFD（Personal Flotation Devices）**：認可されたPFD（ISO12402.5 PFD-レベル50又は同等のもの）の着用は，練習中も競技中もドライバー，クルーパーソン，ペイシェントに義務付けられている。目立つベストをPFDの下に着用することは義務付けられていない。「S2-10 C フローティングベスト及びヘルメット」，又は「S8. 設備及び器材の規格と検査手順」も確認すること。

G. サインやバナーは，50 mの緩衝地帯を設け，競技エリアの両側に表示する。これらはIRBの練習を示す時に使用されるサインと同様のものであることもあり，サイン又はバナーは最小でも1 m ×1 mなければならない。バナーに表記される文字は英語，又は主催国の公用言語でなければならない。例えば：

注意！ 近づくな！訓練中！

（CAUTION - KEEP CLEAR - POWER RESCUE BOAT TRAINING）

又は

注意！ 近づくな！

（CAUTION - KEEP CLEAR）

又は

IRB — レスキュー競技

（INFLATABLE RESCUE BOAT – RESCUE EVENTS）.

H. IRB競技に出場する競技者はILSの薬物ポリシーとドーピング・コントロールに想起される。IRBドライバーは現地国/州/省を意識しなければならない。たとえばアルコールや薬物に関連する法律を遵守しなければならない。ドライバーは，現地の法律を破っていないことを確証するために地方自治体，又はILSの検査を受けることがある。すべての競技者

は薬物検査の被験者になりうる。

2.2 競技前安全説明 Pre-competition safety briefing

IRB 競技が始まる前に，オフィシャル，監督，そしてチームマネージャーに対して同時に安全説明が行われなければならない。

下記の事項が含まれる：

- 全ての競技者によって順守されなければならない安全手順の説明,
- ペイシェントのケアと水温の表示,
- 競技中の緊急時及び応急処置の場所の確認,
- 競技中の波と天候条件の予報と固有の危険,
- 安全とレスキュープランと不測の事態に対する移転計画,
- 注意は，「S2-3 競技会の安全」に表記されている。

2.3 安全性及び技術的違反 Safety and technical infringements

安全なドライビング，クルーワーク，ペイシェントの実践が重要視される。すべての競技者は，それぞれの種目において，安全かつコントロールされたスピード，マナーにて競わねばならず，それに違反するものは，直ちに競技資格を剥奪され，及び/又は安全違反として，さらなるペナルティーも考慮される。

A. チーフレフリー又はデピュティーチーフレフリーは，安全性に欠けた行為に及んだ競技者に対して，安全性違反認定を下すことができる。この違反認定を受けた競技者及びその競技者が所属するチーム（即ち，ドライバー，クルーパーソン，ペイシェント）は，違反を犯した種目において，直ちに失格となる。又，チーフレフリーは，（強制ではないが）最初の安全性違反にイエローカードを提示し，その種目の失格を通告することもできる。

B. どの競技においても，2つ以上の安全性違反認定を受けた競技者は，競技会全ての競技資格を剥奪される。又，チーフレフリーは，（強制ではないが）２つめの安全性違反にレッドカードを提示し，その競技会からの競技資格剥奪を命ずることもできる。

C. 安全性違反となったチームは，その種目において，どのようなポイントを有していたとしても，零点とされる。

D. 技術的違反とは，チームがその種目における安全性や棄権に関わるものではなく，規則違反をすることによって，失格となることをいう。このような技術的な失格は，その競技会における他の種目に関してそのチームの参加に影響を及ぼさない。

E. 技術的違反が決勝で起きた場合，該当チームはその競技会要項に詳細が記載されている通りのポイント配分を受ける。

F. IRB競技会における安全面及び技術的失格は，この章の最後に記載されている。

G. チーフレフリー又はデピュティーチーフレフリーは，それぞれの予選，ラウンド，決勝の直後に，失格をチームマネージャーに報告する。

2.4 競技者の条件 Competitor prerequisites

ILS の IRB 競技に出場する競技者は，競技会が開催される年に 15 歳以上でなければならない。あるいは，ILS 認定団体が定める年齢が 15 歳以上であればその年齢以上である必要があ

る。又，競技に出場することを ILS 認定団体に認められていなければならない。加えて以下の条件がある。

A. **ドライバー**は，競技会が開催される年に18歳以上であること，又は，ILS認定団体が定める年齢が18歳以上であればその年齢以上であること。又，ドライバーは，ILS認定団体のドライバー資格（又はそれに相当するもの），法令で定められた運転免許を含むその他の必要な資格，及び所属するライフセービング組織が要求する技能を現有していることが必要である。

B. **クルーパーソン**は，競技会が開催される年に16歳以上であること，更に，ILS認定団体によるクルーパーソン資格（又はそれに相当するもの）及びその他必要な資格を取得しており，熟練していること。

C. **ペイシェント**（又は被救助者役）は，競技会が開催される年に15歳以上であること，更に，ILS認定団体によるライフセーバーの資格，及びその他必要な資格を取得しており，熟練していること。

D. **ハンドラー**は，競技会が開催される年に15歳以上であること，更に，競技会開催日において，以下のことが求められる：

- LS 認定団体によるライフセーバーの資格やそれに相応する資格を取得していること — 熟練したハンドラーであること，
- 同じクラブ又はクルーとしてチームのメンバーであり，選手登録をしていること — ただし，チーフレフリーが認めた場合，他クラブメンバーがハンドラーを行うことも可能とする — 他クラブのメンバーがハンドラーを行う場合も，競技会への選手登録をしていること，
- ハンドラーとして参加する際は必ずキャップ（又は認可された水上ヘルメット）をかぶること，
- 膝より深く水に入るときは，競技会主催者が定めたラッシュベスト（又は承認済みのライフジャケット）を装着すること，
- オフィシャルの指示に従うこと，
- 競技者及び使用する器材が他のクルーの妨害とならないようあらゆる努力をすること — 妨害した場合は，競技者及びハンドラーともに失格となる。

2.5 エントリー基準と代理出場 Entry limitations and substitutions

A. 競技者は1レース1回のみ出場可能である。つまり，ドライバーが役割を変えて，クルーパーソンやペイシェントで出場したり，異なるチームで出場することはできない。しかし，異なるヒートにおいて，競技者の役割を変えてもよい。代理出場は，チームメンバーが選手登録しており，かつ異なるチームメンバーとして同じ種目に出場していない場合に限り認められる。

B. 種目の特別な状況が明示されない限り（ライフセービング世界選手権のIRBナショナルチームなど），男子及び女子のIRB競技において，IRBペイシェントは男女の区別はない。

2.6 器材の要件，器材検査及び適合 Equipment requirements, scrutineering and compliance

A. ILS世界選手権では，主催者である組織委員会が完全に装備されたIRBを提供する。他の競技会では，主催者がIRB競技器材を提供するか，又は競技者が自らの器材を用いるかを決

め，案内する。

B. すべてのIRBと器材は，ILSの設計書，仕様書に沿ったものでなければならず，仕様書に沿ったものを使用しているかのコンプライアンスと，安全性を担保するために，検査の対象となりうる。

C. ビデオカメラは，「S8 設備及び器材の規格と検査手順」に詳しく記載されている要件を満たす限り，IRBに搭載してもよい。IRBドライバーを除き，競技開始から終了までビデオカメラを競技者が身に着けたり装着してはならない。

D. IRBドライバーは，カメラが装着器具の上に付属，又は製造者が推奨するストラップで止められていれば，自身のヘルメットの上にビデオカメラを装着してもよい。

2.7 コース The course

A. IRB競技のコースは図表にて詳細に示され，チーフレフリーの裁量で定められる。

B. レーンはビーチポジションマーカーの直線上で，スタート/フィニッシュライン及び指定されたターニングブイ上に位置する。

C. レーンは，レーンマーカーポールによって区別され（一般的にオレンジあるいは赤色である），水際から約10 m離れた位置に水際と平行に設置される。チェンジオーバーラインを示すポールは，チーム競技やリレー競技でタッチする際に使用される。チェンジオーバーラインの約5 m浜側のレーンの中心に，ビーチポジションマーカーが設置される。

注意：IRBチームレスキュー競技ではビーチポジションマーカーの後ろにポールが設置され，正確なチェンジオーバー手順を行える様に，砂地より約1.8メートル高い物を使用する。あるいは，約1.8メートルのビーチポジションマーカーを使う事もある。

D. ターニングブイは原則として干潮時のひざの深さから最低120 m沖に設置されるが，サンドバー，ホールやリップ，波の状況，風，安全面を脅かすなどの海の状況によって変化することがある。

E. IRBレスキュー，IRBマスレスキュー，IRBチームレスキューにおいて使用されるペイシェントピックアップブイは，ターニングブイの約10 m沖に設置される。

F. IRBレスキューチューブペイシェントブイはターニングブイの約25 m沖に設置される。

2.8 コースの種類 Course variations

A. **水中スタート**：レフリーが水中スタートすべきと判断した場合，スタート/フィニッシュラインは波打ち際から10 m離れることが望ましい。ビーチポジションマーカーは，波打ち際から5 m離れることが望ましい。

B. **曲線ビーチでのスタート**：クルーは，湾曲しているビーチの性質を考慮に入れる。

C. **水中フィニッシュ**：チーフレフリーが水中フィニッシュと判断しない限りは，通常（図に示す通り），フィニッシュは砂浜の上の，クルーに割り当てられたマーカー内に設定される。水中フィニッシュでは，チームはIRBの船体のいずれかの部分が，2つのフィニッシュ旗/ポール又はフィニッシュゲートの間を海側から通過することでフィニッシュしたとみなされる。

D. **曲線ビーチでのフィニッシュ**：ドライバーはスタート/フィニッシュラインまで走り，両足で立った状態で，チームのビーチポジションフラッグを頭上に上げなければならない。

E. **電子フィニッシュ**：ドライバーは，両足でフィニッシュをした瞬間を記録するために，電

子機器を有効に機能させなければならない。

2.9 運営とオフィシャル Administration and officials

A. 競技は，サーフ競技会とは別に，又はサーフ競技会の一環として開催され，したがって，チーフレフリーの全体的な管理下に置かれる。

B. チーフレフリーは，ILS競技，ILS競技規則及びIRB運営に関する関連書類についての知識を有するものとする。

C. その他のオフィシャルは，円滑な競技運営のために任命される。加えて，専門家アドバイザー（例えば，船体やモーターの専門家など）を任命することもできる。

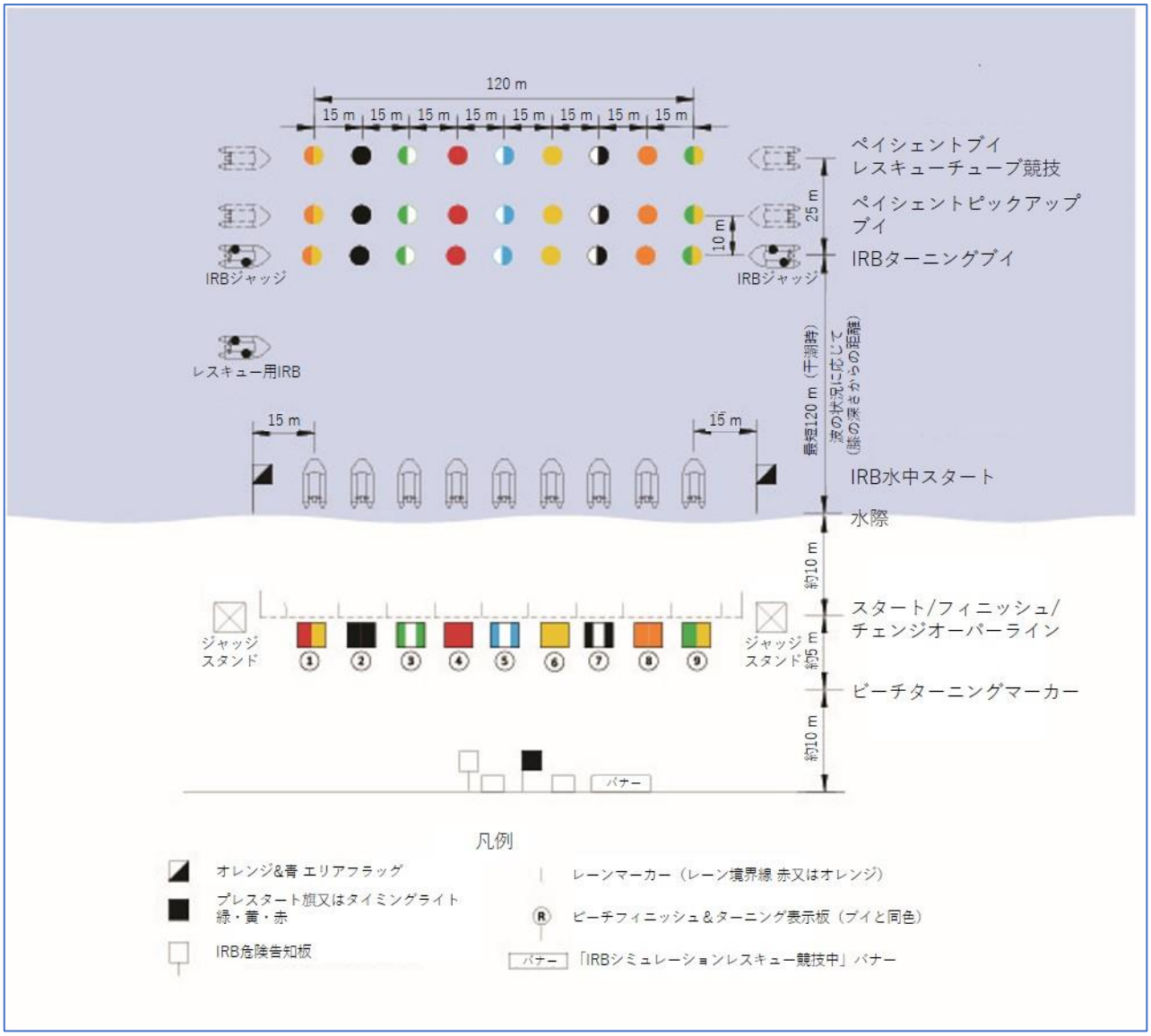


図 39：一般的な IRB 競技エリア

距離はおよその数値である。ブイの位置に応じたビーチのセットアップは海の状況により調整される。

3. 競技進行 PROCEDURE

3.1 ペイシェントの位置 Placing of patients

A. 専用ボート（duty boat）（推奨）あるいは自分たちのクルーが，ヘルメットをかぶったペイシェントを沖に連れて行く。

B. ペイシェントは，ピックアップされるまでブイをつかんでおく。チームに有利なようにブイを動かそうとしてはならない。ピックアップの際，ブイから手を離し，必ずピックアップブイより沖側にいなければならない。

C. IRBマスレスキューとIRBチームレスキューでは，第2ペイシェントはピックアップブイの浜側で待機する。第1ペイシェントがピックアップされIRBがピックアップブイの浜側に移動した後に，ピックアップブイの沖側に移動する。

3.2 スタートの準備 Preparing for the Start

A. 競技者は全員，承認済みのヘルメットと承認済みのPFDを着用する。ドライバーは各自のコースのカラーが分かる服を身に着ける。

B. ペイシェントはマーシャルエリアへ行き，マーシャルが各チームのレーンを伝える。その他の競技メンバーは，割り当てられたレーンへ直接IRBを運び，スタートの準備をする。

C. クルーはボーナスタイムを要求することができる。これはチーフレフリーの裁量で競技種目のスタート時にクルーに提供されるオプションである。各クラブは1日の競技会当たり最大5分のボーナスタイムが認められ，最低でも1分単位で請求することができる。

D. 競技を開始するシグナル/コマンドは，「Take your mark （テイクユアマーク）」から始まり，次に「Set （セット）」，最後にスタートを示すシグナル/コマンドの「Go（ゴー）」の順番で続く。スターターが何らかの理由でいずれかのコマンドの後に競技者と話をしなければならない場合は，再度最初からシグナル/コマンドをやり直す。

E. スターターからの「Take your mark （テイクユアマーク）」シグナル（笛または口頭でのコマンド）で，クルーはスタートラインに立ち，IRBは割り当てられたレーンの望ましい深さで保持する。 チェックスターターは，クルーをスタートラインに誘導する事が出来る。ハンドラーは，IRBの配置をサポートする事が出来る。

F. 最大2人のハンドラーがIRBを保持し，IRBをスタート位置に維持できる事ができる。ハンドラーは，ドライバーかクルーが最初にIRBに触った時にIRBが「正しいIRBスターティングポジション」にある限り，いつでも（スタートシグナルの前後を含めて）IRBを移動できる。

注意1：「正しいIRB開始スターティングポジション」とは，IRBが静止した状態で，船首が波に垂直であり，ハンドラーが決定した水深でレーン内にある事を意味する。

注意2：コンディションにより，レフリーはハンドラーの数を4人にまで増やすことができる。

G. ドライバーとクルーパーソンは，スタートラインの上又は後ろにつま先があるようにし，それぞれのビーチポジションマーカー（コースを示すサイン）に隣接して位置につく。コースごとに色つきのベストなどがある場合はレフリーの指示でそれを着用する。

H. スターターは「Set（セット）」の合図を出す（通常は笛）。 クルーは，設定されたシグナルのホイッスルまでのボーナス時間を請求できる。セットポジションについた後，IRB

器材が波の影響などで損傷を受けた場合のみ，スタート前にチーフレフリーが損傷したIRBを交換したり，迅速に修理することはある。

3.3 スタート The start

A. スターターの「Go（ゴー）」シグナル（通常，銃または，ホーンの合図）で，ドライバーとクルーパーソンはスタート/フィニッシュラインを超え，IRBに向かう。ブレイク（フライング）については本競技規則第4章（オーシャン競技）の詳細の通りに裁定される
注意 1：スターターは，公平に競技を開始する為にあらゆる注意を払うが，「Go（ゴー）」シグナルでの動き出し判断は，競技者またはチームに委ねられている。スターター，チェックスターターまたはレフリーによる再スタートがない場合，スタート時に抗議することはできない。

B. スタートの合図の際，ハンドラーはIRBの片側に立ち， 少なくとも片方の手でIRBの側面を掴む/コントロールしていなければならない。又， ハンドラーはモーターや燃料，燃料経路，セーフティチェーンに触れていてはならない。

C. スタートの合図後，ハンドラーはIRBの位置する水深を保つ，船首が波と直角に沖を向いているようにする，といった目的でIRBを動かしてもよいが，ドライバー及び/又はクルーパーソンがIRBに乗り込むのを助けるために船首の向きを変えてはならない。ドライバー又はクルーパーソンのどちらかが最初にIRBに触れたら，ハンドラーはIRBを動かしてはならない。又，その際に「正しいIRB開始スターティングポジション」にIRBがあるようにする。

D. ドライバー及び/又はクルーがIRBに触れた後も，ハンドラーは自らの裁量でIRBに触れていることができる。しかし，IRBが動き出す前に安全に移動しなければならない。

E. ドライバーとクルーパーソンは，自分たちの方法で，IRBに適宜乗り込むことができる。

F. モーターを始動する前にドライバーは完全にIRBに乗っている。ドライバーのみがモーターをかけることができ，クルーパーソンはモーターがかかったときにはIRBに触れていなくてはならない。IRBレース中は，スタートのシグナルが鳴ったら，ドライバーのみがモーターに触れる事が出来る。

G. ギアはフォワードの状態でも，ニュートラルの状態でも構わない。ギアをフォワードにした状態で片方の手でモーターをかける場合は，スロットルをもう片方の手で握らなくてはならない。両方の手でモーターをかける場合モーターはニュートラルでなくてはならない。

3.4 ブイへの進行と戻り Proceed to and from buoys

A. 沖へ向かう道筋はドライバーとクルーパーソンが決めてよい。

B. IRBに乗り込んだ後，ドライバーとクルーパーソンは下記に述べる「ノーマルポジション」を維持しなくてはならない。安全のマナーであり， 3 つの安全Point は常に守られなくてはならない。

C. **ノーマルドライバーポジション**：左あるいは右足をフットストラップにかけて，左手はIRBについているドライバー用のバンドストラップを，右手はモータースロットルグリップをつかみ，ポンツーンの上に座る。

D. **ノーマルクルーパーソンポジション**：左足をフットストラップにかけて（右足は任意），

左手でバウロープハンドルを掴み，右手でポンツーンの内側にあるハンドルあるいはライフラインロープを掴み，ポンツーンの上に座る。

E. **ノーマルペイシェントポジション**：IRBの中でしゃがみこみ，少なくとも片方の手でライフラインロープを掴む。ペイシェントはIRBの底とポンツーン上には座ってはいけない。
注意：失格ではないが，ペイシェントはIRBの床に座る事を推奨しない。

F. 上記のノーマルポジションの例外は下記である。どんな時でもIRBと接触する3つのPointを維持しながら，ノーマルポジションから移る際は安全な方法でおこなう：

- モーターが電気的に動かなくなった場合，ドライバー及び/又はクルーパーソンはノーマルポジションから離れ IRB を浜辺の上に引き上げてもよい — あるいは，IRB が動いている場合はニュートラルにしてよい，
- クルーパーソンは，波やうねりを超える衝撃を和らげるため，座っている状態から立ちあがってもよい，
- クルーパーソンは，海に出る際，「ロックインポジション」に移動してもよい。大きな波にあたる場合も含まれるが，これに限定されない。

  注意：ロックインポジションとは，クルーパーソンが IRB に沿ってストリームラインの体勢をとり，船体とより密着することである。このポジションは安全な体勢とされており，クルーパーソンが必要と判断した際はいつでも行うことができる。ロックインポジションは，波が IRB 上に崩れ落ちてきそうな場合によく使われる。

ロックインポジションを取るには，クルーパーソンは左手でバウロープ又はハンドルを握り，腰の後ろでお尻より少し下向きに引っ張り，きつく張った状態にする。左手でポンツーン右舷側のハンドルかライフラインロープを握ってもよい。最も重要なことは，バウロープをきつく張った状態にすることである（コントロールしやすくするため）。クルーパーソンはロープが張った状態を維持するために船尾肋板の方向に腰を捻る。クルーの「ロックインポジション」は以下を含む：

- 左足をクルーパーソンのフットストラップにかける。足は少し曲げてまっすぐ固定はしない。波にぶつかる際は左足を前方方向に蹴る，
- 右足及び右膝は波よけカバー（spray dodger）の下で曲げておく（可能であれば）。右足はポンツーンの反対側に位置する燃料の上/波よけカバーの下に置く。
- バウロープ D リングから約 200 mm 離れているバウロープの 4 つの結び目のうち，1 つを右手でつかむ，
- 左手でバウロープ又はハンドルを握る。
- 頭をまっすぐにして前を向き（横ではなく），近づいてくる波を直視する。脊椎の整合は常に保たれていなければならない，
- 右肘は胸の近くに引き寄せ，右肩を波よけカバーの上に置けるようにする。肘には寄りかからないことが推奨される，
- IRB が海上から離れる場合は，ロックインポジションを維持し，体への衝撃を最小限に抑える。

注意：この詳細は，詳しい審査条件を表すものではなく，クルーが安全に競技を行うことを目的に明記している。

- クルーパーソンはターン時又は浅瀬に対応するためには重心を移動させてよい，
- クルーパーソンはブイを回るために重心を移動させたり，安全支点を調整してもよい，
- クルーパーソンはペイシェントのピックアップの際，ノーマルポジションから離れてよい，
- ドライバーはレスキューチューブピックアップの際，ノーマルポジションから離れてよい，
- レースの最後に浜に到着する際，クルーパーソンは IRB 内で背筋を伸ばして座っている必要はないが，スリーPoint を維持し着座していなければならない，
- チームメンバーがそれぞれのノーマルポジションから離れないよう，ドライバー，クルーパーソン又はペイシェントは，各自のノーマルポジションから瞬間的に移動してもよい。

G. ドライバーとクルーパーソンは，IRBを安全かつ制御範囲内で確実に動かせるよう，競技中どんなときでもIRBの制御をしていなければならない。バウロープを離すことはSafety DQ（安全面における失格）である。

H. ブイに向かっている際及びブイから離れている際，前方にいるIRBは正しい航路で進み，後方のIRBは衝突を防ぐためにターンしたり航路をあける。

注意 1：もし，先行するIRBのドライバーが後続のIRBと衝突の危険性があると判断をした場合は，先行するIRBは，衝突を回避するために最新の注意を払う必要があるが，競技の観点から，後続するIRBは，先行するIRBに進行を譲る責任がある。

注意 2：船舶の標準的な衝突回避策は，右に操縦し，安全にポート（左舷）側に通過することである。

3.5 ブイまわりとピックアップ The turn and patient pick-up

レスキュー，マスレスキュー，チームレスキューにおけるターンとペイシェントのピックアップは，以下である。

A. クルーは，他のクルーの進行を妨害したり正規のコースから逸脱させようとして，幅広くコースをとったり，遅れてターンをしてはならない。

B. すべてのブイを，IRBのポートサイド（左側）から反時計回りに回る。ペイシェントピックアップブイをターンするとき，ポンツーンの下にブイを沈めてはならない。

注意：ターンまたはペイシェントのピックアップ中にブイが完全に水没し，IRBターンポート（左舷）側にブイが浮上しない場合，クルーは失格となる。

C. IRBは指定されたターニングブイを360度回る。又，ペイシェントピックアップブイでは，ポートサイドからペイシェントをピックアップする。

D. レスキューチューブレース以外では，ペイシェントをピックアップする際，ペイシェントはIRBの方を向き，ピックアップにそなえる。ペイシェントは両手を組んだ状態又は片方の手首をもう片方の手でつかんだ状態でピックアップされなければならない。

E. ペイシェントは安全な方法で，IRBのポートサイドからピックアップされ，かつ，その行

為はピックアップブイの海側で行われなければならない。ドライバーとクルーはどちらも，ペイシェントのピックアップを手伝ってよい。

F. ペイシェントのピックアップが完了したら，IRBはピックアップとターンを確実に行い，ピックアップブイの浜側に移動し，ターニングブイを左側にみながら浜に戻る。マスレスキューでこの手順は第2ペイシェントのピックアップの際にも繰り返される。

G. ペイシェントは，IRBがターニングブイを完全に通過する前に水面から上がっていなくてはならない（IRBのモーターの後端が通過の判断基準となる）。

H. IRBは，指定されたターニングブイとピックアップブイ以外のブイを回ってはならない。

I. もしIRBクルーがペイシェントをピックアップし損ねた場合，指定されたターニングブイをもう一度まわり，上記の手順で，ペイシェントのピックアップを試み競技を続けることができる。

3.6 退出とフィニッシュ The exit and finish

A. IRBは浜に上がったら，ドライバーがIRBから降りるまで，IRBは主に指定されたコースの中に置いておかなければならない。

B. ドライバー，クルー，ペイシェントは，IRBを過度の速度でビーチング，又は進行方向とは違う角度でビーチングさせてノーマルポジションを逸脱してはならない。レースの最後に浜に到着する際，クルーはIRB内で背筋を伸ばして座っている必要はないが，スリーPoint を維持し着座していなければならない。IRBのどの部分にも横たわる事はできない（S7-3.4 Eを参照）。

C. ビーチングの時は，ドライバーはモーターをアイドリング状態に戻し，ドライバー，クルー，ペイシェントがIRBを下船する前にモーターキルスイッチによって停止しなくてはならい。ランヤードキルスイッチを使用する場合はモーターに接続されたままにしておかなければならない。

D. ペイシェントはドライバーより先にIRBから降りてはならない。クルーは，IRBの動きを安定させるため，安全な方法であれば，ドライバーより先に降りてもよいが，モーターの電源が切られてからでなければならない。モーターはギアが入っていてもいい。クルーは，降りる際にサイドリフティングハンドルを使ってもよい。

E. IRBから降りる際，キルスイッチでモーターを切るまで，ドライバーは両足をIRBの床の上に載せていなければならない。

F. 両方の足がIRBの外側に出るまで，ドライバーは座ったままでなければならない。「外側」の定義はポートサイドのポンツーンの中心線を過ぎていることである。

G. ドライバーはIRBフロントリフトハンドルの後ろから降りなければならない。降りるときにIRB又は床板から飛び降りてはならない。

注意：ドライバーがつまずいたり転倒したりしても，スタート/フィニッシュラインを足で通過した場合は失格にはならない。

H. ドライバーがスタート/フィニッシュラインまで走っている間，クルーパーソンはIRBに残ってコントロールすること。ペイシェントも，IRBをコントロールするクルーパーソンをアシストしてよい。

I. ドライバーは，レース終了時に自分の足でフィニッシュラインを通過しなくてはならな

い。例外は，レフリーが，レースのフィニッシュがルールS7-2.8 C.で定義されている「ウォーターフィニッシュ」になると判断した場合。

J. フィニッシュは，ドライバーの足がスタート/フィニッシュラインを通過するときに，ドライバーの胸がスタート/フィニッシュラインを過ぎた時点で判定される。

注意：IRBチームは，すべてのチームがフィニッシュするまで，終了時に立った状態でスタート/フィニッシュラインから離れていなくてはならない。これはジャッジプロセスの助けとなる。

K. 別段の指示がない限り（例えば，「S7-2.8 C. 水中フィニッシュ」），チームはフィニッシュ結果を記録するために，IRBを運転してフィニッシュラインを横切ってはならない。ドライバーはIRBの外に出てフィニッシュラインを越えなければならない。もしIRBがフィニッシュラインを越えてしまったら，ドライバーはIRBから出てスタート/フィニッシュラインの海側に進み，もう一度スタート/フィニッシュラインを越えればフィニッシュした結果を残すことができる。

3.7 チェンジオーバー（マス，チーム，リレー種目のみ）
The Changeover (Mass and Teams events only)

A. すべてのチェンジオーバーの間，クルーパーソンはIRBに常に触れた状態かつ安全な方法でIRBを制御しなくてはならない。関連する種目の説明に詳述されているように，クルーパーソンとペイシェントはIRBの方向転換をし，ドライバーがIRBに乗り込みやすい角度にボートを安全な方法で置くことができる。

注意 1：チェンジオーバーの間，ドライバー，クルーパーソン，ペイシェントは，IRBからの降り方について，S7-3.6に記述されている方法に従わなければならない。

注意 2：IRBは主に指定されたコースの中から再出発しなければならない。しかし，他のチームの妨害にならない範囲内でIRBの向きを変える場合は，コースから出てもペナルティーはない。

B. チームリレーでのチェンジオーバーの際は第1ドライバーと第2ドライバーは見える様にタッチをする。これを行うために，第1ドライバーはスタート/フィニッシュラインに進み，ビーチポジションマーカー（S7-2.7 C参照）を回り，第2ドライバーにタッチをする。第2ドライバーはチェンジオーバーラインの浜側又はライン上につま先を置き，完全停止状態ではなくても良いが，必ずチェンジオーバーゾーン内で交代が行われなければならない。

注意 1：IRBチームレスキューとIRBリレー競技では，ビーチポジションマーカーの後ろにポールが設置され，正確なチェンジオーバー手順を行える様に，砂地より約1.8メートル高い物を使用する。あるいは，約1.8メートルのビーチポジションマーカーを使う事もある。

注意 2：タグ（引継ぎ）は，交代をする両選手の足がチェンジオーバーゾーン内になくてはならない。チェンジオーバーゾーン内で足を地面に接地している必要がないことが明確にされている。

4. IRB レスキュー[113] IRB RESCUE

- 各チームは，ドライバー1 人，クルーパーソン 1 人，ペイシェント 1 人の編成である。

[113] 【JLA 注釈】2022 年版では競技種目名に「競技種目 1（EVENT NO 1）」が付されていた。

- ペイシェントは S7-3.1 で示された場所に位置する。
- スタートは S7-3.2 及び S7-3.3 に準ずる。
- クルーは S7-3.4 と S7-3.5 に従い，沖へ進み，ペイシェントをピックアップし，浜へ戻る。
- フィニッシュは S7-3.6 に準ずる。

5. IRB マスレスキュー[114] IRB MASS RESCUE

A. 各チームは，ドライバー1人，クルーパーソン1人，ペイシェント2人の編成である。

B. ペイシェントはS7-3.1で示された場所に位置する。

C. スタートはS7-3.2及びS7-3.3に準ずる。

D. クルーはS7-3.4とS7-3.5に従い，沖へ進み，第1ペイシェントをピックアップし，浜へ戻る。

E. ドライバーはS7-3.6に書かれている通りに退出する。浜では，クルーパーソンがS7-3.7に記載の通りIRBを制御し，方向転換できる。ペイシェントは，ドライバーが降りた後にIRBから退出する。ペイシェントは，S7-3.3B,C,Dに書かれている通りにIRBを方向転換し，IRBの位置を固定するクルーパーソンをアシストしてよい。その際、安全を確認しつつ、角度をつけてドライバーの乗艇をアシストして良い。

F. ドライバーは，スタート/フィニッシュのラインまで進み，定められたビーチのターニングポイントを回って，IRBに戻る。ドライバーも，IRBの方向転換をするクルーパーソンをアシストしてよい。第1ペイシェントが，IRBの方向転換，位置固定をするクルーパーソンをアシストしている場合，ドライバーがIRBに触れた後も，ペイシェントは自らの裁量でIRBに触れていることができる。しかし，IRBが動き出す前に安全に移動しなければならない。

注意：ペイシェント達は，競技や審判の妨げにならない場所にいなければならない。

G. IRBはもう一度設置，スタートされ，クルーはS7-3.4とS7-3.5に記載の通り，第2ペイシェントをピックアップするために沖へ進み，ピックアップ後浜へ戻る。

H. フィニッシュはS7-3.6に準ずる。

6. IRB チームレスキュー[115] IRB TEAMS RESCUE

A. 各チームは，ドライバー2人，クルーパーソン2人，ペイシェント2人の編成である。

注意：ライフセービング世界選手権で開催される国別対抗のIRBチームレスキュー種目は，男女混合種目である。チームは，女性メンバーで構成されるクルー（ドライバー，クルーパーソン，ペイシェント）と男性メンバーで構成されるクルー（ドライバー，クルーパーソン2人，ペイシェント）で編成され，女性，男性の順で競技を行う。

B. ペイシェントはS7-3.1で示された場所に位置する。

C. スタートはS7-3.2 S7-3.3に準ずる。

D. 第2ドライバーと第2クルーパーソンは，チェンジオーバーラインの位置にいること。

E. クルーはS7-3.4とS7-3.5に従い，沖へ進み，第1ペイシェントをピックアップし，浜へ戻

---

[114] 【JLA 注釈】2022 年版では競技種目名に「競技種目 2（EVENT NO 2）」が付されていた。

[115] 【JLA 脚注】2022 年版では競技種目名に「競技種目 3（EVENT NO 3）」が付されていた。

る。

F. ドライバー，クルーパーソン，ペイシェントはS7-3.6に記載の通り，IRBから退出する。第2クルーパーソンは，ドライバーがIRBから離れたら，チェンジオーバーラインを超え，IRBへ進んでよい。

G. 第1クルーパーソンはS7-3.7 Aで記載の通り，IRBの方向転換をし，IRBを制御した状態でいなければならない。ペイシェントは，S7-3.3B,C,Dに書かれている通りにIRBを方向転換し，IRBの位置を固定するクルーパーソンをアシストしてよい。その際、安全を確認しつつ、角度をつけてドライバーの乗艇をアシストして良い。チーフレフリーが別の方法を認めない限り，最大で2人のチームメンバーが同時にIRBに触れ，IRBの制御をすることができる。

注意：第1クルーパーソン/第1ペイシェントは，IRBから手を離した際，IRBから離れて立っていなければならない。

H. ドライバーは，スタート/フィニッシュのラインまで進み，指定のビーチターニングマーカーを回って，チェンジオーバーゾーンの中で見えるように第2ドライバーにタッチする。第2ドライバーはチェンジオーバーラインの浜側又はライン上につま先を置いた状態で，ビーチターニングマーカーよりは海側にいなくてはならない（チェンジオーバーゾーン内）。第2ドライバーは完全停止状態ではなくても良いが，必ずチェンジオーバーゾーン内で交代が行われなければならない。

I. 交代の後，第2ドライバーは水際まで進み，IRBを乗り出し，スタートする。第2ドライバー又は第2クルーパーソンがIRBに触れた後も，第1クルーパーソン又はペイシェントは自らの裁量でIRBに触れていることができる。しかし， IRBが動き出す前に安全に移動しなければならない。

注意：第1クルーパーソン及び第1ペイシェントは，競技や審判の妨げにならない場所にいなければならない。

J. 第2クルーはS7-3.4とS7-3.5に従い，沖へ進み，第2ペイシェントをピックアップし，浜へ戻る。

K. フィニッシュはS7-3.6に準ずる。

7. IRB レスキューチューブ[116] IRB RESCUE TUBE

A. 各チームは，ドライバー1人，クルーパーソン1人，ペイシェント1人の編成である。

B. ペイシェントはS7-3.1で示された場所に位置する。

C. この種目に限っては，レスキューチューブは通常のポジション，又はクルーパーソンのバウロープにハーネスを付けた状態で波よけカバーの下に置いてもよい。レスキューチューブに何らかの変更等を加えることは禁止される。

D. スタートはS7-3.2及びS7-3.3に準ずる。

E. レース開始後，クルーパーソンはセキュアポジションを保ちながら，ブイを回る前にレスキューチューブハーネスを安全に装着する。

F. IRBはターニングブイを反時計回りで回り，ペイシェントのピックアップを開始するま

[116] 【JLA 脚注】2022 年版では競技種目名に「競技種目 4（EVENT NO 4）」が付されていた。

で，IRB全体がターニングブイの浜側にあるようにする（S7-7 K参照）。

G. IRBがターニングブイを回ったら，クルーパーソンはブイの浜側から入水する。レスキューチューブはクリップを外した状態でしっかりと掴まれた状態でなければならない。レスキューチューブのハーネスやストラップなどどの部分も，IRBやドライバーにぶつからないよう注意する。

注意：クルーパーソンがIRBを離れる際，左舷側に入水する必要はなく，又，ターニングブイが常に左側にある位置関係である必要もない。

H. クルーパーソンは，指定されたターニングブイ，ペイシェントピックアップブイ，レスキューチューブペイシェントブイをクルーの左側にみながら，それぞれのペイシェントのところまで泳ぐ。

I. レスキューチューブは，クルーパーソン及び/又はペイシェントによって，ペイシェントの両腕の下でつけられなくてはならない。ペイシェントがレスキューチューブを自分自身に巻くこともできる。クルーパーソンは，レスキューチューブペイシェントブイの浜側にペイシェントが移動するまでにレスキューチューブをオーリングにかけられていれば，泳ぎ続けてよい（ブイ回りはペイシェントの足元で判断する）。

J. クルーパーソンは，ペイシェントピックアップブイを180度反時計回りに回り，ペイシェントピックアップブイとターニングブイを左側にみた状態でペイシェントをIRBまで引っ張る。ペイシェントは，キック及び水中で腕を使用しスカーリングしてよいが，水上に腕を上げて泳いではならない。又，うつ伏せの状態で引っ張られてはならない。足，手用のフィンやその他認められていない器具を使用してはならない。

K. クルーパーソン又はペイシェントがIRBに触れた時点で， ペイシェントのピックアップが開始されたとみなされ，IRBはターニングブイの海側へ移動してよい。

L. ドライバーはクルーとペイシェントがIRBに乗り込むのを手伝ってよいが，クルーとペイシェントはIRBのポートサイドからIRBに乗り込む。ドライバーはモーターがニュートラルに入っていれば，モーターグリップを手放し，乗り込みを手伝うことができる。

注意：クルーパーソンはペイシェントよりも先にIRBに乗り込むことができる。逆も同様。

M. IRBはターニングブイを反時計回りに回る。

N. レスキューチューブは，ペイシェントに装着された状態で，クルーパーソンはハーネスをとりペイシェントに渡す。ペイシェントは，ドライバーがIRBを降りる前にストラップとハーネスを持っていなければならない。ペイシェントはしっかりとハーネスとストラップを掴み，IRBの中のものにぶつけたり，トランサムを越えて伸ばしたり，セルフベイラーに巻き込んだりしないようにしなければならない。

注意：レース終了時にペイシェントがストラップ及びハーネスを持った手を挙げてジャッジに見せる必要はない。

O. クルーはS7-3.5に記載の通り，浜に戻る。

P. フィニッシュはS7-3.6に準ずる。

8. 失格 DISQUALIFICATION

クルーは全ての競技会の進行，説明，規定及び/又は競技規則や関連の案内，告示に含まれる他の事項に応じていないことが見つかった場合，失格となる。IRB 競技の安全面における失格及び技術的な要素における失格は以下に述べる。

9． IRB 競技失格コード表 DISQUALIFICATION CODES FOR IRB EVENTS

A）共通失格 General Disqualifications

コード及び失格内容 Code and Disqualification	競技種目 Events
1. 共通競技総則に沿って競技しなかった。	All events
2. チーム，競技者及びハンドラーが不正行為をした場合，競技者又はチームは失格となる。不正行為には下記のような例が含まれる： • ドーピング又はドーピングに関連した違反行為， • 他の競技者になりすますこと， • 競技順や位置決めの投票又は抽選で不正を試みること， • 同じ個人種目に 2 度出場すること， • 他のチームの競技者として同じ種目に 2 度出場すること， • コースで自分が優位になるために故意に妨害すること， • 他の競技者又はハンドラーを押して進路を妨害すること， • 競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けること（口頭又はその他の指示を除く）， • （フェアプレー規範に記載の）競技会の精神に反して参加すること[117]。	全競技種目
3. 招集場所への集合に遅れた競技者は，競技をスタートすることができない。これは「did not start」(DNS)又は類義の表現でリザルトシートに記載される。	全競技種目
4. 競技のスタートに不在だった競技者又はチームは失格となる。これは「did not start」(DNS)又は類義の表現でリザルトシートに記載される。	全競技種目
5. 会場施設，宿泊施設又は他者の所有物を故意に損壊する行為は，個人としての失格，又は競技会全体での失格となる。	全競技種目
6. オフィシャルへの侮辱は競技会全体からの失格となる。	全競技種目
7. 合理的な時間内でスターターの号令に従うことが出来なかった。	全競技種目
8. スターターの最初の合図の後，音やその他の方法によって他の競技者を妨害した競技者は失格となる（。	全競技種目

[117] 【JLA 注釈】この一文は ILS 競技規則原本には無いが，その他の章の共通失格にあることから，ここにも挿入した。

B）技術的及び安全面における失格コード

TDQ – 技術的な要素における失格（Technical Disqualification）

SDQ – 安全面における失格（Safety Disqualification）

A. スタート START

	DQ タイプ
A1 – ドライバー又はクルーパーソンが不正スタートをした場合。	TDQ
A2 – IRB が指示通りに位置されていない，又はクルーのフィニッシュマーカーの前ではない場合。	TDQ
A3 – 競技が始まる時点で，IRB の船首が海側に向いていない場合。	TDQ
A4 – ハンドラーが IRB を出発させるクルーを手伝った場合。	TDQ
A5 – ドライバーが IRB の外でモーターを起動させた場合。	SDQ
A6 – ドライバーが両手でスターターロープを引く際，モーターがニュートラルでない場合。	TDQ
A7 – ドライバーがモーターを起動させるときに，クルーパーソンが IRB に触れていない場合。	TDQ
A8 – スタート時点，又はスタート後に IRB が制御できない状態，又は危険な状態で動いている場合。	SDQ
A9 – モーターにギアが入っている状態，又はモーターが起動している状態でドライバーが IRB を押したり引っ張ったりした場合。	SDQ

B. ブイの行き来 PROCEEDING TO AND FROM BUOYS

	DQ タイプ
B1 – 一般的なドライビング及び/又はクルーの技術により，IRB 内でクルーパーソン（及び/又はペイシェント）が彼らのノーマルポジションから逸脱した場合。	SDQ
B2 – 危険な方法で波にぶつかる，又はドライバー又はクルーパーソンが IRB から落ちてしまった場合。	SDQ
B3 – IRB が指定されたブイと違うブイを回った場合。	TDQ
B4 – ブイを旋回中にブイが完全に水没し，ボート（左舷）側にブイが浮上しなかった場合。	TDQ
B5 – 先頭の IRB には先行権がある；後続の IRB が回避行動をしなかった場合。	SDQ
B6 – クルーが，他の IRB の走行を妨害したり正規のコースから逸脱させようとして，幅広くコースをとったり，遅れてターンした場合。	TDQ
B7 – IRB の左側にターニングブイをみるようにして浜に戻らなかった場合。	TDQ
B8 – クルーパーソン又はペイシェントが競技進行中に IRB から離れてしまった場合。	SDQ
B9 – IRB に触れてはいるが，ドライバー及び/又はクルーパーソンが IRB を制御できていない場合。	SDQ
B10 – IRB が正規のコースを完走しなかった場合。	TDQ
B11 – IRB が指定されているターニングブイを 360 度回転しなかった場合。	TDQ
B12 – 浜に戻る際，危険な方法で波に乗った場合，及び/又は，ドライバー及び/又はクルー及び/又はペイシェントが IRB から落ちてしまった場合。	SDQ

C. ペイシェントの引き上げ PATIENT PICK-UP

	DQ タイプ
C1 – ペイシェントのピックアップがペイシェントブイの海側から開始されていない場合。	TDQ
C2 – ペイシェントが IRB のポートサイドから引き上げられていない場合。	TDQ
C3 – ドライバー，クルーパーソン，又はペイシェントが IRB に触れていない場合。	SDQ
C4 – ペイシェント/クルーメンバーが安全にピックアップされなかった場合（つまり，ペイシェントのピックアップが規定通りに行われていない）。	SDQ
C5 – IRB が指定されたブイと異なるターニングブイ又はペイシェントピックアップブイを回った場合。	TDQ
C6 – ペイシェントのピックアップ時にブイがポンツーンの下敷きになり，正しい側（port side）に浮上しなかった場合。	TDQ
C7 – IRB がターニングブイえペイシェントピックアップブイを時計回り（右回り）に回った場合。	TDQ
C8 – IRB がペイシェントのピックアップに失敗した際，ペイシェントブイでペイシェントのピックアップを再試行する前にターニングブイを 180 度回らなかった場合。	TDQ
C9 – ドライバー及び/又はクルーパーソンがペイシェントを IRB に乗せることができなかった場合。	TDQ

D. IRB レスキューチューブ種目 IRB RESCUE TUBE EVENT

	DQ タイプ
D1 – クルーパーソンが入水する前に IRB がターニングブイを回っていない場合。	TDQ
D2– クルーパーソンが正しい方法で IRB から離れなかった場合。	TDQ
D3 – レスキューチューブのフックがクリップされた状態で，クルーパーソンがペイシェントに到着した場合。	TDQ
D4– クルーパーソン/ペイシェントが指定されたブイを反時計回りに泳いでいない場合。	TDQ
D5 – ペイシェントがレスキューチューブにオーリングを用いて巻かれていない場合。	TDQ
D6 – ペイシェントがうつ伏せの状態で引っ張られている又は腕を水面上にあげる動きをした場合。	TDQ
D7 – ペイシェント又はクルーパーソンが IRB に触れるまで，IRB がターニングブイの浜側に残っていない場合。	TDQ
D8– クルーパーソン/ペイシェントが IRB のポートサイドから乗船しなかった場合。	TDQ
D9 – IRB がペイシェントのピックアップ後，ターニングブイを反時計回りに回らなかった場合。	TDQ
D10 – ペイシェントがレスキューチューブを胴回りに巻きつけていない及び/又はハーネスを競技終了時点で確保していない場合。	TDQ

E. チェンジオーバー – IRB マス/チーム種目 CHANGEOVER – IRB MASS/TEAMS

	DQ タイプ
E1 – モーターが起動している状態でドライバーが IRB を離れた場合（エンジンキルスイッチを稼働させていない）。	TDQ
E2 – ドライバーが IRB を離れた後にクルーパーソン又はペイシェントがキルスイッチをセットし直した場合。	TDQ
E3 – ドライバー及び/又はクルー及び/又はペイシェントが規則に従ったチェンジオーバーをしなかった場合。ペイシェントが IRB の向きを変えることは現在認められている。	TDQ
E4 – IRB のモーターが停止される前にペイシェントが IRB を離れた場合。	TDQ
E5 – ドライバー及び/又はクルーパーソンが，規則で定められている方法でチェンジオーバーしなかった場合。	TDQ

F. フィニッシュ FINISH

	DQ タイプ
F1 – モーターが起動している状態でドライバーが IRB を離れた場合（エンジンキルスイッチを稼働させていない）。または，キルスイッチランヤードをボートから取り外した場合。	TDQ
F2 – ドライバーが IRB から正しく降りなかった場合。	TDQ
F3 – ドライバーが IRB を指定されたコース外から浜に乗り上げた場合。	TDQ
F4 – IRB のモーターが停止される前にペイシェントが IRB を離れた場合。	TDQ
F5 – ドライバーがフィニッシュラインを足で通過しなかった場合。	TDQ

G. 全体 GENERAL

	DQ タイプ
G1 – ドライバーが危険行為をした場合。	SDQ
G2 – クルーパーソンが危険行為をした場合。	SDQ
G3 – ペイシェントが危険行為をした場合。	SDQ
G4 – クルーがバウロープを掴んでいない場合。	SDQ

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

第 8 章
設備及び器材の規格と検査手順

FACILITY AND EQUIPMENT STANDARDS AND SCRUTINEERING PROCEDURES

第 8 章　設備及び器材の規格と検査手順
FACILITY AND EQUIPMENT STANDARDS AND SCRUTINEERING PROCEDURES

1.　プール施設規格　POOL FACILITY STANDARDS

全てのライフセービング世界選手権は，ILS 規格に沿った 8 レーン（最小）50 m のスイミングプールで実施される。施設の計測は ILS 管理委員会（ILS Management Committee）により任命又は承認された者により認証されなければならない。

1.1　検査手順　Scrutineering procedure

A. ILSが管理する競技種目（例えば，ライフセービング世界選手権，ワールドゲームズ）に関し，組織委員会により任命された者が，プールの長さ，幅，深さ，レーンの幅とロープ，スターティングプラットフォーム，電子計時機器，等を明記したプール検査証明書（又は同様のもの）を審査するものとする。

B. 係る証明書がない場合，ILS管理委員会により任命された者は，プール施設がILSの施設規格に適合するか検査する。更に，以下の器材が検査される：
- 障害物，レスキューチューブ，スローライン，マネキン，
- マネキンプラットフォーム（深さをチェックしてプラットフォームが浅すぎないことを確認することを含む）。

C. 必要とされる最低限の測定器材：テープメジャー（1mm単位で最低50 mのもの，深度を測定する棒又はポール）。

D. ILS認定競技に関し，認定の申請には，競技に使用するプール及び全ての器材がILS規格に適合していることを競技会主催者が宣告する必要がある。

1.2　長さ　Length

プールは，スタート端の全自動審判計時装置のタッチパネルと折返し端の壁又はタッチパネルとの間を 50 m とする。各レーンの許容誤差は，プラス 30 mm 及びマイナス 0.00 mm である。

1.3　レーン　Lanes

少なくとも 2.5 m 幅で少なくとも 8 レーンで，第 1 及び最終レーンの外側に少なくとも 200 mm ずつのスペースがあるべきである。各レーンの両側にはコース全長に渡ってレーンロープを張ること。各レーンロープは，最小直径 50 mm から最大直径 150 mm までのフロートを，端から端まで配置したものである。レーンロープはしっかりと張られていること。

1.4　スターティングプラットフォーム　Starting platform

プラットフォームの高さは，水面から 500 mm から 750 mm までとする。表面積は少なくとも 500 mm×500 mm で，滑り止め材で覆われているものとする。最大傾斜は 10 度を超えないこと。スターティングプラットフォームには，位置が調整可能なバックプレートと，プラットフォームスタート及び水中スタートのためのスターティンググリップ（starting grips）が付いていてもよい。必要とあらば，スターティンググリップ等の突端を覆うこと。

1.5 全自動審判計時装置 Automatic officiating equipment

プールには，各競技者のタイムを記録し，レースイベントでの各競技者の順位を決定するための全自動審判計時装置が設置されていること。

1.6 水 Water

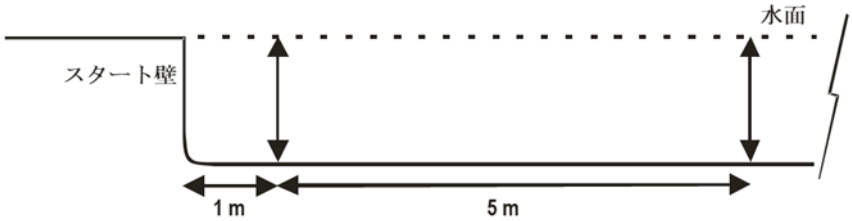
プールの水は，ホスト国の地域で適用可能な保健規則の透明度規格，細菌及び化学規格に適合すること。水温は摂氏 25 度から 28 度までであること。

1.7 深さ Depth

実施される各競技種目に対し，プールは，ILS 競技種目それぞれに特化した深さ規格に準拠すること。競技種目での規格で特定した場合を除き，1.0 m 以上の深さが必要である。

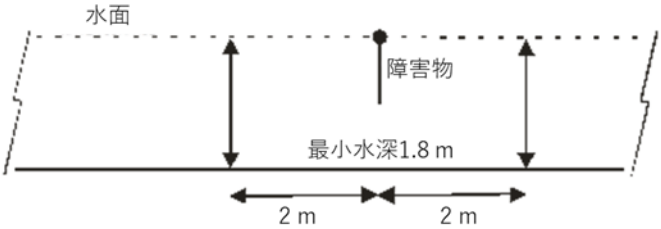
1.8 飛込みスタート Dive start

スタート壁から測って 1.0 m から少なくとも 6.0 m までの間は，少なくとも深さ 1.35 m とする。



1.9 障害物スイム，障害物リレー Obstacle Swim, Obstacle Relay

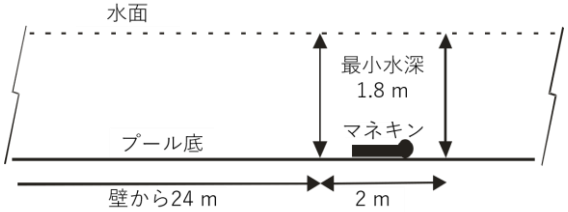
各障害物の両側 2.0 m の間は，最小でも水深 1.8 m とする。



1.10 マネキンキャリー（50 m），スーパーライフセーバー（200 m） Manikin Carry (50 m), Super Lifesaver (200 m)

A. 壁から24 mの位置から少なくとも2.0 m先までの範囲の最小水深は1.8 m。

B. マネキンは最大水深3.0 mまでのプールの底に配置される。3.0 mより深いプールにおいては，「台（platforms）」を用いてマネキンを水深3.0 mに保持してもよい。



1.11 マネキンキャリー・ウィズフィン（100 m），マネキントウ・ウィズフィン（100 m），スーパーライフセーバー（200 m），プールライフセーバーリレー（4×50 m）

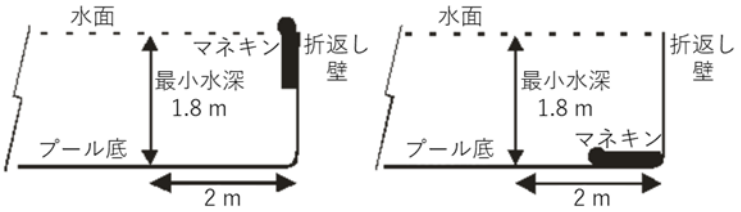
Manikin Carry with Fins (100 m), Manikin Tow with Fins (100 m), Super Lifesaver (200 m), Pool Lifesaver Relay (4 x 50m)

A. 折り返し壁から少なくとも2.0 mの範囲の最小水深は1.8 m。

B. マネキンは最大水深3.0 mまでのプールの底に配置される。3.0 mより深いプールにおいては，「台（platforms）」を用いてマネキンを水深3.0 mに保持してもよい。

C. マネキンキャリー・ウィズフィンにおいて，マネキンは背中がプールの底に接するように置かれ，基部（脚側）がプール壁に接し，頭はフィニッシュ側に向くようにする。

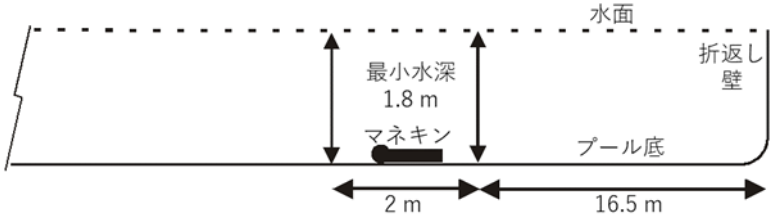
D. 施設の設計上，プールの底に対して90度の垂直な壁になっていない場合，マネキンは可能な限り壁に近づけて配置し，水面で測定したとき壁から300 mm以内になければならない[118]。



1.12 レスキューメドレー（100 m） Rescue Medley (100 m)

A. 折返し壁から16.5 mの位置から少なくとも2.0 m先までの範囲の最小水深は1.8 m。

B. マネキンは最大水深3.0 mまでのプールの底に配置される。3.0 mより深いプールにおいては，「台（platforms）」を用いてマネキンを水深3.0 mに保持してもよい。

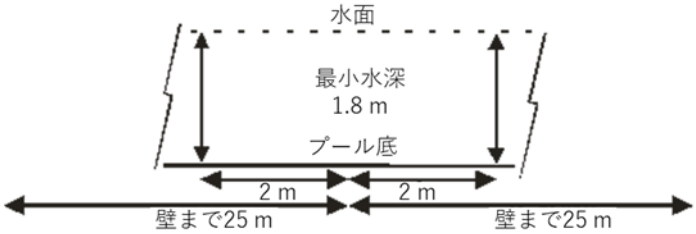


1.13 マネキンリレー（4×25 m） Manikin Relay (4 x 25 m)

A. プール中央25 mの受け渡しマークの両側少なくとも2.0 mずつの間の最小水深は1.8 m[119]。

B. スタート端壁での最小水深は1.0 m。

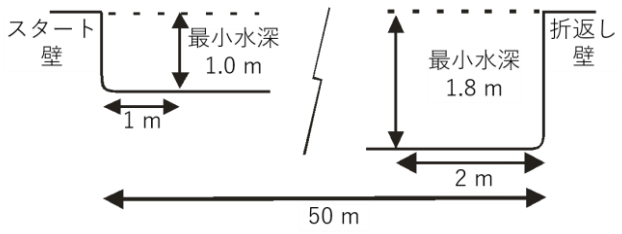
C. 折返し壁から少なくとも2.0 mまでの範囲の最小水深は1.8 m。



---

[118] 【JLA注釈】JLA主催競技会では，300 mm以内になければならないのは，マネキンの基部（脚側）だと解釈する。

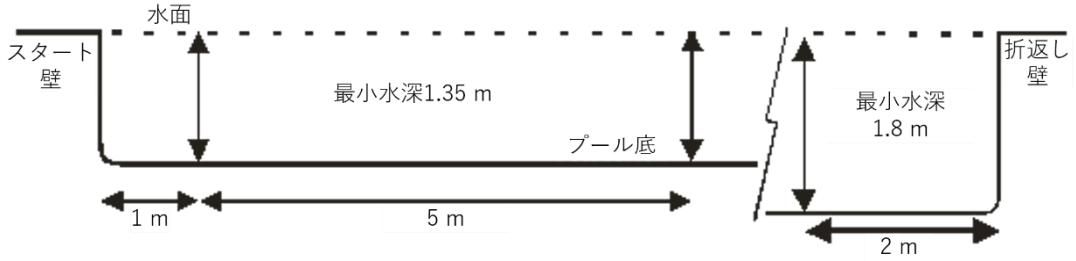
[119] 【JLA 注釈】旧版に掲載されていた A を説明する図が ILS 競技規則 2023 版で削除されているが，ここでは削除しなかった。



1.14 メドレーリレー（4×50 m） Medley Relay (4 x 50 m)

A. スタート端壁から1.0 m地点とスタート端壁から少なくとも6.0 m地点の範囲の最小水深は1.35 m。

B. 折返し壁から少なくとも2.0 mまでの範囲の最小水深は1.8 m。



1.15 ラインスロー Line Throw

A. 硬い（曲がらない）クロスバーから少なくとも2.0 mまでの範囲の最小深度は1.8 m。

B. 硬い（曲がらない）***クロスバー***を，スタート側のプールの端から12.5m地点の水面に各レーンを横断するように設置する。許容差は各レーンに於いてプラス0.10 m，マイナス0.00 mである[120]。

1.16 シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC） Simulated Emergency Response Competition (SERC)

SERC は，ILS 管理委員会が承認した 8 レーンある 50 m プール又は別の設計の施設で実施できる。

2. 器材の ILS 一般規格 GENERAL ILS EQUIPMENT STANDARDS

ILS/JLA が採用する器材の規格は以下のとおりである。必要に応じて許容誤差が表示される ― 例えば「(±200 mm)」とはプラス 200 mm 及びマイナス 200 mm の公差が許容される。場合によっては，寸法及び重量の許容範囲として「最小値」又は「最大値」と表示される。

更に，ライフセービング世界選手権又は JLA 主催競技会で使用する全ての器材は，世界選手権ハンドブック又は競技会の要項に記載の商業的識別ポリシー（the commercial identification policy）基準を満たさなければならない。

器材検査 Scrutineering of equipment

器材検査の方法は競技会の公報（bulletins）/案内（cirlulars）/ハンドブック（handbook）で詳しく述べられる[121]。組織委員会は競技会開催中いつでも器材を再検査する権利を有する。ILS/JLA 仕様を満

---

[120] 【JLA 注釈】原本ではプラス 100 mm，マイナス 0.00 mm とあるが，現実的な有効数字/単位に書き換えた。

[121] 【JLA注釈】JLA主催競技会の場合，競技会の要項に記される場合がある。

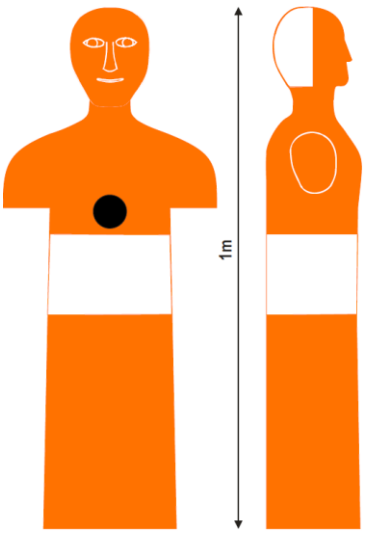
たしていない器材は失格の対象となるが，その器材を用いた競技者だけでなく，チームが失格になる可能性もある。

個人の器材が不適格であるとの裁定に対して抗議及び上訴することができる。

一部の器材では，設計上及び測定機器の特性のため，競技会開催前に詳細な仕様と検査が要求される場合がある。サーフスキー，ボード，IRB，サーフボート[122]及びマネキンには追加仕様があり，ILS ウェブサイト（http://www.ilsf.org）から入手できる。

3. プール器材規格

3.1 マネキン RESCUE MANIKINS



一般事項 General

ライフセービング世界選手権，ILS 地域選手権，ワールドゲームズ及び ILS 運営又は認定イベントでは，ILS が評価し認定したマネキンのみ使用するものとする。ILS は競技用認定マネキンのリストを管理している。ILS が認定する競技用マネキンは以下の通り：

- ドイツ（DLRG）マネキン，
- カナダ（CLS）マネキン，
- オーストラリア（SLSA）マネキン。

構造と組成 Construction and composition

- マネキンはポリエチレン製で，一旦成形されると競技で形状を維持できるだけの高い合成を特徴とする。
- マネキンは気密性があること（即ち，競技用に水を入れて密閉できること）。
- 素材 — ポリエチレン
- 色 — オレンジ
- 横ライン— マネキンの他の部分及び水と対照的な色であること。
- 厚さ（Thickness）— 944 kg/m²
- 流動性指数（Fluidity Index） — 3.0 dg/min

材料の力学的性質 Mechanical properties of materials

- 弾性係数 — 1000 N/mm²
- +23℃でのアイゾッド耐衝撃性（Shock resistance Izod） — 19 KJ/m²
- -20℃でのアイゾッド耐衝撃性 — 6 KJ/m²
- 破壊抵抗（ESCR） — （省略）[123]
- 50 mm/min.での牽引抵抗（traction resistance） — 31 N/mm²
- 50 mm/min.での伸びの破断点（breaking point） —> 500 %
- D スケール・ショア硬度（hardness Shore D） — 57
- ビカット軟化温度（Vicat point of softening） — 121 ℃

---

[122] 【JLA注釈】本書ではサーフボート競技は扱わない。

[123] 【JLA注釈】ILS原文において改訂があったものの，引き続き表記が不正確な可能性があるため，詳細確認中。

- 融解温度（fusion temperature） — 128 ℃

技術的計測及び重量の仕様

Technical measurement and weight specification（器材検査の詳細は 8.2 を参照）

- 全高 — 1000 mm（偏差 980～1000 mm，2 %偏差）
- 腋の下の高さ — 595 mm（許容偏差 1.7 %又は 585～595 mm）
- 高さ遷移ライン（height transition line） — 550 mm（許容偏差 1.9 %又は 40～550 mm）
- ベース部の幅 — 260 mm（許容偏差 4 %又は 250～260 mm）
- ベース部の奥行 — 200 mm（許容偏差 5.3 %又は 190～200 mm）
- 目の位置での頭回り — 590 mm（許容偏差 3.5 %又は 570～590 mm）
- 腋の下での胸囲 — 800 mm（許容偏差 2.6 %又は 780～800 mm）
- 底から 1 cm のベース部の周囲 — 840 mm（許容偏差 2.4 %又は 820～840 mm）
- 完全に水に沈んだ状態での重さ — 1500 g（1450～1500 g，3.4 %偏差）

身体的特徴　Physical features

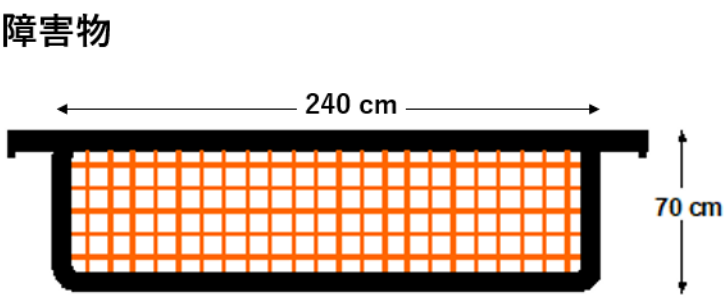
- マネキンは人間に似ていなければならず，レスキュー及び組成に必要な人類学的特徴を持っていなければならない。頭部は以下の特徴が必要：目，鼻，口，あご先（chin），あご（jaw），及び喉。胴体には，胸部，胴体からの上肢芽（arm buds），腹部（abdomen），及び骨盤（pelvis）が必要。
- マネキンがプールの底から回収される競技種目では，マネキンは背を下にして深さ 2.0 m で動かないことが必要である。マネキンは，4 時間その状態のままで，水又は空気が漏れないことが求められる。マネキンに充填孔及びプラグがある場合，それらは充填及び排出が容易なように配置され，水及び空気を通さないこと。マネキンは，背を下にした姿勢を保てるよう重さのバランスが配置されていること。
- マネキンは，マネキンを引っ張る競技種目で使用できるよう，遷移ライン（transition line）で浮く必要がある。

器材検査手順　Scrutineering procedure

- ILS/JLA が管理する競技において，組織委員会から任命された者が承認されたマネキンをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも 10 m 以上，1 mm 刻み）；重量計（最低でも 50 kg 測定可能で 0.01 kg 刻み）。
- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用するプールされた全てのマネキンが ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

3.2　障害物　OBSTACLES

- **寸法**：プール競技で使用する障害物は高さ 700 mm（±10 mm），幅 2.4 m(±30 mm) で，危険な部分がないこと。
- **フレーム内**：フレームの内側は，ネット又は競技者が通過できないものであり，ネットの色は水と対照的な鮮やかな色で，明確に目視できること。
- **フレーム上部**：障害物の上部ラインは水面に接するようにし，明確に目視できること。障害物のフレーム上部ラインにクロスする浮具を使用することが望ましい。



器材検査手順　Scrutineering procedure

- ILS/JLA が管理する競技において，組織委員会から任命された者が障害物をチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも 10 m 以上，1 mm 刻み）。
- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用されるすべての障害物が ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

3.3 レスキューチューブ　RESCUE TUBES

構造と組成（Construction and composition）

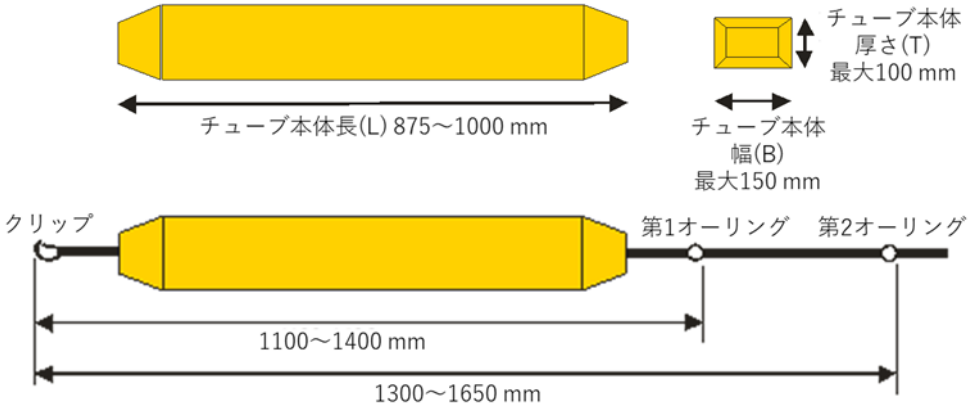
- **浮力源**：オーストラリア規格 AS2259 又はその同等物で指定されている素材。その素材は独立気泡プラスチック発泡体（closed cell plastic foam）で，耐久性と柔軟性がある。
- **浮力**：レスキューチューブは，淡水での最小浮力係数（minimum buoyancy factor）が 100 N であること。
- **柔軟性**：レスキューチューブ本体は，5～6 kg の荷重でそれ自体が巻かれるような性質であること。
- **強度**：帯紐（webbing），リーシュ，及び付属品は，縦方向の応力 454.55 kg（1000 lb）に耐え，損傷しないこと。
- **重量**：チューブの総重量は 600～700 g であること[124]。
- **色**：レスキューチューブの本体は，オーストラリア規格 AS2259 に従って，耐変色性の赤，黄，又はオレンジであること（含浸，塗布，又は被覆）。
- **縫製/糸**：縫製（stitching）は，オーストラリア規格 AS2259 で示されているとおり，英国規格 BS3870 のロック縫い方式 301（locked stitched type 301）であること。糸は，縫い付けられる素材と同様の特性を持つものとする。

技術的計測の仕様（Technical measurement specification）

A. ***レスキューチューブの寸法***：チューブの本体（浮揚コンポーネント）：
   - 長さ（length）：最小長 875 mm; 最大長 1000 mm,
   - 幅（breadth）：最大幅 150 mm,
   - 厚さ（thickness）：最大厚さ 100 mm。
   - クリップの先端から第 2 オーリングの先端までの距離は，最小 1.30 m から最大 1.65 m であること。

---

[124] 【JLA注釈】ILS原文ではグラムの単位を “gm” としているが，SI単位表記の “g” に修正した。



全長：クリップから肩掛け/ハーネスの端まで：3.65～4.30 m

B. リーシュ/紐（leash/line）：第1オーリングから肩掛け帯紐（lanyard webbing）までのリーシュの長さは，最小1.90 mから最大2.10 mであり，少なくとも2つのオーリングを含まねばならない。リーシュは，UV加工された合成タイプのロープであること。

C. 帯紐の接続（webbing connections）：オーリング/クリップとチューブ本体を接続する帯紐は，幅25 mm（±2.5 mm）の織りナイロン製（woven nylon）であること。

D. 肩掛け/ハーネス（lanyard/harness）：肩掛け帯紐は，幅50 mm（±5.0 mm）の織りナイロン製で，最小1.30 mから最大1.60 mであること。肩掛けループ（lanyard loop）の周長は最小で1.20 mであること。

E. オーリング（O-rings）：オーリングは，真鍮，ステンレス鋼（溶接されたもの）又はナイロン製であること。ナイロン製の場合，リングはUV加工されていること。オーリングは，内径37.5 mm（±10.0 mm）で，救助者又は被救助者役に切り傷を与えたり負傷させる可能性のあるシャープエッジ又は突起が無いこと。

F. クリップ（clips）：クリップは，全長70 mm（±7.0 mm）の真鍮又はステンレス鋼のスナップフック（snap hook）KS2470-70であること。救助者又は被救助者役に切り傷を与えたり負傷させる可能性のあるシャープエッジ又は突起が無いこと。

G. 全長（overall length）：クリップから肩掛け/ハーネスの端までの距離は，最小3.65 mから最大4.30 mであること。

器材検査手順　Scrutineering procedure

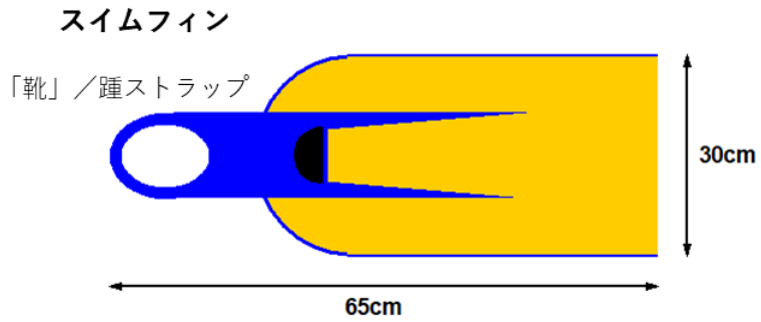
- ILS/JLA が管理する競技において，組織委員会から任命された者がレスキューチューブをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも 10 m 以上，1 mm 刻み）。

- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用するためプールされたすべてのレスキューチューブが ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

3.4 スイムフィン SWIM FINS

フィンは，競技者が履いていない状態で計測される。競技会で使用されるスイムフィンは，以下の使用に準拠すること：

- **長さ**：最大 650 mm，「靴」部分又は踵ストラップ（伸ばした状態の踵ストラップ）を含む，
- **幅**：ブレードの最も広い部分で最大 300 mm。



器材検査手順 Scrutineering procedure

- ILS/JLA のイベントマネジメント委員会から任命された者は，プール及び/又はビーチにおいてフィンをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも 10 m 以上，1 mm 刻みの物），又はフィンが完全に収まるフィンボックス，又はその他迅速且つ効率的な測定器具。
- 主催する組織委員会は，器材検査済証として，フィンに貼付するスタンプ又はステッカーを提供すること。
- ILS/JLA 認定競技においても同様の手順を実施すること。

3.5 スローライン THROW LINES

ラインスロー競技では，スローラインは編まれたもので，形状記憶機能がなくポリプロピレン製で水に浮くこと：

- **直径**：8 mm（±1 mm），
- **長さ**：最小 16.5 m；最大 17.5 m。

器材検査手順 Scrutineering procedure

- ILS/JLA が管理する競技において，組織委員会から任命された者がスローラインをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも 20 m 以上，1 mm 刻み）。
- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用するためプールされたすべてのスローラインが ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

4. ビーチ/オーシャン器材規格 BEACH/OCEAN EQUIPMENT STANDARDS

4.1 レスキューチューブ Rescue Tubes

S8-3.3 を参照。

4.2 スイムフィン Swim Fins

S8-3.4 を参照

4.3 バトン（ビーチフラッグス及びビーチリレー） Batonns (Bearch Flags and Beach Relay)

ビーチフラッグス及びビーチリレーで使用されるバトンは，柔軟な素材（例えば，柔らかいホース）で，長さは最大 300 mm 及び最小 250 mm，直径は約 25 mm（±1 mm）であること。バトンは，簡単に見分けられるように色のついたものであること。

器材検査手順 Scrutineering procedure

- ILS/JLA が管理する競技において，組織委員会から任命された者がバトンをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも 1 m 以上，1 mm 刻み）。
- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用される全てのビーチフラッグスのバトンが ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

4.4 サーフボード Surf Boards

ボードは，以下を含む ILS/JLA 仕様に準拠していなければならない：

- **重量**：最小 7.6 kg ＊，
- **長さ**：最大 3.2 m 。

ビデオカメラ：ボードにカメラを取り付ける場合，装置の製造メーカーが供給又は推奨している取付け装置及びトグルストラップに取り付けなければならない。カメラはノーズに最も近いハンドグリップ（hand grips）からノーズまでのいずれかの箇所に取り付けること。

＊カメラを取り付けるためクラフトに恒久的にはめ込まれたプラグの重量は，クラフトの総重量に含まれる。その他の暫定的に取り付けられた器具及びカメラの重量は総重量に含まれない。

サーフボードについての詳細な仕様は https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/rules/irb-specification/にある別文書に記述されている。

器材検査手順 Scrutineering procedure

- ボードを検査する際，クラフトの最大長さ，最小重量及び安全性（例えば，修理の状態）についてチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺 — 10 m 以上，1 mm 刻み；最小荷重 10 kg 以上及び 0.01 kg 刻みの重量計。また，長さの測定及びゲージをテストする測定用「治具」を用いて，ノーズの径及び最小フィン幅及び厚さを測定することを推奨する。
- 主催する組織委員会は，器材検査済証として，クラフトに貼付するスタンプ又はステッカーを提供すること。
- ILS/JLA が認定する競技の場合，競技会で使用されるためプールされている全てのボードが ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある，
- 競技会主催者が決定したその他の検査[125]。

[125] 【JLA注釈】その他の検査をどうするのかILS原文に書かれていない。

4.5 IRB Inflatable rescue boats (IRBs)

IRB （インフレタブルレスキューボート）とモーターは，ILS 及び主催国の仕様に合致しており，主催する組織委員会が用意すること。組織委員会は，IRB 及びモーターの仕様を競技会に先立って参加チームが入手できるようにしておくこと。

ビデオカメラ：IRB にカメラを取り付ける場合，装置の製造メーカーが供給又は推奨している取り付け装置及びトグルストラップに取り付けなければならない。カメラはトランサム（transom）もしはモーターのカウル（cowling）にのみ取り付けてよい。

IRB についての詳細な仕様は https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/rules/irb-specification/ にある別文書に記述されている。

4.6 PFD PERSONAL FLOTATION DEVICES (PFDs)

IRB 競技の競技者（ドライバー，クルーパーソン及びペイシェント）は，国際標準である ISO12402-5 Level 50 [126]又は同等の固形式 PFD（ライフジャケット）を着用せねばならない。固形式 PFD（ライフジャケット）に代えて膨張式 PFD（ライフジャケット）を着用してはならない。

他のクラフト競技種目において PFD の着用は任意とする。競技者が着用する PFD は国際規格又は同等規準を満たすものを強く推奨する（例えばオーストラリア規格 AS4758 L25 flotation[127,128,129]）。

器材が各種規格に適合しない場合，着用者はリスク評価を完了し，製品に関する安全及び取扱いについての指示を全て読むことを推奨する。全ての PFD が基準を満たしているとは限らないことから，PFD の溺水を防ぐ効果は証明されていない。国際規格を遵守していない場合，他の潜在的な危険性（例えば，フィット感が悪い，海の条件によっては容易に脱げてしまう，動きや呼吸が制限される，など）を呈する可能性がある。

器材検査手順 Scrutineering procedure

- ILS/JLA が管理する競技において，組織委員会から任命された者は，プールされている PFD が ILS/JLA の仕様を満たしているかチェックすること。ILS/JLA のイベントマネジメント委員会から任命された者は，競技者が用意した PFD をチェックするものとする。
- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用するためプールされている全ての PFD が ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

4.7 ヘルメット HELMETS

承認される水中ヘルメットは，EN1385 [130]認証である（又はそれと同等のものである）。ヘルメットの色は，メーカー出荷時のままでも良いが，競技者のチーム/競技用キャップのデザインに準じたものを（ヘルメットの性能が損なわれない条件で）プリントする，又は被せることが好ましい。

---

[126] 【JLA注釈】ISO 12402-5:2020 Personal flotation devices -- Part 5: Buoyancy aids (level 50) -- Safety requirements
[127] 【JLA注釈】AS 4758.1-2022 Lifejackets, Part 1: General requirements
[128] 【JLA注釈】AS 4758.2-2022 Lifejackets, Part 2: Materials and components - Requirements and test methods
[129] 【JLA注釈】AS 4758.3-2022 Lifejackets, Part 3: Test methods
[130] 【JLA注釈】EN 1385: 2012 Helmets for canoeing and white water sports

器材検査手順　Scrutineering procedure

- ILS/JLA が管理する競技において，組織委員会から任命された者は，プールされているヘルメットが ILS/JLA の仕様を満たしているかチェックすること。ILS/JLA のイベントマネジメント委員会から任命された者は，競技者が用意したヘルメットをチェックすること。
- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用するためプールされている全てのヘルメットが ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

4.8　ウェットスーツ　WETSUITS

ウェットスーツは，首から手首及び足首まで伸びているフルか，又はもっと短いものでもよい。IRB 競技を除き，スイム競技又はスイム区間で着用するウェットスーツの最大厚さは，ウェットスーツの任意の場所で 5 mm とし，許容範囲は±0.5 mm とする。IRB 競技又は非スイム競技で着用するウェットスーツには厚さの制限はない。

器材検査手順　Scrutineering procedure

- ILS/JLA が管理する競技において，ILS/JLA のイベントマネジメント委員会から任命された者は，水温及びウェットスーツをチェックすること。
- 全てのウェットスーツが，無作為に器材検査される対象である。最低限必要な測定器材：水温計（摂氏 10 度以上，0.5 度刻み），マイクロメーター。
- ILS/JLA 認定競技においても同様の手順を実施すること。

4.9　サーフボート [131]　Surf boats

サーフボートは，以下を含む ILS/JLA 仕様に準拠していなければならない：

- **重量**：最小 180 kg（オール，オールロック，レスキューチューブ，及びすべてのオプション器材を除く），
- **長さ**：最小 6.86 m；最大 7.925 m（アウトリガーを除く），
- **ビーム**：最小 1.62 m（船の中央部（the midship section）で測定）。

ビデオカメラ：サーフボートにカメラを取り付ける場合，装置の製造メーカーが供給又は推奨している取付け装置及びトグルストラップに取り付けなければならない。カメラは，スプラッシュボード（フロントデッキ），又は漕ぎ手座席の反対側のタンク，及びリアデッキに取り付けることができる。

＊カメラを取り付けるためボートに恒久的にはめ込まれたプラグの重量は，クラフトの総重量に含まれる。その他の暫定的に取り付けられた器具及びカメラの重量は総重量に含まれない。

サーフボートについての詳細な仕様は https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/rules/irb-specification/にある別文書に記述されている。

器材検査手順　Scrutineering procedure

- ボートを検査する際，重量の最小値及び安全性（例えば，修理の状態）についてチェックすること。競技者の安全のためオールもチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺 — 10 m 以上，1 mm 刻み；最低でも 200 kg 測定可能で 0.1 kg 刻みの重量計。

---

[131] 【JLA 注釈】本競技規則ではサーフボート競技は扱わない。

- 主催する組織委員会は，器材検査済証として，ボートに貼付するスタンプ又はステッカーを提供すること。
- ILS/JLA が認定する競技の場合，競技会で使用されるためプールされている全てのボートが ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある，
- 競技会主催者が決定したその他の検査。

4.10 ブイ及び旗 Buoys and Flags

オーシャン競技のブイ：オーシャン競技に用いるブイは，見分けられる色で，（海に向かって左から）1 から番号を付すこと[132]。ブイ及び色については、本競技規則の各種オーシャン競技のルールに記載されている。特定の種目で使用される直線状の連ブイの色は以下の通りである：

- ブイ 1: 赤と黄の半々 （Red and Yellow halves），
- ブイ 2: 黒 （Black），
- ブイ 3: 白ストライプ入り緑 （Green with a white stripe），
- ブイ 4: 赤 （Red），
- ブイ 5: 白ストライプ入り青 （Blue with a white stripe），
- ブイ 6: 黄 （Yellow）
- ブイ 7: 黒ストライプ入り白 （White with a black stripe），
- ブイ 8: オレンジ （Orange），
- ブイ 9: 緑と黄の半々 （Green and Yellow Halves）。

これらのブイをサーフレース，サーフチームレース，レスキューチューブレスキュー，ボードレスキュー，オーシャンマン/ウーマン，オーシャンマン/ウーマンリレーに使用する場合は，水面に水平に浮かぶようブイの両端をブイラインに固定し，ビーチからの距離を等しくせねばならない。

サーフボート及び IRB 競技に使用する場合は，垂直に浮かぶようブイの片端を個別のブイラインに固定し，ビーチからの距離を等しくせねばならない。

複数のエリアが使用される場合，競技に関わる全ての人がそのエリアを認識し参加しやすいよう，ボード，スキー及びオーシャンマン/オーシャンウーマンのクラフト区間の各エリアに於いて異なる色の折返しブイ（及び，それに合致したフィニッシュ旗）を用いることが適切である。

オーシャン競技の旗：オーシャン競技に用いる旗は，本競技規則の各種オーシャン競技のルールに記載の通り，見分けられる色とする。複数のエリアが使用される場合，各エリアで異なる色のフィニッシュ旗を用い，各エリアで用いる折返しブイの色（上記参照）に対応した旗とすることが適切である。

注意：複数のオーシャンエリアが使用される場合，各エリアは折返しブイ及び旗の色で表現可能である，例えば，ピンクエリア，青エリア，白エリア，等。

---

132 【JLA注釈】JLA主催競技会では，ブイを番号で呼称するものの，ブイに番号を表記しない場合がある。

器材検査手順　Scrutineering procedure

- ILS/JLA が管理する競技において，組織委員会から任命された者がブイ，旗，ポール，ビーチマーカー，スタートライン等をチェックすること。
- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用される全ての器材が ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

4.11　サーフスキー　SURF SKIS

サーフスキーは，以下を含む ILS/JLA 仕様に準拠していなければならない：

- **重量**：最小 18 kg,
- **長さ**：最大 5.80 m,
- **幅**：船体の幅最も広い部分の幅が最小 480 mm で，防舷物（rubbing strips），モールディング（moulding）又は付加的な保護モールディングは含まない。

ビデオカメラ：サーフスキーにカメラを取り付ける場合，装置の製造メーカーが供給又は推奨している取付け装置及びトグルストラップに取り付けなければならない。カメラはフットウェル（足を置く部分）の前方に取り付ける。

＊カメラを取り付けるためクラフトに恒久的にはめ込まれたプラグの重量は，クラフトの総重量に含まれる。その他の暫定的に取り付けられた器具及びカメラの重量は総重量に含まれない。

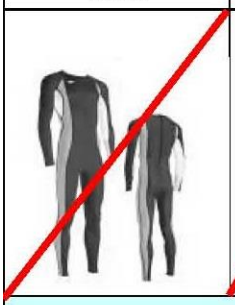
サーフスキーについての詳細な仕様は https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/rules/irb-specification/にある別文書に記述されている。

器材検査手順　Scrutineering procedure

- サーフスキーを検査する際，最大長，最小重量，最小幅，最小ロッカー（minimum rocker）及び安全性（例えば，修理の状態）についてチェックすること。競技者の安全のためパドルもチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも 10 m 以上，1 mm 刻み）；重量計（最低でも 20 kg 測定可能で 0.01 kg 刻み）。また，ロッカー及び長さをチェックする測定用「治具」を用いて，方向舵及びノーズの最小径，方向舵の厚み，船体曲線及びスキーの最小幅，等を測定することを推奨する。
- 主催する組織委員会は，器材検査済証として，サーフスキーに貼付するスタンプ又はステッカーを提供すること。
- ILS/JLA が認定する競技の認定申請書では，競技会で使用するためプールされているすべてのスキーが ILS/JLA 規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

4.12　水着　SWIMWEAR

A. ILS/JLAのプール競技及びオーシャンのスイム競技及び競技のスイム区間の水着は，以下の基準を満たさねばならない：
   - 男子が着用する水着は，へそを超えず，膝までとする，
   - 女子が着用する水着は，首，肩，腕を覆わず，膝までとする。この基準を満たすツーピース水着も着用してよい。

男子水着					
フルレングス Full Lenght	ロング Long	ロングレッグス Long Legs	ニーレングス Knee Length	スクエアーレッグ Square Leg	ショート Short
禁止	禁止	禁止	許可	許可	許可
					

女子水着				
フルレングス Full Length	ジッパーバック Zippered Back	ニーレングス, オープンバック Knee Length, Open Back	ショート, オープンバック Short, Open Back	ツーピース Two Piece
禁止	禁止	許可	許可	許可

B. ILS/JLAプール競技及びオーシャン競技種目で着用される水着の素材及び構造は，次の通りとする：

- 編み込んだ織物繊維のみ許可されるとする，
- 繊維でない，また透過性のない（例えば，ウェットスーツタイプ）素材は認められない，
- 使用する素材の最大厚さは 0.8 mm とする，
- 男子水着の上部，女子のツーピース水着のボトム及び/又はトップ，及び女子のワンピースオープンバック水着の背を留めるための紐を除き，ジッパー又はその他身体を締める機構は使用してはならない，
- 競技者が着用する水着は，浮力を助けるものであってはならない，
- 浮力，鎮痛作用，化学・医学的刺激，又はその他外部からの刺激又は何らかの影響のある水着は禁止される，
- 水着の素材には，物を貼り付けてはならない（ただし，メーカーのロゴマークや所属団体/クラブ名などは許可される）。

注意 1：競泳用として世界水泳連盟（FINA[133]）スタンプが押されている水着は全て，ILS/JLA の競技会において使用が認められる。

注意 2：オーシャン及びプール競技及び競技のスイム区間において，コンプレッションスリーブ（袖），ソックス，ストッキング等の着用は認められない。

器材検査手順　Scrutineering procedure

検査する場合，組織委員会から任命された者が競技者が持参した水着をチェックすること。

[133] 【JLA 注釈】英語版では旧称の略語である「FINA」が表記されているが，新名称である世界水泳連盟（World Aquatics）の略語は「WA」とのこと。

日本ライフセービング協会

コンペティション・ルールブック

JLA 競技規則 2023 年版

(2023.08.07 版，2023.08.07 公開)

付録
ジュニア/ユース競技

Appendix

JLA Competition Rule Book

Ocean Events for Junior/Youth Age Group,

2023 Edition

Appendix　ジュニア/ユース競技規則

A1.　ジュニア/ユース競技の一般規則

このジュニア/ユース競技規則は，ILS 競技規則に掲載されている競技種目をもとに，それをジュニア及びユース向けに作成したものである。規則と失格（DQ コードを含む）については，ジュニア/ユース競技規則で特に規定されていない限り，競技規則本文に拠るものとする。

A1.1　年齢区分

JLA が主催する競技会において，ジュニア及びユースの競技者の年齢及び適格年齢群は，当該競技者が競技に参加する日を基準に，以下を基本とする。

ジュニア：競技会が行われる翌年の 4 月 2 日時点において，学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 17 条第 1 項に規定された保護者による就学義務が発生する年齢に達していること。

尚，**U8** は小学 1 年生及び 2 年生に相当，**U10** は小学 3 年生及び 4 年生に相当，**U12** は小学 5 年生及び 6 年生に相当する。

ユース（U15）：競技会が行われる翌年の 4 月 2 日時点において，学校教育法第 17 条第 2 項に規定された保護者による就学義務が発生する年齢に達していること。

ユース（U18）：競技会が行われる翌年の 4 月 2 日時点において，学校教育法第 17 条第 2 項に規定された保護者による就学義務が発生する年齢を超過していること。ただし，超過は 3 歳以下とする。

A1.2　ハンドラー及びマネキンハンドラー

ハンドラー及びマネキンハンドラーの規則は，原則として競技規則本文に拠るものとする。但し，ジュニア種目に限り以下の通りとする。

A.　ハンドラーは，競技者のチームの12歳以上（上記ジュニア競技に参加できる年齢を含まない）の関係者から選出すること。「関係者」とは，当該競技者が所属する団体の12歳以上（上記ジュニア競技に参加できる年齢を含まない）の競技者，チームマネージャー，コーチ，指導者，保護者等を指し，当該競技会にエントリーをしていない者でもよい。なお，チーフレフリーが承認すれば，当該競技者が所属する団体とは別の団体の関係者がハンドラーを務めてもよい。

B.　ハンドラーは，競技者のチームの競技用キャップを着用しなければならない。

C.　ハンドラーは競技中，他の競技者の進路を妨害しないように自チームの競技者の器材を準備・回収しなければならない。また，ハンドラーは，競技規則に規定されている以外の助力を競技者に与えてはならない。

A1.3　器材

競技で使用する器材は，競技規則本文「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。ニッパーボードは以下の通りとする。

(1)　重量　　4.0 kg以上

(2)　全長　　2.0 m以下

ビデオカメラ：取り付けてはならない。

A1.4　競技者数の制限（サーフ種目に限る）

予選，準々決勝，準決勝，決勝を実施するかどうかはチーフレフリーが決定する。予選又は決勝における競技者の推奨最大人数は，下の表の数を超えないものとする。コンペティション委員会及びチーフレフリーだけが，判定の有効性，環境の条件，安全の配慮及び全競技者への公平性を十分に配慮した上で，当該最大人数の変更を許可できる。

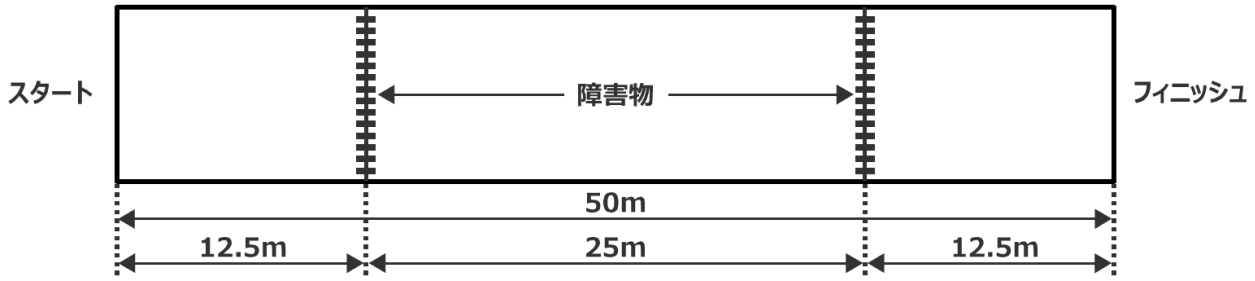
競技種目	最大競技者数/チーム数
ウェーディングレース	20 人
ランスイムラン	32 人
ニッパーボードレース	16 人
ニッパーボードリレー	16 チーム（1 チームあたり 3 人）
タップリンリレー	16 チーム（1 チームあたり 3 人）

A2.　ジュニア/ユース競技種目

この付録では，以下のジュニア競技及びユース競技の種目について述べる：

- 障害物スイム — 50 m,
- ジュニアチューブスイム — 50 m,
- レスキューチューブトウ — 50 m, 100 m,
- レスキューチューブリレー — 4×50 m,
- ウェーディングレース,
- ランスイムラン,
- ニッパーボードレース,
- ニッパーボードリレー,
- タップリンリレー。

A2.1　障害物スイム — 50 m



A2.1.1　競技の説明

競技者は，音による合図で飛込みスタートし，水中の障害物の下を 2 回通過しながら 50 m 泳いで，プールのフィニッシュ壁/縁にタッチする。

注意：飛込みスタートで安全が十分に確保できない場合は，水中スタートでもよい。

A. 競技者は，飛込んでから又は水中スタートをした後，第1障害物までの間に；及び各障害物を通過した後に，水面に浮上しなければならない。

B. 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際，プールの底を蹴っても押してもよい。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破ることを意味する。

C. 障害物に向かって泳ぐ，又は障害物にぶつかることは，失格となる行為ではない。

A2.1.2　器材

障害物：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。障害物は，全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。第 1 障害物は，スタートの壁から 12.5 m のところに設置し，第 2 障害物は逆の端から 12.5 m のところに設置する。2 つの障害物の距離は 25 m とする。

A2.1.3　失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 障害物の上を通過してしまった後，ただちに障害物の上または下を戻り，あらためて障害物の下を通過し直さなかった，

B. 飛込んだ後又は水中スタートをした後，障害物の下を通過する前に浮上しなかった，

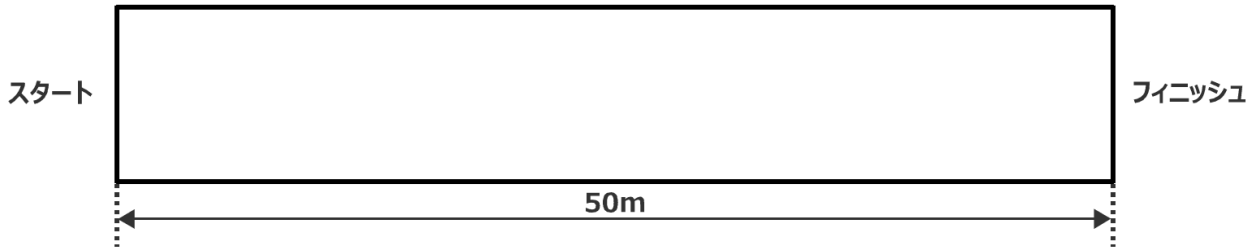
C. 各障害物を通過後，浮上しなかった，

D. 浮上する際，プールの付属品（レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの設備等）を補助として用いた場合 — ただし，プールの底は含まれない，

E. フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった。

A2.2　ジュニアチューブスイム — 50 m

本競技種目の規則は，特定非営利活動法人神奈川県ライフセービング協会が制定する同種目の競技規則を引用する。



A2.2.1　競技の説明

A.　競技者は，音による合図で飛込みスタートし，ジュニアチューブをつけて自由形で50 m泳ぐ。

注意：飛込みスタートで安全が十分に確保できない場合は，水中スタートでもよい。

B.　競技者は，出来るだけ速やかにレスキューチューブの紐を十分に伸ばした状態にしなければならない。

C.　フィニッシュは，ジュニアチューブを正しく引いている状態で，はっきり見えるようにフィニッシュ壁/縁にタッチしなければならない。

A2.2.2　器材

スタート時のジュニアチューブ：スタートにおいて，ジュニアチューブ本体と紐は，競技者に指定されたレーン内に，競技者の判断で配置をする。競技者は，ジュニアチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。ジュニアチューブのクリップは外したままにしておく（オーリングにかけない）。

A2.2.3　失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

A.　競技中に，プールの付属品（レーンロープ，階段，排水管，水中ホッケーの設備等）を補助に用いた場合 — ただし，プールの底は含まれない，

B.　ジュニアチューブを正しく引いていない状態でフィニッシュ壁/縁をタッチした，

C.　競技者がはっきりと見えるようにフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった。

A2.3　レスキューチューブトウ — 50 m, 100 m

A2.3.1　競技の説明 — 50 m 短水路

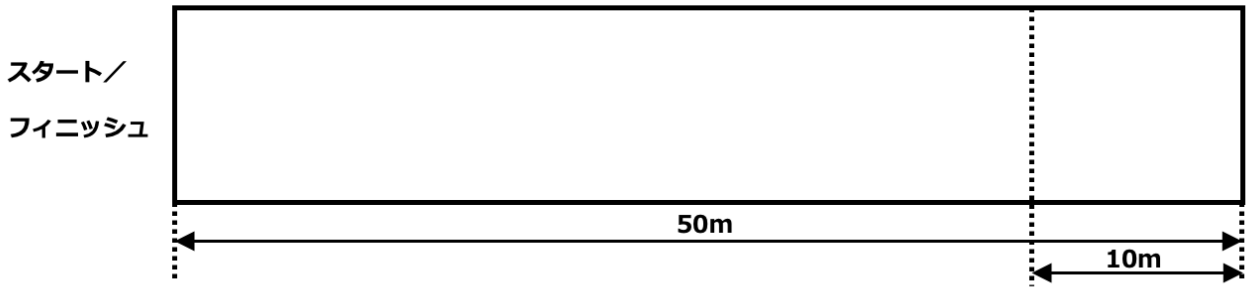
競技者は，レスキューチューブを装着して音による合図で飛込みスタート又は水中スタートし，自由形で 25 m 泳ぐ。折返し壁/縁に手でタッチした後，レスキューチューブのクリップを正しくオーリングにかけて，フィニッシュ壁/縁までそれを引っ張る。フィニッシュはレスキューチューブを正しく引いている状態で，はっきりと見えるようにフィニッシュ壁/縁にタッチする。

スタート時，レスキューチューブの本体と紐は，競技者の判断で指定されたレーン内に位置させる。ただし，競技者はレスキューチューブを付けたスタートが安全にできるようにしなければならない。

レスキューチューブのクリップ及びオーリングの部分が折返し壁/縁から 10 m ラインを通過する前に，レスキューチューブのクリップは正しくオーリングにかけられ，且つ，レスキューチューブの紐は出来るだけ早く完全に伸びていなければならない。

競技者は，折返し壁/縁に手でタッチする前にレスキューチューブ本体に触れてはならない。また，競技者はレスキューチューブを付けたままクイックターンをしてはならない。

A2.3.2　競技の説明 — 100 m



A. 競技者は，レスキューチューブを装着し，音による合図で飛込みスタートし，自由形で50 m泳ぐ。

注意：飛込みスタートで安全が十分に確保できない場合は，水中スタートでもよい。

B. 競技者は，折返し壁/縁を手でタッチした後，プールの壁/縁から10 m以内でレスキューチューブのオーリングとクリップの部分を正しくつけ，フィニッシュまでそれを引っ張る。

C. 競技者は，折返し壁/縁から10 mラインを通過する前に，出来るだけ速やかにレスキューチューブの紐を十分に伸ばした状態にしなければならない。

D. 折返し壁/縁をタッチした後，プールの壁から10 mを越えたかどうかの判断は，レスキューチューブのクリップ及びオーリングの部分を基準とする。

E. 競技者は，スタート後，折返し壁/縁に手でタッチする前にレスキューチューブ本体に触れてはならない。

F. フィニッシュは，レスキューチューブを正しく引いている状態で，はっきり見えるようにフィニッシュ壁/縁にタッチしなければならない。

A2.3.3　器材

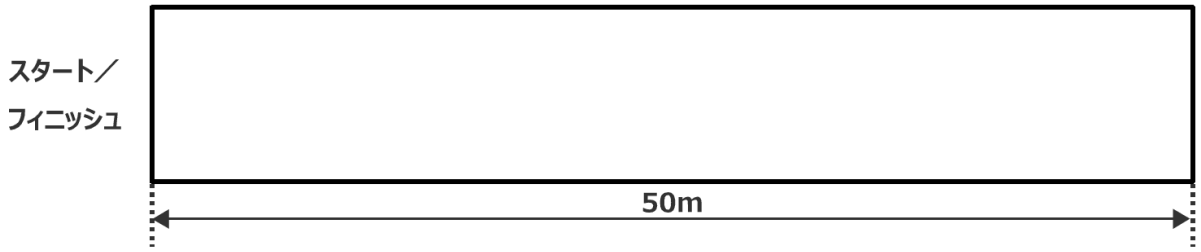
スタート時のレスキューチューブ：スタートにおいて，レスキューチューブ本体と紐は，競技者に指定されたレーン内に，競技者の判断で配置をする。競技者は，レスキューチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。レスキューチューブのクリップは外したままにしておく（オーリングにかけない）。

A2.3.3　失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 種目別の競技規則に違反した場合。
B. 競技者が折返し壁/縁にタッチする前に，レスキューチューブ本体に触れた場合，
C. レスキューチューブのクリップをオーリングに正しく付けなかった場合，
D. レスキューチューブのクリップをオーリングに付け，レスキューチューブの紐が完全に伸びる前に，レスキューチューブのクリップ及びオーリングの部分が10 mラインを越えた場合，
E. プールの水深が浅くてレスキューチューブのオーリングとクリップの部分を正しくつける間，競技者が立つことができる場合を除いて，プールの付属品（例えば，レーンロープ，排水管，水中ホッケー設備等）を補助に用いた場合 — 但し，プールの底は含まれない，
F. レスキューチューブのクリップとオーリングの部分が途中で外れた場合，
G. レスキューチューブを正しく引いていない状態でフィニッシュ壁/縁をタッチした場合，
H. 競技者がはっきりと見えるようにフィニッシュ壁/縁にタッチしなかった場合。

A2.4　レスキューチューブリレー ― 4×50 m



A2.4.1　競技の説明

競技者 4 人が順に 50 m ずつレスキューチューブを装着し泳ぐ。

A. **第1競技者：**第1競技者は，音による合図で飛込みスタートし，レスキューチューブを引いて自由形で50 m泳ぐ。
注意：飛込みスタートで安全が十分に確保できない場合は，水中スタートでもよい。

B. **第2競技者：**第2競技者は，少なくとも一方の手で折返し壁/縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで水中で待機し，ハーネスを受け取る。第1競技者が折返し壁/縁にタッチした後，折返し壁/縁から離れ，レスキューチューブを正しく装着し，50 m泳ぎスタート/フィニッシュの壁/縁にタッチする。

C. **第3競技者：**第3競技者も第2競技者と同様に，少なくとも一方の手でスタート/フィニッシュの壁/縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで水中で待機し，ハーネスを受け取る。第2競技者が折返し壁/縁にタッチした後，折返し壁/縁から離れ，レスキューチューブを正しく装着し，50 m泳ぎ折返し壁/縁にタッチする。

D. **第4競技者：**第4競技者も第2競技者及び第3競技者と同様に，少なくとも一方の手で折返し壁/縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで水中で待機し，ハーネスを受け取る。第3競技者が折返し壁/縁にタッチした後，折返し壁/縁から離れ，レスキューチューブを正しく装着し50 m泳ぎ，はっきりと見えるようにフィニッシュの壁/縁にタッチする。

E. 第2競技者は第1競技者が，第3競技者は第2競技者が，第4競技者は第3競技者が50 m泳ぎ，それぞれの壁/縁にタッチする前にレスキューチューブ，そのハーネス又は紐に一方の手で触れる又は掴んでもよいが，先行する競技者（第2競技者にとっての第1競技者，第3競技者にとっての第2競技者，第4競技者にとっての第3競技者）が縁にタッチするまで折返し壁/縁又はスターティングブロックに少なくとも一方の手を接触させておかねばならない。

F. 第1，第2，第3競技者は，それぞれの区間が終了したら，他の競技者を妨害することなく，直ちに指定されたレーンから退水しなければならない。退水後は，再度プールに入ってはならない。

A2.4.2　器材

スタート時のレスキューチューブ：スタートにおいて，レスキューチューブ本体と紐は，競技者に指定されたレーン内に，競技者の判断で配置をする。競技者は，レスキューチューブと紐

が安全で正しく配置されるようにせねばならない。レスキューチューブのクリップは外したままにしておく（オーリングにかけない）。

A2.4.3　失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 第1，第2，第3競技者が，それぞれ折返しの壁/縁にタッチする前に，第2，第3，第4競技者がスタートした場合，

B. 第1，第2，第3競技者が，それぞれ折返しの壁/縁にタッチする前に，第2，第3，第4競技者が壁/縁やスターティングブロックから離れた場合，

C. 競技中に，プールの付属品（例えば，レーンロープ，排水管，水中ホッケー設備等）を補助に用いた — 但し，プールの底は含まれない場合，

D. 第4競技者が，はっきりと見えるようにフィニッシュの壁/縁にタッチしなかった場合，

E. 1人の競技者が，2つ又はそれ以上の区間に出場した場合，

F. 競技者が，自分の区間を終了しプールから出た後に，再度プールに入った場合。

A2.5　ウェーディングレース

A2.5.1　競技の説明

A.　競技者は浜のスタートラインから海に向かって走り，3つのブイを左から右に回って浜へ戻り，フィニッシュラインへ向かう。

B.　競技者は，フィニッシュラインを海側から通過する。

A2.5.2　コース

A.　**ブイの位置：**子供の膝の深さに3つの目立つ色のブイを，第1ブイと第3ブイの間が約36 mとなるように配置する。

B.　**スタートライン：**スタートラインは，ラインの中間に第1ブイが位置するように，水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで，両端にポールを立てる。

C.　**フィニッシュライン：**フィニッシュラインは，ラインの中間に第3ブイが位置するように，水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約5 mで，両端に緑旗を立てる。

A2.5.3　判定

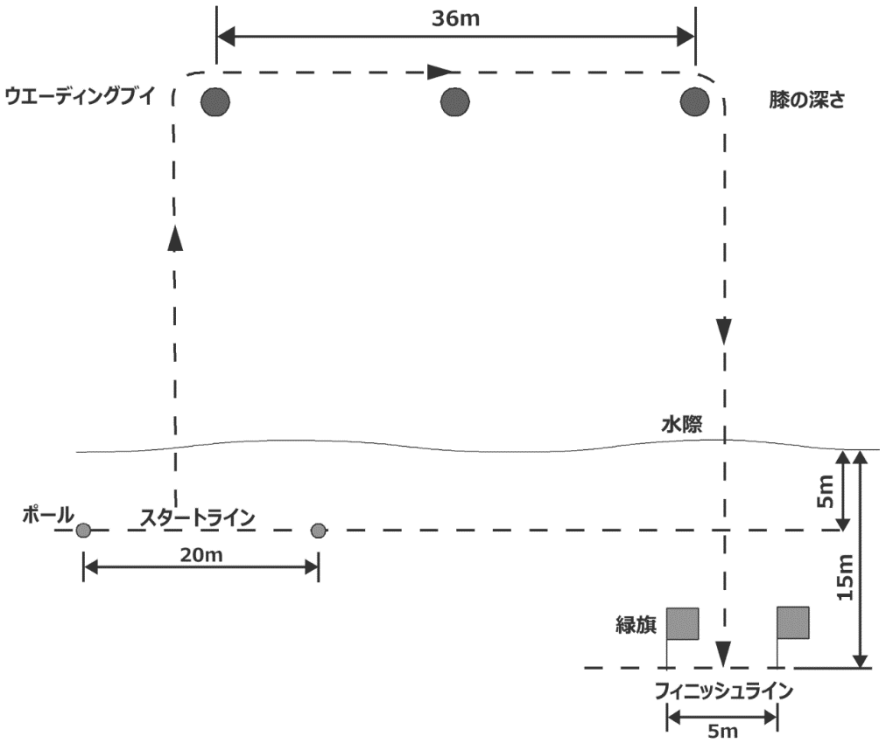
スタートの合図で，競技者はスタートラインからスタートし，他の競技者を妨害することなく水に入りブイまで走り，ブイを回って浜まで戻り，2 本の緑旗（フィニッシュ旗）の間を通過してフィニッシュする。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

A2.5.4　失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

A.　規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



ウェーディングレース

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

A2.6　ランスイムラン

A2.6.1　競技の説明 — U10

競技者は，スターターの合図でスタートラインから走り，折返し旗を回って通過し，入水してブイまで泳ぎ，2 つのスイミングブイを左から右へ回る。その後，浜まで泳いで戻り，再度折返し旗を走って回り，フィニッシュラインに走って向かう。

A2.6.3　競技の説明 — U12

競技者はスターターの合図でスタートラインから走り，1 折返し旗を回って通過し，入水して泳ぎ，スイミングブイを左から右へ回る。その後，浜まで泳いで戻り，再度折返し旗を走って回り，フィニッシュラインに走って向かう。

注意：競技者は，ブイとブイロープに触れてもよいが，ブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

A2.6.3　コース — U10

以下に示すとおり，コースは，競技者が約 50m 走り，ブイまでを泳ぎ，約 50m 走りフィニッシュするようにする。

A.　**ブイの位置：**スイミングブイは，約50 m沖合に20 m間隔で2つ配置する。

B.　**スタートラインとフィニッシュライン：**スタートラインとフィニッシュラインは同じ。ラインの長さは約30 mで，両端に緑旗を立てる。折返し旗は緑&黄旗とする。

A2.6.4　コース — U12

以下に示すとおり，コースは，競技者が約 100m 走り，ブイまでを泳ぎ，約 100m 走りフィニッシュするようにする。

A.　**ブイの位置：**スイミングブイ（連ブイ）は，約70 m沖合に配置する。

B.　**スタートラインとフィニッシュライン：**スタートラインとフィニッシュラインは同じ。ラインの長さは約30 mで，両端に緑旗を立てる。折返し旗は緑&黄旗とする。

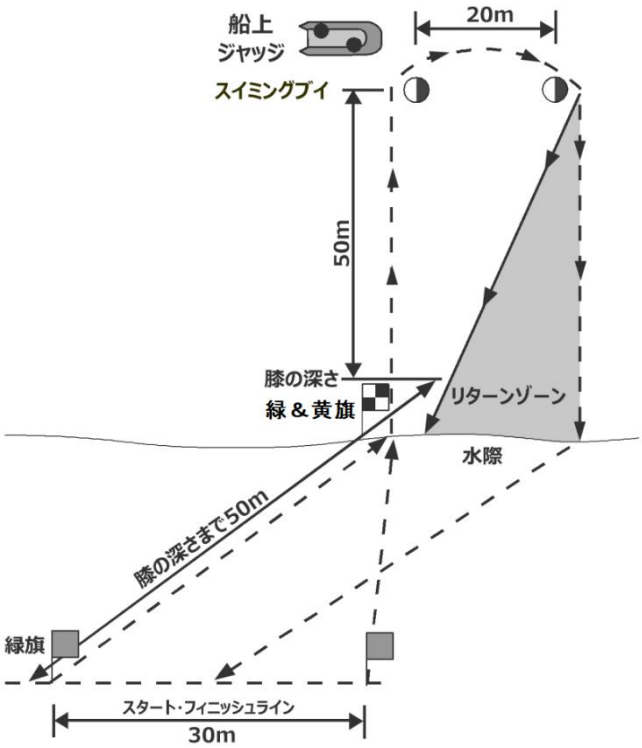
A2.6.5　判定

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

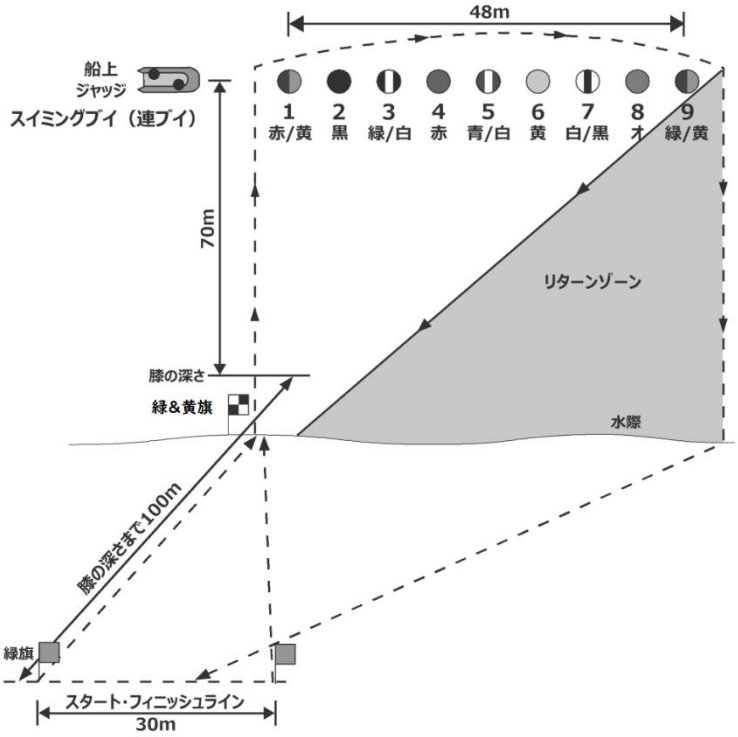
A2.6.6　失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

A.　規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



ランスイムラン　U10



ランスイムラン　U12

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

A2.7　ニッパーボードレース

A2.7.1　競技の説明

A. 競技者は，ニッパーボードを保持し1.5 mの間隔を空けて，ビーチのスタートラインの上又は後ろに立つ。

B. 競技者は，スターターの合図で水に入り，ニッパーボードを漕いで，ブイで標（しる）されたコースをパドルし，指定されたブイを左から右へ回って，浜に戻りフィニッシュラインを走って通過する。

C. フィニッシュは，競技者がニッパーボードと共にフィニッシュラインを海側から通過する。

D. 競技者は，他の競技者のニッパーボードを掴んだり，その他の妨害をしてはならず，また故意に進路を妨害してはならない。

A2.7.2　コース — U8

A. **ブイ：**干潮時の膝の位置から約20 m沖合に，3つのブイを約20 m間隔で配置する。

B. **スタートライン：**スタートラインの中央に第1ブイが並ぶように，水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで，両端にポールを立てる。

C. **フィニッシュライン：**フィニッシュラインの中央に第3ブイが並ぶように，水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで，両端に緑旗を立てる。

A2.7.3　コース — U10

A. **ブイ：**干潮時の膝の位置から約70 m沖合に，スイミングブイ（連ブイ）を配置する。

B. **スタートライン：**スタートラインの中央に第1ブイが並ぶように，水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで，両端にポールを立てる。

C. **フィニッシュライン：**フィニッシュラインの中央に第9ブイが並ぶように，水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで，両端に緑旗を立てる。

A2.7.4　コース — U12

A. **ブイ：**2つのブイを約50 mの間を隔て，干潮時の膝の位置から約90 m沖合に配置する。もう1個の「頂点」ブイは，2個のブイの中間及びそれから更に約10 m沖合に配置し，3個のブイで弧を描くようにする。

B. **スタートライン：**スタートラインの中央に第1ブイが並ぶように，水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで，両端にポールを立てる。

C. **フィニッシュライン：**フィニッシュラインの中央に第3ブイが並ぶように，水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで，両端にコースブイと同じ色の旗を立てる。

A2.7.5　コース — U15

A. **ブイ：**2つのブイを約50 mの間を隔て，干潮時の膝の位置から約150 m沖合に配置する。もう1個の「頂点」ブイは，2個のブイの中間及びそれから更に約10m沖合に配置し，3個のブイで弧を描くようにする。

B. **スタートライン：**スタートラインの中央に第3ブイが並ぶように，水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで，両端にポールを立てる。

C. **フィニッシュライン：**フィニッシュラインの中央に第3ブイが並ぶように，水際から約15

mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで，両端にコースブイと同じ色の旗を立てる。

A2.7.6　器材

ニッパーボード：「A1.3 器材」を参照のこと。ニッパーボードの交換は，競技者がスタートラインから再スタートすれば認められる。ニッパーボードの交換は，他の競技者を妨害しないのであれば，競技者のチームメンバーが代替ニッパーボードをスタートラインまで運んでもよい。

A2.7.7　判定

フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者はニッパーボードをコントロールした状態で，足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

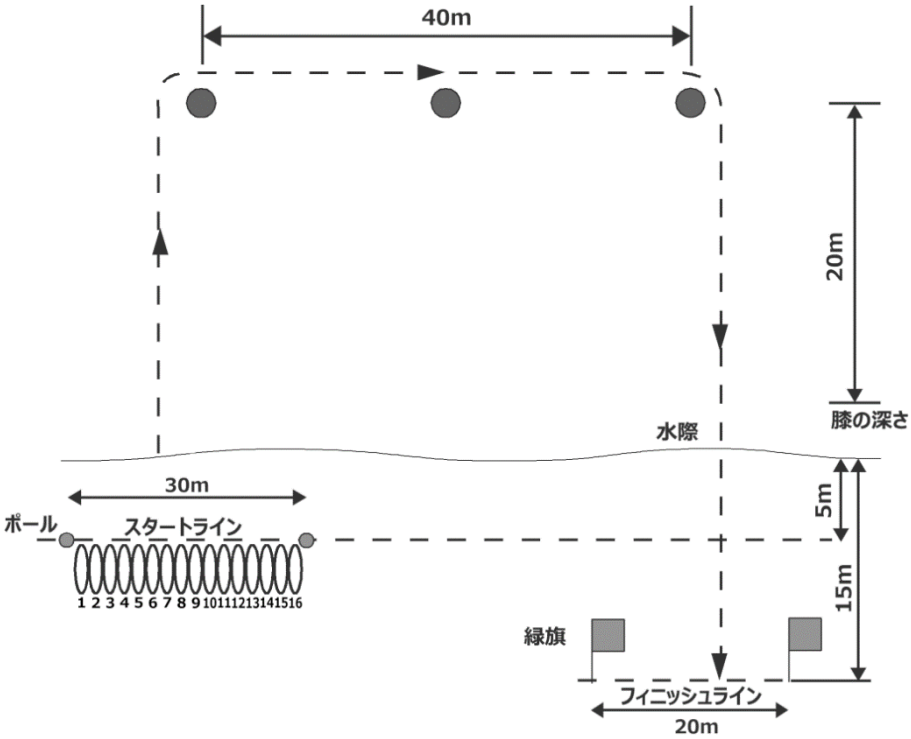
A2.7.8　クラフトのコントロール

競技者は，ボードから離れたり操作できなくなっても失格になることはない。レースを完了するには，競技者は自身のボードを保持して（又は再度確保して）ボードと共にフィニッシュラインを海側から通過せねばならない。

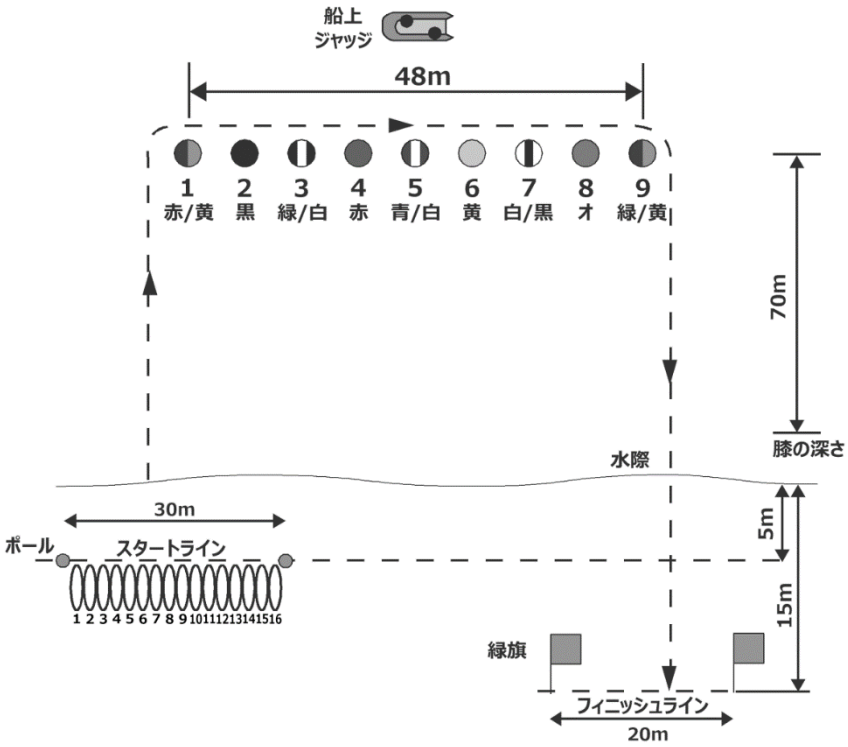
A2.7.9　失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

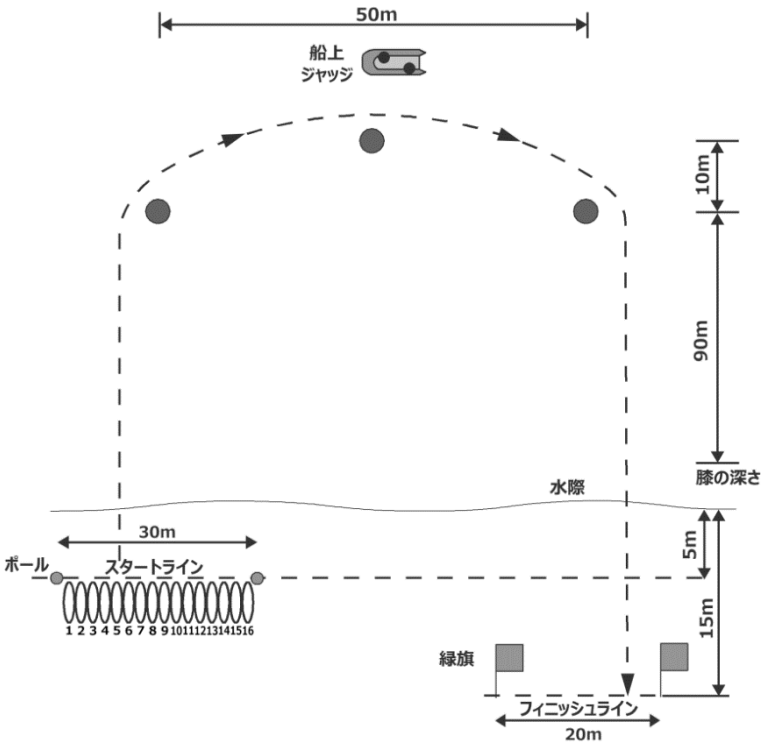
A.　規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



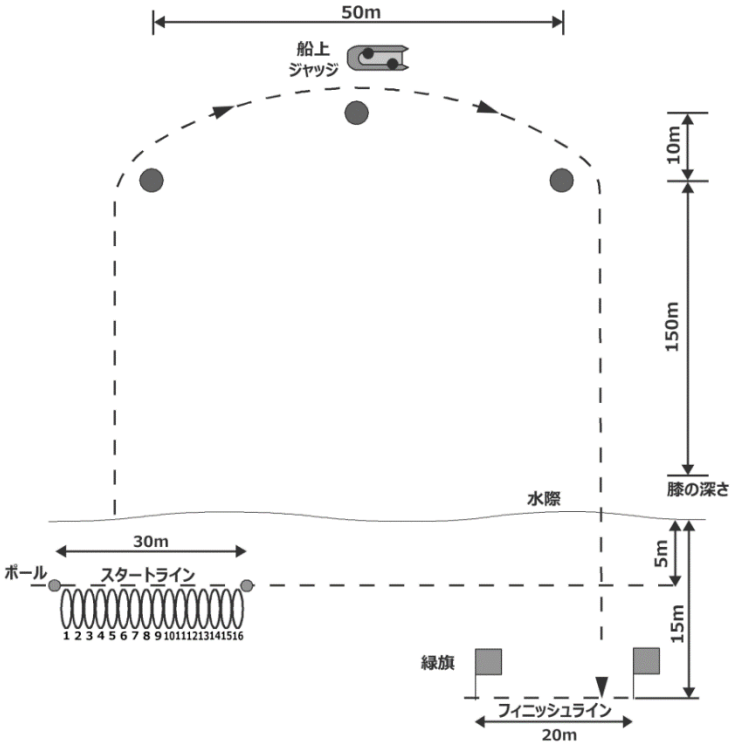
ニッパーボードレース　U8



ニッパーボードレース　U10



ニッパーボードレース　U12



ニッパーボードレース　U15

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

A2.8　ニッパーボードリレー

A2.8.1　競技の説明

ニッパーボードリレーは，ニッパーボードレースの一般ルールのもと実施される。チームは 3 人で構成され，その 3 人は同じボードを使用してもよい。

A. **第1競技者：**第1競技者はニッパーボードレースと同様の手順でスタートし，指定されたブイを左から右へ回って浜へ向かい，ニッパーボードから離れ（離れる場所はブイを回った後ならどこでもよい）2本の折返し旗を回って，チェンジオーバーラインで待機している第2競技者にタッチする。

B. **第2競技者：**第2競技者は，同じコースをとり，2本の折返し旗を回ってチェンジオーバーラインで待機している第3競技者にタッチする。

C. **第3競技者：**第3競技者は，同じコースをとり，第1折返し旗を回り，第2折返し旗の陸側を通過し，2本のフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。

D. 第2，第3競技者は，足をチェンジオーバーラインの上又は陸側に置いて待機する。第2，第3競技者は，タッチされた後，入水するのにスタートラインを越えなくてもよい。

E. ニッパーボードリレーの競技者は，指定された正しい位置から各自の区間を開始せねばならない。

F. 各チームの第1及び第3競技者は，抽選によって決定した位置からスタートする。それに対して，各チームの第2競技者は，スタート位置が抽選したものとは逆並びとなる。例えば，16チームが参加するレースで，抽選により位置1と指定されたチームは，第1競技者は位置1からスタート，第2競技者は位置16からスタート，第3競技者は位置1からスタートする。

第 1 及び第 3 競技者のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	...16
第 2 競技者のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	…1

G. 競技者は，他の競技者のニッパーボードを掴んだり，その他の妨害をしてはならず，また故意に進路を妨害してはならない。

A2.8.2　コース

A. **ブイ：**2個のブイを約50 mの間を隔て，干潮時の膝の深さの位置から約90 m沖合に配置する。もう1個の「頂点」ブイは，2個のブイの中間及びそれらから更に約10 m沖合に配置し，3個のブイで弧を描くようにする。

B. **折返し地点：**浜の折返し旗2本を水際から約15 mの浜に立てる。

C. **スタートライン：**スタートラインの中央に第1ブイが並ぶように，水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで，両端にポールを立てる。

D. **チェンジオーバーライン：**チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。

E. **フィニッシュライン：**水際に対して垂直で，第2折返し旗（緑&黄旗）から約14 mに設定する。ラインの長さは約5 mで，両端に緑旗を立てる。

A2.8.3　器材

ニッパーボード：「A1.3 器材」を参照のこと。

A. ニッパーボードの交換は，競技者がスタートラインから再スタートすれば認められる。ニッパーボードの交換は，他の競技者を妨害しないのであれば，競技者のチームメンバー及び/又はハンドラーが代替ニッパーボードをスタートラインまで運んでもよい。

B. チームのメンバー又はチーフレフリーの承諾を得た他チームのメンバーは，チームメンバーが使用したクラフトが，レースしている他チーム又は競技者を妨害しないようにせねばならない。混雑及び器材破損を避けるため，ボードを可能な限り早く水際から回収すること。

C. 同一団体から複数のチームが出場する場合，各チームは識別ができる数字又は文字を腕，脚，又は競技用キャップに入れること。

A2.8.4 判定

フィニッシュは，フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

A2.8.5 クラフトのコントロール

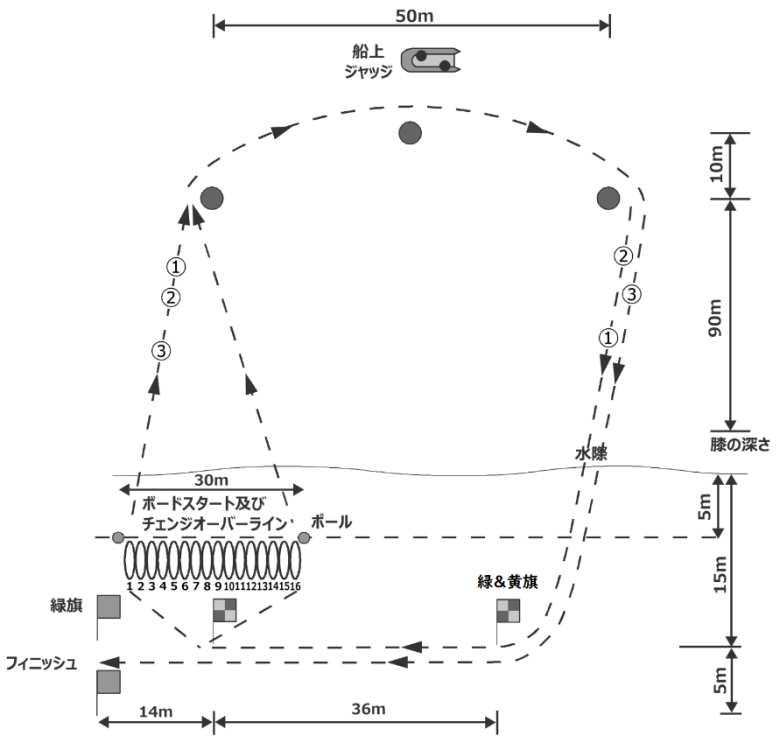
競技者は，再度ボードを確保してボードに接触したまま最終ブイを回りコースを完了するのであれば，沖に出る際にボードから離れたり操作できなくなってもよい。

競技者は，自分のボードをパドルして最終ブイを回らねばならないが，最終ブイ後の帰路では，ボードから離れたり操作できなくなっても，失格にはならない。

A2.8.6 失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

A. 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



ニッパーボードリレー

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

A2.9　タップリンリレー

A2.9.1　競技の説明

競技者 3 人からなるチーム（スイマー1 人，ボードパドラー1 人及びランナー1 人）が，事前に抽選で決めた順に一連の区間を回る。ラン区間は常に最終区間である。

ボードパドラーは，ジュニア及びユース（U15）はニッパーボードを，ユース（U18）はボードを，それぞれ使用する。

A. 本競技は，スイム区間，ボード（又はニッパーボード）区間，ラン区間のコースとし，リレー形式で行われる。

B. この節で述べられている相違を除き，各区間ではそれぞれ個別の一般的な競技種目規則（サーフレース，ボードレース又はニッパーボードレース，ビーチスプリント）が適用される。

C. 競技者は，ビーチの指定された正しい位置から自分の区間を開始せねばならない。
注意：第2競技者は，タッチされた後，スタート及びチェンジオーバーラインを越える必要はない。

スイム→ボード→ランの順の場合，以下の通りとなる。各区間のコースは時計方向に回る。

D. スイム区間：スイマーは，ビーチからスタートして水に入り，それぞれ指定されたスイムブイを回り，浜に戻り2本の折返し旗を回り，足をスタート/チェンジオーバーライン上又はその陸側に置いてボードと共に待機するボードパドラーにタッチする。

E. ボード区間：ボードパドラーは，ボード（又はニッパーボード）と共に水に入り，それぞれ指定されたブイを回り，浜に戻り2本の折返し旗を回り，水際又は水中で待機するランナーにタッチする。浜に戻る際，ボードパドラーはボード（又はニッパーボード）を水際に残してよい。

F. ラン区間：ランナーは，第1折返し旗を回り，2本目の折返し旗の陸側を通過し，2本のフィニッシュ旗の間を通過しフィニッシュする。
注意1：最終のターニングブイの浜側から浜の第1折返し旗までのどこでも競技者にタッチしてよい。タッチは水面より上で，はっきりと見えるようにしなければならない。
注意2：ランナーは戻ってくる競技者にタッチをするため水に入ることが許され，ウェーディング，イルカ飛び（porpoise）/ダックダイブ（duck dive）*で海底から離れること，波に乗ることが可能で，且つ又，また折返し旗に向かって走ってもよいが，ランナーはいかなるときも泳いではならない（ここで泳ぐとは，波に乗るため又は波に乗り続けるため水面より上の腕の泳ぎ動作を含む）。
* 両足で海底を押して離れるのであれば，イルカ飛び/ダックダイブの動きの一部としての水面上での腕の動きは許される。

A2.9.2　コース — U10

A. **ブイの位置**：スイム区間のブイは干潮時における膝の深さから約50 m沖合に，2つのブイを約20 m間隔で配置する。ニッパーボード区間のブイは約70 m沖合にスイミングブイ（連ブイ）を配置する。

B. **折返し地点**：浜の折返し点として，水際から約20mに旗2本を立てる。第2折返し旗は第2スイミングブイと，第1折返し旗は第8スイミングブイと向かい合うように設置する。

C. **スタートライン：**スタートラインは，長さは30mで，ラインの中心が第1スイミングブイと向かい合うように水際から約5 mの浜に引き，両端にはポールを立てる。

D. **チェンジオーバーライン：**チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。

E. **フィニッシュライン：**2本の旗を5 mの間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは1本目の折返し旗から約50 m離れた位置に，水際と垂直の角度で設置する。

A2.9.3 コース — U12

A. **ブイの位置：**スイム区間のブイは干潮時における膝の深さの地点から約70 m沖合にスイミングブイ（連ブイ）を配置する。ニッパーボード区間のブイは，スイミングブイ（連ブイ）から約20 m沖合に，2つのブイを約50 m間隔で設置する。もう1つの「頂点」ブイは，2つのブイから約10 m沖合且つ2つのブイの中間に配置し，3つのブイで弧を描くようにする。

B. **折返し地点：**浜の折り返し点に旗を2本立てる。第2折返し旗は第2スイミングブイと，第1折返し旗は第8スイミングブイと向かい合い，両方とも水際から約20 mの浜に立てる。

C. **スタートライン：**スタートラインは，ラインの中心が第1スイミングブイと向かい合うように水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで，両端にはポールを立てる。

D. **チェンジオーバーライン：**チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。

E. **フィニッシュライン：**2本の旗を5 mの間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは1本目の折返し旗から約50 m離れた位置に，水際と垂直の角度で設置する。

A2.9.4 コース — U15

A. **ブイの位置：**ブイは干潮時における膝の深さの地点から約120 m沖合にスイミングブイ（連ブイ）を配置する。スイム区間及びニッパーボード区間共に，同じブイを使用する。

B. **折返し地点：**浜の折り返し点として，水際から約20mに旗を2本立てる。第2折返し旗は第2スイミングブイと，第1折返し旗は第8スイミングブイと向かい合うように設置する。

C. **スタートライン：**スタートラインは，長さは約30mで，ラインの中心が第1スイミングブイと向かい合うように水際から約5 mの浜に引き，両端にはポールを立てる。

D. **チェンジオーバーライン：**チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。

E. **フィニッシュライン：**2本の旗を5 mの間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは1本目の折返し旗から約50 m離れた位置に，水際と垂直の角度で設置する。

A2.9.5 コース — U18

A. **ブイの位置：**スイム区間のブイは干潮時における膝の深さの地点から約120 m沖合にスイミングブイ（連ブイ）を配置する。ボード区間のブイは，スイミングブイ（連ブイ）から約50 m沖合に，2つのブイを約17 m間隔で配置する。

B. **折返し地点：**浜の折り返し点として，水際から約20mに旗を2本立てる。第2折返し旗は第2スイミングブイと，第1折返し旗は第8スイミングブイと向かい合うように設置する。

C. **スタートライン：**スタートラインは，長さは30mで，ラインの中心が第1スイミングブイと向かい合うように水際から約5 mの浜に引き，両端にはポールを立てる。

D. **チェンジオーバーライン：**チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。

E. **フィニッシュライン：**2本の旗を5 mの間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは1本目の折返し旗から約50 m離れた位置に，水際と垂直の角度で設置する。

A2.9.6 器材

ボード（高校生）：「S8 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

ニッパーボード（小学生及び中学生）：「A1.3 器材」を参照のこと。

チームメンバーは，各クラフトのスタートエリアの傍にギアを置くこと。

破損したクラフトの交換：ボード（又はニッパーボード）は，破損又は航行不能でない限り，各区間を競技中に交換することはできない。チームメンバー/ハンドラーは，別の器材をスタートライン及びチェンジオーバーラインに別の器材を置くまでであれば，破損したクラフトの交換を補助できる。

器材の撤去：競技を安全に実施するため，チームメンバー及び/又はハンドラーは，他の競技者の進路を妨害しなければ，破損又は放棄された器材をレース中にコースから撤去することができる。

ハンドラーは以下のことを行う：

A. 競技用キャップを着用すること，

B. 膝の深さより深い海に入る場合，主催者から指定された視認性の高いベストを着用すること，

C. ハンドラー自身及びハンドラーが扱う器材が，他の競技者を妨害しないようあらゆる努力を尽くすこと（さもなくば競技者が失格になる場合がある），

D. オフィシャルの全ての指示に従うこと。

服装：ビーチスプリントコースにおいて，チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは，競技者の裁量で着用してよい。

A2.9.7 判定

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

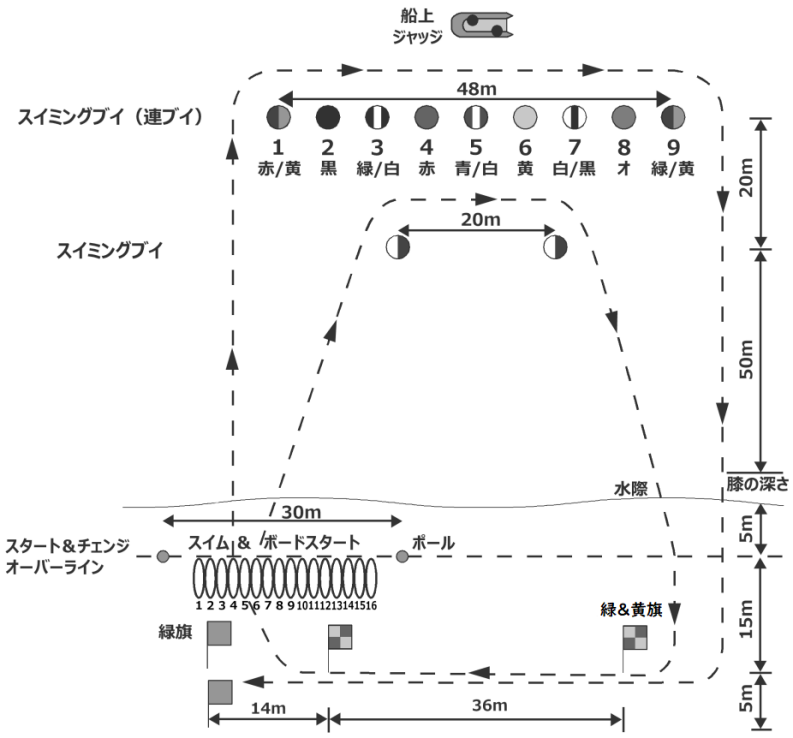
A2.9.8 クラフトとの接触

競技者は，最終ブイを通過するまではボード（又はニッパーボード）を保持していなければならない。最終ブイから浜に戻る途中でボード（又はニッパーボード）が離れても失格とはならない。最終ブイに向かう途中でボード（又はニッパーボード）が離れても失格とはならないが，この場合は，ボード（又はニッパーボード）を回収し，保持した状態で各区間の最終ブイを回り，コースを終了すること。

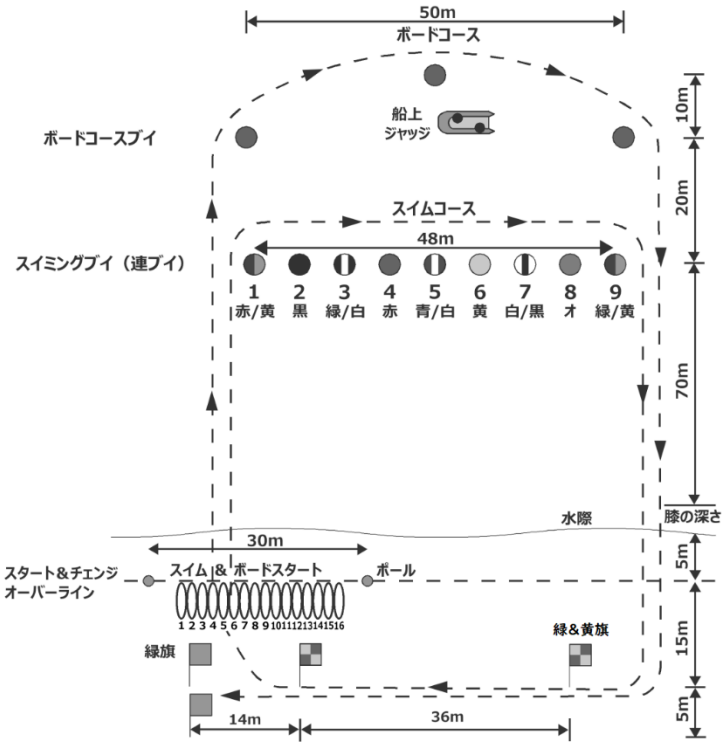
A2.9.9 失格

競技規則本文及び「A1 ジュニア／ユース競技の一般規則」の概要に加えて，以下の行為は失格になる：

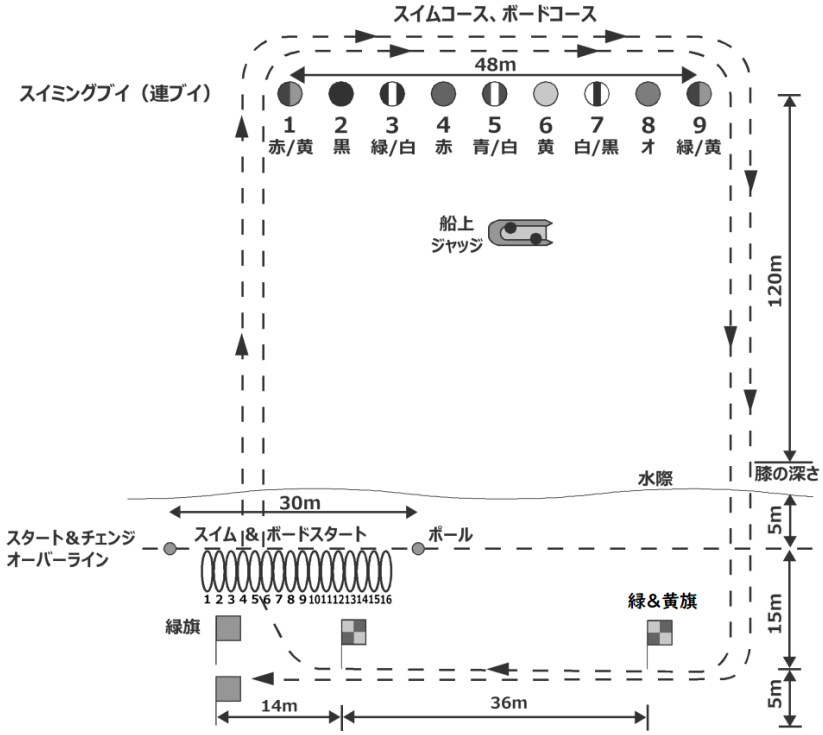
A. 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



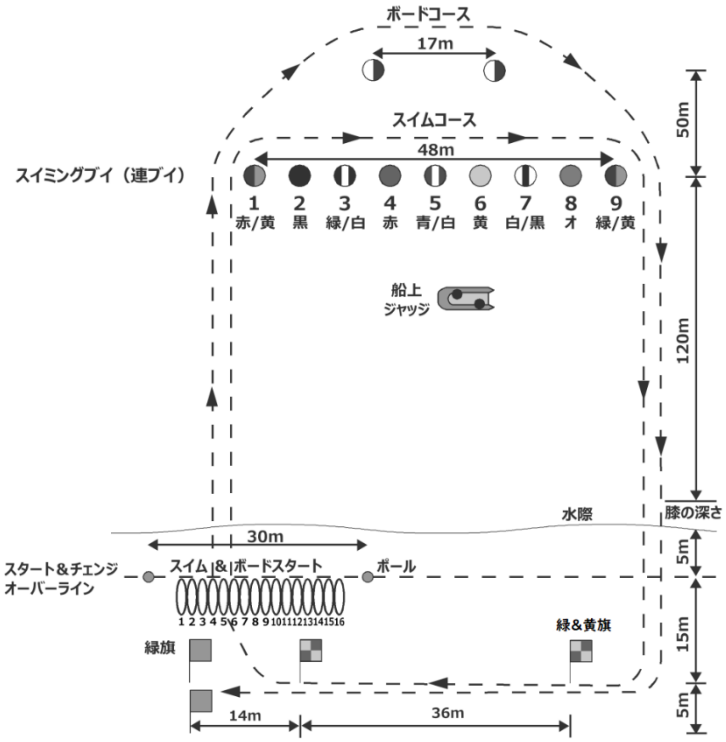
タップリンリレー　U10



タップリンリレー　U12



タップリンリレー　U15



タップリンリレー　U18

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

参考文献　References

[1]　日本ライフセービング協会（編），サーフライフセービング教本（大修館書店，2018）.
[2]　日本ライフセービング協会（編），プール・ライフガーディング教本（大修館書店，2017）.
[3]　World Aquatics, Competition Regulations (2023)
https://www.worldaquatics.com/rules/competition-regulations （2023 年 7 月 6 日リンク確認）.
[4]　日本水泳連盟 競技委員会，競泳競技規則 競技役員（競泳）の手引き 第 19 版（2014）[134].
[5]　Jelle MEINTSMA, Lifesaving World Championships 2024 - Gold Coast, Technical Officials Newsletter No. 2 (2023 年 7 月 22 日テクニカルオフィシャル予定者向けに送信）.

[134] 【JLA 注釈】最新刊（2023 年版）の内容は未確認。

JLA 競技規則 編著者・協力者の履歴

1993 年・初版～1995 年・第 2 版

文珠寺裕之（委員長），小峯力，永井宏，戸田正雄，山口毅，山崎博志，江沢陽子

1997 年・第 3 版

永井宏（委員長），小峯力，山口毅，山崎博志，疋田美貴，江沢陽子，柴田奈美，大西明，中山昭

2004 年版・初版

深山元良（委員長），安藤烈，飯塚哲也，泉田昌美，遠藤大哉，塚本隆之，中村勝，川地政夫，中山昭

〈翻訳協力〉重元典子（旧姓：坂本），根岸賢輔

2006 年版・初版

深山元良（委員長），安藤烈，飯塚哲也，池谷薫，泉田昌美，遠藤大哉，木野康信，塚本隆之，中村勝，渡辺智美，川地政夫，中山昭，荒木雅信

2008 年版・初版

深山元良（委員長），安藤烈，飯塚哲也，池谷薫，泉田昌美，木野康信，塚本隆之，中村勝，渡辺智美，川地政夫，中山昭，三浦慶子，藤然智，荒木雅信

2010 年版・初版

深山元良（委員長），飯塚哲也，池谷薫，泉田昌美，橘川克巳，木野康信，塚本隆之，中村勝，吉田健博，渡辺智美，川地政夫，中山昭，三浦慶子，稲垣裕美

2012 年版・初版

塚本隆之（委員長），飯塚哲也，橘川克巳，泉田昌美，渡辺智美，池谷薫，中島重之，藤田善照，林昌広，深山元良，川地政夫

2014 年版・初版

塚本隆之（委員長），橘川克巳，池谷薫，泉田昌美，梶本道彦，中島重之，中島典子，林昌広，藤田善照，渡邉彩子，相澤千春，堤容子，西嶋智美，宮部周作

2016 年版・初版

中島典子（委員長），梶本道彦，栗栖清浩，中島重之，藤田善照，水川雅司，毛利智，塚本隆之，池谷薫，泉田昌美，林昌広，宮部周作（ILS スポーツ委員），国際室

2018 年版（2018.07.13 版，2018.07.20 版）

編著：中島典子，中島重之，藤田善照，梶本道彦，栗栖清浩，水川雅司，粟生賢一，松永祐，毛利智

協力：宮部周作（ILS スポーツ委員），西嶋智美（国際室），西山俊（アスリート委員会）

2019 年版（2019.04.01 版）

編著：中島典子，中島重之，藤田善照，梶本道彦，栗栖清浩，水川雅司，粟生賢一，松永祐，毛利智，濱田博孝，南部孝二（競技運営・審判委員会），桂里帆，齊藤愛子，細井梨沙（国際室），泉田優花，大山玲奈

協力：宮部周作（ILS スポーツ委員），西山俊（アスリート委員会），錦織功延（アンチ・ドーピング委員会）

2020 年版 第 1～3, 8 章（2020.03.16 暫定版）

編著：中島典子，中島重之，藤田善照，梶本道彦，栗栖清浩，水川雅司，粟生賢一，松永祐，毛利智，濱田博孝，南部孝二（競技運営・審判委員会）

2020 年版（2020.06.01 版，2020.06.04 版）

編著：中島典子，中島重之，藤田善照，梶本道彦，栗栖清浩，水川雅司，粟生賢一，松永祐，毛利智，濱田博孝，南部孝二（競技運営・審判委員会），鈴木慎一，新部愛海（国際室）

協力：西山俊，特定非営利活動法人神奈川県ライフセービング協会（競技規則 B.2.2）

2021 年版（2021.03.04 版）

編著：

栗栖清浩（競技運営・審判委員会/ILS Lifesaving Sport Regulations Committee）

中島典子，粟生賢一，梶本道彦，中島重之，南部孝二，濱田博孝，藤田善照，松永祐，水川雅司，毛利智（競技運営・審判委員会）

鈴木慎一（国際室）

宮部周作（スポーツ本部長/ILS Sports Commission & Multi-Sport Games Committee Chair）

協力：

中川容子（国際室/ILS Drowning Prevention and Public Education Commission）

西山俊（アスリート委員会）

松井宏泰（スポーツ育成委員会）

飯塚剛志，井藤秀晃（IRB 競技分科会）

2021 年版（2021.08.30 版）

編著：

栗栖清浩（競技審判委員会/ILS Lifesaving Sport Regulations Committee）

中島典子，粟生賢一，梶本道彦，中島重之，南部孝二，濱田博孝，藤田善照，毛利智（競技審判委員会）

水川雅司（JLA 事務局/ライフセービングスポーツ副本部長）

協力：

高野絵美（広報室）

2021 年版（2021.11.26 版）

編著：

栗栖清浩（競技審判委員会/ILS Lifesaving Sport Regulations Committee）

中島典子，粟生賢一，梶本道彦，中島重之，南部孝二，濱田博孝，藤田善照，毛利智（競技審判委員会）

水川雅司（JLA 事務局/ライフセービングスポーツ副本部長）

2022 年版（2022.07.01 版）

編著：

栗栖清浩（競技審判委員会/ILS Lifesaving Sport Regulations Committee）

中島典子，粟生賢一，梶本道彦，中島重之，南部孝二，濱田博孝，藤田善照，毛利智，日馬孝昌（競技審判委員会）

田中えりか（IRB レスキュー委員会/SERC 分科会）

水川雅司（JLA 事務局/ライフセービングスポーツ副本部長）

協力：

鈴木慎一（IRB 競技分科会/国際室）

松井宏泰（スポーツ育成委員会）
飯塚剛志，井藤秀晃（IRB 競技分科会）
宮部周作（スポーツ本部長/ILS Sports Commission & Multi-Sport Games Committee Chair）

2023 年版（2023.08.07 版：2023 年 07 月 07 日公開版，及び同年 08 月 07 日修正公開版）

編著：
栗栖清浩（競技審判委員会/ILS Lifesaving Sport Regulations Committee）
中島典子，梶本道彦，南部孝二，藤田善照，毛利智，日馬孝昌（競技審判委員会）
水川雅司（JLA 事務局/ライフセービングスポーツ副本部長）
鈴木慎一（IRB 競技分科会/国際室）
田中えりか（SERC 分科会/IRB レスキュー委員会）
古井悠太（国際室）

協力：
西山俊（アスリート委員会）
松井宏泰（スポーツ育成委員会）
飯塚剛志，井藤秀晃（IRB 競技分科会）
坂本陸（ハイパフォーマンスチームコーチ）

JLA コンペティション・ルールブック

1993 年 5 月 20 日	初版発行
1995 年 3 月 20 日	第 2 版発行
1997 年 9 月　1 日	第 3 版発行
2004 年 4 月 10 日	2004 年版　初版発行
2007 年 4 月 25 日	2006 年版　初版発行
2008 年 4 月 23 日	2008 年版　初版発行
2010 年 4 月 12 日	2010 年版　初版発行
2012 年 9 月　1 日	2012 年版　初版発行
2014 年 5 月 27 日	2014 年版　初版発行
2017 年 4 月　1 日	2016 年版　初版発行
2018 年 7 月 13 日	2018 年版（2018.07.13 版）発行
2018 年 7 月 20 日	2018 年版（2018.07.20 版）発行
2019 年 4 月　1 日	2019 年版（2019.04.01 版）発行
2020 年 3 月 16 日	2020 年版 暫定版 第 1～3, 8 章（2020.03.16 版）発行
2020 年 6 月　1 日	2020 年版（2020.06.01 版）発行
2020 年 6 月　4 日	2020 年版（2020.06.04 版）発行
2021 年 3 月　4 日	2021 年版（2021.03.04 版）発行
2021 年 8 月 30 日	2021 年版（2021.08.30 版）発行
2021 年11 月26 日	2021 年版（2021.11.26 版）発行
2022 年 7 月　1 日	2022 年版（2022.07.01 版）発行
2023 年 7 月　7 日	2023 年版（2023.08.07 版）発行（2023 年 7 月 7 日公開，8 月 7 日施行）
2023 年 8 月　7 日	2023 年版（2023.08.07 版）発行（2023 年 8 月 7 日公開，8 月 7 日施行）

◆編　集　　公益財団法人 日本ライフセービング協会 競技規則 2023 年版 編著者一同
◆発　行　　公益財団法人 日本ライフセービング協会
〒105-0013　東京都港区浜松町 2-1-18　トップスビル
TEL：(03) 3459 1445 / FAX：(03) 3459 1446

（無断転載を禁ず）

LIFESAVING

JLA

JAPAN